

SHIMOHARA

SANYADUKA

# 下原遺跡 三夜塚遺跡Ⅳ

—長野県畑地帯総合整備事業竹田原地区に伴う緊急発掘調査報告書—

2009.3

長野県山形村教育委員会



SHIMOHARA

SANYADUKA

# 下原遺跡 三夜塚遺跡Ⅳ

—県営畑地帯総合整備事業竹田原地区に伴う緊急発掘調査報告書—

2009.3

長野県山形村教育委員会



竹田原から唐沢川扇状地をのぞむ（平成13年撮影）



下原遺跡SB-16埋甕出土状況



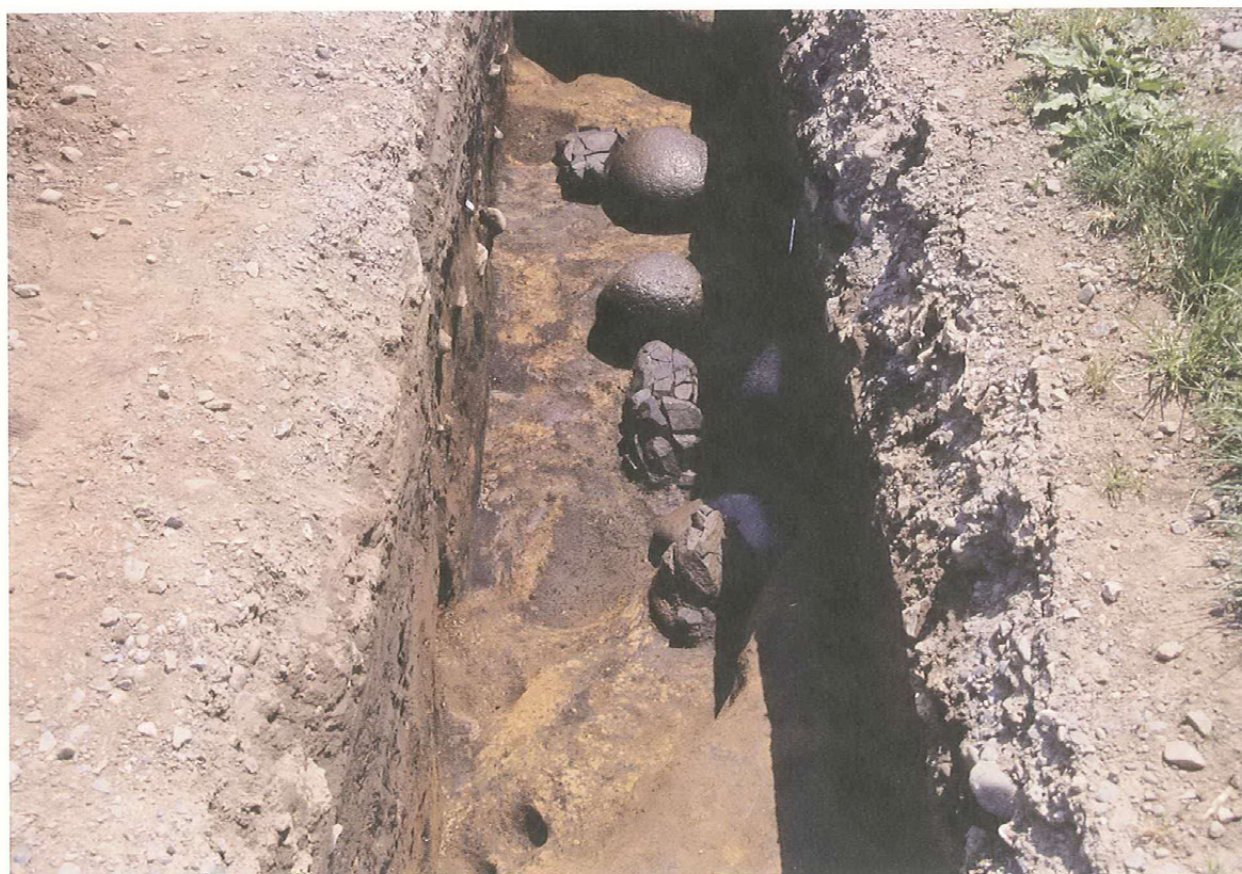
下原遺跡SB-19有孔鏢付土器出土狀況



下原遺跡SB-19出土  
有孔鏢付土器



下原遺跡SB-09丸石出土状況



下原遺跡SB-09礫出土状況



赤彩土器



チャート原石・石核・剥片

## 発刊にあたって

山形村内には多くの縄文遺跡が残されています。下原遺跡、三夜塚遺跡はその中でも特に有名で、昔から土器や石器が多く拾える遺跡として、村内のみならず知られていました。この度その一帯に灌漑用配水管の更新事業が計画され、遺跡の一部が壊されることになったため、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施したところであります。

発掘調査は村教育委員会によって、平成19年5月から11月にかけて行われました。夏の猛暑に汗を流し、身動きが取りにくい狭い幅の調査区に悩まされましたが、参加者の皆様のご尽力により無事終了する事ができました。その結果、5000～3500年前の縄文時代の住居址や荘厳な文様が付けられた土器など、多くの資料を確認することができました。これらは今後地域の歴史を語る上で欠かせない大切な資料になると思われまます。

しかしながら開発行為に先立って行われる記録保存という発掘調査は、私たちの生活を便利にする開発行為と、それによって失われる文化遺産、遺跡の保護という相反する二者の兼ね合いとして選択されるひとつの手段であります。本書を通して文化財の保護とその施策に対する理解を深めて頂ければ、この上なく幸いに存じます。

最後となりましたが、発掘調査から本書刊行に至るまで、深いご理解とご協力を賜りました地元農家の皆様、長野県松本地方事務所農地整備課、中信平右岸土地改良区、そして発掘調査、整理作業に従事して頂いた皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

山形村教育委員会

教育長 本庄 利昭

## 例 言

1. 本書は、平成19年度に実施された長野県東筑摩郡山形村竹田原地籍に存在する下原遺跡及び三夜塚遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 本調査は、「県営畑地帯総合整備事業竹田原地区」に伴って、長野県松本地方事務所より山形村に委託を受け、山形村教育委員会が平成19年度に発掘調査を実施、平成20年度に本報告書の作成を行ったものである。
3. 発掘調査及び遺物整理作業に従事する作業員は、一部社団法人松本地域シルバー人材センターより作業員の派遣を受けた。また諸氏の御協力を賜った。御芳名を記して厚く感謝申し上げます。(順不同、敬称略)

石川 一男          小林勘一朗          石川 幸子          渡辺喜美治          山中 久代  
村井 稔          中川 長一          村井 敏子          直井由加理          青木智恵子

4. 石器の実測及びトレースを株式会社シン技術コンサルに、自然化学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に、それぞれ委託して行った。
5. 石器の石材鑑定は、定型的な石器の一部を森義直氏に依頼した。それ以外は同氏によって鑑定された石材を見本に和田が記述したものである。よって事実関係を含めて文責は和田にある。
6. 遺物の写真撮影を、宮嶋洋一氏に依頼した。
7. 本調査で用いた遺構の略称は次のとおりである。

SB→竪穴式住居址    SK→土坑    SP→ピット    SX→不明遺構    SD→溝址

8. 本書で用いた方位記号は、調査時に任意で設定した北をさしている。これは、幅が狭く細長いトレンチの遺構平面図を効率的に作成するため、トレンチを貫く一直線を基準として作図作業を進めたことによるもので、これを修正せずそのまま本書で用いた。振れ幅については本文中に各々記した。
9. 本調査で用いた土色は、農林水産省農林技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』である。
10. 本書の編集執筆は和田和哉（山形村教育委員会社会教育係）が行った。
11. 発掘調査から報告書作成の過程で、以下の諸氏より御指導・御助言を賜った。御芳名を記して謝意を表します。(順不同、敬称略)

小林 康男          島田 哲男          直井 雅尚          百瀬 忠幸          小山 貴広  
神澤昌二郎          小松 学          竹原 学

12. 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類（図面・写真等）は、山形村教育委員会が保管し、出土遺物は、山形村ふるさと伝承館（〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村3866 TEL 0263-98-3938）に、調査の記録類は、山形村農業者トレーニングセンター（〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL 0263-98-3155）に収蔵されている。



# 目 次

口絵 発刊にあたって 例言 目次

I	調査の経緯	1
1	調査にいたる経緯	1
2	調査体制と経過	1
3	作業の経過	2
II	遺跡の環境	5
1	遺跡の立地と地形	5
2	過去の調査と周辺遺跡	5
III	調査の概要	9
1	発掘調査の方法	9
2	整理作業の方法	9
3	各トレンチの概要	10
(1)	下原遺跡第1次調査	10
(2)	三夜塚遺跡第4次調査	14
IV	検出遺構	16
1	竪穴式住居址	16
(1)	下原遺跡第1次調査	16
(2)	三夜塚遺跡第4次調査	21
2	土坑・ピット	22
3	その他	22
V	出土遺物	53
1	土器	53
(1)	縄文前期末から中期初頭の土器	53
(2)	縄文中期中葉の土器	53
(3)	縄文中期後葉の土器	53
(4)	縄文後期の土器	54
2	石器	55
3	土製品	55
VI	自然科学分析	100
(1)	試料	100
(2)	分析方法	100
(3)	結果	101
(4)	考察	103
VII	調査のまとめ	106

写真図版

## 挿図目次

第1図	遺跡の位置と周辺遺跡……………	6	第24図	三夜塚遺跡第21トレンチ(2)遺構図……………	51
第2図	調査トレンチ位置図……………	11	第25図	三夜塚遺跡第21トレンチ(3)・ 第18トレンチ遺構図……………	52
第3図	下原遺跡第2トレンチ(1)遺構図……………	30	第26図	下原遺跡出土土器(1)……………	76
第4図	下原遺跡第2トレンチ(2)遺構図……………	31	第27図	下原遺跡出土土器(2)……………	77
第5図	下原遺跡第2トレンチ(3)遺構図……………	32	第28図	下原遺跡出土土器(3)……………	78
第6図	下原遺跡第2トレンチ(4)遺構図……………	33	第29図	下原遺跡出土土器(4)……………	79
第7図	下原遺跡第2トレンチ(5)遺構図……………	34	第30図	下原遺跡出土土器(5)……………	80
第8図	下原遺跡第2トレンチ(6)遺構図……………	35	第31図	下原遺跡出土土器(6)……………	81
第9図	下原遺跡第7トレンチ遺構図……………	36	第32図	下原遺跡出土土器(7)……………	82
第10図	下原遺跡第8トレンチ(1)遺構図……………	37	第33図	三夜塚遺跡出土土器(1)……………	83
第11図	下原遺跡第8トレンチ(2)・ 第9トレンチ遺構図……………	38	第34図	三夜塚遺跡出土土器(2)……………	84
第12図	下原遺跡第10トレンチ遺構図……………	39	第35図	三夜塚遺跡出土土器(3)……………	85
第13図	下原遺跡第11トレンチ(1)遺構図……………	40	第36図	下原遺跡出土石器(1)……………	86
第14図	下原遺跡第11トレンチ(2)遺構図……………	41	第37図	下原遺跡出土石器(2)……………	87
第15図	下原遺跡第20トレンチ(1)遺構図……………	42	第38図	下原遺跡出土石器(3)……………	88
第16図	下原遺跡第20トレンチ(2)・ 第23トレンチ遺構図……………	43	第39図	下原遺跡出土石器(4)……………	89
第17図	下原遺跡第24トレンチ遺構図……………	44	第40図	下原遺跡出土石器(5)……………	90
第18図	下原遺跡第25トレンチ・ 三夜塚遺跡第1トレンチ遺構図……………	45	第41図	下原遺跡出土石器(6)……………	91
第19図	三夜塚遺跡第4トレンチ・ 第8トレンチ(1)遺構図……………	46	第42図	下原遺跡出土石器(7)……………	92
第20図	三夜塚遺跡第8トレンチ(2)遺構図……………	47	第43図	下原遺跡出土石器(8)……………	93
第21図	三夜塚遺跡第13トレンチ・ 第17トレンチ(1)遺構図……………	48	第44図	下原遺跡出土石器(9)……………	94
第22図	三夜塚遺跡第17トレンチ(2)遺構図……………	49	第45図	三夜塚遺跡出土石器(1)……………	95
第23図	三夜塚遺跡第21トレンチ(1)遺構図……………	50	第46図	三夜塚遺跡出土石器(2)……………	96
			第47図	三夜塚遺跡出土石器(3)……………	97
			第48図	三夜塚遺跡出土石器(4)……………	98
			第49図	下原遺跡出土土製品……………	99

## 挿表目次

第1表	下原遺跡土坑一覧表……………	23	第8表	三夜塚遺跡 黒曜石・チャート 剥片・原石観察表……………	74
第2表	三夜塚遺跡土坑一覧表……………	26	第9表	放射性炭素年代測定結果……………	100
第3表	ピット一覧表……………	27	第10表	暦年較正結果……………	101
第4表	図化土器観察表……………	56	第11表	樹種同定結果……………	102
第5表	下原遺跡石器観察表……………	59	第12表	種実同定結果……………	102
第6表	三夜塚遺跡石器観察表……………	66			
第7表	下原遺跡 黒曜石・チャート 剥片・原石観察表……………	68			

# I 調査の経緯

## 1 調査にいたる経緯

山形村は松本盆地の南西に位置し、山地を西側の背景とした広大で緩やかな傾斜地に立地する。村内には大きな河川がなく水利に恵まれないことから、水田は少なく畑地が耕作地面積の4分の3程を占める。広大な耕作地を持ちながら水量が乏しいゆえ、数十年前までの畑作物は乾燥に強いものに限られ、戦前には広大な桑畑が広がり養蚕業が盛んに行われていたと伝えられる。この水不足を解消し現在の豊かな農村と言った営農環境を確立させたのが、中信平農業総合開発事業であり、梓川の水が山地をトンネルで貫く水路により供給され、水田の用水補給や畑地灌漑と多くの耕作地に対し水を満たし、農業生産力を飛躍的に高めた。

この梓川の水を畑地に供給する工事は昭和40年代後半に順次進められ、バルブを捻ればいつでもスプリンクラーから水が撒かれ農地を潤す様になった。この時からはや30年以上が経過した近年では、配水管の老朽化が進行し、破損事故などの発生による給水障害が多く発生する状況となってきた。そこで山形村及び長野県農政部、中信平右岸土地改良区では、施設の更新を計画し平成16年度から村内各所で順次工事を進めてきていた。平成19年度には、下竹田区竹田原地区において更新工事が予定されていたが、この地区には三夜塚遺跡、下原遺跡、堀ノ内遺跡、北竹原遺跡が存在していたため、山形村教育委員会では各事業者と遺跡の保護について協議を実施した。

配水管を埋設するために掘削する幅は50cmと狭小であり、通常の発掘調査を実施することが困難な幅であった。畑の表面で拾われる遺物の量や内容から、下原遺跡と三夜塚遺跡では遺構や遺物が濃密に存在することが容易に想定される状況であり、そのまま工事を実施した場合に破壊される内容は多大と推測されたため、両遺跡については、困難ではあるが通常の発掘調査により記録保存を図ることとした。一方堀ノ内遺跡と北竹原遺跡については、配水管を埋設する箇所が舗装された道路幅内である所が多く、また下原遺跡や三夜塚遺跡の様に遺構や遺物の分布が濃密ではないと想定されたため、工事立会を行うこととした。

発掘調査及びこれに係る事務処理については山形村教育委員会が実施することとし、発掘調査にかかる経費は松本地方事務所の負担とし山形村との間で委託契約が締結されたが、農家負担分については文化財保護側にて負担することとし、農家負担分の一部は国庫補助事業補助金の交付を受けた。こうして平成19年5月14日より現地での発掘調査を開始した。

## 2 調査体制と経過

今回の発掘調査面積は、重機にてトレンチを掘削し状況を確認した範囲を含めても1,236㎡とそれ程広大ではない。しかしながら配水管を埋設するために掘削する狭い幅に限った調査であり、極端に細長い調査区の発掘調査は効率が上がらず、予想以上に苦戦を強いられた。調査したトレンチの総延長は1km以上を測るため、調査区間を何回にも分けて実施せざるを得ず、これも調査期間が長期となる要因となった。配水管の埋設箇所は私有地の耕作地内や畑に面した農道であり、沿線で農作業をされている農家の方々にとって大きな支障であったが、不都合を承服し調査に協力頂けたこともあり、配水管埋設工事の開始にはどうにか間に合ったと思われる平成19年11月12日に現場での調査を終了させた。

出土遺物の整理作業には、現場調査期間中の切れ間にも行ったが、本格的に着手したのはやはり現場作業

終了後の晩秋からとなった。出土遺物量の多い事が当初から推測されていたため、調査報告書の刊行は次年度の平成20年度とした。1,200㎡程の調査ではあったが、やはり整理用コンテナ60箱程と非常に多い遺物の整理作業には多くの労力がかかった。遺物の水洗作業に12月中旬まで、注記作業に翌3月上旬まで、土器の接合・復元作業に3月及び翌年度の期間を要した。遺物実測図の作成については、作図できる人員が1人しかいない状況であったため、石器実測図の作成を概ね(株)シン技術コンサルへ委託し行った。平成20年度の前半期は、他の遺跡の発掘調査を実施していたため、当事業にかかる整理作業は十分に行えず、秋から本格的に再開した。土器の接合・復元作業の続き、土器実測図の作成、各図のトレース、報告書文書の執筆を順次行い、平成21年3月ようやく本書の刊行にたどり着き、一連の作業を完了させた。

調査体制 事務局 山形村教育委員会  
 上條 勝(教育長 平成20年1月3日まで)、本庄利昭(教育長 平成21年度)、  
 大池孝夫(教育次長 平成20年度、教育長職務代理 平成20年1月4日～3  
 月31日)、山口啓治(教育次長 平成21年度)、小口賢一(教育次長補佐)  
 調査担当 山形村教育委員会 和田和哉(社会教育係主査)

### 3 作業の経過

#### 【平成19年】

- 5/14(月) 晴 下原遺跡の北側、T-3路線下流側から着手。午前9時バックホー搬入、表土除去開始。周囲の土を寄せ、圃場より高くしてある農道ゆえ、浅い部分からも遺物が多く見られる。バックホーで遺構検出面まで表土を除去できる状況ではないゆえ、手作業にて行うこととした。
- 5/15(火) 晴時々曇 バックホーによる表土除去続行。昨日と同様遺物多出。仮設トイレ・ハウス搬入。
- 5/16(水) 晴後曇 バックホーによる表土除去午前中終了。第2トレンチと命名。長さ200m以上あり、行き来が大変。午後より測量用に3m毎のポイント設定を行う。
- 5/17(木) 雨 雨天中止。
- 5/18(金) 晴後曇 バックホー給油し返却。本日より人力での掘削作業開始。まずは遺物が多出し重機で表土除去しなかった範囲を人力にて除去。
- 5/21(月) 晴 掘り下げを順次行うが、遺物が相変わらず多出。コンテナ箱がすぐ満杯になってしまう。
- 5/22(火) 晴 遺構検出を開始。西側は土坑・ピットがあるものの、それ程密ではない。東側は住居址らしき所も見える。時期は中期後葉が多い。
- 5/23(水) 晴 遺構検出も東側へ移る。135グリッドから東は住居址が密集している。中期後葉のものが主と見られる。
- 5/24(木) 晴後曇 遺構検出もだいふ進む。本日出土遺物コンテナ10箱持ち帰る。調査開始からまだ10日というのにこの量は非常に多い。
- 5/25(金) 雨 雨天中止。
- 5/28(月) 晴 遺構検出は夕方までに概ね終了。午後からは遺構の掘り下げを開始した。
- 5/29(火) 晴後曇 住居址の掘り下げを行う。遺構平面図作成開始。いつも何気なく使っている1mものさしが入らないことに今日初めて気付く。代替品をすぐに用意できないので、やむをえず半分は切断して使う羽目に。
- 5/30(水) 曇後雨 昼頃より雨が降り出したため、午後作業中止。プレハブで図面用紙の割り振り等を行った。
- 5/31(木) 曇後雨 連日午後は雨となり、半日作業となる。住居址の掘り下げも徐々に進み、新たな住居址へと移る。他に土坑の掘削も同時並行で行うが、攪乱が多い。
- 6/1(金) 晴 住居址の掘り下げは、SB-07・08へ移る。両住居址とも唐草文系土器の時期、遺物が多い。その他も順次掘り下げ着手。
- 6/4(月) 晴 遺構の掘り下げも徐々に中央部へと移る。SB-09から安山岩の大きな丸石が2つ見つかる。非常に注目される。
- 6/5(火) 曇時々晴 次に調査を行う予定の、T-3路線の残り範囲とT-2路線の箇所調査予告・通行止予告看板を設置する。第2トレンチの調査も終盤へ突入。
- 6/6(水) 晴後雷雨 遺構掘削は順調に進んでいるが、図化が間に合わない。よって明日・明後日は掘削作業の手を半分にしたい。午後はまた雨。
- 6/7(木) 晴時々曇 切り合いが激しく把握が難しかった箇所も徐々に判明させ、一つ一つ進んでいる状況。
- 6/8(金) 晴後雨 今日午後少し作業をしただけで雨、以後屋外作業中止。
- 6/11(月) 晴 第2トレンチの調査も大詰め。朝からブルーシートと土嚢袋の片付けもしてもらった。
- 6/12(火) 晴 各作業最後の詰めを行う。全体の完掘写真を撮影すべく、遺構の清掃作業を行い夕方撮影。また機材の撤収準備をし、テントをたたんだ。シルバーからの作業員は本日で作業一区切り。
- 6/13(水) 晴 第2トレンチの調査最終日。図面の仕上げ、数基掘り切れていなかった遺構の掘り下げを行い、夕方暗くなるまでにはどうにかケリをつけることができた。仮設トイレの汲取り行う。
- 6/14(木) 雨 T-3路線の残り範囲とT-2路線の箇所の調査(下原遺跡)に本日より着手。午前9時バックホー搬入され、重機による掘削作業を開始する。T-3路線の西端から掘り始めたが、早速既設管にあたる。この場所は遺構・遺物が少なく詳細な調査の必要はない状態。トレンチを部分的に設け、その状況を確認することとした。第3～6トレンチまで掘削し、この範囲は詳細な調査は必要ないと確認した。
- 6/15(金) 曇 昨日の方針で東へと移動してきたが、第7トレンチでは遺物が多出。既設管による攪乱もあるが、詳細な調査をすることとし、トレンチを東へと延ばした。T-2路線の残り範囲(南北方向)も表土除去。いずれも遺構が密集し、遺物も引かかる。第2トレンチの所にあった仮設ハウス・トイレ撤収。軽油の配達あり。第2トレンチの埋戻し工事着手。
- 6/18(月) 曇 表土除去がすすんでいるトレンチの位置測量、3m毎のポイント設定を行う。
- 6/19(火) 曇時々晴 T-2路線の東側へ入る。東側へ行くほど遺構・遺物が疎

になる。また既設管と新設管の埋設位置も東へ行くほど重なる幅が大きくなる状況であったゆえ、第11トレンチを100m設定した状況でいったん区切り、その東側は長さ10mのトレンチを30mとばして設定し、上記の状況を確認するにとどめることとした。

- 6/20 (水) 晴時々曇 午前中第14・15トレンチを調査。昨日と同様な状況、午前中には表土除去終了。午後は測量用に3m毎のポイント設定を行う。
- 6/21 (木) 曇 手掘りを開始。また仮設ハウス・トイレ設置される。
- 6/22 (金) 雨 雨天中止。午前中バックホー引きあげ。
- 6/25 (月) 曇時々晴 大雨後の作業、雨水がトレンチ内へだいぶ流れ込んだ様で、土砂の流れ込みがかなりある。梅雨に入り天候が心配、作業をやっている時間は降って欲しくないという心境。
- 6/26 (火) 曇時々晴 遺構検出を行う。遺物の出土量はかなり多い。
- 6/27 (水) 晴後曇 各作業昨日の続きを行う一方、第11トレンチでは既設管の攪乱埋土除去も開始。第8トレンチは遺構が重なり合っているようで遺構検出に難儀。
- 6/28 (木) 晴後曇 第7トレンチも手作業着手。また第8・11トレンチでは平面図作成を開始した。
- 6/29 (金) 雨 雨天中止。
- 7/2 (月) 曇時々雨 雨天中止。
- 7/3 (火) 曇 遺構の掘り下げを開始、SB-15～18を掘り下げる。ほか第9・10トレンチにも着手した。夕方文化財保護委員の方々が来訪。
- 7/4 (水) 曇後雨 午前11時頃より降雨。以後屋外作業中止。梅雨期間中とはいえ、こう雨ばかり続くと作業が滞り、工程が心配になってくる。
- 7/5 (木) 曇時々晴 SB-19の掘り下げが進んだところ、有孔鋳付土器が出土。慎重に掘り進める。
- 7/6 (金) 曇時々晴 SB-19有孔鋳付土器が全容をあらわす。胴体部分の文様意匠がすばらしく優品と思われる。脇から釣手土器の破片も出土。攪乱にやられている様なので、並んで置かれていた可能性があり。第9・10トレンチは土坑が密集しており、墓域の様相を呈す。
- 7/9 (月) 曇時々晴 各作業続行。鋭意作業に取り組む。本日に調査を予定しているT-4路線の箇所調査予告・通行止予告看板を設置する。
- 7/10 (火) 曇時々雨 雨天中止。
- 7/11 (水) 曇時々雨 雨天中止。シルバー作業員は休み。但し雨予報ほどの雨量はないので、止み間を見て図化作業は行う。
- 7/12 (木) 曇後雨 朝雨が降っていないなかったので、久しぶりに作業を開始したが、午前11時過ぎに雨が降り出す。これだけ雨が降ると工程的にも精神的にもきつい。
- 7/13 (金) 曇 第7トレンチは攪乱が著しいので、遺構検出面を15cm程下げる。遺物は多く出土したので、遺構として捉えきれなかったのは残念。SB-16の床面から埋壔を発見。正位に埋められている様子。台風4号接近中、一応風で機材が飛ばないように対策を講じた。
- 7/17 (火) 曇一時雨 雨がバラつくが、工程的に厳しいので無理して作業をおこなう。遺構の掘削は9割程終わったが、遺構が重複していてややこしいところが残っている。副村長・教育長現場を視察に訪れる。
- 7/18 (水) 曇時々晴 作業大詰め。朝から完掘全景写真撮影のため遺構の清掃を行い、第7・9・11トレンチの撮影を夕方までに行う。また第8・10トレンチの遺構掘削もだいぶ進んだ。
- 7/19 (火) 曇時々晴 第8・10トレンチの遺構掘削もようやくおわり、完掘全景写真を撮影。シルバー作業員は今日まで。あとは図化作業と、埋壔の取りあげが残った。
- 7/20 (火) 曇 図化作業の最終チェックを行う。またSB-16埋壔を断ち割り、断面写真撮影・断面図作成後、取り上げた。底部まで完存していた。その後機材の撤収を行い、下原遺跡第7～11トレンチの調査を完了させた。午後トイレ汲み取りにくる。
- 7/23 (月) 曇 T-4路線、三夜塚遺跡側の調査に着手。既設管の攪乱がひどく、全域の調査は必要ない状況。10m延長のトレンチを30m間隔で設定し、状況を確認しながら東へと移っていった。下原遺跡第7～11トレンチの所に設営

してあった仮設ハウス・トイレが撤収された。

- 7/24 (火) 晴 昨日に引き続き状況を確認していく。第8トレンチでは遺構・遺物が認められ、既設管の攪乱幅も少ないので詳細に調査を行うこととし、80m延長のトレンチを設定した。ただそれより東へ進むと、また既設管の攪乱幅が増してくるので全域の調査は行わないこととした。
- 7/26 (木) 曇一時雨 各トレンチ写真撮影のため精査する。第1トレンチでは今まで三夜塚遺跡では発見例の少ない前期末の遺物が出土。攪乱がひどくなければ調査したいところなのに残念。第4トレンチも攪乱の隙間に遺構が多く見られ、本来なら調査対象になる状況。また第8トレンチでは、測量用に3m毎の釘打ちを行った。
- 7/27 (金) 晴 短い各トレンチの写真撮影行方。第8トレンチは遺構検出を行い、土坑30弱、住居址1を検出。中期後葉の遺物が出土。攪乱から掘削も開始。ただ畑のスプリンクラーが作動しており作業にならない。
- 7/30 (月) 曇時々雨 朝から雨パラつく。シルバー作業員は作業中止。雨のやみ間を縫って作図作業を行った。
- 7/31 (火) 曇後晴 遺構掘削、図化作業続行。中期後葉の土器が多い。第1トレンチで検出した住居址かと思われた黒褐色土の広がりも溝址と判明。用水路址の可能性が高いと思われる。
- 8/1 (水) 晴 SB-21掘り下げ、中期後葉の土器が出土。住居址以外の遺構は概ね掘り上がってきた。本日梅雨明け、真夏らしい晴れの1日であった。
- 8/2 (木) 晴時々曇 SB-21で炉が見つかる。炉縁石は抜かれているが、径2m程の大型のもので、底面は著しく被熱赤変している。
- 8/3 (金) 曇 この路線の調査も大詰め。掘り残してあった遺構の掘削を終了させ、図面の最終チェックを行った。夕方までに機材の撤収まで終了。次の路線の調査に移らねばならない所だが、作付けの都合で着手できない。
- 8/6 (月) 晴 出土遺物の水洗作業を行うこととする。
- 8/17 (金) 晴 遺物水洗作業を行う一方、T幹-1・2路線の南北ラインの調査に着手できる段取りになったため、調査範囲の線引き作業を行った。
- 8/20 (月) 晴 午前9時バックホー搬入、この路線の南側から着手。下原遺跡と三夜塚遺跡を縦断する。南端の三夜塚遺跡第13トレンチは、攪乱がひどいが、土坑が数基見られるため調査することとする。三夜塚遺跡分の3本のトレンチをとばしとばして設けたが、旧河川に近い三夜塚遺跡第11・12トレンチは遺構・遺物なし。
- 8/21 (火) 晴 下原遺跡第17～19トレンチを調査。旧河川内は、1.5m程で砂礫層へ達し河川性の堆積を見せる。遺物は見られなかった。三夜塚遺跡第13トレンチの土坑からは、縄文前期末の土器が出土している。
- 8/22 (水) 晴後曇 T幹-1路線の北端、波田町境までトレンチの設定終了。下原遺跡側は遺構・遺物見られなかった。三夜塚遺跡第13トレンチの土坑からは、縄文前期末の筒状把手を有す土器が見つかる。
- 8/23 (木) 曇後晴 筒状把手を有す土器が見つかった土坑は、残念なことに真中を攪乱されている。夕方までに遺物取り上げ、図化作業終了する。この路線の調査を終了させた。午前中軽油配達あり。
- 8/24 (金) 曇 バックホー引き揚げ。次の路線の調査に移りたいが、作付けの都合で着手できない。よって遺物水洗作業を行うこととした。(9月11日まで実施。)
- 9/11 (火) 曇後雨 T幹-3路線の調査へ着手できることになる。トレンチ範囲線引きなど調査準備を行う。
- 9/12 (水) 雨後曇 午前9時バックホー搬入。まずは10m延長のトレンチを30m間隔で設定し、状況を確認する。三夜塚遺跡第14～16トレンチは、遺構・遺物とも皆無で攪乱も激しいので、これ以上の調査は必要ないと判断。第17・18トレンチは、ピットや土坑らしき黒褐色土の広がりが認められた。午前中仮設ハウス・トイレ設置される。
- 9/13 (木) 晴 昨日遺構が検出された第17・18トレンチをつなげてひとつのトレンチとすることに決め、表土除去を行う。遺物は僅少であるが、攪乱がほとんどなく残存状況がよい。新18トレンチ、19・20トレンチの表土除去も行うが、こちらは遺構・遺物ほとんどなし。
- 9/14 (金) 晴 1日空いたので、遺物水洗作業を行う。

9/18(火) 曇後晴 第17トレンチの遺構検出を行いその後掘削する。ピット約20基、土坑1基、溝趾1条で数も少なく掘り方も浅いものばかりで、夕方までに9割方掘り終わる。夕方バックホー引きあげ。

9/19(水) 晴時々曇 第18～20トレンチの遺構検出・掘削作業を行う。小ピットが多く掘り方も浅い。遺物もほぼ無いので、人為的な穴はあまりないと思われる。手作業による掘削は終了。

9/20(木) 晴 図化作業を行う。夕方までに図化、機材撤収まで終了した。

9/21(金) 晴 次に着手するT-1-1路線、T-1-2路線北半箇所調査トレンチライン引きを行う。

9/26(水) 晴 朝バックホー搬入。既設管の攪乱を確認しながら調査トレンチの延長を決める。T-1-1路線の東西ライン、下原第20トレンチは攪乱も少なく遺物も認められるので、80m延長のトレンチとした。同路線南北ラインは、既設管による攪乱がひどいため、第21・22トレンチでその状況を確認するとどめた。

9/27(木) 晴 T-1-2路線北半は遺物多出。第23・24・25トレンチを設定し表土除去を行う。土器片がかなり浅い部分からバケツに引っかかるため、大半の範囲を手による表土除去とすることにした。

9/28(金) 晴時々曇 機材の搬入、道路脇にロープの設置を行う。また測量用の釘打ちを開始。

10/1(月) 曇時々雨 小雨がバラつく一日。シルバー作業員は休み。雨のやみ間に測量用の釘打ちを行いつつ、プレハブで準備作業を行う。

10/2(火) 曇 霧雨だったが、休んでばかりもいられないので作業する。遺物が多出した第23トレンチは、後期掘之内式土器が多く見られる。

10/3(水) 曇 昨日に引き続き第23トレンチの遺物包含層掘り下げを続ける。相変わらず出土量は非常に多い。

10/4(木) 曇一時雨 昨日に引き続き第24トレンチの遺物包含層掘り下げ。徐々にローム層まで達すが遺構は少ない。耕作によりかき混ぜられてしまったものが多いと思われる。夕方また雨がバラつく。天気が安定しない。

10/5(金) 曇 第20トレンチの掘り下げを行う。こちらは石綿管が埋設してあり、重機ではこわくて除去できなかった範囲を手作業で掘り下げる。第23トレンチは遺物包含層の掘り下げ完了し、遺構検出までできた。

10/9(火) 曇時々小雨 午後は晴予報だったので作業を行ったが、結局夕方まで小雨が時々落ちてくる一日。第24トレンチの遺物包含層除去、第25トレンチの遺構検出、第20トレンチは既設管の攪乱掘り下げを行う。

10/10(水) 晴 各トレンチ遺構掘削をはじめ。第25トレンチは両遺跡をへだてる旧河川内に該当し、砂礫層中に巻き込まれた遺物が含まれる。

10/11(木) 曇時々晴 各トレンチ遺構掘削続行。第20トレンチの中央部に黒褐色土が広がっていた範囲は、遺構ではなく自然地形の浅い窪地に黒褐色土が堆積しているものと判明。第25トレンチは河川の断面を確認したい所だが、幅が狭く危険なため、掘削しないことにした。

10/12(金) 曇時々晴 遺構掘削が終わったトレンチから、清掃、全体写真撮影を行う。夕方までに20・23・24・25トレンチは撮影できた。

10/15(月) 晴後曇 この路線の調査も大詰め。調査担当者のみで図化作業ののこりと写真撮影を行い、概ねの作業を終了した。

10/16(火) 曇 調査担当者みでの作業。残務を片付ける。また午後は次に着手するT-1-2路線南半のトレンチライン引きを行った。

10/22(月) 晴 朝バックホー搬入。T-1-2路線南半、三夜塚遺跡第21トレンチに着手。すぐに遺構・遺物多いことが判明。ただし東側に行くにつれ遺構が希薄になったため、南端までの調査は必要ない。

10/23(火) 晴 午前中機材搬入。午後は測量用の釘打ちを行った。

10/24(水) 晴 朝晩の冷え込み厳しくなり、今朝は非常に寒かった。本日より三夜塚21トレンチ手掘りスタート。まずは遺物の出土が多く遺構検出面までの表土を重機で取らないでおいだした範囲を人力で除去する。

10/25(木) 晴 遺構検出でき、全景写真を撮影する。遺構はかなり密に存在する。南側の黒褐色土が10m以上の範囲に広がっている箇所は、遺構が切りあっているのかまたは違う自然堆積があるのか判断がつかず難しい。

10/26(金) 曇時々雨 シルバー作業員は休み。プレハブ内で図面の準備など

を行う。

10/29(月) 曇時々晴 遺構の掘り下げ開始。南側の黒褐色土が広範囲に見られる箇所から前期末の土器が出土。平面的に切り合いは確認できない。

10/30(火) 曇 SB-23など、各遺構掘り下げる。南側の黒褐色土範囲は、住居1軒なのか、重なっているのか断定できず。大型住居なら非常に珍しいので慎重に判断したい。

10/31(水) 晴 各遺構掘り下げ、図化も順調に進んでいる。SK-183は中期末の土器片が折り重なって出土。ゴミ捨て穴的な様相。南側の黒褐色土の広がり、切り合いも確認できないうへ底面が硬化しており、大型住居と判断できそう。径12m弱、SB-22と命名した。

11/1(木) 曇時々晴 SB-22以外の遺構は概ね掘り上がってきた。SB-22は遺物出土状況の図化・写真撮影のため、遺物を取り上げずに掘り下げるが、幅が狭いため作業スペースがなく非常に難儀する。

11/2(金) 曇 SB-22はようやく遺物出土状況の写真撮影を行う。すぐに図化にとりかかるが、やはり幅が狭く足の置き場が無い為非常に難儀する。SB-22以外は9割方掘りあがる。月曜日は図化作業のみとすることにした。

11/5(月) 晴後曇 図化作業のみ行う。

11/6(火) 雨後曇 雨天中止。

11/7(水) 晴 SB-22の続き、床面の遺構検出を行い早速掘りさげる。やはり径12mの大型住居で間違いない。運良く地床炉が検出できた。柱穴は深さ1m弱の非常に深いものが2、3あり、大型住居の屋根を支えるのに相応しい。また柱穴内から前期末の深鉢胴部が出土し時期も確定できた。

11/8(木) 晴 SB-22床面遺構の掘り下げに手間取る。深いものが多く、幅が80cmなので体をもっていく所がない。それでも昼頃にはすべて掘りあがりSB-22の完掘写真を撮影できた。その後急ピッチで平面図を完成させたが、セクション図は明日へ持ち越し。シルバー作業員は本日で終了。

11/9(金) 晴時々曇 大詰め。SB-22セクション図作成、セクション写真撮影。12mのセクション図作成は予想以上に手間取り、夕方までに機材撤収まで終わらせられなかった。

11/12(月) 晴時々曇 午前中トイレ汲み取り。午後トイレ・プレハブ引きあげ。また発掘機材の撤収も夕方までに終了。本日にて現場作業のすべてが終了した。

整理作業には、現場作業の間にも徐々に進めていたが、本格的には現場作業終了後に着手。出土遺物の水洗作業を12月中旬まで実施。次に出土遺物の注記作業を開始するが、膨大な量であったため翌平成20年3月上旬までを要した。平成19年度の残り期間に土器の接合・復元作業を行うが、年度内に十分な段階まで達す事はできなかった。

平成20年度の春季から秋季は他の事業に伴う他遺跡の発掘調査を行っていたため、十分に当事業の整理作業に従事できず。合間についてできる作業を進めていたが、本格的に再開したのは10月から。土器の接合・復元作業の続きを行い、以後土器実測図の作成、遺構図の整理、各種一覧表の作成を行う。平成21年になってから遺構図・遺物実測図のトレースと報告書刊行への作業に入り、組版、遺物写真撮影、原稿執筆を2月中に完了し、3月ようやく報告書刊行までこぎつけた。

## II 遺跡の環境

### 1 遺跡の立地と地形

下原遺跡、三夜塚遺跡が存在する山形村は、長野県の中央、松本盆地の南西約12kmに位置し、古生代の地層に属する山地と、扇状地の堆積層によるなだらかな北東傾斜面からなっている。村の最高標高地点は唐沢山の1,745m、最低地点は唐沢川と三間沢川合流地点の約650mである。松本・塩尻・東筑摩郡の最高峰である鉢盛山（標高2,446m）の山稜から東北方向へ延びる尾根は、界沢山（1,994m）、ハト峰（1,970m）を経て唐沢山に達し、そこから2つに分かれ、1つは荒倉山（1,495m）から白山（1,387m）へ、もう1つは鳴神、御岳山（859m）の尾根へと達する。山形村を潤す河川は、この2つの尾根間を流れる唐沢川と、平地部に面した尾根の前面を流れる三間沢川のみである。すなわち鉢盛山系に落ちた雨水は、南に朝日村を流れる鎖川、北に波田町を流れる黒川へ多くが集まり、山形村にはあまり集まらない訳である。山形村の生活圏は、この山地を西側の背景とした広大な平地上に存在する。この平地の南部は鎖川、北部は梓川によって作られた扇状地がベースとなり、北部に唐沢川扇状地が乗る。昔からの水田地帯の大部分は、この扇状地の縫合帯にできた窪地に広がり、唐沢川や三間沢川等の流路もこの縫合帯に位置する。古くからの集落もこの周辺に立地し、遺跡も集中する傾向にある。

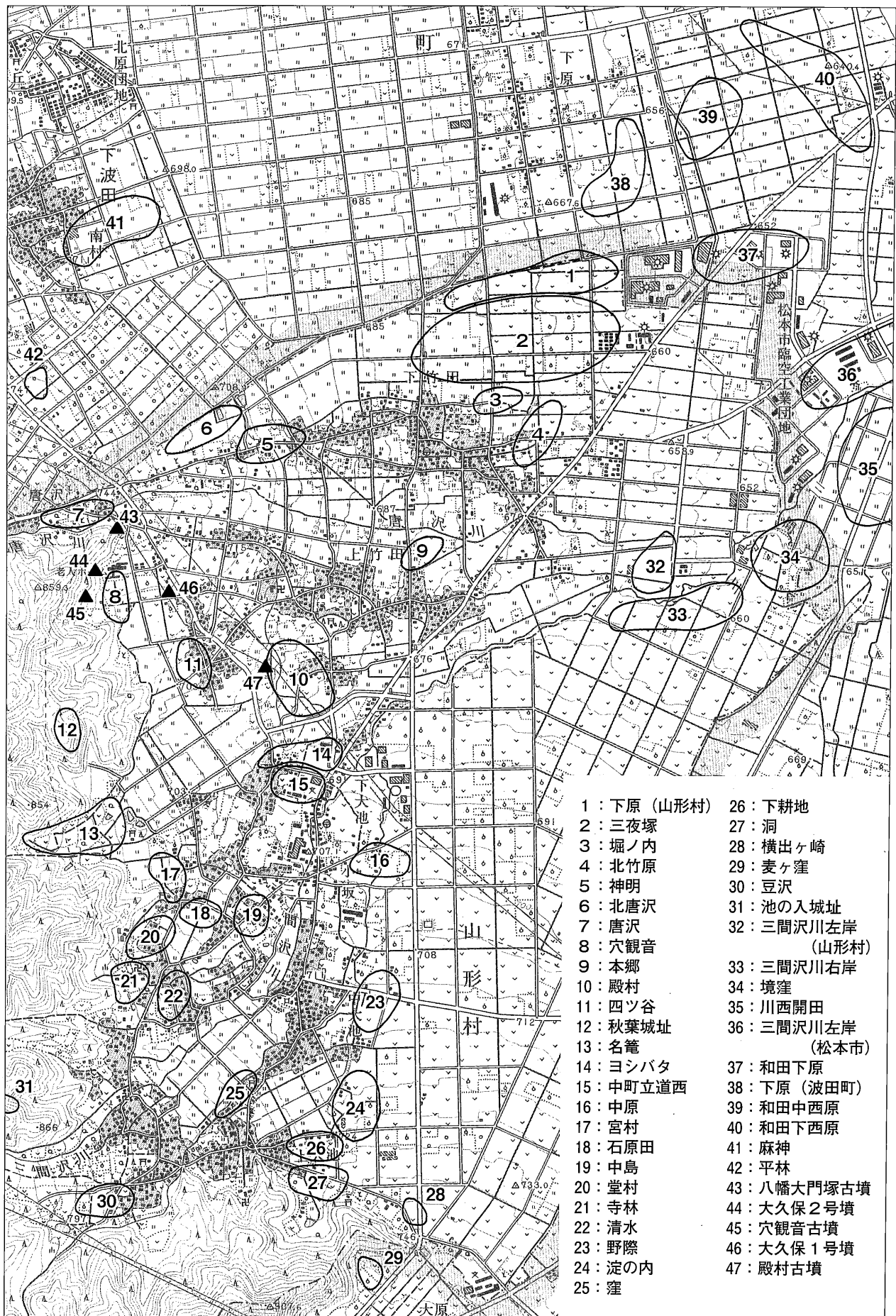
さて両遺跡は唐沢川扇状地の扇端に位置し、調査地点の標高は665～670m程度で、1000分の25程度の比較的緩やかに東へ傾斜した場所にある。現在は河川もなく、独自の水利に乏しい場所であり、戦前までは樹木の茂る平地林となっていたと伝えられる。一見遺跡が立地するには不向きな場所であるが、幅50m程の凹地が山へ向かって延びているのが明瞭に確認でき、乱流した唐沢川の流路がこの場所を流れていたであろう事が容易に想像できる。この流路の右岸側に三夜塚遺跡が、左岸側に下原遺跡が立地しており、縄文時代にはこの水辺を生活の地に選んだものと考えられる。

今回調査したのは、農道脇の耕作地内または未舗装の農道内である。農道は昭和40年代前半に行われた耕地区画整理事業の際、周囲の耕地から土を寄せ高くして作った区間がある。当時は発掘調査を一切行わず工事をしてしまったため、この盛土の中にも土器等の遺物が含まれており、下原遺跡では重機でこの土を除去してしまうのをためらう程多くの遺物が含まれていた。なおこの遺物も回収に努めたが、時間的制約から全範囲にて対応するのは難しく、頻出する範囲に限られている。耕作地内はこの耕地区画整理事業の際に表面を削られている場所もあり、30cm程度の耕作土を取ると地山のローム層土が現れる範囲もあった。逆に土を盛った耕作地内や農道範囲内では、ローム層土の上に10～20cm程度の黒褐色土が見られる。上部は耕地区画整理事業以前にも流出したり耕作土になったと思われるが、縄文時代の生活面はこの黒褐色土中にあったと考えられる。調査ではこの黒褐色土内で遺構輪郭を捉えるべきであるが、調査の幅も狭く非常に難しいため、ローム層上面を遺構面とし、黒褐色土は遺物包含層として遺物を取り上げた。

【引用・参考文献】山形村誌編纂会 1980 『村誌やまがた』

### 2 過去の調査と周辺遺跡

今回発掘調査が行われた下原遺跡と三夜塚遺跡は、先述の旧唐沢川流路を挟んでいるものの、互いに接しており時期も縄文時代中期を主としたものである。両岸で同時期に人の営みがあった時期もあったと考えら



- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1 : 下原 (山形村) | 26 : 下耕地             |
| 2 : 三夜塚      | 27 : 洞               |
| 3 : 堀ノ内      | 28 : 横出ヶ崎            |
| 4 : 北竹原      | 29 : 麦ヶ窪             |
| 5 : 神明       | 30 : 豆沢              |
| 6 : 北唐沢      | 31 : 池の入城址           |
| 7 : 唐沢       | 32 : 三間沢川左岸<br>(山形村) |
| 8 : 穴観音      | 33 : 三間沢川右岸          |
| 9 : 本郷       | 34 : 境窪              |
| 10 : 殿村      | 35 : 川西開田            |
| 11 : 四ツ谷     | 36 : 三間沢川左岸<br>(松本市) |
| 12 : 秋葉城址    | 37 : 和田下原            |
| 13 : 名麓      | 38 : 下原 (波田町)        |
| 14 : ヨシバタ    | 39 : 和田中西原           |
| 15 : 中町立道西   | 40 : 和田下西原           |
| 16 : 中原      | 41 : 麻神              |
| 17 : 宮村      | 42 : 平林              |
| 18 : 石原田     | 43 : 八幡大門塚古墳         |
| 19 : 中島      | 44 : 大久保2号墳          |
| 20 : 堂村      | 45 : 穴観音古墳           |
| 21 : 寺林      | 46 : 大久保1号墳          |
| 22 : 清水      | 47 : 殿村古墳            |
| 23 : 野際      |                      |
| 24 : 淀の内     |                      |
| 25 : 窪       |                      |

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡 (1 : 25,000)



れ、現代の我々は2つの遺跡名を付けたものの、当時の人々に2つという意識は薄かったと思われる。三夜塚遺跡は東西800m、南北400m程、下原遺跡は南北700m、東西200m程と広大な範囲が遺跡として周知されているが、全域から同じ時期の遺物が拾われている状況ではなく、時期により居住地を選定し、結果として広大な範囲が遺跡として残されたものと考えられる。

両遺跡は発掘調査が行われる前から土器や石器が非常に多く拾われる遺跡として知られ、盗掘の噂も多々耳にする。本格的に発掘調査されたことはなかったが、松本平最大規模の縄文中期遺跡として有名で、考古学会から注目される遺跡でもあった。

これまでに下原遺跡では発掘調査を行っていないが、三夜塚遺跡では何回かの調査が行われている。最初の調査は昭和42年に、藤沢宗平、等々力正大、小松虔の各氏と松商学園高校地歴部によって行われた（第1次調査）。『日本考古学年報』20に調査報告が掲載されており、加曾利E式、加曾利E式古相、中期中頃の3基の住居址が発見されたとあるものの、調査した場所に関して記述がなく、地元の方々の話から概ねの位置が分かるに過ぎない。

昭和55年には圃場整備事業に伴い、遺跡の南側2万㎡余を対象にグリッド調査が実施された。112グリッド448㎡が掘られたが、土坑が1基と縄文時代中期初頭の土器が発見されたのみであり、調査範囲を広げての本格的な発掘調査には至らなかった。翌昭和56年にも、三夜塚遺跡周辺にて圃場整備事業が計画され、遺跡該当地の2,700㎡が発掘調査された。土坑5基、集石群1箇所、ピット群2箇所が検出され、中期末～後期前葉の遺物がコンテナ15箱程出土している（第2次調査）。

第3次調査は、平成13年に農道環境整備事業に伴う緊急発掘調査として実施された。未舗装農道の舗装工事であったため、農道幅内の限られた調査ではあったが、遺跡の中心部を初めて本格的に調査したもので、縄文時代中期後葉を主として竪穴式住居址20基、土坑148基、ピット631基が検出され、遺物もコンテナ60箱程が出土した。この様に数度の発掘調査が実施されたものの、遺跡の範囲もいまだ明確になっていない。

さて発掘調査が行われた下原遺跡、三夜塚遺跡の周辺にある遺跡（第1図）を、今までに行った発掘調査の成果等を参考に、歴史的環境を概観してみたい。

この周辺で見つかっている遺物で最も古いものは、三夜塚遺跡（第1図・2）で表採された局部磨製石斧2点で、旧石器時代末までさかのぼる。続く縄文時代は、草創期は発見例が無く、早期は名籠遺跡（13）で発見された押型文土器が特筆される。竪穴式住居址は検出されなかったものの、押型文土器片400点余、土坑数十基が検出されており、山形村で見つかった最古の遺構となる。他に早期では、同遺跡で見つかった条痕文土器や絡条体圧痕文土器などが少数見つかっている他、清水寺遺跡で撚糸文土器、淀の内遺跡（24）で条痕文土器が数点表採されている。前期になると徐々に遺跡も増えはじめ、発掘調査での成果も得られている。上大池淀の内遺跡（24）で前期初頭中越式期の竪穴式住居址と前期前葉関山式期の竪穴式住居址、小坂中島遺跡（19）で前期中葉有尾式期の竪穴式住居址や土坑、下竹田唐沢遺跡（7）で前期中葉～後葉にかけての竪穴式住居址4軒や集石炉等の遺構、下大池中町立道西遺跡（15）で前期後葉諸磯C式期の竪穴式住居址の発掘調査事例がある他、下大池名籠遺跡（13）で前期末～中期初頭の竪穴式住居址5軒、土坑300基程、集石遺構10基程と、集落の広範囲を調査している。続く中期は数多くの遺跡が存在する。古い方では、松本市川西開田遺跡（35）で大規模な集落跡が広範囲にわたって調査されているほか、下大池中町立道西遺跡（15）、小坂中島遺跡（19）、上竹田本郷遺跡（9）などで僅かな遺構・遺物が見つかっている。それ以後は爆発的に人口の増加があった様子で発見例が増す。上大池洞遺跡（27）、同淀の内遺跡（24）、上竹田殿村遺跡（10）、下竹田三夜塚遺跡（2）、波田町麻神遺跡（41）などで発掘調査が行われ、中期中葉～後葉の竪穴式住居址やその他の遺構が数多く発見され、大規模な集落址であることが判明している。この他に発掘調査はしていないが数多くの遺物が拾われている遺跡として、中大池野際遺跡（23）、小坂宮村遺跡（17）等があげられ、

いずれも規模の大きな集落であったことが容易に推測できる。後期になると遺跡数が激減するのはこの地域共通の現象で、後期前半期の遺構や土器が下竹田三夜塚遺跡（2）や波田町麻神遺跡（41）で少数見つまっているのみである。後期後葉～晩期では、下大池名籠遺跡（13）で配石墓1基と土坑やピットが50基程発見され、遺物が伴って出土している。

弥生時代になると稲作が始まったためと考えられるが、水利に乏しい村内には適地が限られ遺跡が少ない。松本市と山形村にまたがって存在する境窪遺跡（34）では中期中葉前半の集落が見つまっているが、それ以外は断片的な資料である。下竹田唐沢遺跡（7）からは中期中葉前半の土器が少量、山形小学校敷地内（下大池ヨシバタ遺跡（14）か同中町立道西遺跡（15）に該当）から、壺と甕が各1点、上大池洞遺跡（27）からは竪穴式住居址の炉体土器ではないかと推測される後期箱清水式期の甕が2個体、上竹田殿村遺跡（10）から方形周溝墓が1基見つまっている。

古墳時代の集落は見つかっておらず、まだ集落域として開発が及んできていないものと考えられる。しかし松本市川西開田遺跡（35）で僅かながら前期土器が出土しており、付近に未発見の集落址が存在するのかもしれない。古墳そのものは上竹田地区で5基（43～47）が確認されており、大久保古墳群と呼ばれている。いずれも横穴式石室をもつ小型の円墳と見られ、終末期の築造と考えられる。なお殿村古墳（47）からは、「錦織部（にしごおり）」と書かれた墨書土器が見つかっており、県内最古の資料として注目されている。

これまでの調査研究から松本市域での開発は、奈良井川西部、神林や島立地区で古墳時代後期に始まり、鎖川流域で9世紀以降にようやく始まると見られ、山形村ではさらに遅れるものと思われる。よって奈良時代の遺跡は見つかっていない。松本市三間沢川左岸遺跡（36）は9世紀前半から10世紀後半まで続いた大集落で、270軒以上もの竪穴式住居址が発見され、「長良私印」銘の銅印や八稜鏡など、通常の集落とはかけ離れた内容から荘園を想像させる。この遺跡に隣接する松本市川西開田遺跡（35）や境窪遺跡（34）でも、これ程の規模ではないが同時期の集落址が見つまっている。一方山形村では、上竹田殿村遺跡（10）で13軒、下大池中町立道西遺跡（15）で2軒、上大池淀の内遺跡（24）で2軒、同洞遺跡（27）で4軒の竪穴式住居址が見つまっている。いずれも10世紀以降のもので、松本平全域での動向に同調した動きと推測される。

中世については、下大池名籠遺跡（13）で用水路を伴った鎌倉期の集落址が見つかっており、室町期には集落が廃れ墓域となった事が判明している。他には下大池中町立道西遺跡（17）で中世後半期の遺構や遺物が発見されているのみである。山城は、秋葉城址（12）、池の入城址（31）などが知られているが、史料の面から窺うことはできない。

【参考文献】 山形村誌編纂会 1980 『村誌やまがた』

波田町誌編纂委員会 1987 『波田町誌 歴史現代編』

松本市 1993 『松本市史 第二巻 歴史編1』

山形村教育委員会 1981 『山形村遺跡発掘調査報告書第3集 三夜塚遺跡』

山形村教育委員会 1982 『山形村遺跡発掘調査報告書第4集 神明遺跡 三夜塚遺跡』

山形村教育委員会 2002 『山形村遺跡発掘調査報告書第12集 三夜塚遺跡Ⅲ』

山形村教育委員会 2007 『山形村遺跡発掘調査報告書第13集 名籠遺跡』

松本市教育委員会 1998 『松本市文化財調査報告No.130 境窪遺跡 川西開田遺跡Ⅰ・Ⅱ』

波田町教育委員会 1995 『葦原遺跡Ⅱ』

### Ⅲ 調査の概要

#### 1 発掘調査の方法

今回の発掘調査は配水管を埋設する幅のみを対象とし、狭い所で50cm、広い所でも2m強という限られた範囲のみであった。但し50cmでは人間が中に入り作業するには身動きが取れずどうにもならないため、少なくとも1mの幅が欲しい所であったが、掘削した土を置く場所が十分に確保できないことから、幅80cm程度を調査対象とした。発掘調査範囲の選定に際し今回は、既設の配水管がどこに埋設されているのかということが最も重要となる訳であるが、これに関する詳細な図面が一切保管されていなかったため、実際に掘削して確かめ発掘調査範囲を決めていくという方法を取らざるを得なかった。

遺構図の作成や遺物取り上げに際し、一般的には調査範囲の全域を国土座標に基づいたグリッドで覆う方法を採用するが、今回は極端に細長い調査区で、国土座標にあわせた東西南北の軸でトレンチを端から端まで一直線に貫くことができない。これは様々な面で作業効率が悪いいため、埋設される配水管の中央を結ぶラインを基に、各トレンチで異なる軸によりグリッドを設定した。よって最終的に、調査報告書作成の上で修正する必要があるのだが、アナログ的な作業で修正を行うのは難しく仕方なくあきらめた。振れ幅については後項に記した。なおこの調査で用いた国土座標値は、畑地帯総合整備事業で使われた値を基にした。

実際の掘削に際しては、まず大型建設用機械を使用して遺構検出面までの表土を除去しようとしたが、先述のとおり農道の盛土中に遺物が含まれており、機械で除去してしまうのを看過できない程の箇所は、遺物回収のため人力にて除去した。その後は遺構検出作業を行い、遺構の範囲・位置を特定した。土色の相違が判然とせず平面的に範囲を特定することが困難な箇所は、サブトレンチを設定し、土層断面の観察も併用して遺構の検出に努める所であるが、幅が狭い調査区では十分に採用できず、不確かなまま複数の遺構を掘り下げた箇所が多々ある。同様な理由で、分割して掘削、堆積状況を観察、図化・記録することについても、半割して遺構を掘ることが厳しく、一度に全掘したものの方が多い。遺物の取り上げは、全点記録及び層位別取り上げを求められるところであるが、限られた期間と人員では完全実施を望める状況になく、一部を除いてグリッド単位や遺構単位での取り上げとせざるを得ない状況であった。

遺構番号は、遺構の形状や想定される性格、規模の大小によりそれぞれ番号を付けたが、土坑とピットは平面形が大きいか小さいかで判断したため曖昧である。下原遺跡ではこれまでに調査を行ったことがないのでそれぞれ「1」からの通し番号を、三夜塚遺跡では第3次調査の続き番号を付していった。遺構等の測量記録はすべて1/20で作成した。写真撮影はカラーリバーサルフィルムと白黒ネガフィルムを使用し、35mmカメラで撮影した。

#### 2 整理作業の方法

遺跡から出土した遺物の整理作業は、水洗い、出土遺構・地点の注記、分別、割れた遺物の接合・復元、分類、抽出、実測図の作成、報告書の編集執筆という各作業を行った。他遺跡の発掘調査や整理作業も同時並行で進行しており、一連の作業を完了させるまでには平成20年度末までを要した。

注記については、山形村遺跡地図に付されている遺跡番号（下原遺跡は「29」、三夜塚遺跡は「28」。また下原遺跡は第1次調査ゆえ「29Ⅰ」、三夜塚遺跡は第4次調査ゆえ「28Ⅳ」とした。）→遺構番号・グリッド

名→取り上げNo等の順番で記した。注記後は、土器・石器等に分別の後接合作業を行い、必要に応じて復元作業を行った。遺物の図化作業は、調査担当者以外従事する人材を確保できないため、石器の実測はその大部分を業者委託の上行った。またそれ以外の実測図作成についても、作業スピードを上げ期限内に仕上げる必要性から、図化を補助する機械をリースし使用した。

発掘調査の過程で出土した炭化材、炭化種実については、選択の上自然科学分析を実施した。分析結果については、その報告を本書中に納めてある。

### 3 各トレンチの概要

#### (1) 下原遺跡第1次調査

##### ① 第1トレンチ

T-3路線（この名称は配水管更新事業の管路を示すもので、本書で図面等の掲載はしていないが、発掘調査範囲を決定する経過を説明する必要性から用いた。）の末端、5729番地の北側農道内、幅80cm程度で東西方向に長さ10mで設けた。既設管の埋設もなく遺構・遺物ともに認められたが、作業用スペースを確保するために仕方なく詳細な調査を行えなかった。

##### ② 第2トレンチ

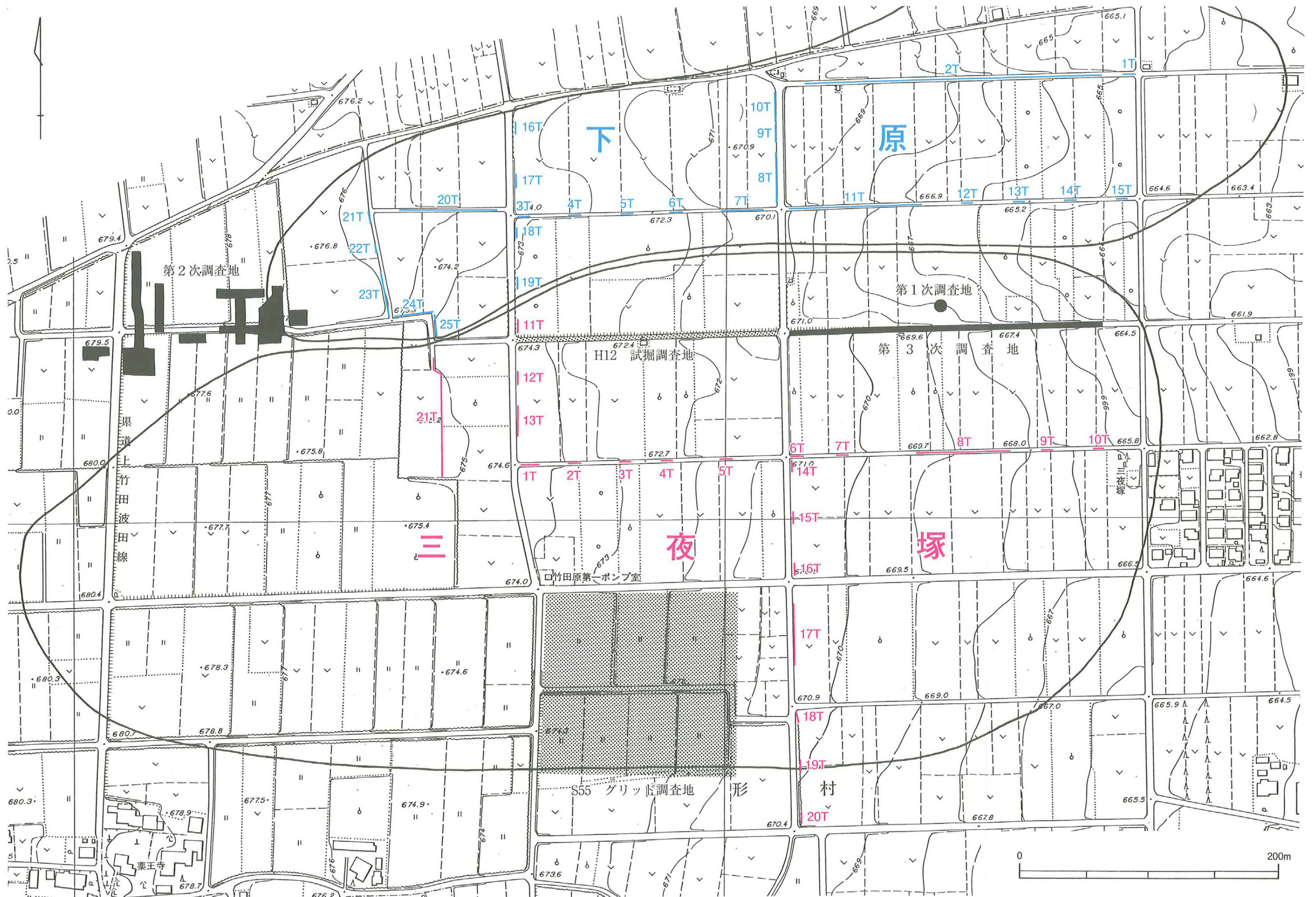
T-3路線の中央、5709番地1から5728番地1の北側農道内、東西方向に長さ229m（幅80cm程度）という今回の調査で最も狭長なトレンチを設けた。既設管の埋設が無い上、遺構の残存状況が良いため、詳細な調査を実施した。竪穴式住居址15基をはじめとして、多くの土坑やピットが複雑に切り合っており、縄文時代中期後葉を主として中期中葉（藤内式）の遺物等、大量に出土している。圃場よりも高くした農道内であるため、路面から遺構検出面としたローム層上面まで80cm程度を測る。基本土層は、道路の敷き砂利層が10cm程度（Ⅰ層）、耕地区画整理事業の際の盛土層で転圧により硬く締まっている層が20cm程度（Ⅱ層）、耕地区画整理事業による盛土層で締まっていない層が10cm程度（Ⅲ層）、耕地区画整理事業前の耕作土が15cm程度（Ⅳ層）、黒褐色土層が15cm程度（Ⅴ層）で、以下はローム層（Ⅵ層）である。また他のトレンチも、この土層に準じた堆積を示していた。なおこのトレンチで用いた北方向は、真北から1°11′03″西へ振れており、測量用「0」点の国土座標値は、X=21185.258、Y=-55223.890である。

##### ③ 第3～7、11～15トレンチ

T-2路線に該当する。この路線には既設管があり、これを埋設する際に掘った幅と、新設配水管の掘削幅が重なる。但し既設管は蛇行しており、重なる程度が場所によって変わる。よってこの路線では、30m間隔で長さ10m（幅80cm）のトレンチを設定して既設管掘削による攪乱状況を確認し、攪乱の度合いが少ない範囲や遺物・遺構が密に存在する範囲に関してトレンチを延長し詳細な調査を行うこととした。

第3～6トレンチはT-2路線の西側、6403番地1、6045番地1・3の北側農道内で、既設管による攪乱幅が広く、遺構・遺物が僅かであったため状況を確認するにとどめた。

第7トレンチは6406番地1の北側農道内で、1/3～1/2程度を攪乱されていたが遺物を多く認めたため、トレンチを32mに延ばして詳細な調査を行った。しかし耕地区画整理事業時と思われる攪乱が広範囲に及んでおり、十分に遺構の輪郭を捉えられず、土坑やピットを10数基検出したにとどまる。中期後葉の遺物が主に出土した。このトレンチで用いた北方向は、真北から1°13′48″西へ振れていて、測量用「0」点の国土座



第2図 調査トレンチ位置図

標値は、 $X = 21087.833$ 、 $Y = -55286.734$ である。

第11トレンチは5741番地1から5738番地1の北側農道内で、1/3～1/2程度を攪乱されていたが遺構・遺物が多く見られたため、100m程に延ばして詳細な調査を行った。竪穴式住居址1基のほか土坑・ピットを多数検出しており、中期後葉でも古い時期の遺物が主に出土した。このトレンチで用いた北方向は、真北から $1^{\circ} 17' 18''$ 西へ振れていて、測量用「0」点の国土座標値は、 $X = 21089.051$ 、 $Y = -55232.746$ である。

第12～15トレンチはT-2路線の東側、5737番地1から5732番地1までの北側農道内で、既設管による攪乱幅が広く遺構・遺物が少ないため、トレンチを延長せず状況を確認するにとどめた。第12トレンチは、攪乱幅は1/3程であるが、遺構が僅か見られるのみ。第13・14トレンチは、攪乱幅が2/3程度あり遺構は見られず遺物が僅か出土した。第15トレンチは攪乱幅がほぼ全幅に及ぶ。

#### ④ 第8～10トレンチ

T-3路線のうち南北方向に配水管が埋設される区間で、6407番地1の圃場内東端の道路脇に該当する。既設管や深耕作による攪乱が一部に見られたものの、遺構が密集していたため、幅80cmにて詳細な調査を行った。なお農作業用進入路と構築物を避けたため、1本ではなく3本のトレンチに分割された。第8トレンチは40m程とそれ程長くないトレンチであったが、竪穴式住居址が5基検出され遺物も多出した。特にSB-19からはほぼ完形の有孔鏝付土器が出土しており注目に値する。第9トレンチは15m弱、第10トレンチは25m弱のトレンチで、土坑が密集していた。いずれのトレンチも中期後葉の遺物が主に出土している。

第8～10トレンチで用いた北方向は、真北から $1^{\circ} 28' 30''$ 西へ振れている。測量用のグリッドは各トレンチ通しで付けており、「0」点の国土座標値は、 $X = 21091.848$ 、 $Y = -55241.821$ である。

#### ⑤ 第16・17トレンチ

T幹-1路線の末端、波田町との境界に隣接した6415番地の圃場内、西端の道路脇に該当する。幅2.1m、長さ10mのトレンチを30m間隔で2本設けたが、深さ30～40cmで地山のローム層面に達し、遺構・遺物が一切発見されなかったため、状況を確認したにとどめた。

#### ⑥ 第18・19トレンチ

T幹-2路線の北側、6403番地1の圃場内西端の道路脇で、下原遺跡と三夜塚遺跡の間に存在する旧河道の凹地に入る。若干遺物が出土したが遺構はなく、砂礫層が見えたため、第18トレンチは8m、第19トレンチは10mのトレンチを掘削するにとどめた。

#### ⑦ 第20トレンチ

T-1-1路線のうち東西方向に配水管が埋設される区間で、6424番地1、6423番地1の北側農道内に該当する。トレンチの中央付近に20m程度、黒褐色土が広がる範囲があり、重機による表土除去の段階で少量ながら縄文時代後期の遺物が出土したため、既設管の攪乱が1/2～1/3程度及んでいたが、その前後区間を75mに延長（幅80cm）して詳細な調査を行った。結局この黒色土は自然地形の落ち込みによるもので、全体で土坑とピットが10数基検出されたのみとなった。このトレンチで用いた北方向は、真北から $0^{\circ} 21' 58''$ 西へ振れていて、測量用「0」点の国土座標値は、 $X = 21089.309$ 、 $Y = -55455.915$ である。

#### ⑧ 第21・22トレンチ

T-1-1路線のうち南北方向に配水管が埋設される区間で、6381番地1の圃場内南東端の道路脇に該当する。

第21トレンチ（長さ10m）と第22トレンチ（長さ5m）の2本を掘削した。若干の土器片が出土したが、既設管による攪乱幅がそのまま新設配水管の掘削幅に該当するため、それ以上の調査は行わなかった。

#### ⑨ 第23トレンチ

T-1-2路線の北端、6381番地2の圃場内東端の道路脇。既設管等の攪乱がなく、縄文後期の土器が多く見られたため、35m強のトレンチ（幅80cm）を設定した。45cm程度の深さで地山ローム層土に達するが、半分程が耕地区画整理事業時の盛土層で、旧耕作土直下にローム層がくる状況であり、かなりの削平が及んでいるのか、遺物が多出した割に遺構として捉えられなかった。このトレンチで用いた北方向は、真北から10°16′39″西へ振れていて、測量用「0」点の国土座標値は、 $X=21078.670$ 、 $Y=-55539.392$ である。

#### ⑩ 第24トレンチ

T-1-2路線が第23トレンチの南端から東へ曲がった箇所、6423番地1南端圃場内の道路脇。遺構・遺物が見られたため30m延長のトレンチ（幅80cm）を設定した。竪穴式住居址1基、土坑やピット10数基の他、粘土採掘穴らしき不整形な遺構を2基検出した。このトレンチの北方向は、真北から5°43′19″西へ振れていて、測量用「0」点の国土座標値は、 $X=21011.277$ 、 $Y=-55503.375$ である。

#### ⑪ 第25トレンチ

T-1-2路線が第24トレンチの東端から南へ曲がった箇所、6423番地1南西端圃場内の道路脇に該当する。この場所は下原遺跡と三夜塚遺跡の間に存在する旧河道の凹地に入る。旧河道の堆積を調べたく15m程のトレンチ（幅80cm）を設定したものの、掘り出した河道内の砂礫を圃場内へ置く訳にいかず途中で断念した。このトレンチで用いた北方向は、真北から5°55′25″西へ振れていて、測量用「0」点の国土座標値は、 $X=21011.277$ 、 $Y=-55503.375$ である。

### (2) 三夜塚遺跡第4次調査

#### ① 第1～5トレンチ

T幹-2路線とT-4路線と2本の配水管が平行して埋設される区間で、6402番地1から6395番地1の南側農道内が該当する。30m間隔で長さ10mのトレンチを設定して既設管掘削による攪乱状況を確認したところ、この農道内には少なくとも2本以上の既設管があったため、トレンチは延長しなかった。

第1トレンチでは住居址の様な黒褐色土の広がりがあり、縄文前期末の土器片が見られたため、確認のため遺構掘削及び遺構図作成を行った。結局黒褐色土は用水路が埋まったものであり、土器片は流れ込んだものと判明した。第2・3・5トレンチでは僅かな遺構と遺物が見られた。第4トレンチも攪乱がひどかったが、土坑が密に存在したため遺構の掘削をし、主に中期後葉の土器片を認めた。第1・4トレンチで用いた北方向は、真北から1°29′51″西へ振れている。測量用「0」点の国土座標値は、第1トレンチが $X=20892.269$ 、 $Y=-55436.182$ 、第4トレンチが $X=20895.432$ 、 $Y=-55315.223$ である。

#### ② 第6～10トレンチ

T-4路線の東半、5962番地1から5943番地1の北側農道内に該当する。その全区間に既設管が埋設されていたが、蛇行していたため、新設配水管の掘削幅との重なりが少ない範囲かつ遺構・遺物が見られる範囲を詳細に調査した。第6・7・9・10トレンチは重なり度合いが多く、遺構・遺物も疎であったため、各10m

のトレンチを30m間隔で掘削し状況を確認したにとどまる。第8トレンチ（幅80cm）の約80m区間は、重なり度合いが少なく遺構が見られたため詳細な調査を実施した。中期後葉の竪穴式住居址1基や、土坑・ピット10数基を検出した。このトレンチで用いた北方向は、真北から $1^{\circ} 31' 18''$ 西へ振れ、測量用「0」点の国土座標値は、 $X = 20900.176$ 、 $Y = -55135.286$ である。

### ③ 第11～13トレンチ

T幹-2路線の上流側、南北方向に配水管が延びる箇所では三夜塚遺跡内、6403番地1の南側から6402番地1の西端圃場内に該当する。第11トレンチは、下原遺跡と三夜塚遺跡の間に存在する旧河道の凹地に入り、40cm程の耕作土下は砂礫層で、以下170cmまで同様の状況を確認したにとどまる。第12トレンチは、40cm程の耕作土下で地山ローム層土を見たが、遺構を確認できなかったためトレンチの延長はしなかった。第13トレンチでは、土坑が疎らながら検出され前期末の土器が出土したため、トレンチを延長して詳細な調査を行った。このトレンチで用いた北方向は、真北から $1^{\circ} 12' 41''$ 西へ振れ、測量用「0」点の国土座標値は、 $X = 20911.240$ 、 $Y = -55437.552$ である。

### ④ 第14～17トレンチ

T幹-2路線の下流側、南北方向に配水管が延びる箇所では、5962番地1、5983番地1西端の圃場内道路脇に該当する。第14～16トレンチは、遺構・遺物がほとんど見られないため、長さ10m程のトレンチを3本設け状況を確認したにとどまる。第17トレンチは、GLマイナス80cm程にてローム層土に達し、疎らながら土坑やピットらしき黒色土の範囲が認められたため、50m延長のトレンチ（幅2m弱）を設定して詳細な調査を実施した。ただしいずれも掘り方が浅い上、遺物の出土も少なかった。このトレンチで用いた北方向は、真北から $1^{\circ} 17' 38''$ 西へ振れ、測量用「0」点の国土座標値は、 $X = 20739.333$ 、 $Y = -55226.676$ である。

### ⑤ 第18～20トレンチ

T幹-3路線の上流側、5984番地1の圃場内西端の道路脇に該当し、三夜塚遺跡の南端となる。遺物は皆無であったが、第18トレンチでピットらしき箇所を認めたため、念のためこの掘削だけ行った。しかしながら、いずれも掘り方の浅いものであったのでトレンチの延長はせず、各10mにとどめた。第18トレンチで用いた北方向は、真北から $5^{\circ} 59' 18''$ 西へ振れ、測量用「0」点の国土座標値は、 $X = 20706.341$ 、 $Y = -55225.931$ である。

### ⑥ 第21トレンチ

T-1-2路線の中央、6427番地の北から東の境界部分に位置する。遺構・遺物が多く見られた上、既設管の埋設もなかったため、95m延長のトレンチ（幅80cm）を設け詳細な調査を行った。北側では中期後葉の竪穴式住居址や土坑を検出したが、南側で12m弱にも及ぶ前期末の大型竪穴式住居址を1基検出している。このトレンチはクランク状となったゆえ、曲がり毎に別の測量用「0」点を設定しており、北端部分はN0、N1…と頭にNを冠し、南側はS0、S1…と頭にSを冠し、この2つをつなぐ区間はEW0、EW1…と頭にEWを冠し分けている。Nと冠した区間の北方向は、真北から $3^{\circ} 4' 14''$ 西へ振れ、測量用「0」点の国土座標値は、 $X = 20966.977$ 、 $Y = -55504.169$ 、EWと冠した区間の北方向は、真北から $20^{\circ} 23' 32''$ 東へ振れ、測量用「0」点の国土座標値は、 $X = 20967.332$ 、 $Y = -55505.124$ 、Sと冠した区間の北方向は、真北から $1^{\circ} 38' 14''$ 西へ振れ、測量用「0」点の国土座標値は、 $X = 20884.044$ 、 $Y = -55496.252$ である。



## IV 検出遺構

### 1 竪穴式住居址

#### (1) 下原遺跡第1次調査

第2トレンチで14基、第8トレンチで6基、第11トレンチで1基、第24トレンチで1基の合計22基を検出した。2基が縄文時代中期中葉、2基が不明である以外は中期後葉の帰属時期を与えたが、いずれも竪穴式住居址の一部を調査できたのみであり、時期の確定根拠に乏しいものもある。また攪乱によって削平されている等、プランを十分に把握できなかったものの、同一時期の土器がまとまって出土したり、柱穴の様なピットが存在したり、一部に硬化範囲が認められたりと、竪穴式住居址が存在していたと推測される箇所も数箇所あった。中期後葉Ⅰ期の土器が出土した第11トレンチ3～8グリッドの土坑・ピットがまとまって検出された範囲、後期堀之内式の土器が出土した第23トレンチ4～9グリッドの土坑・ピットがまとまって検出された範囲の2箇所については、その可能性が高いと思われるので記しておく。

#### ① SB-01 (第8図)

第2トレンチの東端、206～210グリッドにかけて検出され、東端をSK-048に、中央部をSK-005に切られる。検出できたのは3.6m延長で、壁は緩やかな傾斜をもって床面に達す。検出面からは西側で25cm、東側で10cmの高さを測り、断面の観察で遺構検出面上位の黒褐色土中から遺構が掘り込まれているのを確認した。床面は掘り込んだローム層をそのままとしており、貼床は認められないがいくぶん硬化している。床面でピットを4基検出したが、いずれも10～20cmと浅く支柱穴とは考えられない。覆土中からは50点程の土器片が出土したが、いずれも小片であるうえ時期が混在している。帰属時期の決定は難しいが、出土した土器片は中期後葉Ⅰ～Ⅲ期が主であること、この住居址を切るSK-005から中期後葉Ⅳ期の遺物が出土していることから考えて、中期後葉とは言えると思われる。また覆土中から、黒曜石剥片や砂岩片が数点、約6kgの半分程度に割れた花崗岩の大礫が出土した。なお地山ローム層の直上にある黒褐色土層は、遺構検出が難しいため遺物包含層として遺物を回収したが、この住居址の覆土分も含まれるところである。土器片や黒曜石剥片、チャート剥片、チャート原石、砂岩片等が多く出土している。

#### ② SB-02 (第8図)

第2トレンチの東端、195～200グリッドにかけて検出され、東側をSK-012に、中央部をSK-015に切られる。貼床は認められなかったが中央付近の床面は硬化しており、ピットを5基検出した。P4・5は深さ10cm強しかないが、P1～3は50～60cmの深さがあり、上屋構造を支える柱穴に相応しい。また西側の壁際で周溝を確認した。遺構検出時に1つの遺構としたため、3つの遺構を同時に掘り下げてしまい、出土遺物を遺構毎に回収することができていない。遺物包含層として1m毎に回収した地山ローム層の直上にある黒褐色土層中の土器傾向などを考慮すると、限りなくこじつけに近いのであるが、中期後葉Ⅰ期の帰属時期を考えることができる。

#### ③ SB-03 (第7図)

第2トレンチの東側、185～191グリッドにかけて存在し、SB-10、SK-016・035、SP-031に切られる。検

出できたのは5.3m延長で、壁は幾分急角度で掘り込まれ、検出面からは西側・東側とも30cm程の高さを測る。床面はほぼ水平に掘り込まれ、比較的堅緻である。床面でピットを7基確認しており、壁に近いP1とP3が60cm程、P7が45cm程と深く、それ以外は10～20cmと浅い。覆土として取り上げた遺物は、図化した土器（第26図7～11）、石匙（第37図26）のほか、土器片約100点、黒曜石やチャートの剥片数点、チャートの原石3点、砂岩の小片約15点、安山岩小片4点等があり、またP2から花崗岩の磨石1点（表No.202）が出土した。なお切り合う遺構を区別できずに覆土を掘り下げたため、混在は確実である。この住居址の帰属時期は、ほぼ床面に接して出土した土器（第26図9）やその周囲から出土した土器（第26図8等）から判断して、中期後葉I期としておきたい。

#### ④ SB-04（第7図）

第2トレンチの東側、179～183グリッドにかけて長さ4.5m分検出され、西側でSK-039を切る。壁は緩やかな傾斜をもって床面に達し、検出面から西側で20cm弱、東側で10cm強の高さを測る。床面に貼床や明瞭な硬化範囲は認められず、壁際は幾分高いものの、中央部はほぼ水平に掘り込まれていた。小型なP2・P3、大型なP1・P4のピットを床面に於て検出しており、深さはP1が25cm、P2が5cm、P3が24cm、P4が20cmを測る。P1・P4は柱穴としては平面規模が大きいわりに深さがなく、P2・P3は主柱穴としては貧弱に見える。西側の壁際に周溝が確認された。覆土中からは土器片約70点（図化土器第27図18・19）、石鏃1点（第36図1）、黒曜石剥片7点、2kgを越える大きな砂岩礫2点、砂岩片が小型のものまで含めて20数点、4kgを測る花崗岩の割れた礫が1点、大きな安山岩片（665g）1点などが出土している。覆土中出土の土器は中期後葉I期のものが多い。

#### ⑤ SB-05（第7図）

第2トレンチの東側、171～176グリッドにかけて存在し、西端をSK-017に切られる。東端は配水管により攪乱されていて壁を確認できなかった。床面は掘り込んだローム層をそのまま床面としており、ほぼ水平で貼床や硬化した範囲は認められない。炉の半分程度を検出でき、径85cm、深さ20cmを測る。炉底は顕著に被熱赤色化しており、炉縁石は元位置を留めず炉の中へ無造作に抜き捨てられた様相で、石を抜き取った窪みも確認できた。ピットは7基検出され、P1・P4・P5・P7が10cm前後、P3が23cm、P2・P6が35cm程度の深さを測る。ただし住居址の周囲は遺構が密集しているので、この住居址の帰属時期より古い時期の土器小片が出土したP4などは住居址に伴わない可能性が高い。覆土中から出土した土器片は小片ばかり70点程だったが、石器は多く見られ、石鏃3点（第36図2～4）、小型刃器3点（第37図28・29、表No.69）、打製石斧1点（第39図57）、磨製石斧1点（第39図68）、磨石類6点（第40図76・77等）、二次加工有剥片3点（第38図46等）等があり、黒曜石石核1点（表No.431）や黒曜石剥片15点も出土している。他に砂岩礫や砂岩片、また炉址内へ捨てられた石には10kgを超える大きなものも含む花崗岩や砂岩、安山岩片も見られた。覆土中から出土した土器は小片が多く時期幅も広いが、抜き取られた炉縁石と重なる様に出土した第31図54等から、中期後葉IV期には廃棄されたと考えられる。

#### ⑥ SB-06（第6図）

第2トレンチの東側、166～169グリッドにかけて3.4m延長検出され、西端をSP-035に切られる。壁はやや急傾斜に掘り込まれ、西側壁際に周溝を確認した。床は掘り込んだローム層そのまま、中央が10cm弱程度窪み、壁際を除いて土間状に踏みしめられた硬化範囲を認めた。床面に於てピット7基を検出し、P3・P4・P7は深さ10cm未満、P5は11cm、P6は15cmと浅いもの、P1とP2は30cm前後の比較的深いものであった。

覆土からは土器片約20点（第26図2・3等）、黒曜石剥片16点、砂岩礫2点が出土しただけで少ない。土器は中期中葉藤内式のもので、概ねこの期の帰属時期を考えられる。

⑦ SB-07（第6図）

第2トレンチの中央部付近、151～155グリッドにて長さ4m分検出された。SP-039・040との切り合い関係は十分に確かめることができず、また内ピットと遺構番号を付けてしまったP4・P5も確認が不十分で、位置関係及び出土遺物から、別の遺構番号を付すべきであった。壁は緩やかに掘り込まれており、西側のみ壁からやや離れた位置に周溝を確認した。検出した範囲が住居址の縁辺部ということもあってか、床に硬化面等は認められない。P1・P2が40cm程、P3が10cmの深さを測るが、P2は平面規模が大きく住居内土坑の様相を呈す。覆土から出土の遺物は多く、土器片約150点、石鏃3点（第36図5～7）、小型刃器2点（第37図31・32）、磨石類5点（第40図78～81等）、打製石斧1点（第38図52）等が出土している。この他に割れてしまった砂岩片大小約40点をはじめ、花崗岩片、拳大から10kg超の砂岩礫等、石も多く出土している。覆土中出土の土器（第29図37～41等）は中期後葉Ⅲ～Ⅳ期の時期が多く、中期後葉Ⅲ期でも新しい時期に廃棄されたと考えられる。

⑧ SB-08（第5図）

第2トレンチの中央部付近、141～146グリッドにかけて4.3m延長検出され、東側でSB-14を切る。壁は緩やかに掘り込まれ、西側で30cm、東側で25cmを測り、壁からやや離れた箇所でも周溝を確認した。ローム層を平滑に掘り込み床面としており、土間状の硬化範囲は見られないが全体的に堅く締まっていた。ピットは2基あり、P1が15cm、P2が25cmの深さを有す。調査区域外へと及び全体を掘れていないが、径1.5m弱、深さ25cm以上の大きな掘り込みが中央よりやや東に寄った位置にあり、幾分赤化した範囲が認められたので、炉縁石の様な石はなかったが炉址と判断した。覆土からは土器片500点弱をはじめとして大量の遺物が出土した。石錐1点（第36図20）、小型刃器3点（第37図33～35）、磨石類3点（第40図82・83等）、二次加工有剥片3点（表No.374～376）等の定型的石器、大小の砂岩片約70点、卓球玉程度から2kgを超えるものまで大小の砂岩礫約15点、安山岩の角礫（1845g）、チャート原石（874g）、花崗岩片、粘板岩片等々多くの石がある。覆土出土の土器は、中期後葉Ⅳ期（第30図46～52等）が多い。

⑨ SB-09（第5図）

第2トレンチの中央部付近、135～138グリッドにかけて4m程の長さが検出された。SK-001に中央を切られている。壁は垂直に近く急傾斜で掘り込まれており、西側の壁際に周溝が巡る。床面直上に炭化材や焼土が顕著に堆積しており、焼失家屋の様相を呈す。床面は土間状のバリバリとした堅く締まったもので、焼失の影響による赤く焼けた範囲がほぼ全面に広がる。この床面に接して、また一部は自重により床へめり込む状況で、安山岩や花崗岩、砂岩の大石が出土した。東側にある2つの安山岩（44.4kg、25.3kg）は丸石と呼べるもので、うち小さい方の表面には蜂巣石の様な小さな凹みが見られる。丸石の西にある安山岩（10.4kg）や壁にめり込んでいる花崗岩（7.1kg）は遺物石の様な扁平なものである。砂岩の大石は焼失による被熱でヒビが入り取り上げ時に粉々に割れてしまったが、5.6～11.5kgの重さを測る。砂岩は大石は柱穴の周囲に置かれた様な感じがし、安山岩の3つは東西方向に並ぶ。非常に興味深いもので、全域を調査できなかったのが残念である。ピットは2基検出され、いずれも約50cmの深さを持つ主柱穴に相応しい規模と思われる。この大石の他に遺物は少なく、覆土中から土器片約50点、磨石類3点（第40図84・85等）、黒曜石石核1点（第38図49）等が出土したのみである。床面出土の土器片は僅少で、覆土出土の土器片（第28図23～25等）

は中期後葉Ⅲ期が多い。

⑩ SB-10 (第7図)

第2トレンチの東側、188～191グリッドにかけて存在し、住居址北端の一部を確認したにすぎない。SB-03を切っているが、SB-03としっかり重なっており、遺構検出当初はその存在に気付かず、SB-03を床面まで掘り下げて初めてその存在に気付いた。床面はSB-03床面より約20cm深く、遺構面からの深さは35cm程度で、壁際に周溝が巡る。床面は堅く締まっており、深さ50cm程のピットを1基だけ確認した。覆土からは中期後葉Ⅲ期を主とした土器片約40点(第30図44・45等)、磨製石斧の破片1点(表No.165)、二次加工有剥片1点(表No.377)、砂岩片約15点、黒曜石剥片4点等が出土した。

⑪ SB-11・12・13 (第6図)

第2トレンチの東側、160～163グリッドにかけて他の遺構も複雑に切り合って存在しており、掘り下げていくことでようやくプランを把握できたものである。別々に書くより3つまとめて書いた方が分かりやすいので、一括して記述する。SB-13がSB-11・12を切り、SB-12がSB-11を切る。SB-13は長さ3m分を、SB-11・12はその北端の一部を検出したもので、覆土の上部には攪乱が多数及びSP-052・053が重なる。切り合い関係が良く分からなかったためSP-054～057としたピットは、SB-13に伴うものが含まれる可能性がある。SB-11・12の床面はやや硬化しているが、SB-13は軟弱である。出土遺物を住居址毎確実に分けていないため混在しており、また小片30点程と少ないため、帰属時期は出土遺物の傾向から判断したものであるが、SB-11が中期中葉井戸尻式、SB-12が中期後葉の古い時期、SB-13が中期後葉の新しい時期としておきたい。

⑫ SB-14 (第5図)

第2トレンチの中央部付近、145～147グリッドにかけて存在し、西側はSB-08に大きく切られ、東側は攪乱に切られている。よって壁は一切確認できていないものの、床面がしっかりと硬化していたため住居址と判断した。SB-08の東側からSB-14の壁を削ってしまったであろう攪乱までの間で床面検出したピットを、この住居址に伴うピットと捉えた。しかしSB-08炉に切られているSP-047は、位置関係及びSB-14覆土中出土土器と時期が重なる中期後葉Ⅲ期の土器小片が出土したことから、SB-14に伴うピットとも考えられる。P1が18cm、P2が28cm、P3が11cm、P4が18cm、SP-047は22cmの深さを測る。出土遺物は多く、中期後葉Ⅲ期でも新しい時期を主とした土器片400点位(第28図28～31、第29図32～34等)、石鏃3点(第36図8～10)、磨石類7点(第41図87・88等)等の定型的石器、二次加工有剥片3点と微細剥離有剥片4点を含む合計62点の黒曜石剥片類(0.05g～7.8g)、大小約120点の砂岩片(1.0～2.010g)と砂岩円礫12点(53.3～287g)の他、各種石材の破片が少数見られた。

⑬ SB-15 (第13図)

第11トレンチの西側、23～27グリッドにかけて4.8m延長検出され、西側でSK-073に切られる。このトレンチには既設管による攪乱が存在しており、この場所では北側半分にまで及び、調査できた幅は約40cmしかない。壁は比較的ゆるやかに掘り込まれ、遺構検出面から西側で15cm、東側で12cmを測るが、断面の観察で遺構検出面上位の黒褐色土中から遺構が掘り込まれているのを確認しており、覆土上部の遺物は遺物包含層として回収したことになる。床面はローム層を掘り込みそのまま床面としているが、壁際を除く中央部には硬化した範囲を認めることができる。また壁際が高く中央が低い形状で幾分弧状となり、西側のみ壁からやや離れた所で周溝を確認した。ピットは2基検出され、P1が79cmと深く、P2からは残存度の良い深鉢(第

27図17)が出土している。覆土取り上げ遺物は、土器片約40点、砂岩片10点(13.5~240g)、チャート原石1点(133.4g)等がある。P2出土の土器から、中期後葉I期の帰属時期を与えておきたい。

⑭ SB-16 (第11図)

第8トレンチの北側、28~31トレンチにかけて検出されたが攪乱されている範囲が広く、一部を調査できずにすぎない。壁は南側のみが残存していて23cmを測り、壁際に周溝がある。床面は土間状にバリバリと堅く締まっており、小型のピットを3基検出(深さ P1:6cm、P2:18cm、P3:18cm)した。また運良く埋甕が見つかり、完形の深鉢(第30図42)が正位に埋められているのを確認した。覆土からは60点程の土器片、小型刃器1点(第37図36)、磨石類3点(第41図90・91等)、砂岩片11点(3.3~272g)、砂岩礫3点(108.1~326g)等が出土している。埋甕の時期から、帰属時期は中期後葉III期としておく。

⑮ SB-17・20・21 (第10図)

第8トレンチの中央部、17~23グリッドにかけて存在する。この南側に重なるSX-002も含め8m延長に渡って黒褐色土が続いていたため、いくつかの遺構が重なっているものとみて遺構検出したが、平面的には遺構ラインが判明せず、断面を見てようやく分けることができたものである。SB-17がSB-20・21を切り、SB-20がSX-002を切り、SB-20とSB-21の前後関係は断面からも出土遺物からも分からない。SB-17は北側で遺構検出面から40cmの壁高を測り、南側は平面的に捉えられなかったが、断面で45cm程を測る。床面に貼床や顕著な硬化面は認められなかったが、中央部は幾分締まっている感じがした。ピットを3基検出し、P1・P2が共に深さ55cmと支柱穴に相応しく、P3は13cmと浅い。覆土からは、中期後葉III期を主とした土器片約250点(第29図35等)をはじめ、石鏃1点(第36図11)、石錐1点(第36図21)、小型刃器2点(第37図37等)、打製石斧2点(第39図55・56)、磨製石斧1点(第39図69)、磨石類7点(第41図92~96等)等の定型的石器、黒曜石剥片26点(0.1~13.1g)、チャート剥片7点(1.5~19.5g)、大小の砂岩片約80点(2.3~442g)、砂岩礫約20点、花崗岩片や安山岩片など各種石材の破片が出土している。

SB-17の床面まで掘り下げ床面遺構を検出していたところ、その南側の調査区東壁際に黒色土の広がりを認めた。これを掘り下げると壁際に周溝が認められたため、SB-17に切られる住居址の端に該当することが分かり、SB-21とした。ピットは2基検出でき、P1が深さ40cm、P2が35cmであった。覆土が僅かしか残っておらず、遺物も中期後葉II~III期の土器細片が5点出土しただけなので、帰属時期の判断は難しい。SB-20は床面に硬化範囲もなくピットも検出されなかった。覆土中からは中期後葉III期を主とした土器片が約40点、砂岩片が3点、黒曜石剥片が1点出土した。

⑯ SB-18 (第10図)

第8トレンチの南側、11~15グリッドにかけて3.9m延長検出された。壁は南側で13cm、北側で19cmを測り、傾斜を持って掘り込まれ床面に達す。床面に貼床や硬化範囲は認められず軟弱で、ピットを7基検出した。深さはP1が51cm、P2~4が20cm前後、P5が13cm、P6が25cm、P7が32cmであった。覆土からは土器小片約50点、石鏃1点(第36図12)、砂岩片10点、チャート剥片1点等が出土している。土器は中期後葉III期のものが多いが、いずれも小片であり帰属時期を明確にするものではない。

⑰ SB-19 (第11図)

第8トレンチの北側、24~27グリッドにかけて検出され、住居址の西端を3m程検出した。壁は比較的急傾斜に掘り込まれ、壁際に周溝が巡る。床面直上には炭化材や焼土が多く堆積しており、焼失家屋の様相を

呈す。床面は土間状のバリバリとした堅く締まったもので、焼失の影響による赤く焼けた範囲がほぼ全面に広がる。この床面に接し壁際に置かれた状態で有孔罫付土器（第28図20）が出土した。土圧等の影響か潰れて出土し、また焼失時の被熱により脆弱になっており、取り上げ時に粉々になってしまった破片もある。またこの有孔罫付土器の隣からは、釣手土器（第28図22）の大きめな破片も出土しており、2つの土器が並置されていた可能性がある。第28図21も近接した箇所から出土した。覆土中からは土器片約25点、砂岩片8点（2.9～155.7g）、二次加工有剥片1点（表No.385）、黒曜石とチャートの剥片各1点等、少量出土したのみである。有孔罫付土器やその周囲から出土した土器の時期から判断して、中期後葉Ⅱ期には廃棄された住居址と考えられる。

#### ⑩ SB-22（第17図）

第24トレンチの中央部、18～21グリッドにかけて検出され、南側でSP-160を切る。住居址の南端を僅か検出したにすぎない。東側は2段に掘り込まれており、土壇状のテラスとなった範囲が見られる。検出した範囲では、床面に硬化した範囲は認められない。ピットは全掘できていないが3基検出され、P1が深さ30cm、P2が深さ35cmと比較的深く、P3は底まで掘れていない。住居址南東端から石皿（第44図137）と磨石（第41図97）が接して出土したが、床から浮いており住居に置かれていたものではない。この他の出土遺物は土器小片2点、砂岩片1点、黒曜石剥片2点だけであり、帰属時期を明確にするものではない。土器片の1点は前期末、もう1点は中期後葉Ⅲ～Ⅳ期である。

#### (2) 三夜塚遺跡第4次調査

今回調査した三夜塚遺跡該当地は、縄文中期の土器や石器を数多く表面採集できる範囲からははずれた縁辺部であり、遺構・遺物とも下原遺跡内調査範囲より少ない。堅穴式住居址は第8トレンチから1基、第21トレンチから2基が見つかった。

##### ① SB-21（第20図）

第8トレンチの東端、61～67グリッドにかけて6.4m延長検出された。住居址の南側1/3程を既設管による攪乱で切られる。壁は急傾斜で掘り込まれ、壁際に周溝が巡る。床面に貼床や顕著な硬化面は認められなかったが、全体的に硬く締まっている状況であった。ほぼ中央から径1.6mもの大きな炉址が検出され、炉縁石はなかったが炉底から炉壁が赤く焼けていた。ピットは東側周溝脇で1基検出され、深さ55cm程を測る。覆土からは、土器片約150点、石鏃1点（第45図138）、打製石斧1点（第45図148）、磨石類4点（第46図156～158）、砂岩片12点（22.1～820g）、砂岩礫12点（60.6～1213g）等が出土している。炉址の窪み周囲から出土した土器（第34図102等）は中期後葉Ⅲ期が多いが、炉が埋没していく過程で入ったものであり、住居址の廃棄時期を示すものではない。

##### ② SB-22（第23図）

第21トレンチの南側、S15～S26グリッドにかけて11.7m延長もの長さを検出した大型住居址である。検出当初は幾つかの住居址が重なっているのではないかと思ひ、平面的にも断面的にも切り合いがないか慎重に確認し掘り下げ、1つの住居址と確認したものである。壁は北側で50cm、南側で55cmを測り、床面は中央部が低く壁際が高い弧状を呈する。北側の壁際を除いて床面は硬化しており、炉址の北側一部は土間状に硬化していた。ほぼ中央部で、地床炉と思われる数cmの窪みを有し底が赤化している箇所を認めた。ピットは11基検出され、P9・P10（5cm程）、P12（15cm）、P11（20cm）を除くと深い。P1・P2が43cm、P3が83cm、

P4が94cm、P5～P7が55cm前後、P8が36cmで、大型住居の上屋構造を支えるのに相応しいと思われる。覆土中からは多くの遺物が出土しており、土器小片約800点、石鏃1点（第45図139）、小型刃器2点（第45図142・143）、打製石斧3点（第45図149・150等）、磨石類22点（第46図159～第47図171等）、砥石1点（第46図154）、黒曜石二次加工有剥片4点（表No.93～96）、黒曜石微細剥離有剥片6点（表No.102～107）、黒曜石石核2点（表No.119・120）、黒曜石剥片128点（0.05～10.6g）、チャート剥片1点（11.7g）、砂岩片90点（2.6～490g）、砂岩礫30点（35.1～3029g）、粘板岩片12点（3.1～69.9g）等がある。覆土出土の土器（第33図86～99）は前期末から中期初頭まで見られるが、P3出土の胴部以下残存の深鉢（第33図85）から、前期末の帰属時期を与えておきたい。

### ③ SB-23（第24図）

第21トレンチの中央部、S50～S55グリッドにかけて5m延長検出された。北側で14cm、南側で20cmの壁高を測り、ローム層を掘り込んでそのまま床面としておりその中央は硬化している。ピットは6基検出され、P2・P4～P6は深さ10cm前後、P1・P3は50cm程を測る。覆土からは土器小片14点、砂岩片1点（62.7g）、砂岩礫1点（363g）、黒曜石剥片1点（5.6g）が出土したのみである。土器片は細かいものばかりで時期の判明するものは少ないが、中期後葉のものが見られる。

## 2 土坑・ピット

土坑は下原遺跡で123基、三夜塚遺跡で37基検出された。遺構検出段階で径が大きいものを土坑とし、小さいものをピットとしているため、その遺構の機能や性格は様々なものが含まれていると思われる。土坑について個別に記述することは紙数の関係上難しいので、規模・形状・出土遺物等のデータは一覧表（下原遺跡：第1表、三夜塚遺跡：第2表）に掲載することにし、平面図はすべてを掲示（断面図は先述のとおり作成していないものが多い）した。一覧表作成に際しては出土遺物の検討から帰属時期を明らかにするところだが、土坑から出土する土器は少なく、また小片である場合が多いので、時期を明確に限定できるものは多くない。よって出土遺物を詳細に記述し、後刻の検証に資する様つとめた。形状の分類は一定の基準（第1表凡例参照。25項）を設定し行ったが、狭い幅の調査で土坑全体を掘ることができたものは少ないため、曖昧なものが多いと思われる。

ピットは下原遺跡で160基、三夜塚遺跡で83基検出された。こちらも各々記述することは紙数の関係上困難であるため、深さや出土遺物等について一覧表（第3表）に記した。

## 3 その他

下原遺跡第24トレンチ、三夜塚遺跡第1・21トレンチで検出されたSD-01は、発掘調査時から陶磁器等の出土があったことから、近世以降の用水路と判断した。また後日行った別地点の発掘調査で、この溝の続きを長く検出する機会があり、地元農家の方から明治期に引水計画がなされ部分的に工事がされたものの、通水には至らなかった用水路だのご教授頂き、図面等との照合により合致するものと判明した。下原遺跡第24トレンチは、下原遺跡と三夜塚遺跡の間に存在する旧流路の左岸に該当し、地山にローム質の粘土が見られる範囲があったが、掘り方が不整形なSX-003等は、粘土採掘坑の可能性が考えられる。

第1表 下原遺跡土坑一覽表

遺構 No	トレンチ No	所在 グリッド	規模 (cm)			形状		切り合い関係 (>切られる、<切る、≒不明)	出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面			
SK-001	2	136	76	-	5	-	A	<SB-09	深鉢1点 (後期堀之内式、図No67)、土器片10点余 (中期後葉・後期前葉)、花崗岩片1点 (109.5g)、粘板岩片1点 (35.5g)	
SK-002	2	223	-	62	43	IX	E	<SK-014		
SK-003	2	219	130	-	12	IX	A		土器片3点 (後期1、中期後葉1、不明1)、砂岩礫1点 (53.1g)	
SK-004	2	227	152	-	44	-	E		土器片7点 (中期中葉～後葉)、砂岩礫1点 (135.3g)、花崗岩礫1点 (21.4kg)、チャート原石6点 (182.8g、90.7g、158.9g、149.5g、31.6g) 等	
SK-005	2	208	-	42	106	X	Fp	<SB-01	土器片60点余 (中期後葉IVが主)、磨石類1点 (表No225)、砂岩片3点 (21.8g、12.1g、23.7g)、チャート原石1点 (32.2g)、チャート剥片2点 (7.2g、5.1g)、黒曜石剥片3点 (1.5g、1.0g、1.3g)	
SK-006	2	210	99	-	43	II	-		土器片3点 (時期判別困難)、砂岩片1点 (184.1g)	
SK-007	2	214	70	41	16	IX	F		土器片3点 (時期判別困難)	
SK-008	2	214	60	-	17	II	-			
SK-009	2	225	-	104	96	-	E	<SK-045	土器片1点 (時期判別困難)	
SK-010	2	194	65	60	8	IX	A			
SK-011	2	192	-	52	18	II	B			
SK-012	2	199	212	-	40	-	-	<SB-02・SK-044		
SK-013										
SK-014	2	223	-	-	12	-	A	>SK-002		
SK-015	2	197	113	-	58	X	Ep	<SB-02	台石 (表No352)	
SK-016	2	186	95	-	27	IX	D	<SB-03・SK-035・SP-031	土器片1点 (中期後葉II、図No26)、土器片2点 (時期判別困難)	
SK-017	2	171	55	-	25	-	-	<SB-05		
SK-018	2	170	-	64	14	-	-		土器片1点 (時期判別困難)、黒曜石剥片2点 (5.9g、1.9g)	
SK-019	2	165	81	45	26	VI	E			
SK-020	2	157	-	58	30	-	-	>SP-021、<SK-042	土器片3点 (時期判別困難)、砂岩片3点 (4.2g、25.3g、27.7g)	
SK-021	2	120	65	-	14	II	C			
SK-022	2	119	-	52	15	-	-	<SK-029		
SK-023	2	109	88	-	95	X	E	<SK-047		
SK-024	2	103	167	-	10	X	A		土器片2点 (中期後葉II～III)、砂岩片1点 (104.9g)	
SK-025	2	99	-	-	12	-	-		土器片1点 (時期判別困難)、砂岩礫1点 (42.4g) 等	
SK-026	2	91	67	-	17	II	E	<SP-064		
SK-027	2	83	-	75	24	-	E			
SK-028	2	60	-	57	13	I	-			
SK-029	2	119	-	74	17	-	-	>SK-022	大型刃器1点 (表No80)	
SK-030	2	76	-	66	10	X	A			
SK-031	2	33	-	56	15	-	E		土器片3点 (時期判別困難)	
SK-032	2	23	69	-	23	II	A	<SK-043		
SK-033	2	164	72	-	20	IX	C		土器片1点 (時期判別困難)、黒曜石剥片3点 (3.8g、1.5g、0.1g)	
SK-034										欠番
SK-035	2	186	73	-	27	IX	-	>SK-016、<SB-03	土器片3点 (時期判別困難)	
SK-036	2	7	-	84	9	-	-			
SK-037	2	114	121	-	12	-	A			
SK-038	2	147	-	62	28	-	-			
SK-039	2	178	-	76	9	-	-	>SB-04	土器片4点 (時期判別困難)	
SK-040	2	147	-	78	35	-	E		土器片1点 (中期後葉III、図No27)、土器片20点余 (中期後葉I・III)、砂岩片3点 (31.4g、40.9g等)	
SK-041	2	156	-	67	24	-	-	≒SK-042		
SK-042	2	156	-	-	37	-	E	≒SK-041、>SP-022		
SK-043	2	23	-	74	25	-	E	>SK-032	深鉢大片1点 (中期中葉藤内式、図No1)、砂岩礫1点 (1084g)	
SK-044	2	210	69	-	15	-	-	>SK-012	土器片1点 (時期判別困難)、打製石斧1点 (表No115)	
SK-045	2	225	112	-	76	-	B	>SK-009	土器片4点 (中期後葉)	
SK-046	2	38	-	51	22	-	-			
SK-047	2	109	-	101	18	-	E	>SK-023	土器片2点 (時期判別困難)	
SK-048	2	210	89	-	20	IX	A	>SB-01		
SK-049	11	7	53	46	7	I	C		深鉢1点 (中期後葉I、図No14・15)	



遺構 No.	トレンチ No.	所在 グリッド	規模 (cm)			形状		切り合い関係 (>切られる、<切る、≒不明)	出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面			
SK-050	11	79	151	-	62	-	D E	土器片70点余(後期初頭、図No63・64・73・74等)、小型刃器1点(表No69)、砂岩片3点(123.2g等)、砂岩礫7点(1682g、346g、231g等)、粘板岩片6点(230g、352g等)、安山岩片1点(23.6g)、黒曜石剥片2点(4.2g、2.3g)、チャート剥片1点(27.4g)		
SK-051	11	4	-	45	22	I	D	<SP-112・120	土器片10点(中期後葉I)、打製石斧1点(図No57)、砂岩片1点(58.1g)、粘板岩片1点(6.1g)	
SK-052	11	2	-	12	18	-	E		土器片10点(中期後葉I)、砂岩礫1点(2832g)、砂岩片1点(24.5g)	
SK-053	11	8	49	-	13	IX	Ap		砂岩礫1点(2253g)	
SK-054	11	42	-	85	7	II	A			
SK-055	11	51	135	-	14	II	A	<SK-106	土器片1点(時期判別困難)	
SK-056	11	38	129	-	36	-	E		土器片3点(時期判別困難)、砂岩片1点(98.5g)	
SK-057	11	41	-	71	26	II	F			切り合う幾つかの遺構?
SK-058	8	7	122	-	49	II	E		土器片3点(中期後葉I)	
SK-059	8	6	120	84	34	II	E		土器片2点(時期判別困難)、砂岩片4点(347g、6.1g、112.5g、170.7g)	
SK-060	11	13	-	82	7	VI	A		土器片1点(7.3g)、砂岩片1点(230g)	
SK-061	11	72	52	-	21	-	-			
SK-062	11	84	91	-	24	-	-			
SK-063	10	64	104	-	35	-	C		土器片5点(中期後葉IV)、砂岩片1点(125.9g)、黒曜石剥片1点(1.0g)	
SK-064	9	59	-	95	32	II	A	<SK-071・098	石核1点(表No447)	
SK-065	11	11	-	-	16	II	E	>SP-091		
SK-066	10	81	81	-	18	-	A	<SK-101		
SK-067	10	80	93	-	20	-	A		土器片1点(中期後葉III~IV)	
SK-068	10	78	104	-	34	-	C		土器片2点(中期藤内式・中期後葉I)	
SK-069	10	75	-	-	40	-	C			
SK-070	11	103	108	-	33	II	E		土器片3点(時期判別困難)、砂岩片1点(112.5g)	
SK-071	9	59	78	53	64	II	C	>SK-064		
SK-072	11	20	-	53	8	II	A			
SK-073	8	23	134	-	54	IX	D	>SB-15	土器片13点(中期後葉II~III)、砂岩片1点(55.5g)、粘板岩片2点(4.4g、1.7g)、?片1点(147.5g)、チャート剥片1点(10.0g)	
SK-074	10	70	108	-	90	-	C		土器片4点(中期後葉II)、砂岩礫2点(50.6g等)	
SK-075	10	68	-	70	11	II	C		砂岩片1点(9.1g)	
SK-076	10	67	-	120	56	-	E		土器片1点(時期判別困難)、石鏃1点(表No26)、黒曜石剥片2点(1.0g、1.5g)	
SK-077	10	74	80	-	47	I	C	<SK-105	土器片20点弱(中期後葉IV)、石鏃1点(図No22)、磨石類2点(図No98・表No291)、砂岩片8点(188.7g、66.6g、138.8g、78.2g、237g等)、砂岩礫7点(273g、239g、332g、629g、701g等)、花崗岩片1点(50.7g)、チャート原石2点(15.4g、105.7g)	
SK-078	10	85	-	-	15	-	E		土器片1点(中期後葉II~III)	
SK-079	9	52	92	-	34	-	C	<SK-107		
SK-080	10	63	-	-	20	-	C			
SK-081	9	48	-	-	26	-	A		土器片1点(時期判別困難)、打製石斧1点(図No58)、砂岩礫1点(881g)、粘板岩片1点(8.2g)、石棒?1点(表No356)	
SK-082	10	77	120	-	50	-	C	≒SK-083	土器片2点	SK-083と遺物混在
SK-083	10	77	68	-	49	-	C	≒SK-082		SK-082と遺物混在
SK-084	7	27	157	-	12	-	E	<SK-096・097	安山岩礫1点(7.1kg)、花崗岩礫2点(1391g、8.1kg)、砂岩礫1点(7.3kg)、土器片1点(中期後葉III~IV)	
SK-085	8	39	112	-	38	-	C	≒SK-086	土器片2点(中期後葉II~IV)、磨石類1点(図No99)、砂岩礫1点(339g)、黒曜石剥片1点(11.5g)	SK-086と遺物混在
SK-086	8	39	124	-	72	-	E	≒SK-085		SK-085と遺物混在
SK-087	9	50	140	-	35	-	A	<SK-099	土器片1点(時期判別困難)、砂岩片2点(197.5g、42.9g)等	
SK-088	9	51	-	-	20	-	-			
SK-089	10	70	78	66	24	I	A			
SK-090	8	41	64	60	67	I	C		微細剥離有剥片1点(表No416)、石核1点(表No446)	
SK-091	8	5	130	-	22	-	E	>SP-073		

遺構 No	トレンチ No	所在 グリッド	規模 (cm)			形状		切り合い関係 (>切られる、<切る、≒不明)	出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面			
SK-092	7	19	-	-	33	-	E		土器片4点 (中期後葉Ⅳ、図化土器 (図No.55))、粘板岩片1点 (2.1g)	
SK-093	11	70	62	-	78	IX	C		土器片8点 (混在)、砂岩片4点 (70.8g、42.2g、4.8g、1.4g) 等	
SK-094	7	24	-	-	71	-	Ep			
SK-095	9	54	88	-	35	II	C		石核1点 (表No448)	
SK-096	7	26	50	43	37	II	C	>SK-084		
SK-097	7	27	55	-	75	IX	C	>SK-084	土器片2点 (中期後葉Ⅰ)、砂岩片2点 (156.8g、44.6g)、チャート剥片1点 (14.6g) 等	
SK-098	9	60	80	80	62	V	C	>SK-064		
SK-099	9	50	115	-	54	-	C	>SK-087、<SK-107	砂岩片1点 (28.2g)	
SK-100	10	73	142	-	95	-	C	<SP-134	土器片12点 (中期後葉)、砂岩片2点 (113.3g、20.6g)、砂岩礫1点 (64.2g)	
SK-101	10	82	90	-	17	-	C	>SK-066、<SP-128		
SK-102	10	83	-	77	21	-	A	>SP-107・108、 <SP-129~131		
SK-103	8	37	105	-	41	-	Cp		黒曜石剥片1点 (5.1g)、砂岩礫1点 (395g)	
SK-104	7	8	122	-	28	-	A	>SP-125		
SK-105	10	74	78	-	48	-	C	>SK-077		
SK-106	11	51	-	70	13	-	-	>SK-055		
SK-107	9	51	-	-	-	-	-	>SK-079・099		プラン不明
SK-108	23	6	67	40	7	II	E	>SP-157	土器片5点 (後期加曾利B式、図化土器 (No.72))、小型刃器1点 (表No73)、磨石類1点 (図No100)、台石1点 (表No349)、砂岩片3点 (4.1g、1.9g、2.5g)、黒曜石剥片1点 (1.4g)	
SK-109	24	3	-	90	53	-	E		土器片70点余 (中期末~後期初頭)、砂岩礫2点 (235g、237g)、粘板岩片1点 (43.1g)、砂岩片1点 (7.3g)、チャート原石2点 (58.4g、26.9g)、チャート剥片4点 (26.0g、19.5g、16.7g、3.8g)	
SK-110	24	0	-	-	22	-	E		土器片16点 (中期末~後期前葉)、磨製石斧1点 (図No72)、砂岩片2点 (76.9g、30.1g)、粘板岩片1点 (15.3g)、チャート剥片3点 (27.5g、2.1g、3.6g)、黒曜石剥片1点 (0.9g)	
SK-111	23	22	104	-	14	IX	E		土器片1点 (時期判別困難)、磨石類2点 (図No101・102)	
SK-112	23	17	-	87	36	IX	-		土器片3点 (時期判別困難)、石鏃1点 (図No.13)、磨石類1点 (図No103)	
SK-113	25	4	177	-	29	III	A		砂岩礫2点 (197.5g、121.5g)、磨石類 (図No.104)	
SK-114	25	2	-	-	29	-	-		土器片20点弱 (中期末~後期初頭)	
SK-115	23	9	97	-	66	IX	E		研磨円礫1点 (表No358)	
SK-116	23	8	75	-	37	-	C		石核1点 (表No468)	
SK-117	20	3	147	-	111	II	E		土器片4点 (中期末~後期初頭)、砂岩礫2点 (321g、184.7g)、砂岩片1点 (331g) 等	
SK-118	20	49	70	-	14	-	-		土器片1点 (後期前葉)	
SK-119	20	7	-	-	70	IX	E		土器片1点 (中期後葉)、砂岩片2点 (14.5g、2.0g)	
SK-120	20	65	-	130	7	-	A		黒曜石剥片1点 (0.8g)	
SK-121	24	18	-	76	9	-	-			
SK-122	24	24	-	-	10	-	-			
SK-123	24	22	-	97	25	-	D		土器片5点 (後期加曾利B式、図化土器 (No.78・81))、磨石類1点 (表No339)	
SK-124	23	5	96	-	22	-	E		土器片8点 (後期前葉)、砂岩片1点 (3.9g)、台石 (表No350)、チャート剥片1点 (1.7g)	

形状の凡例 (第2表も同じ)

【平面形】 I : 円形 短径と長径の比が、1 : 1.2以下。

II : 楕円形 短径と長径の比が、1 : 1.2以上 1 : 2.0以下。

III : 長楕円形 短径と長径の比が、1 : 2.0以上。

IV : 双円形 円形が2つつながった形、蕪玉形。

V : 隅丸正方形 短径と長径の比が、1 : 1.2以下。

VI : 隅丸長方形 短径と長径の比が、1 : 1.2以上 1 : 2.0以下。

VII : 隅丸長方形 短径と長径の比が、1 : 2.0以上。

VIII : 方形 隅が丸くなっていないものを総称。

IX : 不整形円形 円形基調だがI~IVに分類できないもの。

X : 不整形 上記いずれにも入らないもの。

【断面形】 A : 皿状のもの。深さと長径の比が1 : 3以上で浅いもの。

B : 楕円状のもの。深さと長径の比が1 : 3以下で、検出面での長径 : 底面での長径 = 1 : 1以上のもの。

C : 鍋底状あるいは円筒状のもの。深さと長径の比が1 : 3以下で、検出面での長径 : 底面での長径 = 2 : 1 ~ 1 : 1のもの。

D : 袋状のもの。但しオーバーハングの度合いが大きいものを含む。

E : 底が2段のもの。掘り込みの径が20cm以下のピット様のもは含めない。

F : 上記のいずれにも属さない不整形なもの。

※ 底面にピットを有するものは、後ろに「p」を付し、「Ap」等と表す。

第2表 三夜塚遺跡土坑一覧表

遺構 No	トレンチ No	所在 グリッド	規模 (cm)			形状		切り合い関係 (>切られる、<切る、≒不明)	出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	平面	断面			
SK-156	8	59	-	62	11	II	A			
SK-157	8	33	-	84	33	-	Ep			
SK-158	8	7	90	40	27	III	E	土器片2点 (時期判別困難)、砂岩片1点 (7.0g)		
SK-159	8	15	68	-	19	II	A	土器片2点 (中期後葉I)、黒曜石剥片1点 (3.8g)		
SK-160	8	49	-	56	18	II	E	土器片2点 (中期後葉I)		
SK-161	8	42	115	-	53	-	E	>SP-663	土器片1点 (時期判別困難)、砂岩礫2点 (158.2g、105.1g)	
SK-162	8	10	184	-	49	-	E		土器片20点弱 (中期末)、砂岩片2点 (54.7g、53.2g)、砂岩礫1点 (63.1g) 等	
SK-163	4	4	-	-	9	-	E	<SK-168		
SK-164	4	1	-	-	24	-	-	<SP-676		
SK-165	8	17	97	-	17	-	A			
SK-166	4	9	-	102	37	II	A		土器片約30点 (中期後葉IV、図No116・117等)、小型刃器1点 (表No7)、砂岩片1点 (8.8g)	
SK-167	4	7	80	-	62	II	C		土器片4点 (中期後葉III~IV)	
SK-168	4	4	102	-	57	-	E	>SK-163		
SK-169	4	6	118	-	48	-	E		土器片3点 (中期後葉I)	
SK-170	13	11	73	-	32	I	D		土器片50点余 (前期末、北陸系真脇式土器 (図No84)、図化土器 (図No87))、二次加工有剥片4点 (図No145・146、表No89・90)、石鏃1点 (図No140)、石核1点 (図No144)、砂岩片3点 (14.7g、8.8g、2.6g)、黒曜石剥片67点 (7.1g、6.6g、5.9g等) 等	
SK-171	13	11	93	-	20	II	E		土器片6点 (前期末)	
SK-172	13	8	75	-	33	II	D		土器片10点余 (前期末)、砂岩片3点 (121.7g、136.4g、11.4g)、黒曜石剥片1点 (7.0g)	
SK-173	13	4	-	99	54	-	D		土器片18点 (前期末)、石鏃1点 (図No147)、砂岩礫2点 (112.3g、291g)、チャート剥片1点 (12.4g)、黒曜石剥片2点 (7.0g、2.5g) 等	
SK-174	17	7	158	142	42	IX	E		土器片2点 (時期判別困難)、頁岩礫1点 (100.6g)	
SK-175	17	20	55	29	10	X	Cp			
SK-176	17	20	63	20	8	IX	A			
SK-177	17	25	97	45	6	III	A			
SK-178	17	28	83	52	15	X	E			
SK-179	21	S37	-	-	16	-	-	>SK-181	土器片50点弱 (中期後葉III~IV)、磨石類1点 (表No78)、頁岩片1点 (8.1g)	SK-181遺物が混在
SK-180	21	S76	-	74	21	II	E	<SK-193		
SK-181	21	S39	269	-	54	-	E	<SK-179	土器片250点余 (中期後葉IV)、磨石類1点 (図No176)、砂岩礫8点 (157.3g、108.5g、259g、143.9g等)、砂岩片5点 (19.0g、57.6g等)、チャート剥片4点 (25.5g、103.6g、0.8g、2.0g)、黒曜石剥片3点 (1.7g、0.2g、0.6g) 等	SK-179遺物が混在
SK-182	21	S35	120	-	55	-	C		土器片20点 (前期末)、砂岩片1点 (75.1g)、頁岩片1点 (73.5g)、粘板岩片1点 (3.4g)、チャート剥片2点 (19.2g、9.4g)、黒曜石剥片1点 (0.4g)	
SK-183	21	S78	112	-	42	I	C	≒SP-732	土器片150点余 (中期後葉IV、図化土器 (No103~113・115))、磨石類1点 (図No177)、砂岩礫5点 (421g、314g、519g等)、凝灰岩板状1点 (87.5g)、チャート剥片7点 (61.5g、23.0g、36.5g、21.3g、10.1g等)、黒曜石剥片6点 (7.1g、1.7g、5.1g、3.1g等) 等	
SK-184	21	S49	-	95	52	II	E		土器片9点 (中期後葉IV)、黒曜石剥片3点 (5.7g、1.2g、0.7g)	
SK-185	21	S68	-	93	59	IX	E			
SK-186										欠番
SK-187	21	S71	-	77	43	-	D	>SP-709、<SP-738	土器片15点 (中期後葉IV)、砂岩円礫2点 (369g、142.0g) 等	
SK-188	21	S50	64	61	32	IX	E			
SK-189	21	S70	69	67	42	I	C		土器片2点 (時期判別困難)	
SK-190	21	S9	-	77	15	I	A			
SK-191	21	S44	-	-	102	II	E		土器片60点 (中期後葉IV、図化土器 (No114))、二次加工有剥片1点 (表No97)、砂岩礫3点 (391g、120.3g、48.4g)、砂岩片5点 (17.5g、61.9g、111.4g、62.1g、40.6g)、チャート剥片3点 (4.0g、7.3g、0.3g)、黒曜石剥片2点 (0.4g、0.1g) 等	
SK-192	21	EW5	-	-	42	-	-		土器片5点 (中期後葉IV)	
SK-193	21	S76	-	63	33	II	C	>SK-180	土器片1点 (時期判別困難)、砂岩片1点 (15.4g)	

形状の凡例は、第1表に記載のものと同じ。

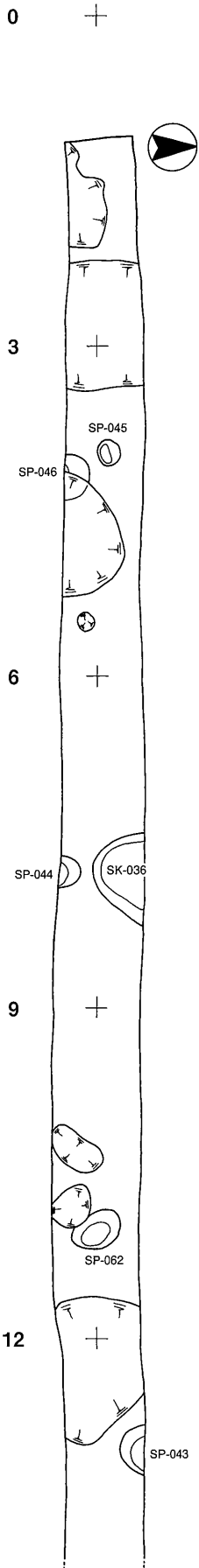
第3表 ピット一覧表

下原遺跡						
遺構 No	トレンチ No	所在 グリッド	深さ (cm)	切り合い関係 (>切られる、<切る、≒不明)	出土遺物	備考
SP-001	2	184	27		土器片1点 (時期判別困難)	
SP-002	2	183	17			
SP-003	2	128	10			
SP-004	2	94	10			
SP-005	2	93	11		土器片1点 (時期判別困難)	
SP-006	2	90	13			
SP-007	2	88	10			
SP-008	2	88	9			
SP-009	2	85	10			
SP-010	2	84	7			
SP-011	2	85	8	<SP-065		
SP-012	2	80	15			
SP-013	2	60	6			
SP-014	2	78	5			
SP-015	2	76	8			
SP-016	2	74	18			
SP-017	2	73	8			
SP-018	2	70	12			
SP-019	2	78	10			
SP-020	2	66	31			
SP-021	2	157	17	<SK-020		
SP-022	2	156	35	≒SK-042		
SP-023	2	93	13			
SP-024	2	89	15			
SP-025	2	68	15		土器片1点 (中期後葉Ⅲ～Ⅳ)	
SP-026	2	63	10			
SP-027	2	62	15			
SP-028	2	28	13			
SP-029	2	29	7			
SP-030	2	25	34			
SP-031	2	185	7	<SB-03、≒SK-016		
SP-032	2	170	25			
SP-033	2	158	14			
SP-034	2	177	31		土器片1点 (時期判別困難)	
SP-035	2	169	39	<SB-06	微細剥離有剥片1点 (表No411)	
SP-036	2	165	16			
SP-037	2	50	9		土器片3点 (中期後葉)	
SP-038	2	51	9			
SP-039	2	151	14	≒SB-07		
SP-040	2	152	23	≒SB-07		
SP-041	2	18	26			
SP-042	2	16	20		土器片7点 (中期後葉Ⅱ～Ⅲ)、粘板岩片1点 (50.3g)、チャート原石1点 (71.6g)	
SP-043	2	12	14			
SP-044	2	7	10			
SP-045	2	3	8		土器片2点 (中期後葉Ⅳ)	
SP-046	2	4	23			
SP-047	2	143	22	>SB-08	土器片2点 (中期後葉Ⅱ～Ⅲ)	
SP-048	2	158	20			
SP-049	2	159	16			
SP-050	2	176	25			
SP-051	2	176	27			
SP-052	2	160	22	>SB-012	砂岩片1点 (225g)	
SP-053	2	163	28	>SB-011		
SP-054	2	161	36	<SP-057、>SB-012、≒SP-056	土器片1点 (時期判別困難)、砂岩片1点 (866g)	
SP-055	2	163	14	>SB-011	土器片2点 (中期中葉井戸尻Ⅲ)	
SP-056	2	162	28	≒SP-054		
SP-057	2	161	16	>SB-012・SP-054		
SP-058	2	87	10		土器片1点 (中期初頭?)	
SP-059	2	89	12			
SP-060	2	66	15			
SP-061	2	42	23		砂岩片1点 (45.4g)	
SP-062	2	11	17		土器片2点 (時期判別困難)、砂岩片1点 (17.1g)	
SP-063	2	94	18	>SP-004		
SP-064	2	90	15	>SK-026		
SP-065	2	84	29	>SP-011		
SP-066	2	189	46	≒SB-10		
SP-067	8	0	4			
SP-068	8	0	5	>SP-069		
SP-069	8	1	15	<SP-068		
SP-070	8	2	16			
SP-071	8	3	10			
SP-072	8	4	17			
SP-073	8	4	25	<SK-091		
SP-074	11	46	10			
SP-075	11	50	11			
SP-076	11	39	24		安山岩礫1点 (203g)、砂岩礫1点 (291g)	
SP-077	11	56	6			
SP-078	11	17	15			
SP-079	11	15	25			
SP-080	11	72	10	>SP-081		

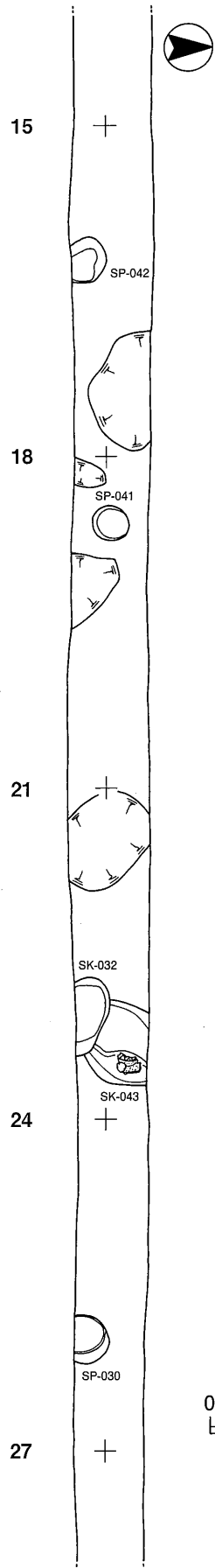
遺構 No	トレンチ No	所在 グリッド	深さ (cm)	切り合い関係 (>切られる、<切る、≐不明)	出土遺物	備考
SP-081	11	73	6	<SP-080	土器片2点 (時期判別困難)	
SP-082	11	74	7			
SP-083	11	65	66		土器片3点 (後期初頭)、チャート原石1点 (33.7g)、砂岩片1点 (18.6g)	
SP-084	11	19	10			
SP-085	11	18	14			
SP-086	11	18	10			
SP-087	11	18	10			
SP-088	11	12	21			
SP-089	11	75	35		土器片1点 (時期判別困難)、泥岩片1点 (17.1g)	
SP-090	11	11	15			
SP-091	11	10	104	<SK-065		
SP-092	11	10	15			
SP-093	11	9	22			
SP-094	11	7	10			
SP-095	11	7	26			
SP-096	11	6	35		土器片2点 (中期中葉内式?)	
SP-097	11	6	27			
SP-098	11	6	12		砂岩片1点 (347g)	
SP-099	11	83	16			
SP-100	8	58	26			
SP-101	8	56	18			
SP-102	8	56	19			
SP-103	11	5	28		打製石斧1点 (図No60)	
SP-104	11	28	7			
SP-105	10	75	8			
SP-106	10	82	13			
SP-107	10	83	23	<SK-102、SP-129	土器片1点 (中期後葉Ⅱ)	
SP-108	10	84	14	<SK-102		
SP-109	8	53	21	<SP-129		
SP-110	8	55	18			
SP-111	8	55	11			
SP-112	11	4	19	>SK-051、<SP-120		
SP-113	8	36	26			
SP-114	10	71	58			
SP-115	10	79	28		土器片1点 (時期判別困難)、砂岩片1点 (42.7g)	
SP-116	10	82	22	<SP-132		
SP-117	10	81	10			
SP-118	7	16	9			
SP-119	8	16	41	≐SX-002		
SP-120	11	3	10	>SK-051、SP-112		
SP-121	7	15	21	<SP-138		
SP-122	7	13	27			
SP-123	8	54	23		土器片1点 (中期後葉Ⅲ～Ⅳ)、?片1点 (28.2g)	
SP-124	7	23	14			
SP-125	7	8	21	≐SK-104		
SP-126	8	53	不明	>SP-109		
SP-127	8	49	不明			
SP-128	10	82	15	>SK-101、<SP-132-133		
SP-129	10	83	19	>SP-107	土器片1点 (中期後葉Ⅱ～Ⅲ)、砂岩片1点 (63.6g)	
SP-130	10	84	10	>SK-102		
SP-131	10	84	10	>SK-102		
SP-132	10	82	10	>SP-116-128、<SP-133		
SP-133	10	82	15	>SP-128-132	砂岩片1点 (8.9g)	
SP-134	10	72	23	>SK-100		
SP-135	8	10	25			
SP-136	8	10	41		石槍1点 (図No14)	
SP-137	8	11	19			
SP-138	7	16	10	>SP-121	土器片1点 (時期判別困難)	
SP-139	23	32	8			
SP-140	23	25	17			
SP-141	23	23	24			
SP-142	23	19	10			
SP-143	23	18	18			
SP-144	23	16	36			
SP-145	23	14	12			
SP-146	23	13	12			
SP-147	24	23	13			
SP-148	20	64	17			
SP-149	20	41	12			
SP-150	20	32	19			
SP-151	20	14	10			
SP-152	20	8	22			
SP-153	23	4	11			
SP-154	23	3	14			
SP-155	24	28	22			
SP-156	23	7	10		土器片1点 (後期掘之内式)	
SP-157	23	6	64	<SK-108	土器片6点 (中期末)、小型刃器1点 (表No74)、砂岩片1点 (71.4g)、チャート剥片1点 (0.7g)、黒曜石剥片2点 (0.4g、0.1g) 等	
SP-158	23	5	58		土器片4点 (時期判別困難)、砂岩片1点 (16.3g)、チャート剥片1点 (0.4g)、黒曜石剥片1点 (1.5g)	
SP-159	23	7	16			
SP-160	24	19	37	>SB-22	頁岩片1点 (2.3g)	
三夜塚遺跡						
SP-657	8	33	11			

遺構 No	トレンチ No	所 グ リ ッ ド	在 ド	深さ (cm)	切り合い関係 (>切られる、<切る、≒不明)	出土遺物	備考
SP-658	8	33	5				
SP-659	8	37	16			土器片1点 (時期判別困難)、砂岩礫1点 (97.2g)、砂岩片1点 (92.8g)	
SP-660	8	26	16		<SP-668	土器片1点 (時期判別困難)	
SP-661	8	39	31				
SP-662	8	44	18		<SK-669		
SP-663	8	41	13		<SK-161	土器片1点 (中期後葉Ⅲ～Ⅳ)	
SP-664	8	28	14				
SP-665	8	14	10				
SP-666	8	13	14				
SP-667	8	14	18				
SP-668	8	26	17		>SP-660		
SP-669	8	44	4		>SP-662		
SP-670	4	2	8				
SP-671	8	57	11				
SP-672	1	6	11				
SP-673	1	5	10				
SP-674	1	2	16				
SP-675	8	11	不明				レベル入忘れ
SP-676	4	1	30		>SK-164		
SP-677	4	3	22				
SP-678	13	16	7			黒曜石剥片2点 (7.4g、1.0g)	
SP-679	17	7	16				
SP-680	17	10	13				
SP-681	17	10	7				
SP-682	17	12	10				
SP-683	17	25	4				
SP-684	17	26	11				
SP-685	17	27	21				
SP-686	17	27	9				
SP-687	17	28	16				
SP-688	17	29	14				
SP-689	17	30	14				
SP-690	17	31	14				
SP-691	17	33	12				
SP-692	17	33	8				
SP-693	17	35	60				
SP-694	17	37	11				
SP-695	17	40	12				
SP-696	17	41	11				
SP-697	17	41	9				
SP-698	17	42	10				
SP-699	17	44	4				
SP-700	17	45	8				
SP-701	18	1	13				
SP-702	18	1	10				
SP-703	18	2	11				
SP-704	18	2	7				
SP-705	18	3	25				
SP-706	18	5	10				
SP-707	18	5	16				
SP-708	18	6	10				
SP-709	21	S71	25		<SK-187		
SP-710	21	S43	55				
SP-711	21	S36	28				
SP-712	21	S48	24				
SP-713	21	S47	19				
SP-714	21	S75	26				
SP-715	21	S48	35				
SP-716	21	S75	27				
SP-717	21	EW1	9				
SP-718	21	EW1	54				
SP-719	21	S29	5				
SP-720	21	S72	19				
SP-721	21	S64	22				
SP-722	21	S63	16				
SP-723	21	S61	43				
SP-724	21	S63	38			土器片1点 (時期判別困難)	
SP-725	21	S63	14				
SP-726	21	S61	20				
SP-727	21	S59	19			土器片1点 (時期判別困難)、黒曜石剥片1点 (0.5g)	
SP-728	21	S62	15				
SP-729	21	S62	9				
SP-730	21	S63	14				
SP-731	21	S76	31			土器片1点 (時期判別困難)	
SP-732	21	S79	46		≒SK-183		
SP-733	21	N1	16				
SP-734	21	N2	31				
SP-735	21	EW6	20				
SP-736	21	EW6	51			土器片1点 (中期後葉Ⅳ)、粘板岩片1点 (3.7g)	
SP-737	21	EW7	22				
SP-738	21	S72	9				
SP-739	21	S79	15				

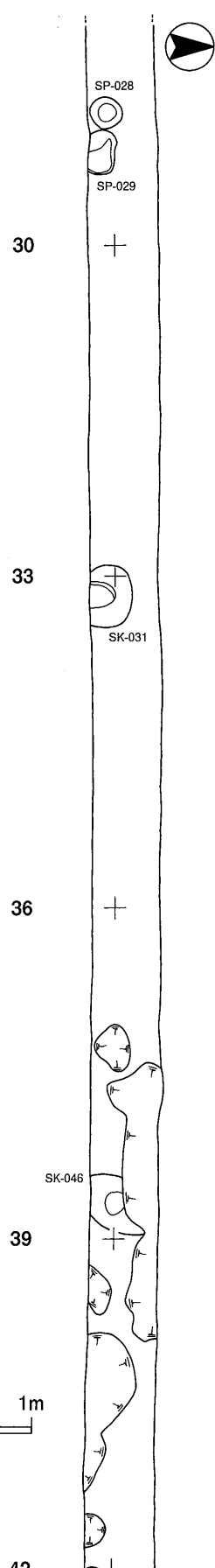
2T 0~13グリッド



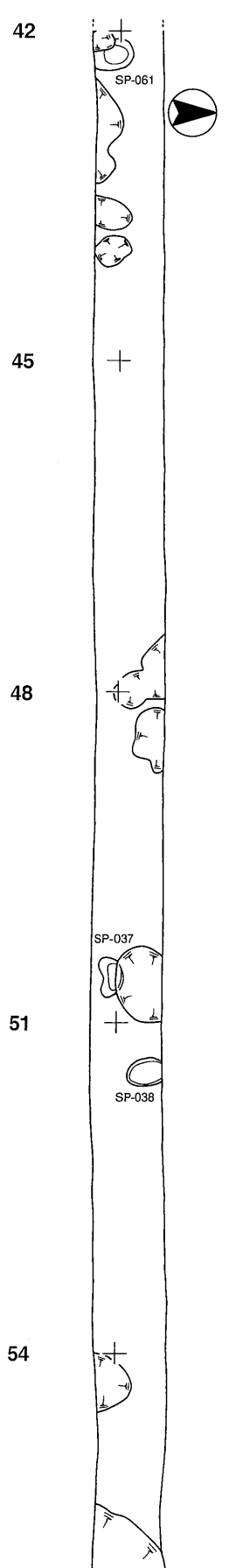
2T 14~27グリッド



2T 28~41グリッド

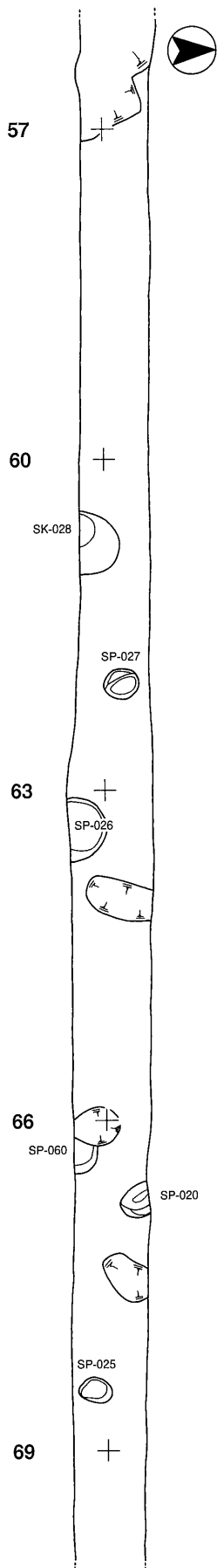


2T 42~55グリッド

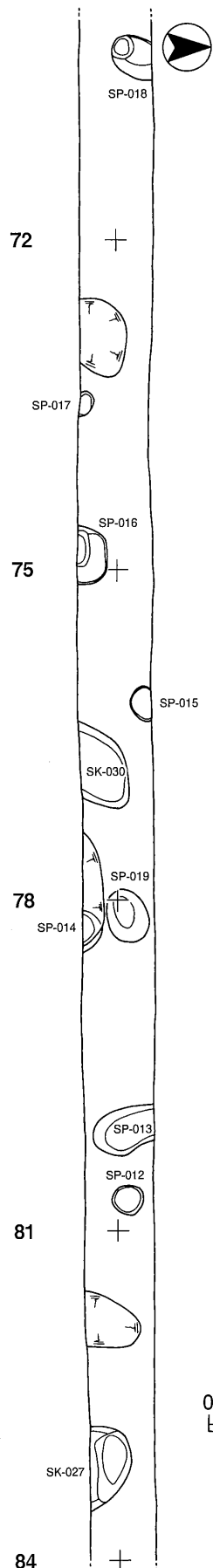


第3図 下原遺跡第2トレンチ(1)遺構図

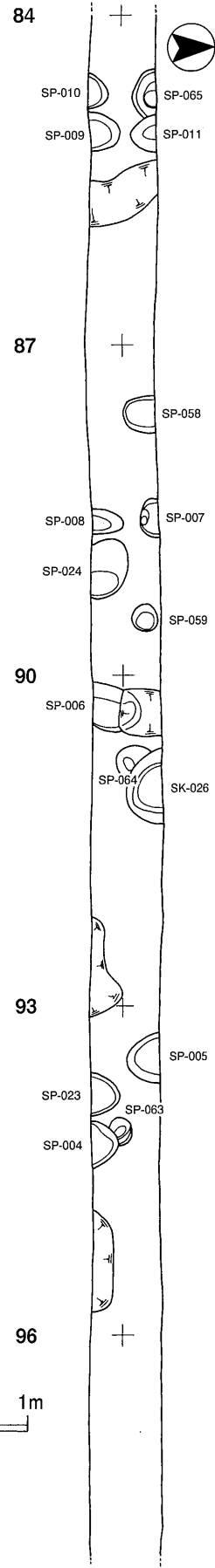
2T 56~69グリッド



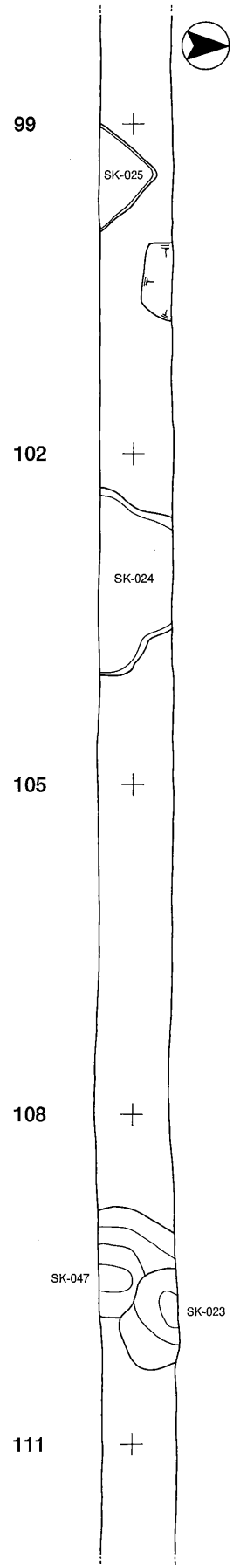
2T 70~83グリッド



2T 84~97グリッド



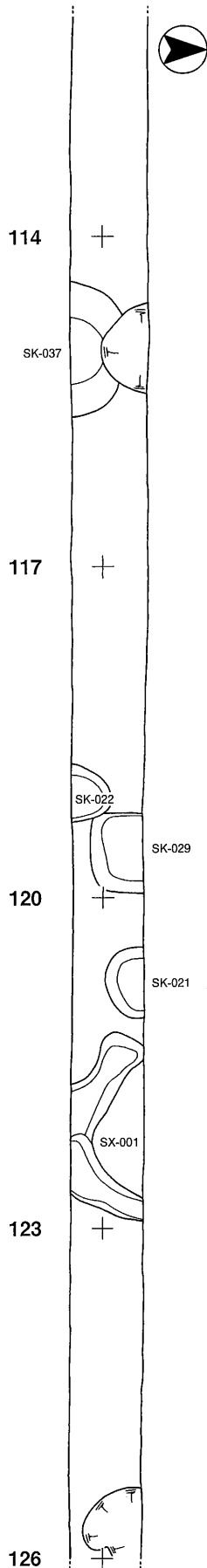
2T 98~111グリッド



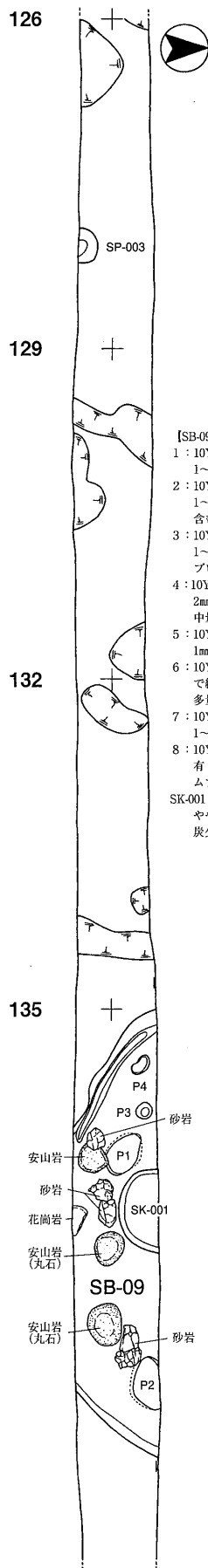
第4図 下原遺跡第2トレンチ (2) 遺構図



2T 112~125グリッド



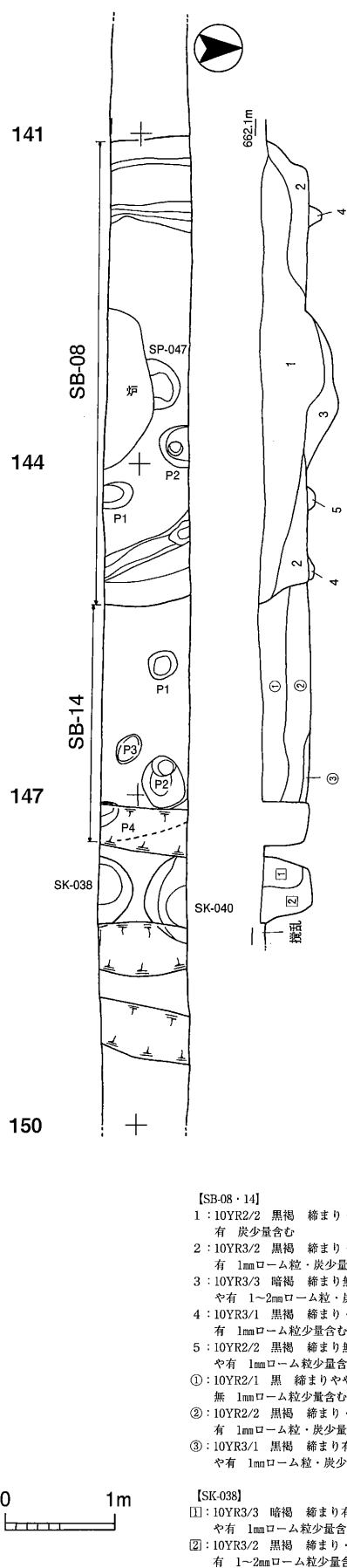
2T 126~139グリッド



[SB-09, SK-001]

- 1: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む
  - 2: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・1mm焼土粒・炭少量含む
  - 3: 10YR3/4 暗褐 締まり無、粘性有 1~2mmローム粒中量、3~10mmロームブロック5%含む
  - 4: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性無 1~2mmローム粒少量、1~2mm焼土粒・炭中量含む
  - 5: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
  - 6: 10YR1.7/1 黒 炭化材が風化した層で締まりなくボソボソ 焼土ブロック多量含む
  - 7: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量含む
  - 8: 10YR2/2 黒褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~20mmロームブロック5%含む
- SK-001: 10YR3/2 黒褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒・1mm焼土粒・炭少量含む

2T 140~149グリッド



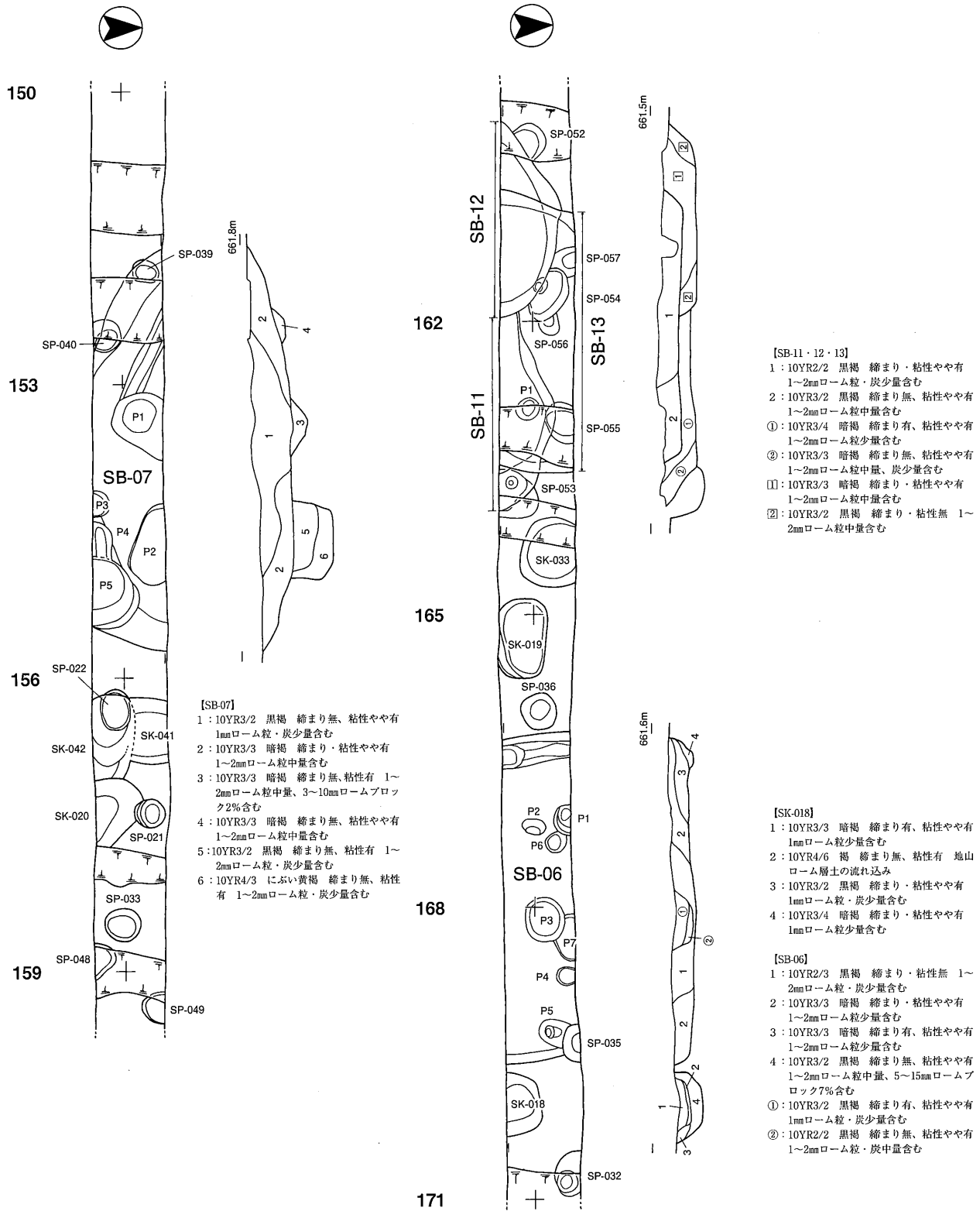
[SB-08・14]

- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 炭少量含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む
- 3: 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量含む
- 4: 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 5: 10YR2/2 黒褐 締まり無、粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- ①: 10YR2/1 黒 締まりやや有、粘性無 1mmローム粒少量含む
- ②: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む
- ③: 10YR3/1 黒褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む

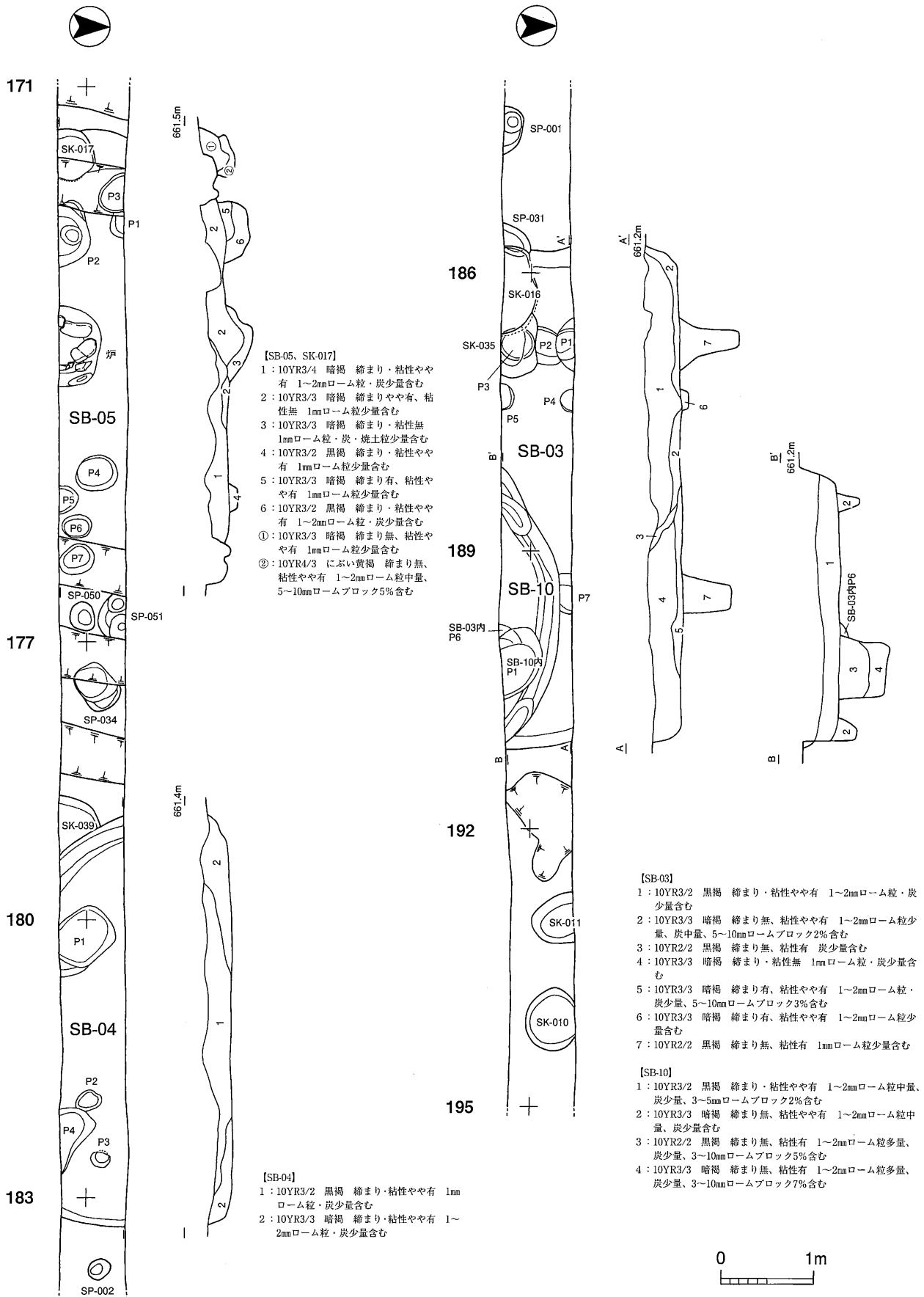
[SK-038]

- : 10YR3/3 暗褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- ⊡: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む

第5図 下原遺跡第2トレンチ (3) 遺構図



第6図 下原遺跡第2トレンチ(4)遺構図

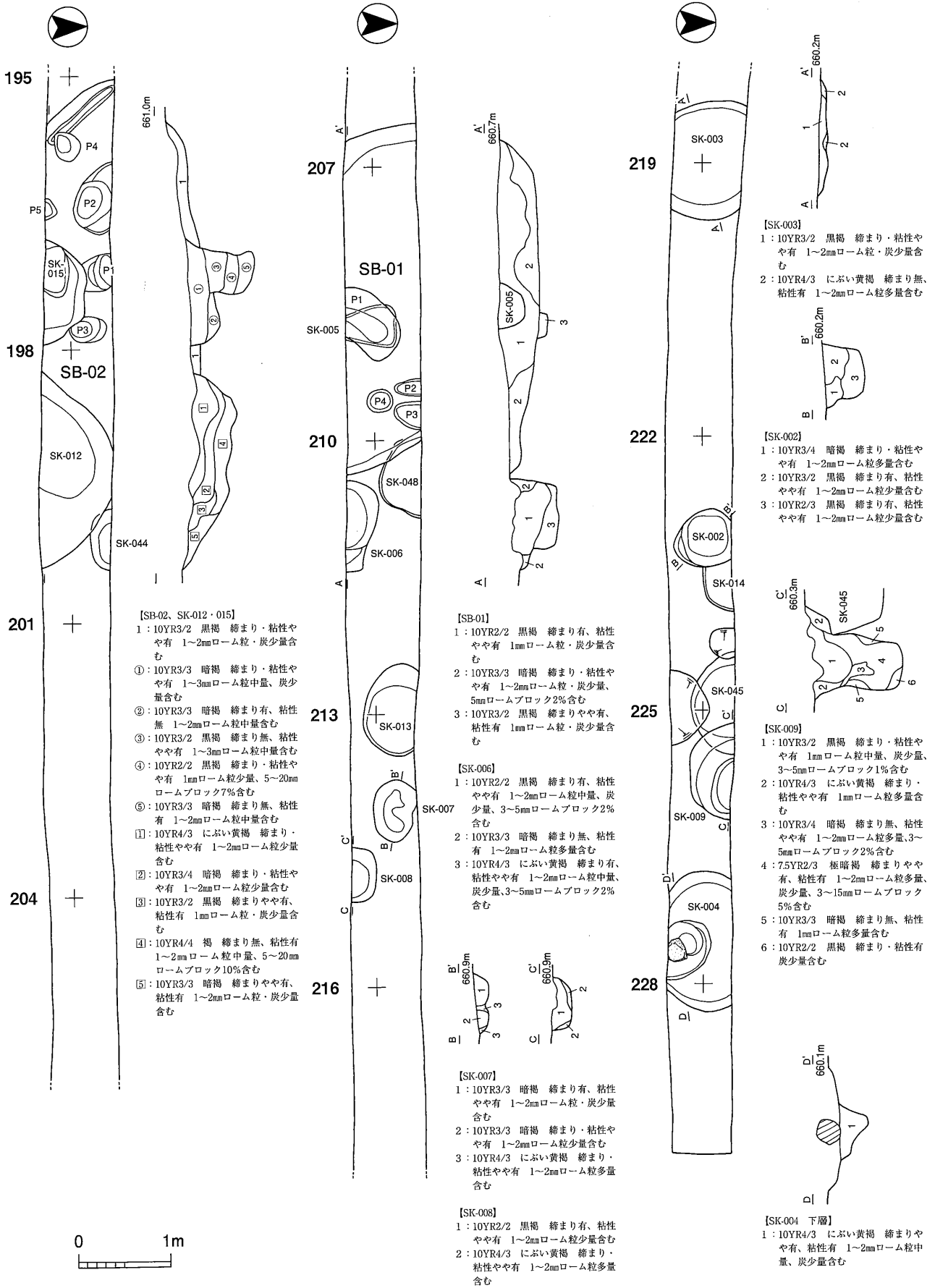


第7図 下原遺跡第2トレンチ (5) 遺構図

2T 195~205グリッド

2T 206~217グリッド

2T 218~229グリッド

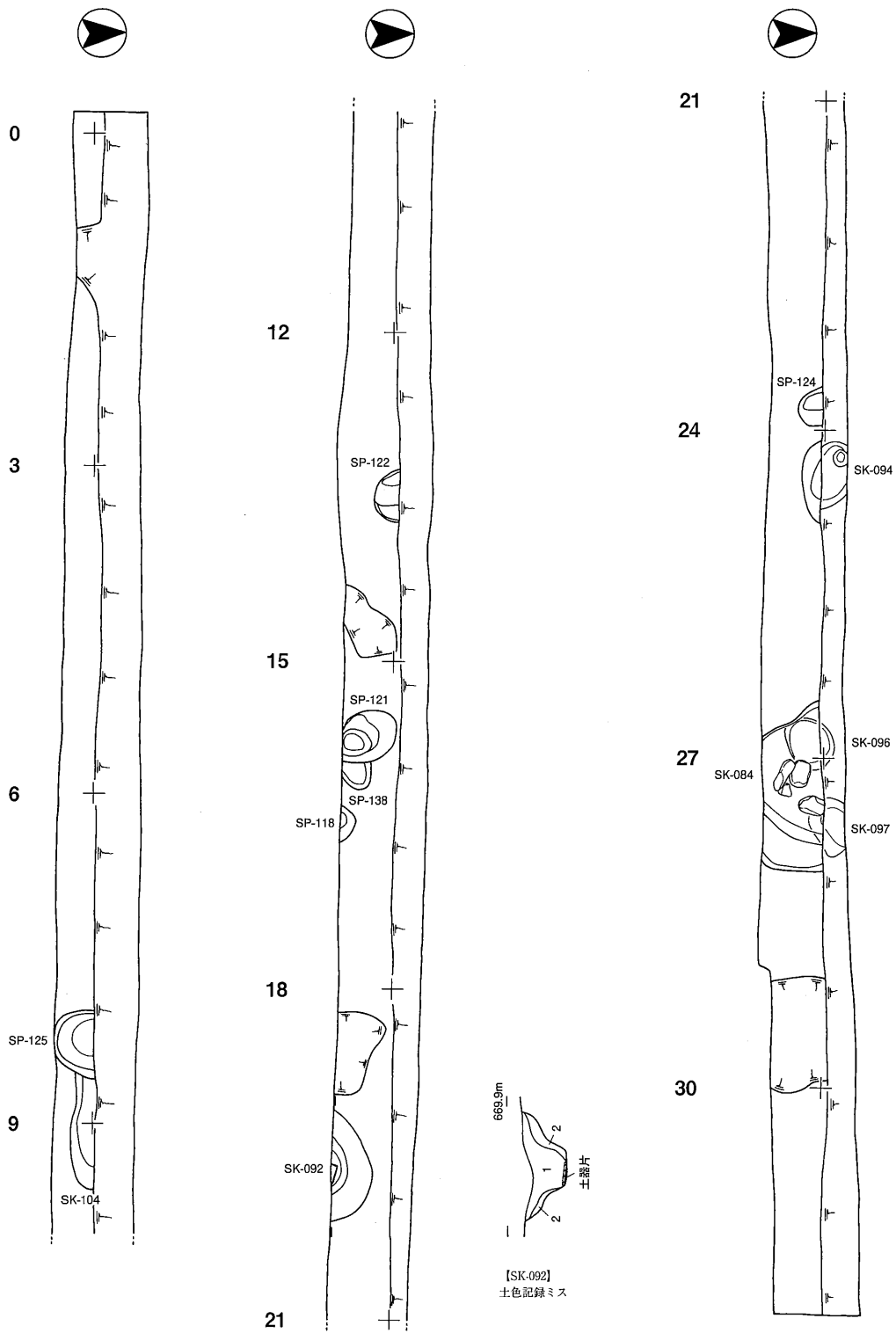


第8図 下原遺跡第2トレンチ (6) 遺構図

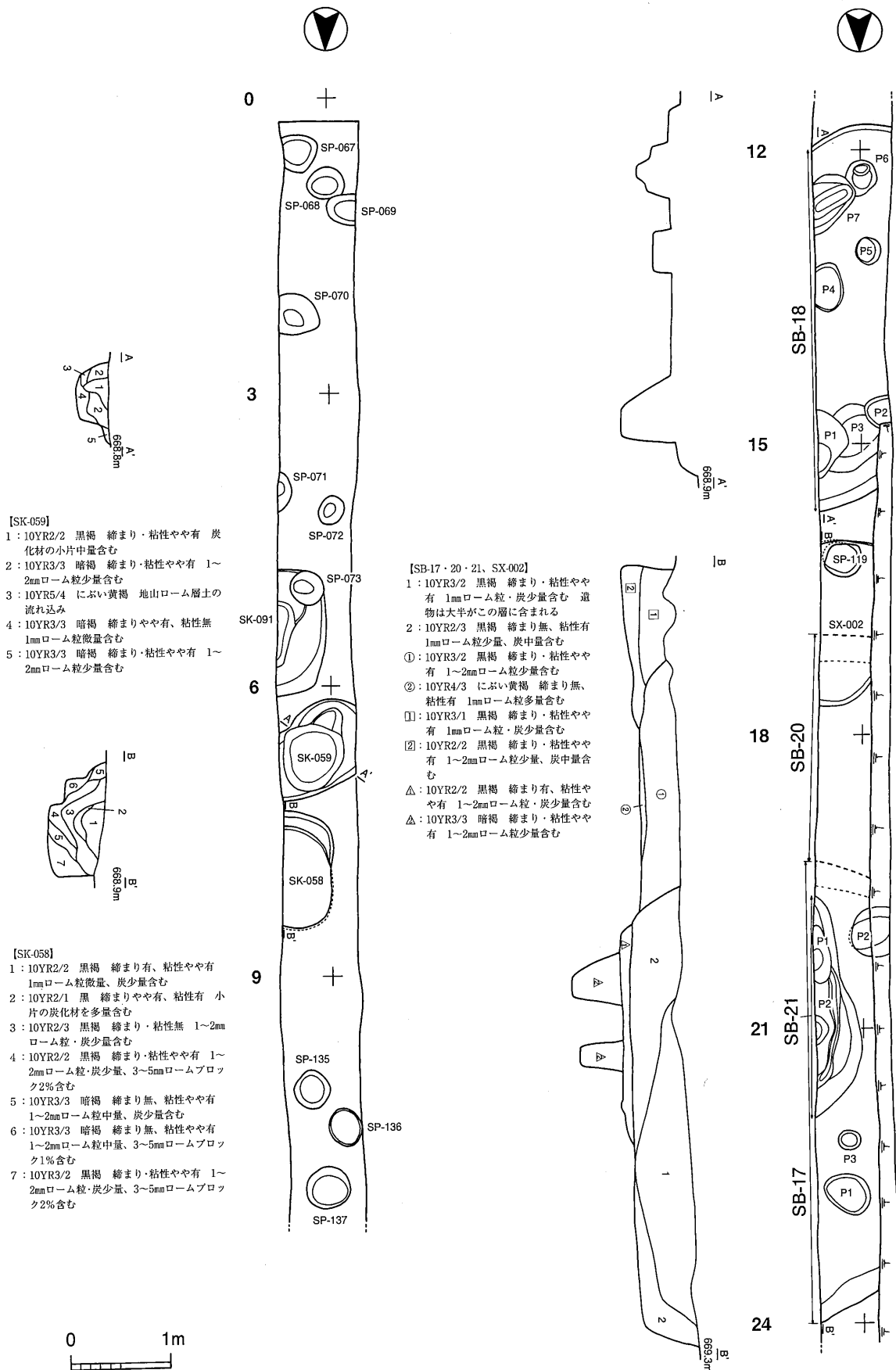
7T 0~9グリッド

7T 10~20グリッド

7T 21~31グリッド

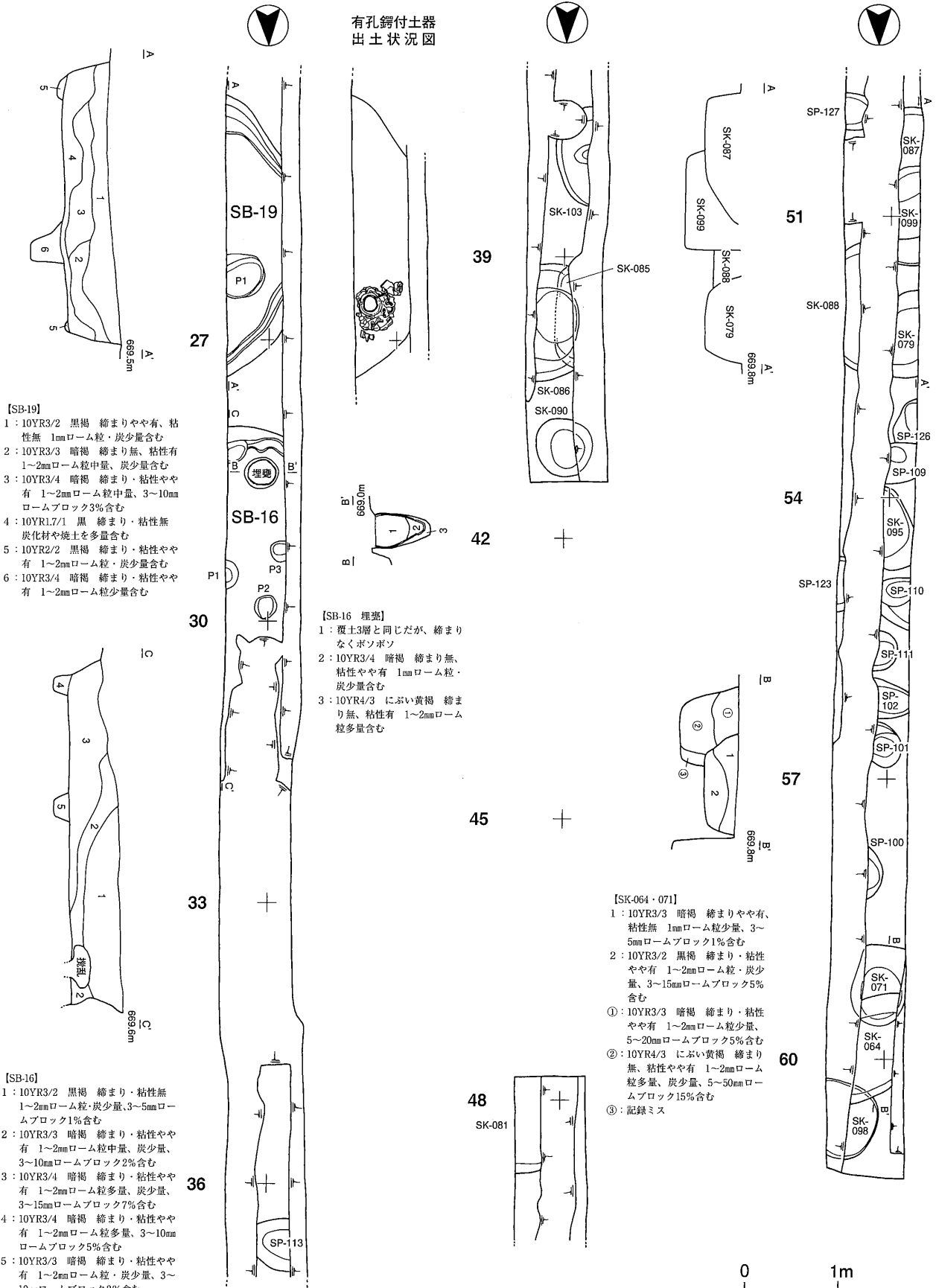


第9図 下原遺跡第7トレンチ遺構図



第10図 下原遺跡第8トレンチ (1) 遺構図

有孔鏝付土器  
出土状況図



- [SB-19]**
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まりやや有、粘性無 1mmローム粒・炭少量含む
  - 2: 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性有 1~2mmローム粒中量、炭少量含む
  - 3: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量、3~10mmロームブロック3%含む
  - 4: 10YR1.7/1 黒 締まり・粘性無 炭化材や焼土を多量含む
  - 5: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量含む
  - 6: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む

- [SB-16 埋塞]**
- 1: 覆土3層と同じだが、締まりなくボンボン
  - 2: 10YR3/4 暗褐 締まり無、粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む
  - 3: 10YR4/3 におい黄褐 締まり無、粘性有 1~2mmローム粒多量含む

- [SB-16]**
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性無 1~2mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック1%含む
  - 2: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭少量、3~10mmロームブロック2%含む
  - 3: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒多量、炭少量、3~15mmロームブロック7%含む
  - 4: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒多量、3~10mmロームブロック5%含む
  - 5: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量、3~10mmロームブロック2%含む

- [SK-064・071]**
- 1: 10YR3/3 暗褐 締まりやや有、粘性無 1mmローム粒少量、3~5mmロームブロック1%含む
  - 2: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量、3~15mmロームブロック5%含む
  - ①: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~20mmロームブロック5%含む
  - ②: 10YR4/3 におい黄褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒多量、炭少量、5~50mmロームブロック15%含む
  - ③: 記録ミス

第11図 下原遺跡第8トレンチ (2)・第9トレンチ遺構図

10T 62~73グリッド

10T 73~85グリッド

[SK-080]

- 10YR3/4 暗褐 締まり無、粘性やや有 1mmローム粒少量含む
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む

[SK-063]

- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量、5~10mmロームブロック2%含む
- 10YR4/4 褐 締まり無、粘性やや有 地山ローム層土の流れ込み
- 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~5mmロームブロック3%含む

[SK-076]

- 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~50mmロームブロック7%含む
- 10YR3/2 黒褐 締まり無、粘性やや有 30~50mmロームブロック30%含む

[SK-075]

- 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む

[SK-074]

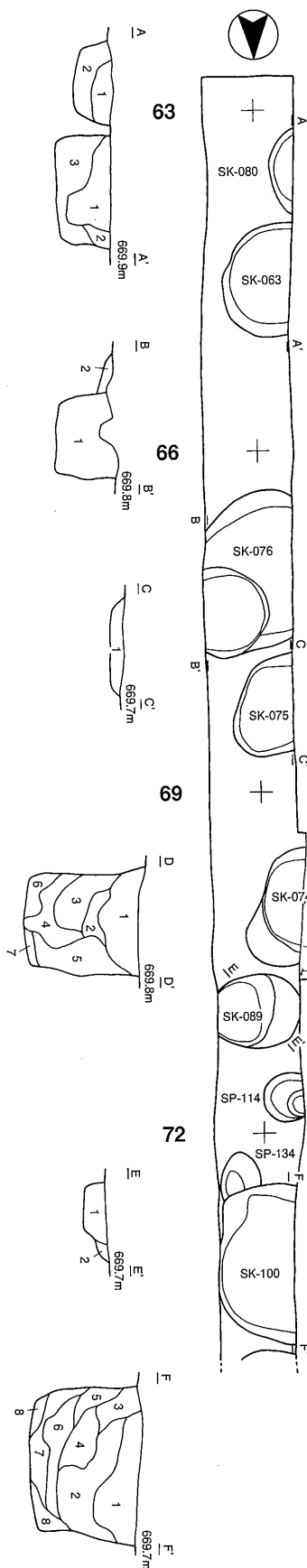
- 10YR3/4 暗褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量含む
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量、3~20mmロームブロック5%含む
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭少量、5~15mmロームブロック7%含む
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量、3~5mmロームブロック5%含む
- 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有 5~100mmロームブロックの堆積層(地山掘削土の埋め戻し層)
- 10YR3/4 暗褐 締まり無、粘性有 1~2mmローム粒中量、3~20mmロームブロック15%含む
- 2.5Y3/2 黒褐 締まりやや有、粘性有 1~2mmローム粒少量、3~5mmロームブロック3%含む

[SK-089]

- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒微量、炭少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有

[SK-100]

- 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量、5~20mmロームブロック5%含む
- 10YR3/4 暗褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~70mmロームブロック20%含む
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 5~10mmロームブロック3%含む
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~50mmロームブロック10%含む
- 10YR5/6 黄褐 ブロック状の地山ローム層土
- 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量含む
- 10YR5/6 黄褐色土(地山ローム層土)と10YR3/1黒褐色土の混合土層 締まり強く粘性有
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 1mmローム粒・炭少量含む



[SK-077]

- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む
- 10YR3/4 暗褐 締まり無、粘性やや有 1mmローム粒少量、5~30mmロームブロック10%含む
- 10YR3/2 黒褐 締まり無、粘性有 1mmローム粒少量、3~10mmロームブロック2%含む

[SK-069]

- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性無 1mmローム粒微量、炭少量含む
- 10YR4/3 におい黄褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~15mmロームブロック2%含む
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~5mmロームブロック3%含む
- 10YR3/2 黒褐 締まり無、粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む
- 10YR3/3 暗褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒微量含む

[SK-083]

- 10YR3/2 黒褐 締まり有、粘性無 1mmローム粒微量、炭少量含む
- 10YR4/3 におい黄褐 締まり無、粘性やや有 地山ローム層土の流れ込み
- 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒中量含む
- 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 10YR4/4 褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~30mmロームブロック25%含む
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量、3~10mmロームブロック5%含む

[SK-082]

- 10YR2/1 黒 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭微量含む 30~100mm黒色土ブロック25%含む
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 10YR4/4 褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~15mmロームブロック7%含む
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~10mmロームブロック5%含む

[SK-068]

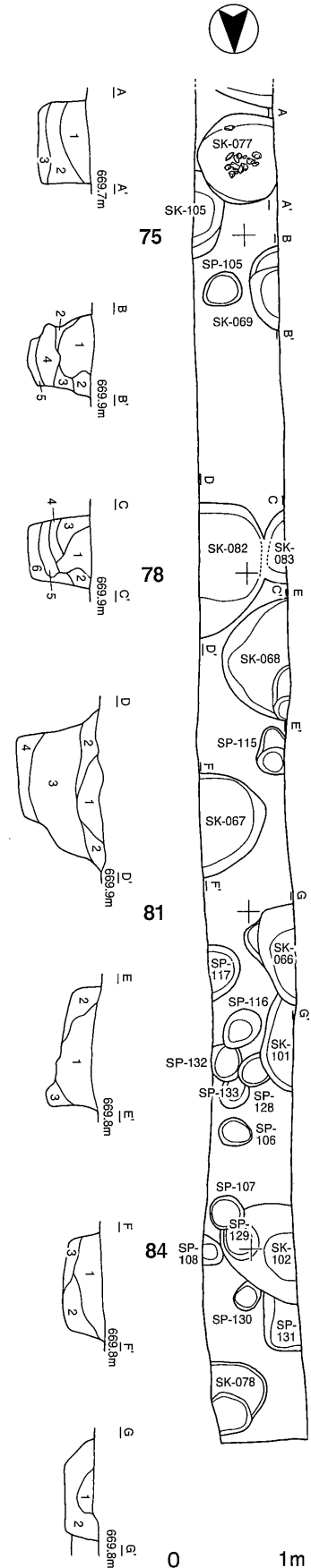
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 10YR3/3 暗褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量含む
- 10YR3/2 黒褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、5~10mmロームブロック3%含む

[SK-067]

- 10YR3/3 暗褐 締まり有、粘性やや有 1mmローム粒少量、3~5mmロームブロック1%含む
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒微量、炭少量含む
- 10YR4/3 におい黄褐 締まり無、粘性有 1~2mmローム粒少量含む

[SK-066]

- 10YR4/4 褐 締まり無、粘性やや有 地山ローム層土の流れ込み
- 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量含む



第12図 下原遺跡第10トレンチ遺構図

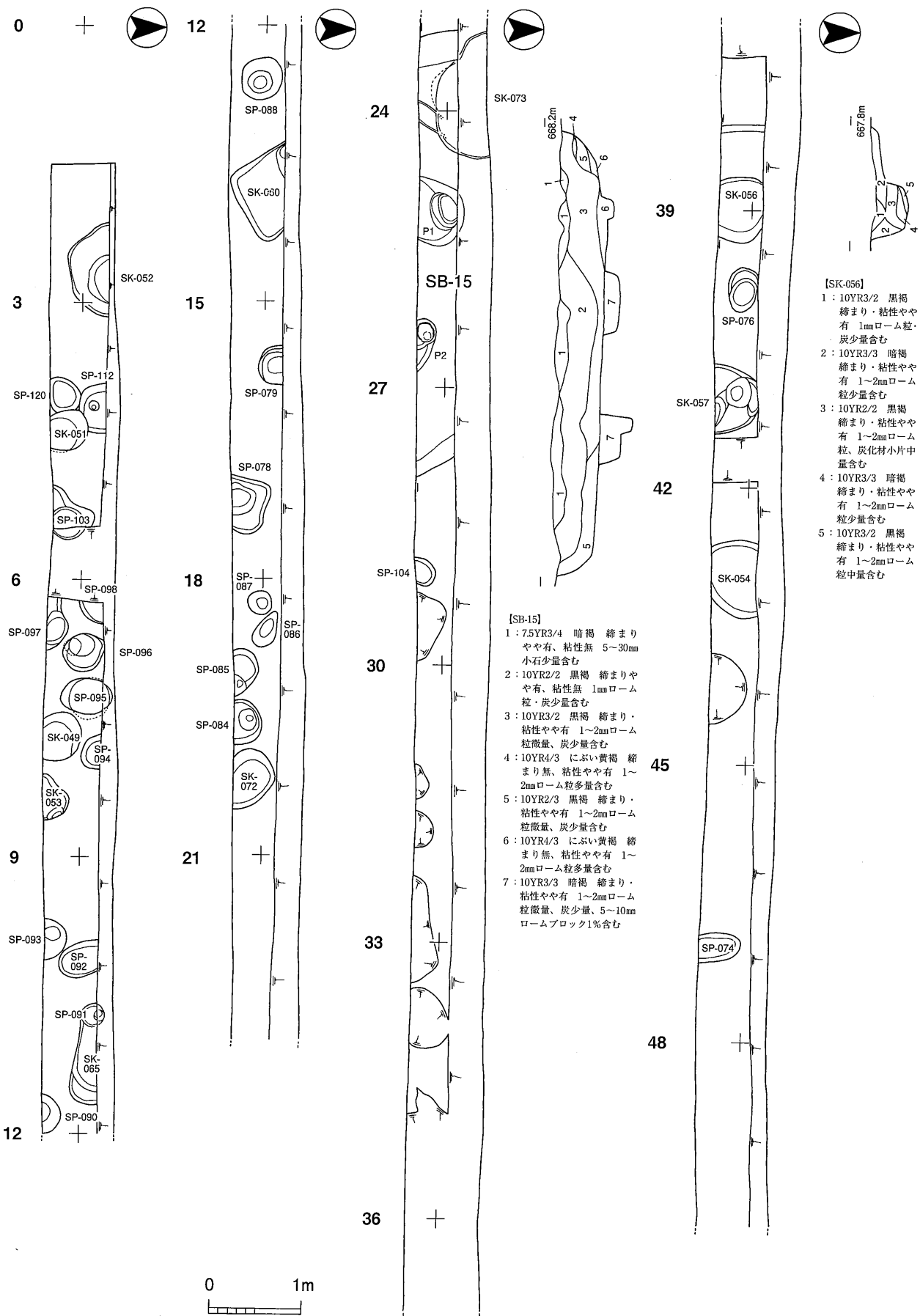


11T 0~11グリッド

11T 12~22グリッド

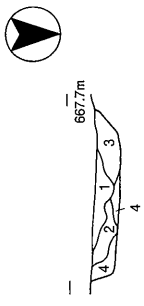
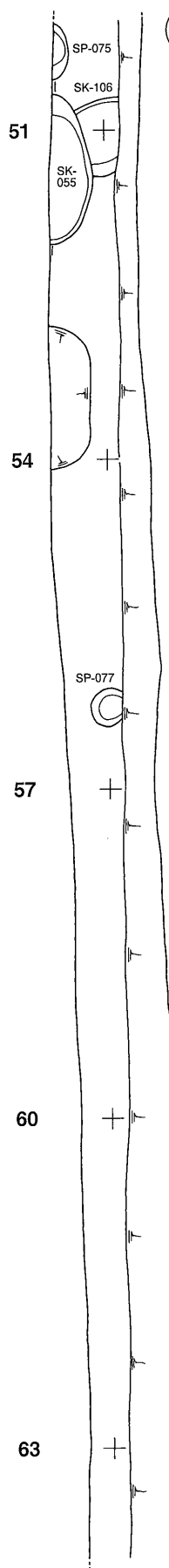
11T 23~36グリッド

11T 37~49グリッド



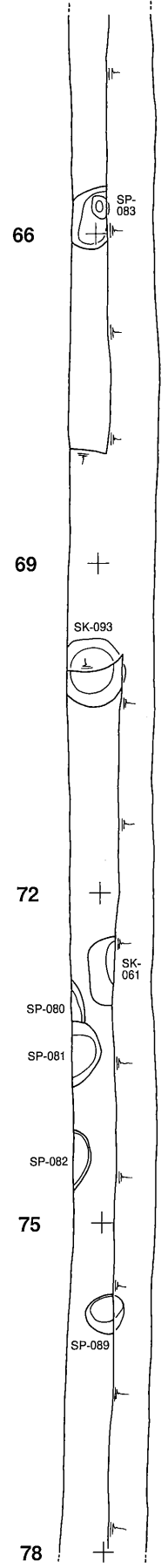
第13図 下原遺跡第11トレンチ (1) 遺構図

11T 50~63グリッド

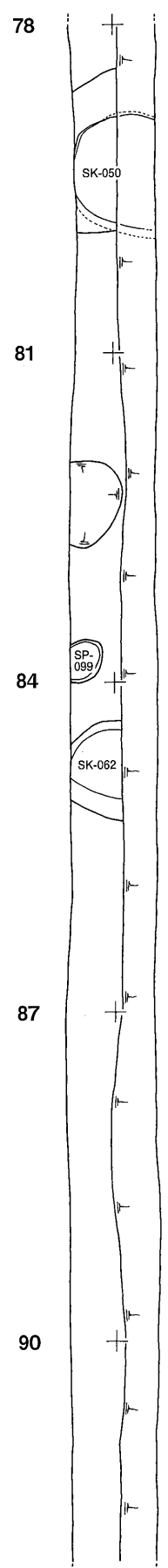


- 【SK-055】
- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む
  - 2: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒 少量含む
  - 3: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒 少量含む
  - 4: 10YR4/4 褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒中量含む

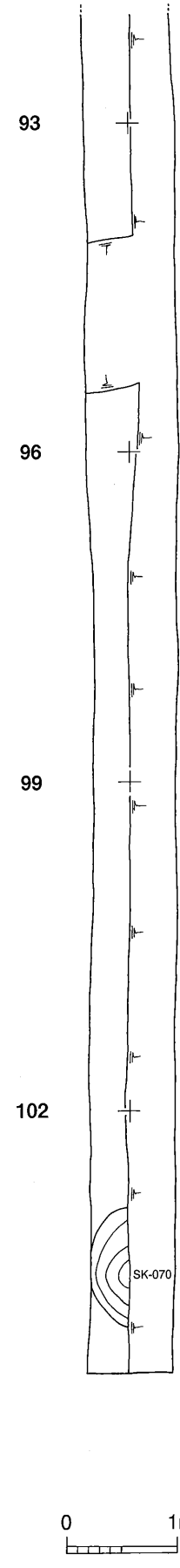
11T 64~77グリッド



11T 78~91グリッド



11T 92~104グリッド



第14図 下原遺跡第11トレンチ (2) 遺構図

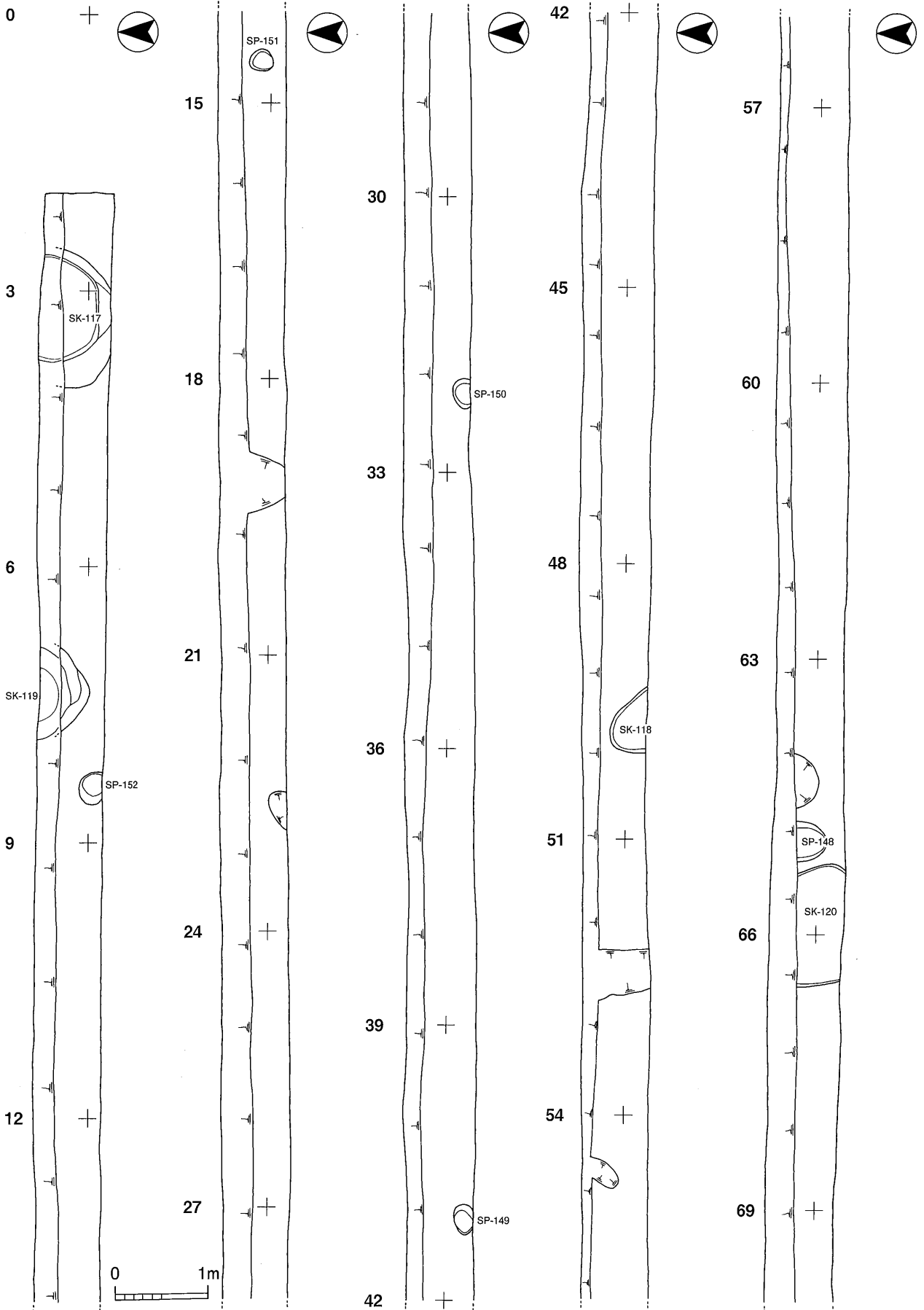
20T 1~13グリッド

14~27グリッド

28~41グリッド

42~55グリッド

56~69グリッド



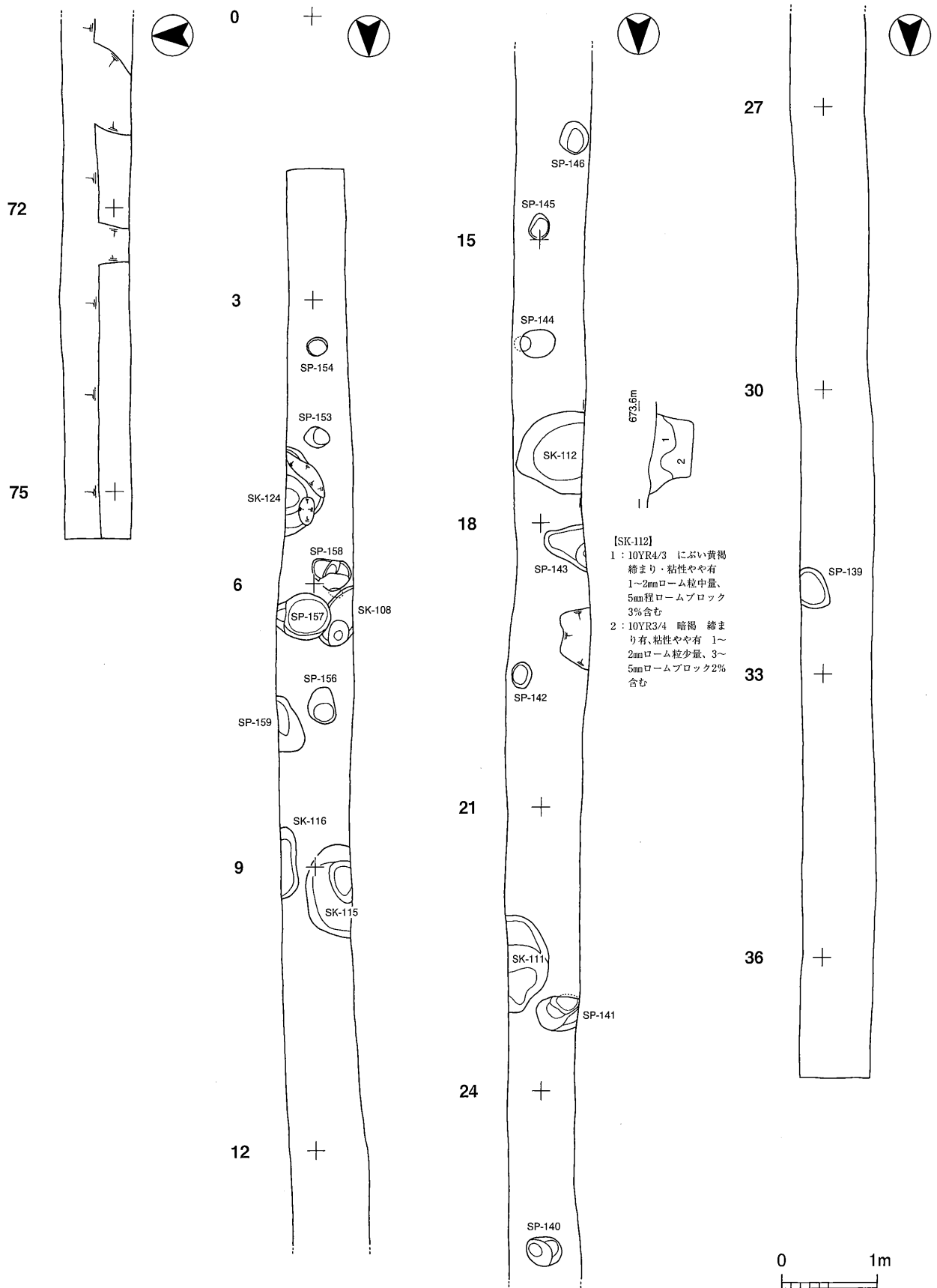
第15図 下原遺跡第20トレンチ (1) 遺構図

20T 70~75グリッド

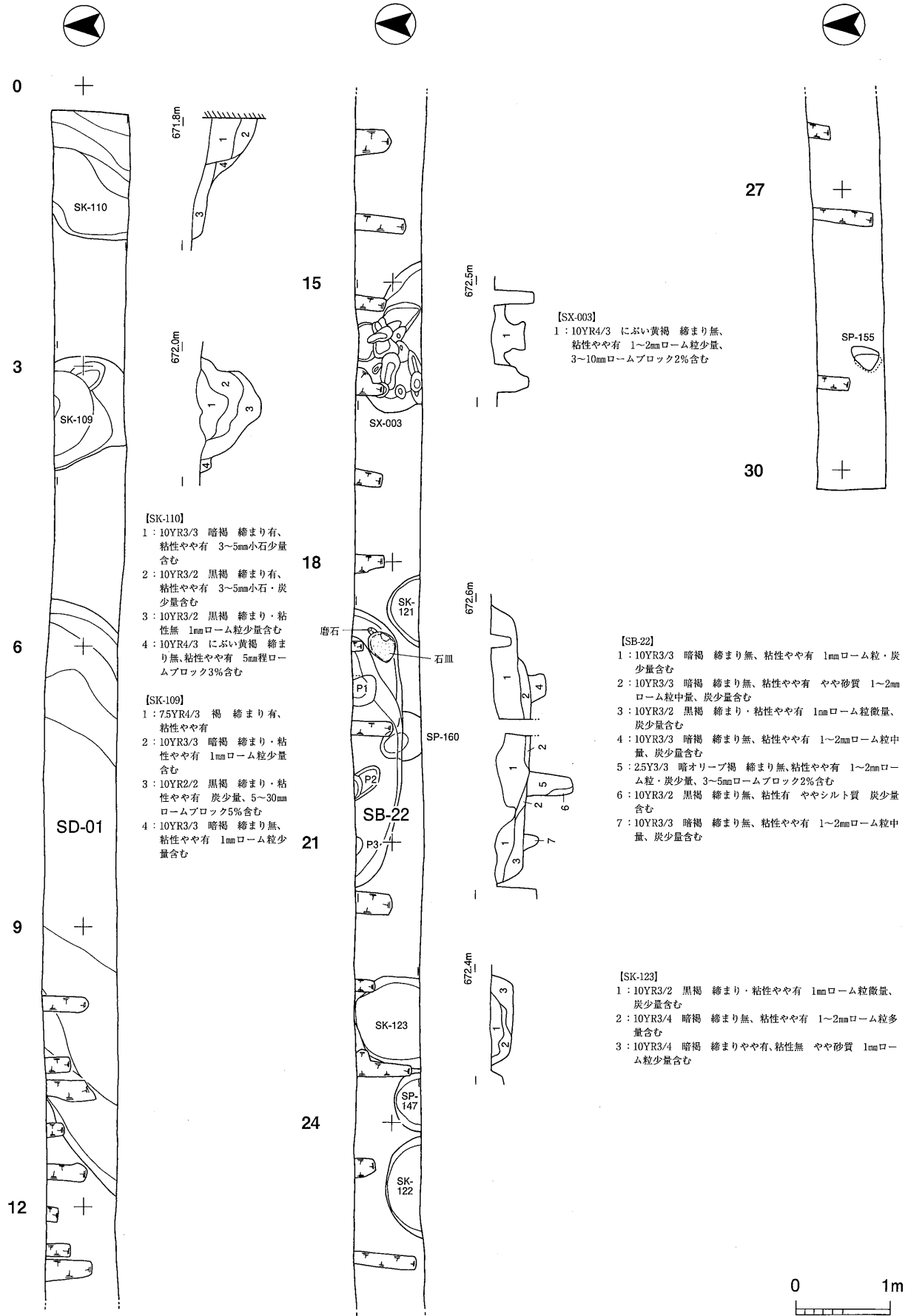
23T 0~12グリッド

23T 13~25グリッド

23T 26~37グリッド



第16図 下原遺跡第20トレンチ (2)・第23トレンチ遺構図



- [SK-110]
- 1: 10YR3/3 暗褐 締まり有、粘性やや有 3~5mm小石少量含む
  - 2: 10YR3/2 黒褐 締まり有、粘性やや有 3~5mm小石・炭少量含む
  - 3: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性無 1mmローム粒少量含む
  - 4: 10YR4/3 にぶい黄褐 締まり無、粘性やや有 5mm程ロームブロック3%含む

- [SK-109]
- 1: 7.5YR4/3 褐 締まり有、粘性やや有
  - 2: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒少量含む
  - 3: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 炭少量、5~30mmロームブロック5%含む
  - 4: 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性やや有 1mmローム粒少量含む

- [SX-003]
- 1: 10YR4/3 にぶい黄褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~10mmロームブロック2%含む

- [SB-22]
- 1: 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む
  - 2: 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性やや有 やや砂質 1~2mmローム粒中量、炭少量含む
  - 3: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒微量、炭少量含む
  - 4: 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭少量含む
  - 5: 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック2%含む
  - 6: 10YR3/2 黒褐 締まり無、粘性有 ややシルト質 炭少量含む
  - 7: 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭少量含む

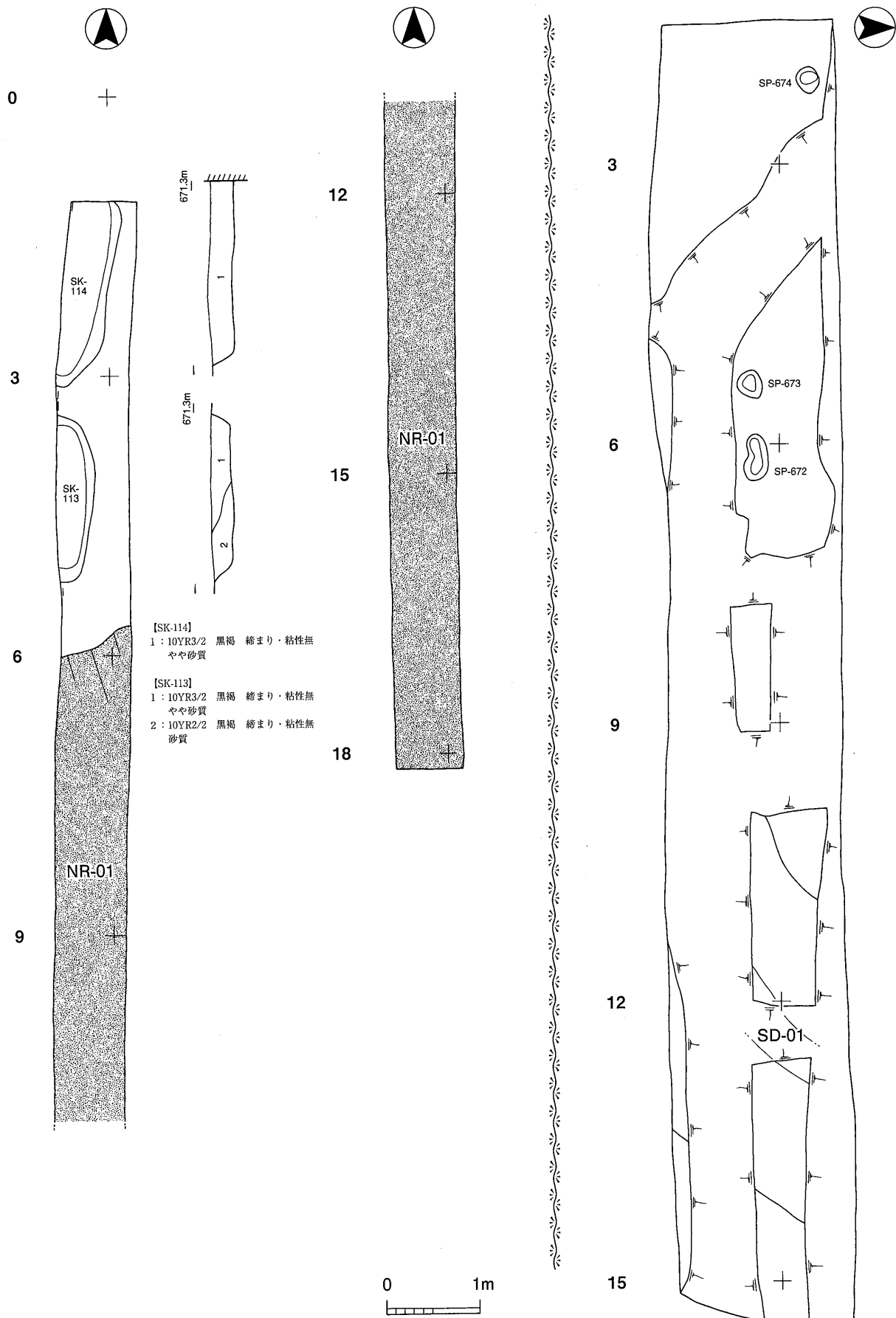
- [SK-123]
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒微量、炭少量含む
  - 2: 10YR3/4 暗褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒多量含む
  - 3: 10YR3/4 暗褐 締まりやや有、粘性無 やや砂質 1mmローム粒少量含む

第17図 下原遺跡第24トレンチ遺構図

25T 0~10グリッド

25T 11~18グリッド

1T 0~15グリッド



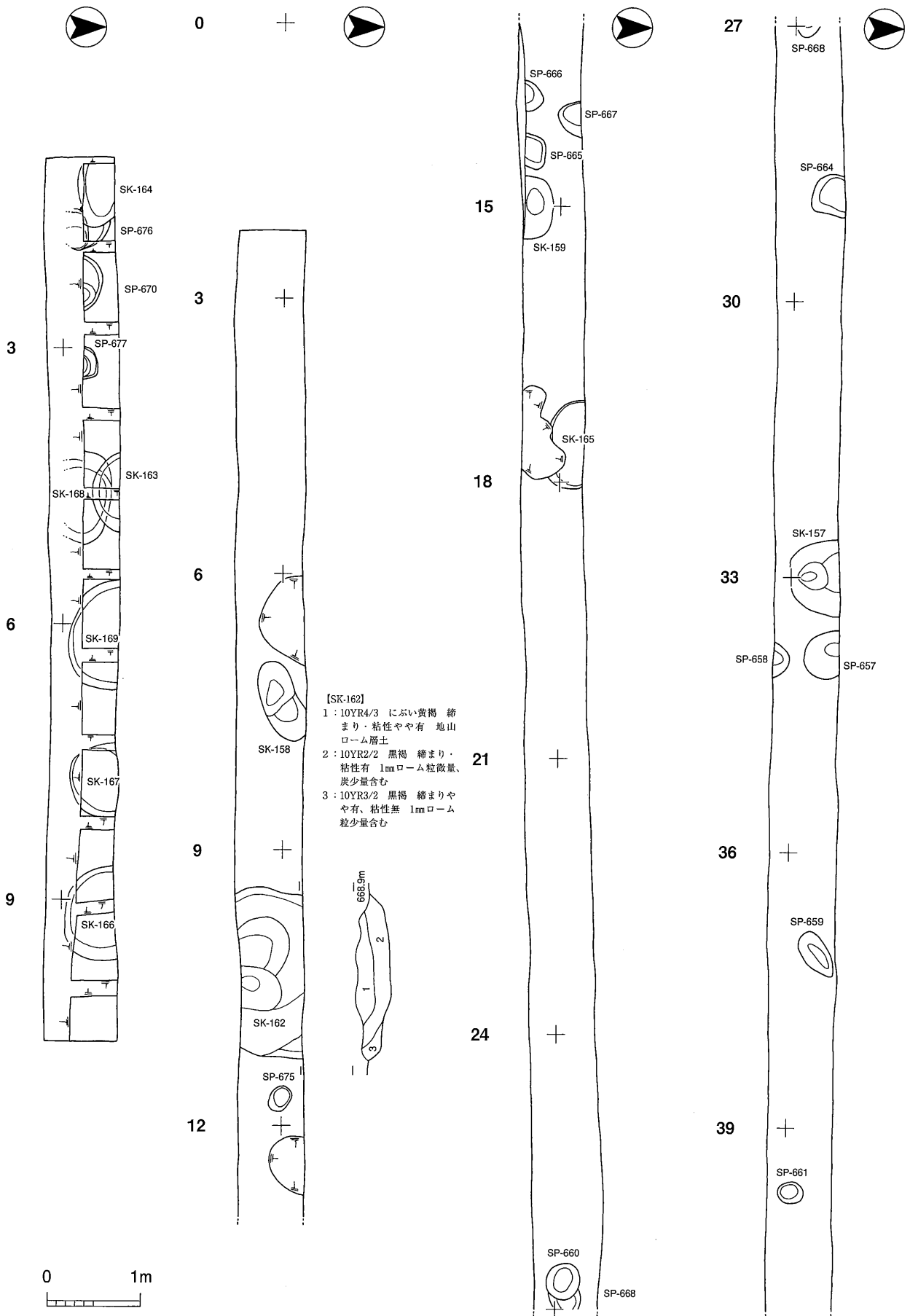
第18図 下原遺跡第25トレンチ・三夜塚遺跡第1トレンチ遺構図

4T 0~11グリッド

8T 0~12グリッド

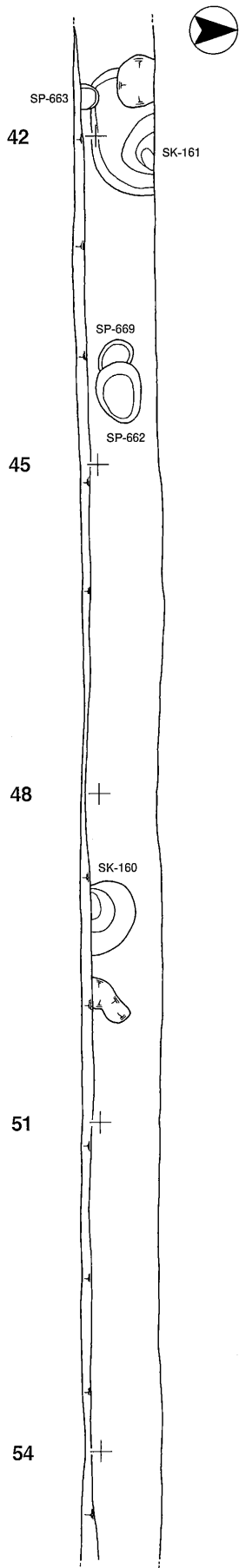
8T 13~26グリッド

8T 27~40グリッド

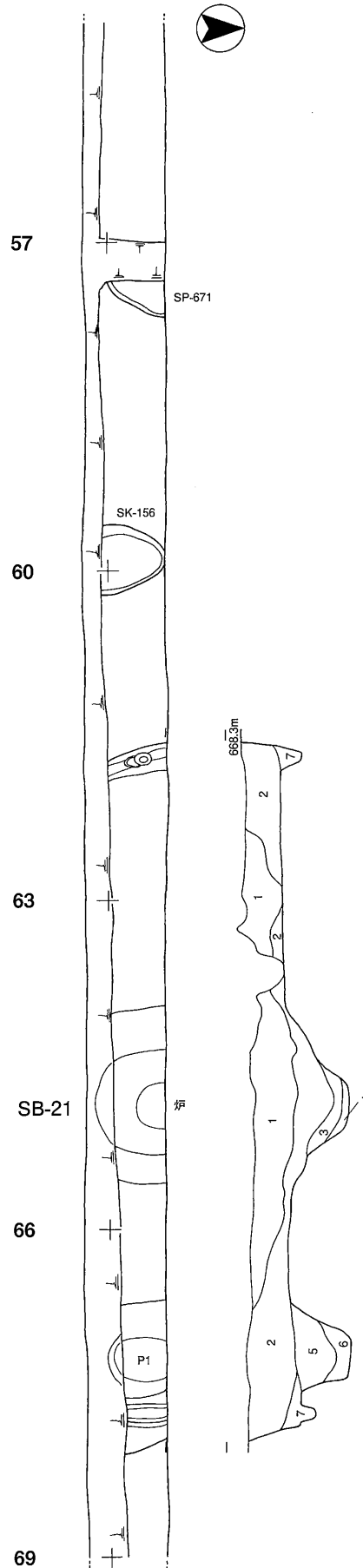


第19図 三夜塚遺跡第4トレンチ・第8トレンチ (1) 遺構図

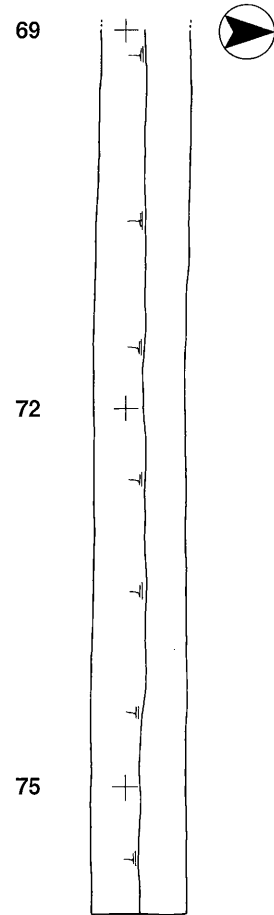
8T 41~54グリッド



8T 55~68グリッド



8T 69~75グリッド



【SB-21】

- 1 : 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量含む
- 2 : 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック2%含む
- 3 : 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性有 1~2mmローム粒中量、炭少量、3~10mmロームブロック3%含む
- 4 : 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性有 1~2mmローム粒中量、炭少量、3~10mmロームブロック10%、焼土粒多量含む
- 5 : 10YR3/4 暗褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒多量、3~25mmロームブロック25%含む
- 6 : 10YR3/2 黒褐 締まり強、粘性有 1~2mmローム粒中量、3~10mmロームブロック7%含む
- 7 : 10YR4/2 灰黄褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~5mmロームブロック5%含む



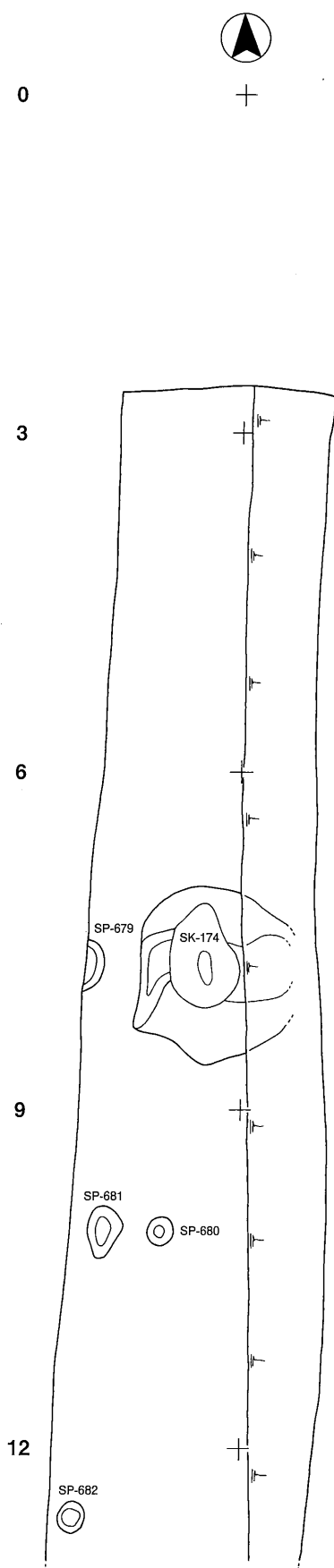
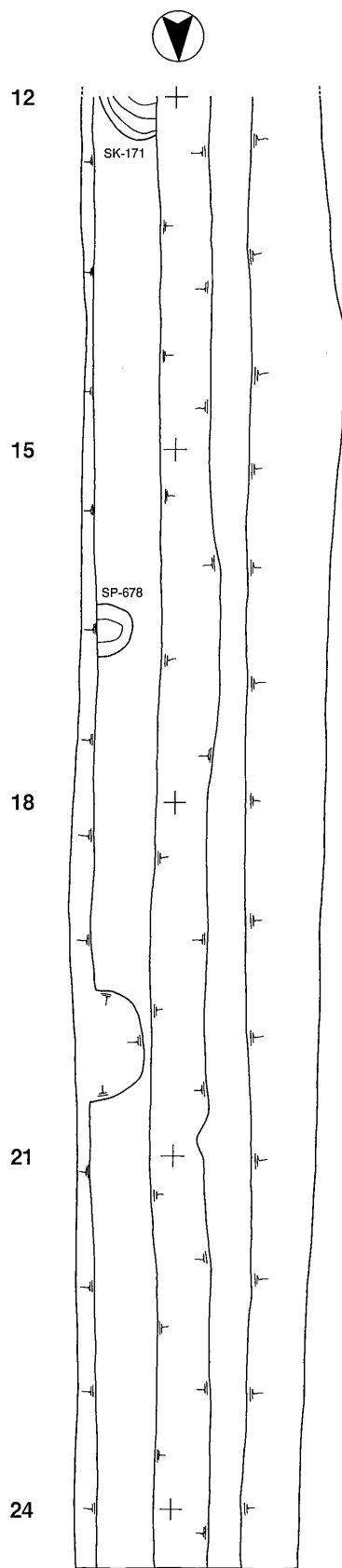
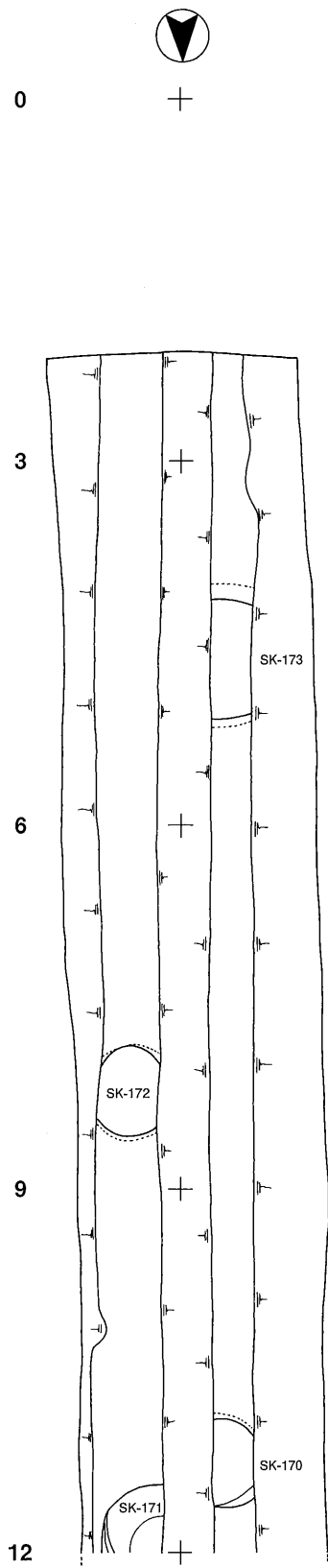
第20図 三夜塚遺跡第8トレンチ (2) 遺構図



13T 0~12グリッド

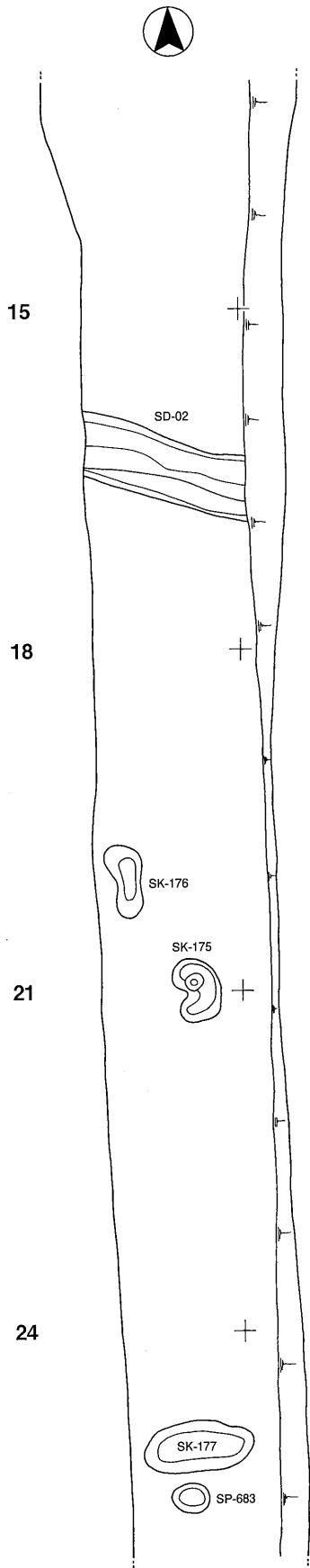
13T 12~24グリッド

17T 0~12グリッド

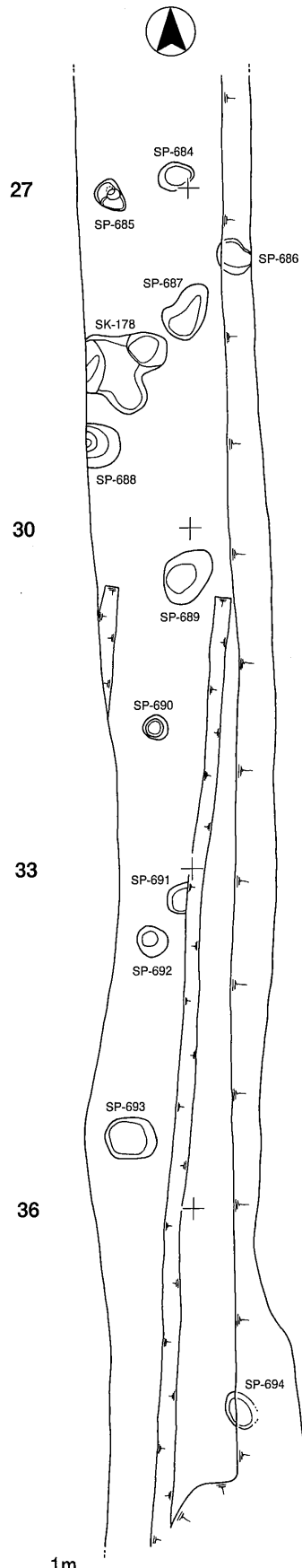


第21図 三夜塚遺跡第13トレンチ・第17トレンチ (1) 遺構図

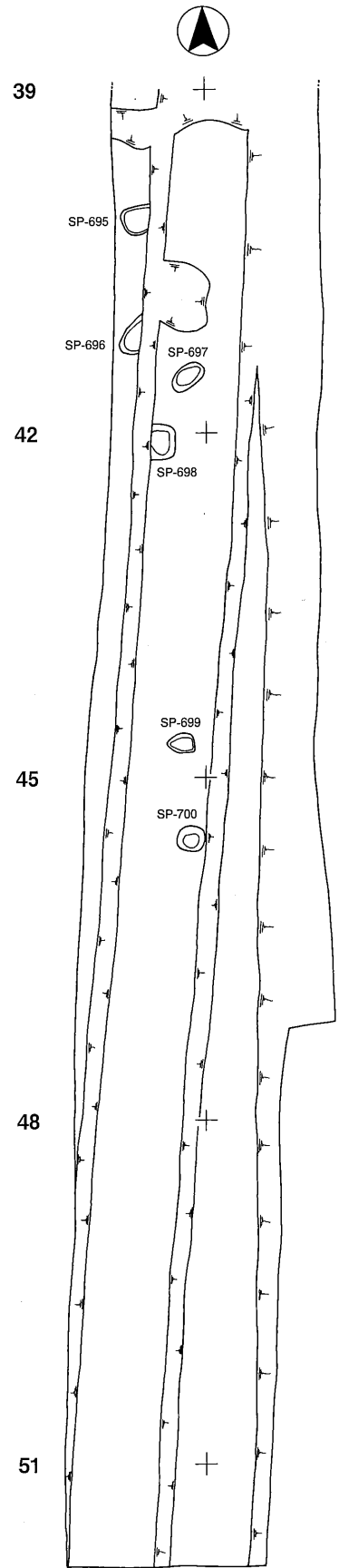
17T 13~25グリッド



17T 26~38グリッド

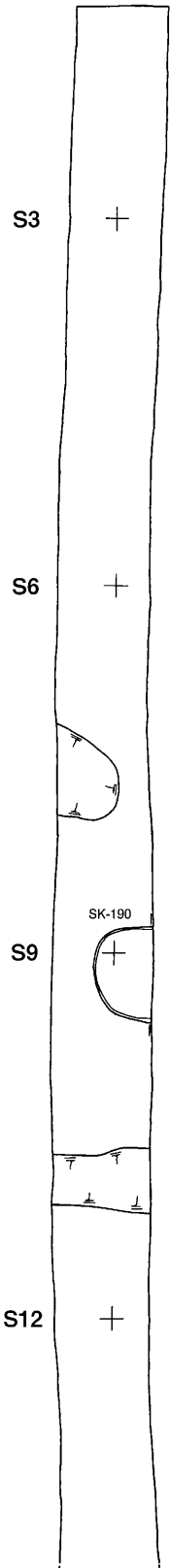


17T 39~51グリッド



第22図 三夜塚遺跡第17トレンチ (2) 遺構図

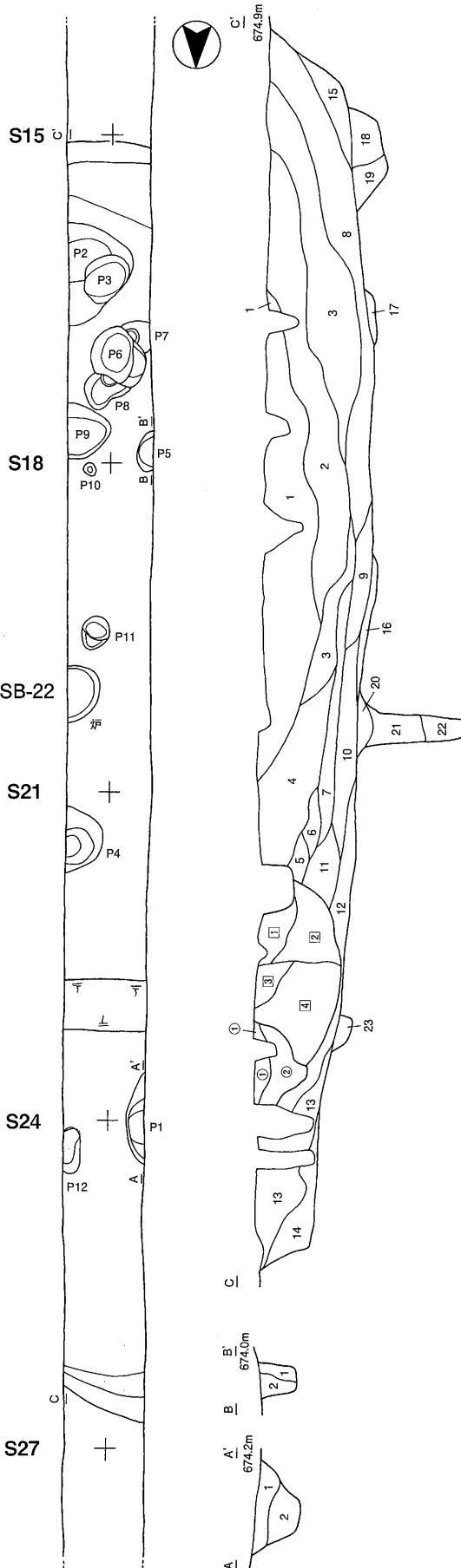
21T S0~S13グリッド



- [SK-190]
- 10YR2/1 黒 締まり・粘性やや有 1mm ローム粒少量含む
  - 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mm ローム粒少量含む
  - 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mm ローム粒中量、5~20mm ロームブロック 15% 含む
  - 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性やや有 1~2mm ローム粒多量含む



21T S14~S27グリッド

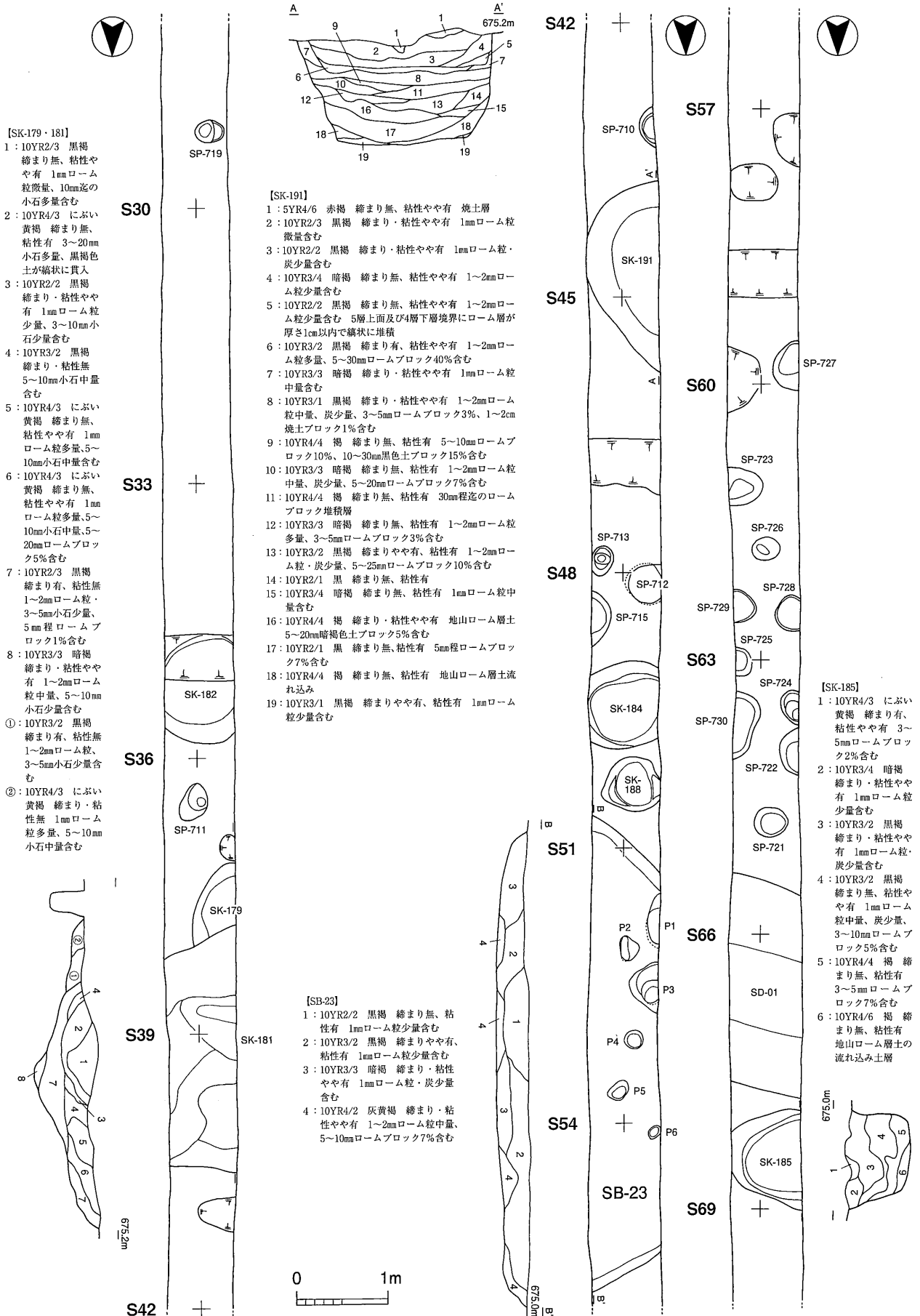


- [SB-22]
- 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mm ローム粒微量、炭・5mm 粒小石少量含む
  - 10YR3/1 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1mm ローム粒微量、炭少量含む
  - 10YR2/3 黒褐 締まり弱、粘性やや有 1mm ローム粒少量含む
  - 2.5Y3/2 黒褐 締まりやや有、粘性弱 5~10mm 小石中量含む
  - 2.5Y3/2 黒褐 締まり有、粘性弱 1mm ローム粒少量、3~5mm 小石中量含む
  - 5YR4/6 赤褐 焼土層
  - 10YR3/2 黒褐 締まりやや有、粘性有 1mm ローム粒少量含む
  - 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mm ローム粒・炭・5mm 粒小石少量含む
  - 10YR4/3 におい黄褐 締まりやや有、粘性有 1~2mm ローム粒中量含む
  - 10YR4/4 褐 締まり弱、粘性有 地山ローム腐土投げ込み土
  - 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1~2mm ローム粒微量、3~5mm 小石少量含む
  - 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mm ローム粒・5mm 粒小石少量含む
  - 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mm ローム粒・炭・3~5mm 小石少量含む
  - 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mm ローム粒・5mm 粒小石中量、5~10mm ロームブロック 2% 含む
  - 10YR2/2 黒褐 締まり無、粘性やや有 1~2mm ローム粒中量、炭少量含む
  - 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性有 炭・焼土粒少量含む
  - 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性有 1~2mm ローム粒多量、炭少量、3~5mm ロームブロック 5% 含む
  - 10YR2/3 黒褐 締まり無、粘性有 1mm ローム粒・炭少量、5mm 粒ロームブロック 1% 含む
  - 10YR3/2 黒褐 締まり無、粘性有 1~2mm ローム粒少量、3~5mm ロームブロック 2% 含む
  - 10YR3/2 黒褐 締まりやや有、粘性有 1~2mm ローム粒・炭少量含む
  - 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性有 1~2mm ローム粒中量、炭少量、3~10mm ロームブロック 5% 含む
  - 10YR4/4 褐 締まり無、粘性有 ブロック状の地山ローム土層
  - 10YR3/2 黒褐 締まり無、粘性有 1~2mm ローム粒少量、3~5mm ロームブロック 2% 含む
  - 10YR3/2 黒褐 締まり有、粘性やや有 1mm ローム粒微量、5~10mm 小石少量含む
  - 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性弱 1mm ローム粒・5mm 粒小石少量含む
  - 10YR3/2 黒褐 締まり有、粘性弱 3~5mm 小石少量含む
  - 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 炭・5mm 粒小石少量含む
  - 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1mm ローム粒少量含む
  - 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 炭・5mm 粒小石中量含む

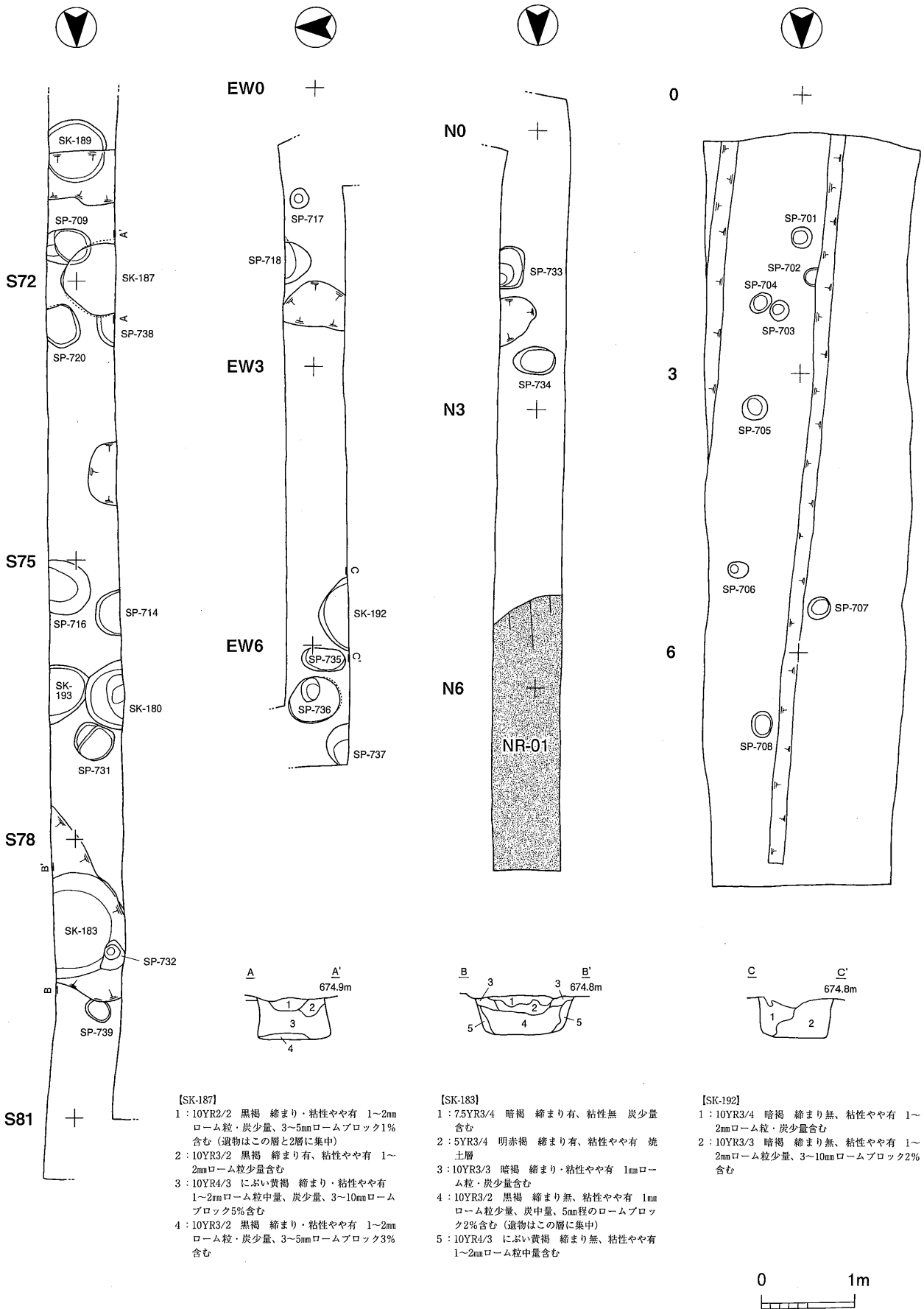
- [SB-22内 P5]
- 10YR2/2 黒褐 締まり無、粘性有 1~2mm ローム粒・炭少量含む
  - 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性有 1~2mm ローム粒中量含む

- [SB-22内 P1]
- 10YR3/2 黒褐 締まり無、粘性有 1~2mm ローム粒少量、3~5mm ロームブロック 2% 含む
  - 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性有 1~2mm ローム粒中量、炭少量、3~10mm ロームブロック 5% 含む

第23図 三夜塚遺跡第21トレンチ (1) 遺構図



第24図 三夜塚遺跡第21トレンチ (2) 遺構図



- 【SK-187】**
- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mm ローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック1% 含む (遺物はこの層と2層に集中)
  - 2: 10YR3/2 黒褐 締まり有、粘性やや有 1~2mmローム粒少量含む
  - 3: 10YR4/3 におい黄褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒中量、炭少量、3~10mmロームブロック5%含む
  - 4: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量、3~5mmロームブロック3% 含む

- 【SK-183】**
- 1: 7.5YR3/4 暗褐 締まり有、粘性無 炭少量 含む
  - 2: 5YR3/4 明赤褐 締まり有、粘性やや有 焼土層
  - 3: 10YR3/3 暗褐 締まり・粘性やや有 1mmローム粒・炭少量含む
  - 4: 10YR3/2 黒褐 締まり無、粘性やや有 1mmローム粒少量、炭中量、5mm程のロームブロック2%含む (遺物はこの層に集中)
  - 5: 10YR4/3 におい黄褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒中量含む

- 【SK-192】**
- 1: 10YR3/4 暗褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒・炭少量含む
  - 2: 10YR3/3 暗褐 締まり無、粘性やや有 1~2mmローム粒少量、3~10mmロームブロック2% 含む

第25図 三夜塚遺跡第21トレンチ (3)・第18トレンチ遺構図

## V 出土遺物

### 1 土器

今回の調査では非常に多くの土器が出土したが、限られた狭い幅の中での調査ということもあってか、完形に復元できた資料は数個で破片が多い。従って両遺跡とも住居址・土坑から出土の残存度合いが良い資料のみを図化掲示したが、時間的制約からそれでも多くを省略せざるを得なかった。出土土器は縄文前期末～後期にまで及ぶが、主体は中期後葉である。以下時期ごと先学による土器編年に基づき概観するが、紙数の都合もあり代表的なものについて記述しておく。

#### (1) 縄文前期末から中期初頭の土器

三夜塚遺跡第1・13・21トレンチからのみ出土しており、第13トレンチでは土坑から、第21トレンチでは大型竪穴式住居址から出土している。

第33図84は三夜塚遺跡SK-170から出土した筒状把手を有す土器で、土坑が攪乱を受けていたため、全形が残らなかったがほぼ全体の様子が窺える。器形は胴部下半が膨らみ胴部上半ですぼまり、頸部にかけてはいったん膨らんでからすぼまる。口縁部は湾曲しながら開く波高の高い4単位の波状口縁となり、波頂部は筒状で、表面からは筒の中央まで三角形の透かし穴が5つ開く。器面の全体には半截竹管による沈線文が施文され縄文はない。胴部上半までは横方向に幅狭く区画され、それ以下は縦方向に連続性を持った弧状及びX字状の区画がなされる。区画した中は斜平行沈線でうめ、区画外の空白部はナデ調整されており器面の削り取りはない。なお同じ土坑から出土した87の空白部は器面が削り取られている。大きな波状口縁で筒状把手を有す土器は、北陸真脇式に顕著である。しかし真脇式は縄文地であるが、この土器に縄文は一切ない。前期末の様々な地域の土器様相が融合しているということであろうか。

この他に前期末の土器は三夜塚遺跡SB-22から出土している。半截竹管による沈線文より器面を区分けし平行線を充填する85は住居址内ピットから出土しており、覆土中からは縄文地で結節浮線文が貼り付けられた91、結節沈線文(88)やヘラ切り沈線文(89・90)を施文する前期末に位置づけられるものから、中期初頭に位置づけられるもの(94・95等)まで見られた。

#### (2) 縄文中期中葉の土器

下原遺跡第2トレンチからわずか藤内I式の土器が出土したのみである。第26図1はSK-043から出土した深鉢の大片で、脇にキャタピラー文が伴う隆帯によって横方向に文様帯を分かち、胴部上半は縄文施文される。口縁部は楕円状に、胴部下半は四角または三角形に同様な隆帯により区画し、内部に三叉文が入る。2は口縁の突起部で、爪形文が脇に添う隆帯により複雑な装飾をしており、隆帯上に刻目も入る。3には抽象文の一部と見られる隆帯の貼付がありキャタピラー文が伴い、三角押文も見られる。

#### (3) 縄文中期後葉の土器

今回の調査で最も多く出土した時期である。なお時期区分は、同じ山形村殿村遺跡の出土土器を主として時期区分された百瀬忠幸氏の4期区分に依拠する。

I期の土器は下原遺跡SB-03・15・21等から出土した。第26図10や第27図15に見られる櫛形文は、中葉井

戸尻式の要素を残すものであるが、胴部下半に膨らみがあり下位へ下がっているのが後葉のものと思われる。SB-15内ピットから出土した第27図17は中野山越A2類と呼ばれるものでI期でも古い段階、また同住居址覆土中出土の16は、口縁部に貼付された重弧状の隆帯が1段でありこれよりやや新しい様相を示す。胴部に梯子状沈線文が見られる第26図9等はI期でも新しい様相を示す。

II期は下原遺跡SB-04・19等から出土した。SB-19出土の第28図21は、綾杉状沈線を地文とし胴部上半に交互刺突文が中に配された横位区画をもつ土器で、この期に位置づけられる。この土器に有孔鏝付土器（第28図20）が共伴する。胴部が大きく膨らむ壺形で大きな鏝が巡り、2個1単位の小孔が鏝の直上の器壁に穿たれる。胴部には一部が橋状把手となったW字状の大柄隆帯が4単位配され、その間の上部には横にしたS字状の隆帯が貼り付けられる。またこの土器の隣からは釣手土器（第28図22）も出土している。断片的なものだが浅い鉢形の器形で、口縁部が肥厚しここに文様が集中する。渦巻状隆帯を基点として隆帯を口縁部に沿って貼り付け、その脇に棒状工具の先端で刺突した小さな円文が連続して並ぶ。

III期は下原遺跡SB-09・14・16、三夜塚遺跡SB-21等がある。三夜塚遺跡SB-21出土の第34図100・102は樽形の器形で、100は2本の横走隆帯により、102は横位区画文帯によって口縁部に幅の狭い無文帯をつくる。100は整った綾杉状沈線文を地文とし、S字状となった渦巻隆帯を基点として3本1組の隆帯が垂下し、その間と思われる間隔をもった箇所には蛇行した1本の隆帯も垂下する。102は大柄の渦巻文が隆帯によって描かれ、間に斜短沈線文を充填している。同一遺構のためここに書いたが、100はII期まで下り、102はこの期かと思われる。下原遺跡SB-16埋甕である第30図42は、同じく樽形の器形で、口縁部に幅の狭い無文帯を2本の横走隆帯によって作り、胴部に3本1組の隆帯を4単位垂下させる。いずれの隆帯にも脇に沈線が伴う。胴部の大柄渦巻文は沈線によって描かれており、綾杉状とならない沈線が地文として描かれる。この時期から一定量を占める様になると言われる加曾利E式系の土器（第29図35等）も出土している。

IV期は下原遺跡SB-08や三夜塚遺跡SK-183等から出土している。樽形器形の第31図53は横走隆帯により口縁部無文帯を設け、胴部には隆帯を「冂」状に垂下させその間に1本の脇を指頭でなでた隆帯を蛇行垂下させる。弱々しいながら綾杉状沈線地文で勾玉文も見られる。これよりも新しい様相を示す第34図105は、1本の横走隆帯で口縁部無文帯をつくり、胴部には隆帯が間隔をおいて垂下し器面を縦に7分割している。その区画は無文の所と綾杉状沈線を施文する所が交互に並び、1箇所だけ綾杉状沈線を施文する区画が並ぶ。53・105と同じ器形の第35図108は、口縁部無文帯は横走隆帯だが、胴部は沈線によって画され綾杉状沈線が施文されている。また地文に縄文をもつ加曾利E式系土器（第30図46・47）や、大木式土器の影響が言われる土器（第30図51・52、第29図33）、小片のためどこの時期とするのがよいのかはっきり分からないが、結節縄文が見られる小片2点（第31図58・59）も出土している。

#### (4) 縄文後期の土器

下原遺跡第23トレンチにてややまとまった量見られたが破片ばかりで、他の箇所でもわずかに出土したのみである。渦巻状の沈線が見られる第31図65や沈線区画内を縄文で充填する第32図74等、中期末の様相を引き継ぐ第31図63等は後期初頭称名寺式期に、地文はないが渦巻状の沈線文を配しそれぞれを千鳥掛状に連結する第32図67・69等は、後期前葉堀之内1式期に位置づけられると思われる。また文様要素が少ないため明確な時期が分かりにくいのが、蓋である68はこの位の時期かと思われる。82は口縁部の屈折部に刺突がありそれ以下には沈線区画内に縄文を充填してあり、堀之内式から加曾利B式に、羽状の沈線文が見られる第32図80・81、口縁部がく字状に屈折し端部と屈折部に縄文が施文される83は、後期後半に位置付けられると思われる。

## 2 石器 (第36～48図)

発掘調査では石はすべて持ち帰る様にした。両遺跡は旧唐沢川流路に面してはいるが、厚く堆積したローム層上に遺跡が営まれており、洪水による礫の流入はあまりないと思われることから、多くの石は人為的に運び込まれたと考えられる。持ち帰った石の整理に際して、すべてを扱うことは時間的に難しかったので、定型的な石器を中心に選別した。下原遺跡で468点、三夜塚遺跡で118点にのぼる。図化は予算的制約から、完形品や残存度の良い資料、遺構出土資料を選び実施した。種類毎の形状分類や概観、石材利用等については、追及できなかったので、石器観察表(第5表、第6表)を参照いただきたい。

また現場作業時からチャートの原石や大きな剥片が数多く目に付き、他遺跡より比率的に多いのではないかと感じたため、石材利用の状況を明らかにすべく、同じ剥片石器の素材として使われる黒曜石と共に、剥片まで全点の抽出を行った。下原遺跡では黒曜石原石3点、同石核6点、同剥片569点、チャート原石120点、同石核37点、同剥片290点を数える。三夜塚遺跡では黒曜石剥片346点、チャート原石2点、チャート剥片37点を数える。下原遺跡のチャート原石120点は、石器製作の材料となり得ない様な小さなものも一部含まれるが、それでも多い印象を受ける。これらはまったく割れていないものもあるが、1回程度だけ割ったものが目立ち、まるで少し割ることで石の良し悪しを判断し、悪いものは捨てたという感を受ける。なおチャート原石が多い割にチャート剥片は少なく、黒曜石が総計915点あるのに、チャートは総計327点に過ぎない。これは様々な要因があるのかもしれないが、一番は回収精度による所が大きいと思われる。黒曜石剥片は1g以下の細かいものが523点あるのに対し、チャート剥片は1g以下が20点しかない。黒曜石は掘削作業時にキラリと輝くので分かりやすいが、チャートは分かりにくい。5g以上のチャート剥片が217点もあることもこれを裏付けていると思われる。時期ごとに、また分類等より詳細に追求したいところであったが、他の作業に追われ十分に時間を割く事ができなかった。ただ個数を数え雑感を記した程度にしか過ぎないものになってしまったが、一応重さのみを計測した一覧表(第7表、第8表)を掲載したので、後刻の研究を待ちたい。

## 3 土製品 (第49図)

土偶7点、耳栓1点、その他1点が出土した。

土偶はすべて第7トレンチから第11トレンチという狭い範囲から出土しており、土器が多出した第2トレンチからは1点も出土していない。全形を窺えるものではなく、残存部位別に見ると頭部1点、胴部3点、脚部2点、腕部1点である。1は唐草文系土器の時期に良く見られるもので、腹部がへそ状に高まり尻部が大きく張り出し、両脚部の破断面に芯棒の痕跡がある。2・3は胴部から腕部を板状に作り、乳房の突起を捻り出したものである。4・5は脚部のみが残り、両者とも破断面等に芯棒の痕跡が見られる。6は頭部の資料で、鼻が高まり、眼は棒状工具の刺突によって表現され、顔の部分には細い沈線が放射状に引かれている。7は腕部のみで、沈線が3本引かれている。

耳栓1点(9)は、後期の土器が多く見られた第23トレンチから出土した。円環状で装飾はなく、1/4程度のみが残存する。8は土器口縁部の突起部と思われ、顔面を表現したかの様な棒状工具による刺突がある。



第4表 図化土器観察表

図 No	出土位置	法量 (cm)			残存率・残存部位	内面調整	外面色調	胎土	焼成
		口径	底径	高さ					
1	下原2T SK-043フク土			(20.9)	頸部～胴部1/6残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/4 におい黄褐	やや密	やや良好
2	下原2T SB-06フク土			(10.5)	口縁部の一部のみ残存	不定方向へのナデ	10YR4/2 灰黄褐	やや密	良好
3	下原2T SB-06フク土			(9.3)	胴部の一部のみ残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR4/3 褐	やや密	良好
4	下原2T SB-02フク土	(20.0)		(10.1)	口縁部～胴部上半1/4残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 におい黄褐	やや粗	やや良好
5	下原2T SB-02内P2			(8.7)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/6 橙	密	良好
6	下原2T SB-02内P3			(8.2)	胴部中半	ヨコ方向へのナデ	7.5YR4/2 灰褐	やや粗	やや軟
7	下原2T SB-03フク土	16.7		(10.9)	口縁部～頸部3/4、胴部上半1/4残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 におい褐	やや粗	やや軟
8	下原2T SB-03フク土			(14.4)	頸部1/2、胴部上半1/4	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/2 灰褐	やや密	やや軟
9	下原2T SB-03フク土		6.0	(17.0)	頸部以下ほぼ完存	ヨコ方向へのナデ	5YR5/4 におい赤褐	やや密	やや軟
10	下原2T SB-03フク土			(16.5)	胴部中半～下半1/8残存	ヨコ方向へのナデ	10YR7/4 におい黄橙	密	良好
11	下原2T SB-03フク土		8.4	(11.6)	胴部中半～底部1/2残存	ヨコ方向へのナデ	5YR5/4 におい赤褐	やや粗	やや良好
12	下原2T SB-12フク土			(9.1)	口縁部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/6 橙	やや粗	やや良好
13	下原8T SB-21フク土	(16.2)		(21.0)	口縁部～頸部1/3、頸部～胴部下半5/6残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/4 におい黄褐	やや密	やや良好
14	下原11T SK-049フク土	(45.5)		(19.2)	口縁部～頸部1/8残存	ヨコ方向へのナデ	5YR3/1 黒褐	やや粗	良好
15	下原11T SK-049フク土		16.2	(43.1)	胴部1/4、底部完存	胴部：ヨコ方向へのナデ、底部：不定方向へのナデ	5YR5/4 におい赤褐	やや粗	やや良好
16	下原11T SB-15フク土 [27GV層取上げ]			(11.8)	口縁部～胴部上半1/10残存	ヨコ方向へのナデ	5YR4/1 褐灰	やや密	やや良好
17	下原11T SB-15内P2	(22.6)	(9.6)	29.4	底部僅か、口縁部～胴部1/3残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR4/2 灰褐	やや密	やや軟
18	下原2T SB-04フク土	(26.2)		(15.7)	口縁部～胴部中半1/8残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 におい褐	密	やや良好
19	下原2T SB-04フク土			(35.6)	胴部の一部のみ残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 におい褐	やや粗	良好
20	下原8T SB-19フク土	19.6	11.2	42.3	ほぼ完形	ヨコ方向へのナデ	10YR7/4 におい黄橙	やや密	良好
21	下原8T SB-19フク土			(16.8)	頸部～胴部下半1/2残存	ヨコ方向へのナデ	10YR6/4 におい黄橙	やや粗	やや良好
22	下原8T SB-19フク土			(8.6)	釣手欠、口縁部1/4、胴部1/3残存	摩滅不明	10YR5/4 におい黄褐	やや粗	やや軟
23	下原2T SB-09フク土			(8.4)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 におい褐	やや良好	やや粗
24	下原2T SB-09フク土			(6.4)	口縁部～胴部上半	ヨコ方向へのナデ	10YR7/3 におい黄橙	良好	やや密
25	下原2T SB-09フク土			(9.7)	胴部上半	ヨコ方向へのナデ	5YR5/4 におい赤褐	良好	密
26	下原2T SK-016フク土			(8.8)	胴部上半	摩滅不明	10YR4/1 褐灰	粗	やや軟
27	下原2T SK-040フク土			(10.9)	胴部上半	ミガキ様なヨコ方向へのナデ	7.5YR6/6 橙	やや粗	やや良好
28	下原2T SB-14フク土			(6.8)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/6 橙	やや密	良好
29	下原2T SB-14フク土			(5.7)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR7/4 におい黄橙	やや密	やや軟
30	下原2T SB-14フク土			(8.1)	胴部	ヨコ方向へのナデ	5YR5/4 におい赤褐	やや粗	良好
31	下原2T SB-14フク土			(5.4)	口縁部	摩滅不明	10YR5/3 におい黄褐	粗	やや良好
32	下原2T SB-14フク土			(9.5)	口縁部の一部のみ残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 におい褐	やや粗	やや良好
33	下原2T SB-14フク土 [145GV層取上げ]			(8.4)	胴部の一部のみ残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 におい黄褐	やや密	良好
34	下原2T SB-14フク土	(25.2)		(11.5)	口縁部～胴部上半1/6残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや粗	良好
35	下原11T SB-17フク土			(11.0)	胴部の一部のみ残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/4 におい黄褐	やや粗	良好
36	下原 既出品		8.2	(48.3)	口縁部欠損	ヨコ方向へのナデ	7.5YR4/2 灰褐	やや粗	やや良好
37	下原2T SB-07フク土	(21.5)		(8.8)	口縁部～頸部1/6残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 におい褐	粗	やや良好
38	下原2T SB-07フク土	(27.4)		(19.0)	口縁部～胴部1/8残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 におい褐	密	良好
39	下原2T SB-07フク土	(29.0)		(24.3)	口縁部～胴部1/6残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 におい橙	粗	やや良好
40	下原2T SB-07フク土			(8.5)	胴部下半1/2残存	ケズリ様な強いヨコ方向へのナデ	5YR4/6 赤褐	やや粗	やや良好

図 No.	出土位置	法量 (cm)			残存率・残存部位	内面調整	外面色調	胎土	焼成
		口径	底径	高さ					
41	下原2T SB-07フク土			(16.9)	胴部上半の一部のみ残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	良好
42	下原8T SB-16埋甕	32.5	11.8	54.5	ほぼ完形	ヨコ方向へのナデ	10YR6/3 にぶい黄褐	やや密	良好
43	下原8T SB-16フク土			(10.2)	口縁部～胴部上半	ヨコ方向へのナデ	7.5YR4/2 灰褐	やや密	やや軟
44	下原2T SB-10フク土			(6.5)	胴部下半	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	やや軟
45	下原2T SB-10フク土			(6.2)	胴部下半	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密	やや良好
46	下原2T SB-08フク土			(12.9)	胴部中半1/4残存	ヨコ方向へのナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	粗	やや良好
47	下原2T SB-08フク土			(12.0)	胴部上半～中半1/4残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗	やや良好
48	下原2T SB-08フク土		8.8	(21.4)	胴部1/4、底部完存	胴部：ヨコ方向へのナデ、底部：不定方向へのナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗	やや良好
49	下原2T SB-08フク土		9.0	(10.2)	胴部下半～底部残存	胴部：ヨコ方向へのナデ、底部：不定方向へのナデ	5YR5/3 にぶい赤褐	やや粗	やや良好
50	下原2T SB-08フク土		5.2	(10.0)	胴部下半1/4、底部完存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	やや密	良好
51	下原2T SB-08フク土	(16.8)		(15.9)	口縁部～頸部1/4、胴部上半～中半7/8残存	ヨコ方向へのナデ	10YR7/3 にぶい黄褐	やや粗	やや良好
52	下原2T SB-08フク土	(19.8)		(14.2)	口縁部～胴部中半1/4残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	やや密	やや軟
53	下原8T 包含層中	(36.3)		(24.5)	口縁部～胴部中半1/2残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/2 灰褐	やや粗	やや軟
54	下原2T SB-05フク土			(11.9)	口縁部～胴部上半	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや密	やや良好
55	下原7T SK-092フク土			(7.6)	胴部下半	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	良好
56	下原23T 9G包含層			(10.8)	胴部下半	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	粗	やや良好
57	下原2T 14G包含層			(12.4)	口縁部～胴部上半	摩滅不明	10YR6/3 にぶい黄橙	やや粗	やや良好
58	下原11T 24G包含層			(6.3)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR7/6 橙	やや粗	やや良好
59	下原11T 24G包含層			(2.7)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや粗	良好
60	下原23T 8G包含層			(5.6)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	やや密	良好
61	下原23T 8G包含層			(8.4)	胴部下半	摩滅不明	7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗	やや良好
62	下原23T 14G包含層			(10.1)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	密	やや軟
63	下原11T SK-050フク土			(10.6)	口縁部～胴部上半	ヨコ方向へのナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	やや密	良好堅緻
64	下原11T 攪乱 【SK-050か】			(4.7)	口縁部	ヨコ方向へのミガキ様なナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	やや密	良好
65	下原18T 一括			(6.4)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR4/1 灰褐	やや密	やや良好
66	下原20T 54～60G包含層			(5.4)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR8/2 灰白	やや密	良好
67	下原2T SK-001フク土		6.5	(14.2)	胴部1/2、底部1/10残存	ヨコ方向へのナデ	7.5Y R5/3 にぶい褐	やや密	良好
68	下原23T 16G包含層		9.8	3.3	つまみ部ほぼ欠、胴部～底部1/8欠	不定方向へのナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	良好
69	下原23T 22G包含層			(5.6)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR4/2 灰黄褐	やや密	良好
70	下原23T 22G包含層			(6.5)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	やや密	やや軟
71	下原23T 7G包含層			(5.6)	胴部上半	ヨコ方向へのナデ	10YR5/2 灰黄褐	密	良好
72	下原23T SK-108フク土			(5.3)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや粗	良好
73	下原11T SK-050フク土			(5.8)	口縁部	ヨコ方向へのナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	やや密	良好
74	下原11T SK-050フク土			(8.9)	口縁部～胴部上半	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗	良好
75	下原20T 56G包含層			(5.2)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや密	良好
76	下原23T 6G包含層			(4.2)	口縁部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	粗	やや良好
77	下原23T 15G包含層			(7.3)	胴部	ミガキ様なヨコ方向へのナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗	やや良好
78	下原24T SK-123フク土			(5.8)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR5/2 灰黄褐	密	良好
79	下原23T 23G包含層			(7.3)	口縁部	ヨコ方向へのナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	やや密	やや良好
80	下原23T 9G包含層			(8.4)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR6/6 明黄褐	粗	良好
81	下原24T SK-123フク土			(5.1)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR4/2 灰黄褐	やや粗	良好
82	下原23T 表土除去時			(5.3)	口縁部	ヨコ方向へのナデ	10YR4/2 灰黄褐	密	良好堅緻
83	下原23T 7G包含層			(4.9)	口縁部	ヨコ方向へのナデ	10YR8/3 浅黄橙	密	良好

図 No.	出土位置	法量 (cm)			残存率・残存部位	内面調整	外面色調	胎土	焼成
		口径	底径	高さ					
84	三夜塚13T SK-170フク土	(25.8)	(30.5)	(11.4)	口縁部～胴部上半1/3、胴部下半1/3残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/6 橙	やや密	やや良好
85	三夜塚21T SB-22内P3		14.0	(14.4)	胴部下半～底部残存	ヨコ方向へのナデ	10YR6/4 にぶい黄褐	やや粗	やや軟
86	三夜塚21T SB-22フク土		6.7	(13.8)	胴部下半～底部残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	やや密	良好
87	三夜塚13T SK-170フク土			(6.8)	胴部下半～底部	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗	やや良好
88	三夜塚21T SB-22フク土			(4.7)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR8/4 浅黄橙	やや粗	良好
89	三夜塚21T SB-22フク土			(6.4)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや密	やや軟
90	三夜塚21T SB-22フク土			(5.6)	胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	粗	やや良好
91	三夜塚21T SB-22フク土			(4.2)	胴部上半	ヨコ方向へのナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	粗	やや良好
92	三夜塚21T SB-22フク土			(5.2)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	やや密	良好
93	三夜塚21T SB-22フク土			(4.9)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密	やや良好
94	三夜塚21T SB-22フク土			(6.7)	口縁部～頸部	ヨコ方向へのナデ	5YR5/3 にぶい赤褐	やや粗	やや軟
95	三夜塚21T SB-22フク土			(7.3)	胴部	ヨコ方向へのナデ	5YR4/4 にぶい赤褐	やや粗	やや軟
96	三夜塚21T 表土除去時			(7.8)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	良好
97	三夜塚21T SB-22フク土			(8.1)	胴部上半	摩滅・剥落著しく不明	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	やや軟
98	三夜塚21T SB-22フク土			(9.2)	口縁部～胴部上半	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	良好
99	三夜塚21T SB-22下層			(13.3)	口縁部～胴部上半	ヨコ方向へのナデ	7.5YR4/2 灰褐	やや粗	やや良好
100	三夜塚8T SB-21炉フク土	(39.2)		(31.0)	口縁部～胴部1/4残存(同一個体と思われる破片他にあり)	ヨコ方向へのナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗	やや良好
101	三夜塚8T SB-21炉フク土	(16.2)		(12.1)	口縁部～胴部1/8残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	やや粗	やや良好
102	三夜塚8T SB-21炉フク土	(29.8)		(26.0)	口縁部～胴部1/4残存	ヨコ方向へのナデ	10YR6/4 にぶい黄褐	密	良好
103	三夜塚21T SK-183フク土	(22.4)	6.5	25.1	口縁部～胴部中半1/3、胴部下半2/3、底部1/1残存	口縁部～胴部中半：ヨコ方向のナデ、胴部中半～下半：タテ方向へのナデ、底部：不定方向へのナデ	7.5YR4/3 褐	やや粗	やや良好
104	三夜塚21T SK-183フク土			(13.7)	口縁部～胴部上半1/8残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗	やや良好
105	三夜塚21T SK-183フク土	48.0		(31.0)	口縁部～胴部中半残存	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/6 橙	粗	やや良好
106	三夜塚21T SK-183フク土		9.2	(10.2)	胴部下半1/2、底部残存	ヨコ方向へのナデ	10YR5/6 明褐	やや密	やや良好
107	三夜塚21T SK-183フク土		(13.2)	(16.1)	胴部下半1/4、底部2/3残存	ヨコ方向へのナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	やや密	良好
108	三夜塚21T SK-183フク土			(17.7)	口縁部～胴部	ヨコ方向へのナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗	良好
109	三夜塚21T SK-183フク土			(10.4)	口縁部～胴部上半	ヨコ方向へのナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	やや粗	良好
110	三夜塚21T SK-183フク土			(8.7)	口縁部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	粗	やや良好
111	三夜塚21T SK-183フク土			(8.0)	胴部	ヨコ方向へのナデのちタテ方向へのナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	密	良好
112	三夜塚21T SK-183フク土			(11.2)	胴部下半	砂粒の動きが明瞭な強めのヨコ方向へのナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	やや密	良好
113	三夜塚21T SK-183フク土			(17.3)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗	良好
114	三夜塚21T SK-191フク土上層			(7.3)	胴部	ヨコ、ナメ方向へのナデ	5YR4/4 にぶい赤褐	やや密	やや軟
115	三夜塚21T SK-183フク土			(7.7)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/2 灰褐	密	良好
116	三夜塚4T SK-166フク土			(8.4)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	やや良好
117	三夜塚4T SK-166フク土			(8.4)	胴部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR6/6 橙	やや粗	やや良好
118	三夜塚21T EW3G包含層			(6.0)	胴部	ケズリ様な強いヨコ方向へのナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	やや粗	良好
119	三夜塚8T 攪乱			(9.3)	口縁部	ヨコ方向へのナデ	7.5YR5/2 灰褐	やや密	良好

※ 法量欄の括弧付数値は、口径・底径は復元値を、高さは残存高を示す。















No	報文 No	出土 トレンチ	出 土 位 置	器 種	石 材	欠損状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
412		7	19グリッドV層	微細剥離有剥片	黒曜石	-	2.0	1.5	0.4	1.1	
413		7	21グリッドV層	微細剥離有剥片	黒曜石	-	2.4	1.0	0.2	0.6	
414		7	既設管理設時の掘削攪乱土中	微細剥離有剥片	チャート	-	3.9	3.4	1.0	13.5	
415		8	23グリッドV層	微細剥離有剥片	黒曜石	-	2.2	2.1	0.8	3.0	
416		8	SK-090フク土	微細剥離有剥片	黒曜石	-	3.2	1.8	0.7	3.4	
417		11	15グリッドV層	微細剥離有剥片	黒曜石	-	2.5	1.7	0.3	1.3	
418		23	周辺 表採	微細剥離有剥片	黒曜石	-	2.4	1.2	0.3	0.7	
419		2	1~9グリッド壁削り落とし時出土	石核	チャート	-	5.6	9.0	5.6	324	
420		2	146グリッドV層	石核	チャート	-	2.8	6.9	6.0	161.5	
421		2	173グリッドV層	石核	黒曜石	-	3.3	3.9	2.7	24.2	
422		2	208グリッドIV層	石核	チャート	-	3.5	4.9	4.4	78.4	
423		2	20グリッド包含層	石核	チャート	-	3.2	6.6	4.6	63.8	
424		2	210グリッドIV層	石核	チャート	-	5.7	2.8	2.8	46.5	
425		2	211グリッドV層	石核	チャート	-	4.0	3.2	1.8	31.3	
426		2	211グリッドV層	石核	チャート	-	2.8	2.6	2.4	21.2	
427		2	212グリッドIV層	石核	赤チャート	-	2.3	5.4	3.6	82.0	
428		2	4グリッド包含層	石核	チャート	-	4.2	4.0	2.0	41.4	
429		2	4グリッド包含層	石核	チャート	-	2.6	5.7	4.5	63.3	
430		2	SB-01フク土 (東半)	石核	チャート	-	2.7	4.4	3.4	49.8	
431											欠番
432	49	2	SB-09フク土	石核	黒曜石	-	4.3	3.3	3.1	32.2	取上げ:137 グリッドV層
433		2	SB-09フク土 (西半)	石核	チャート	-	2.7	7.1	5.4	101.7	
434											欠番
435		2	遺構検出作業中出土	石核	黒曜石	-	1.5	4.0	2.3	13.8	
436		7	12グリッドV層	石核	チャート	-	2.1	3.8	4.2	33.1	
437		7	21グリッドV層	石核	チャート	-	2.6	2.7	2.7	19.5	
438		7	26グリッドV層	石核	チャート	-	4.5	3.9	1.9	43.3	
439		7	6グリッド包含層	石核	チャート	-	4.2	5.9	3.8	100.6	
440		7	既設管理設時の掘削攪乱土中	石核	黒曜石	-	2.7	3.3	2.2	14.5	
441		7	表土除去時出土	石核	黒曜石	-	1.4	2.9	2.3	8.9	
442		8	107グリッドV層	石核	チャート	-	7.8	4.6	4.2	209	
443		8	22グリッドV層	石核	チャート	-	8.1	4.2	3.8	185.0	
444		8	30グリッドV層	石核	黒曜石	-	4.0	2.9	2.3	15.8	
445		8	SB-17フク土 (22グリッド分)	石核	チャート	-	2.8	5.6	3.3	30.2	
446		8	SK-090フク土	石核	チャート	-	2.8	4.2	2.5	22.2	
447		9	SK-064フク土	石核	チャート	-	4.6	5.7	2.0	61.9	
448		9	SK-095フク土	石核	チャート	-	5.8	4.0	2.9	44.6	
449		9	攪乱土中 (長芋)	石核	チャート	-	4.3	2.8	3.3	28.2	
450		11	14グリッドV層	石核	チャート	-	4.9	3.7	3.1	63.3	
451		11	19グリッドV層	石核	黒曜石	-	3.2	2.6	1.7	11.7	
452		11	25グリッドV層	石核	チャート	-	6.5	4.2	3.1	109.4	
453		11	26グリッドV層	石核	珪質頁岩	-	4.1	5.5	1.7	39.0	
454		11	33グリッドV層	石核	チャート	-	3.7	5.2	3.4	64.8	
455		11	8グリッドV層	石核	チャート	-	6.8	6.2	5.7	357	
456		11	攪乱中 (埋設管のもの)	石核	チャート	-	5.2	7.3	5.3	230	
457		11	攪乱土中 (埋設管のもの)	石核	チャート	-	3.8	3.8	3.0	53.8	
458		11	攪乱土中 (埋設管のもの)	石核	赤チャート	-	6.9	5.5	3.5	118.8	
459		20	表土除去時	石核	赤チャート	-	2.1	5.4	2.9	39.4	
460		23	14グリッド包含層	石核	赤チャート	-	8.1	7.5	5.4	306	
461		23	17グリッド包含層	石核	チャート	-	5.0	5.1	3.7	84.9	
462		23	19グリッドV層	石核	珪質頁岩	-	3.3	6.0	4.4	52.8	
463		23	19グリッドV層	石核	チャート	-	2.9	3.9	3.0	35.6	
464		23	4グリッド包含層	石核	赤チャート	-	5.5	4.5	3.4	109.9	
465		23	5グリッド包含層	石核	チャート	-	10.6	7.0	4.8	462	
466		23	8グリッド包含層	石核	黒曜石	-	2.2	3.7	2.5	21.2	
467		23	8グリッド包含層	石核	チャート	-	13.4	6.9	5.2	634	
468		23	SK-116フク土	石核	黒曜石	-	3.4	3.2	1.6	16.9	
469		24	表土除去時	石核	黒曜石	-	5.2	1.8	1.6	10.8	
470		11	21グリッドV層	不明石製品	花崗岩	-	6.7	5.2	4.2	110.5	被熱
471		11	22グリッドV層	不明石製品	花崗岩	剥片	(4.2)	(4.0)	(1.5)	22.4	被熱

\* 長さ・幅・厚さの各欄括弧付数値は、残存値を計測したものの。













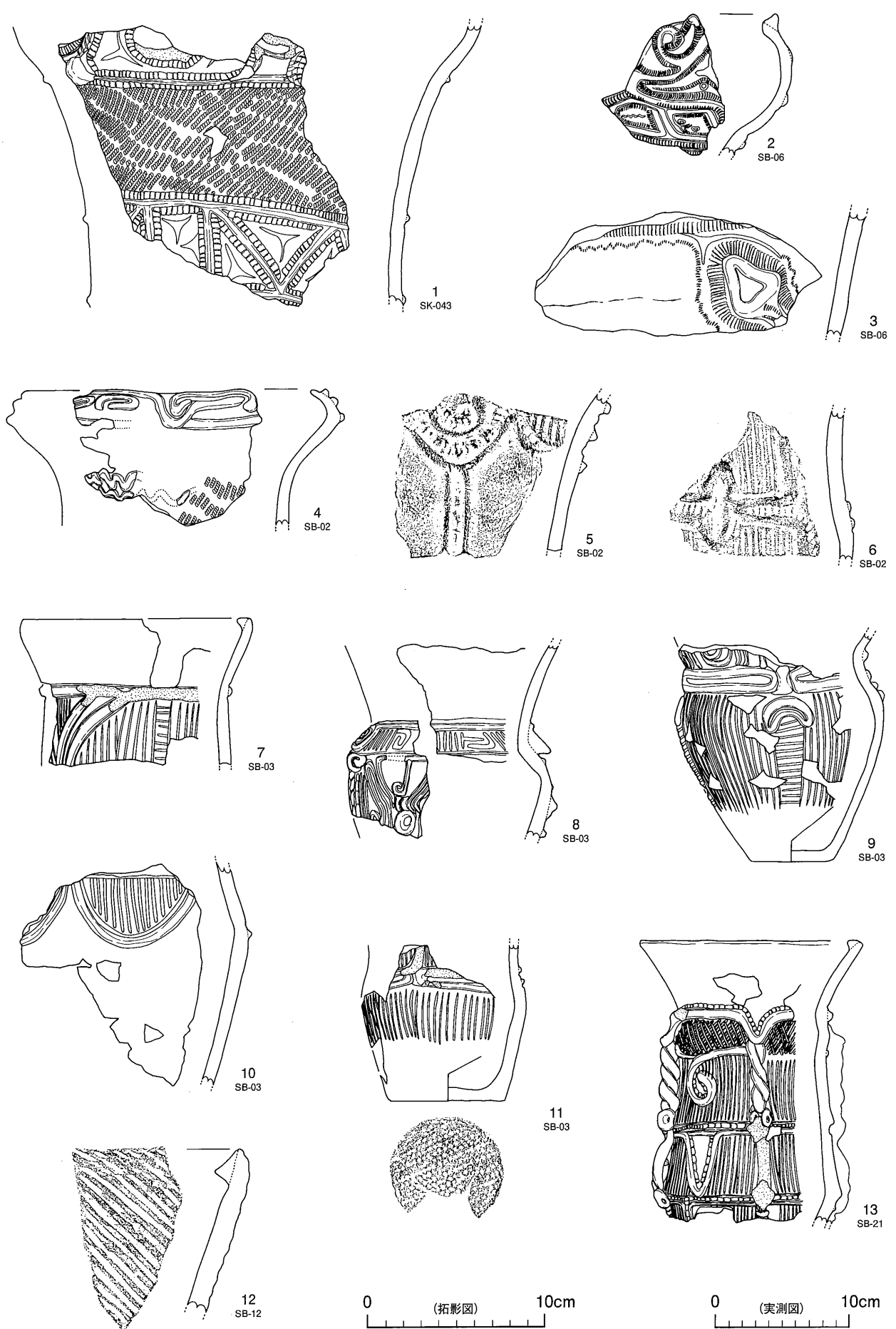




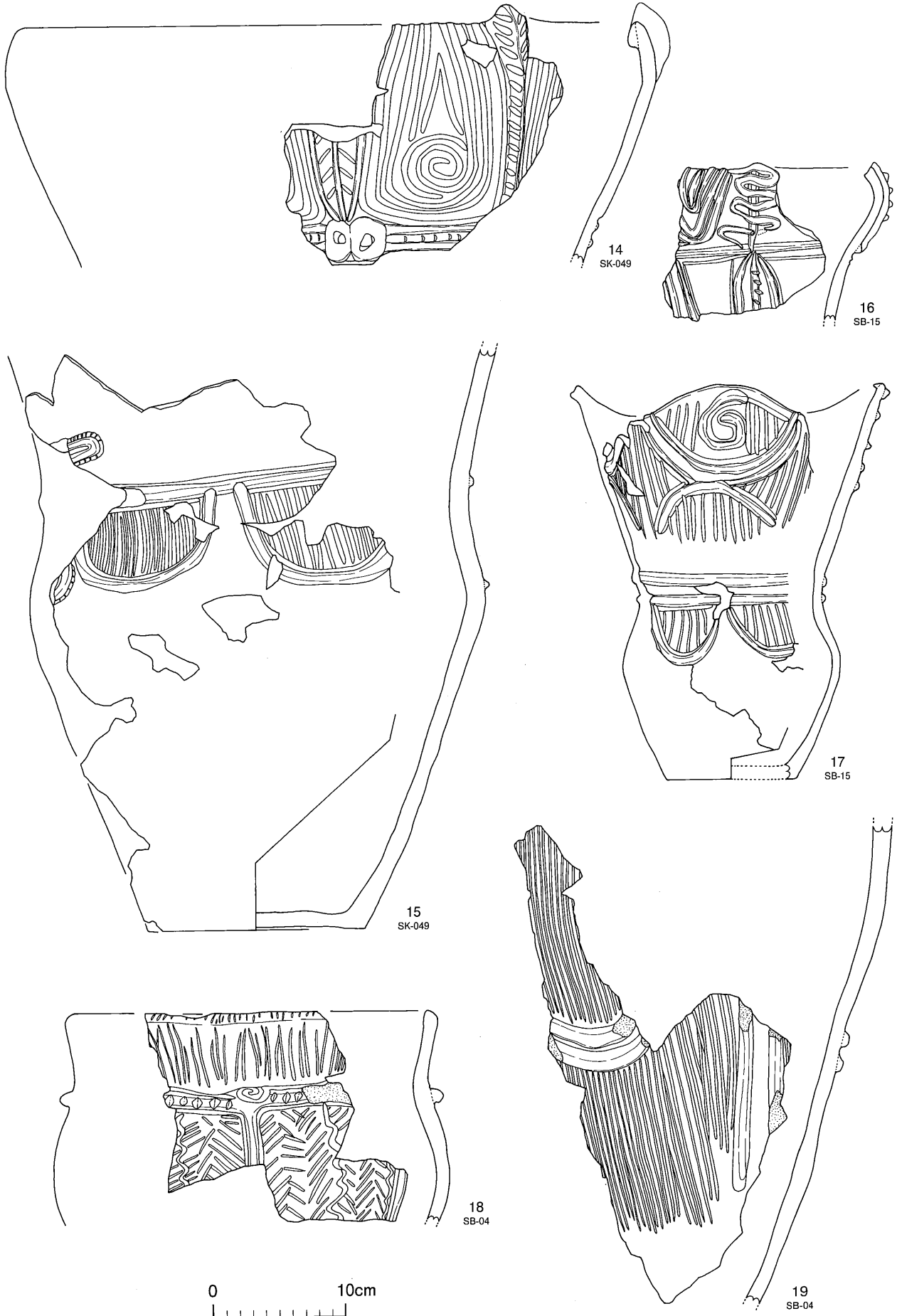




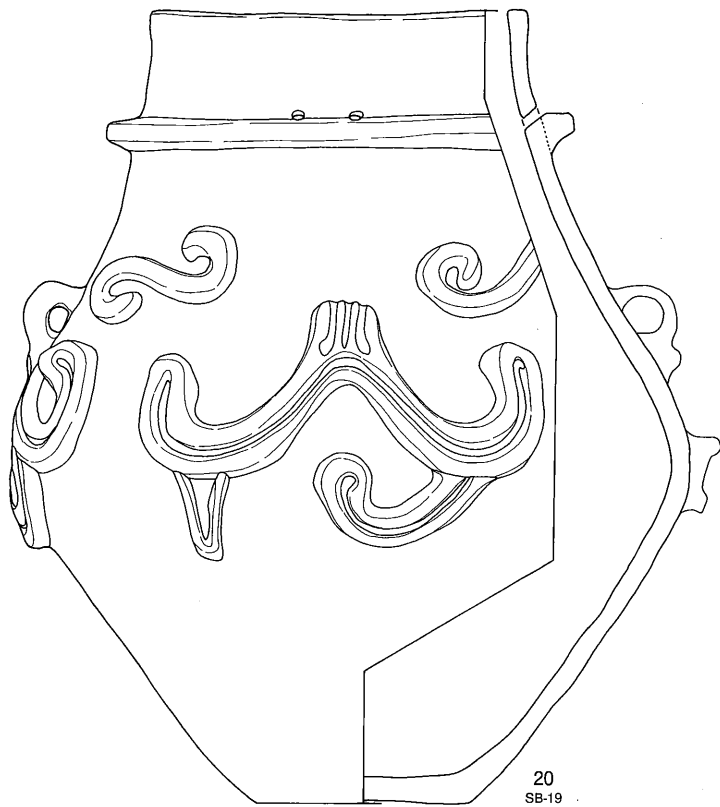




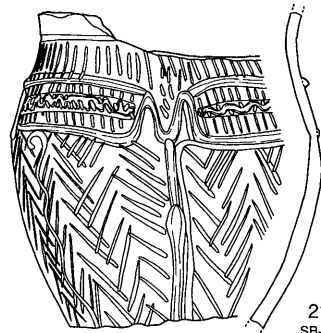
第26图 下原遺跡出土土器 (1)



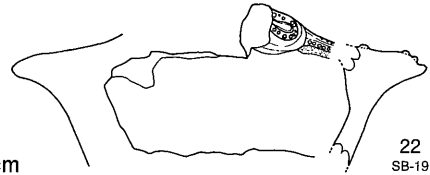
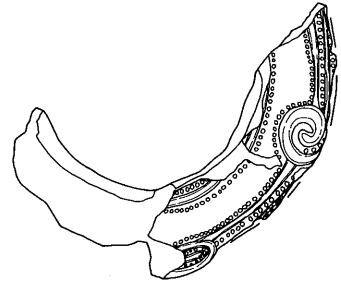
第27図 下原遺跡出土土器 (2)



20  
SB-19

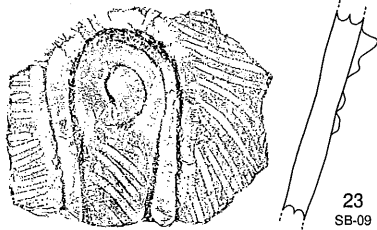


21  
SB-19

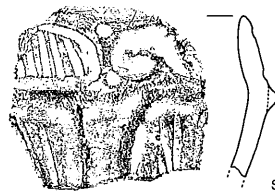


22  
SB-19

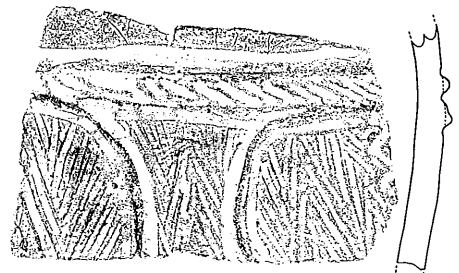
0 10cm



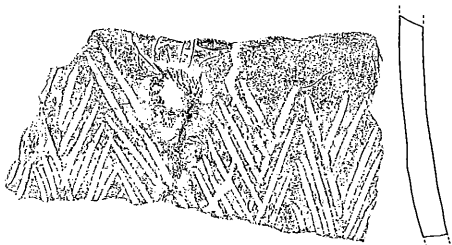
23  
SB-09



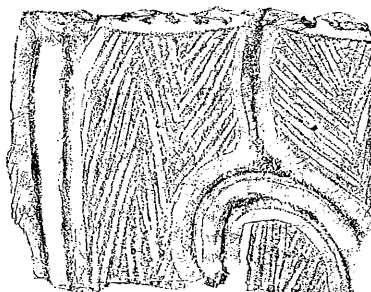
24  
SB-09



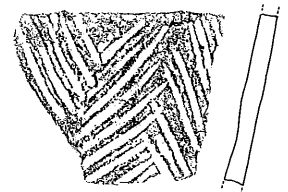
25  
SB-09



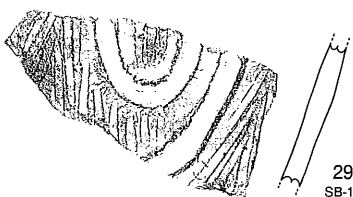
26  
SK-016



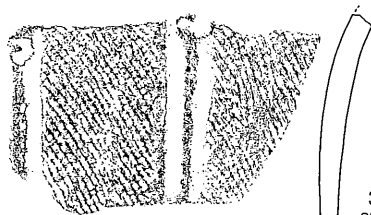
27  
SK-040



28  
SB-14



29  
SB-14



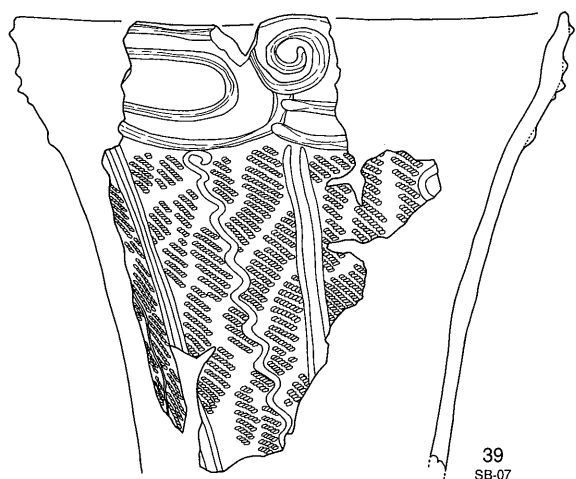
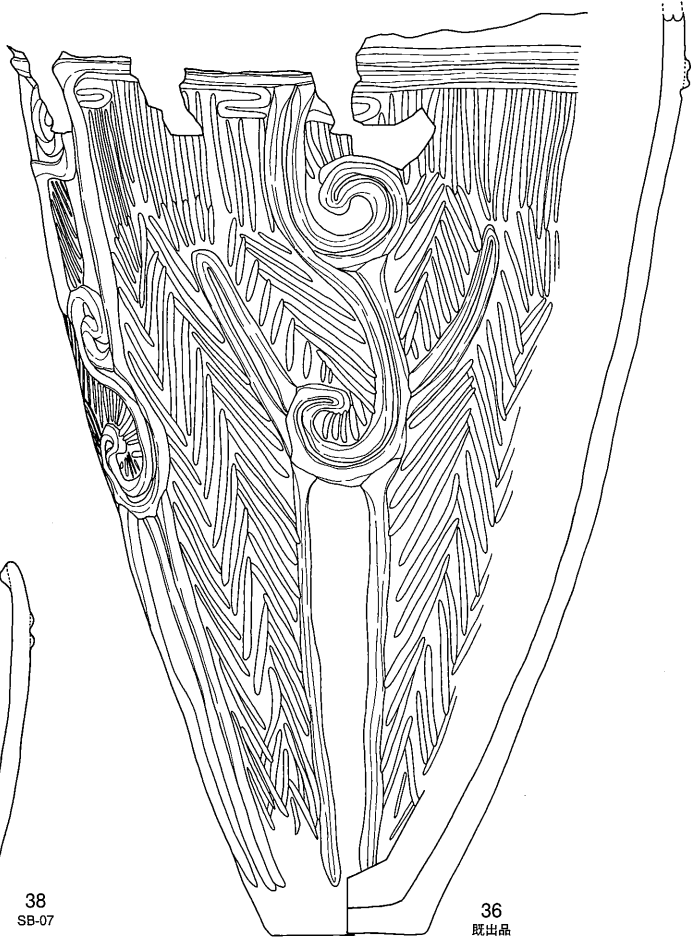
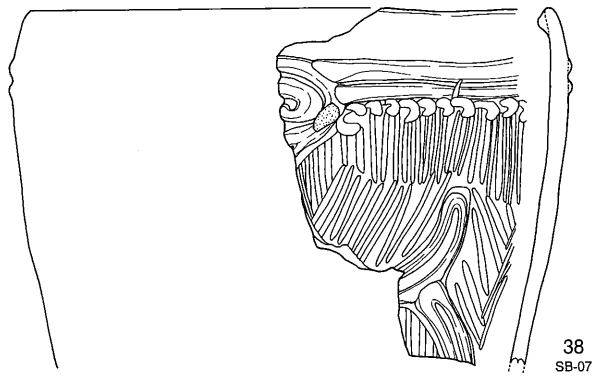
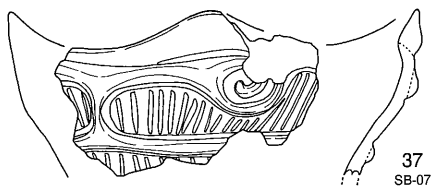
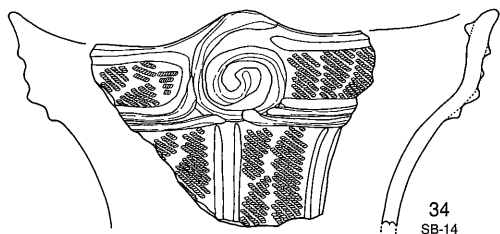
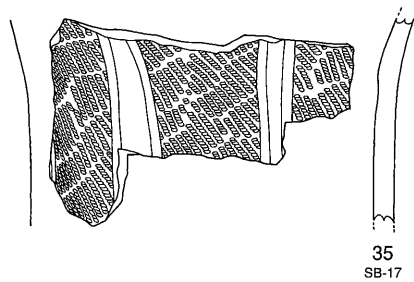
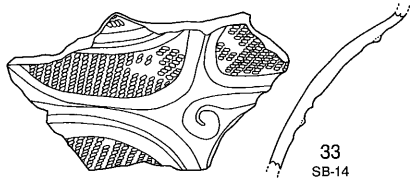
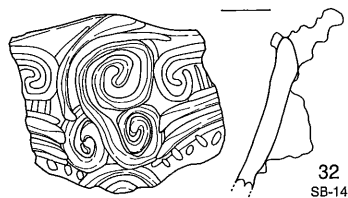
30  
SB-14



31  
SB-14

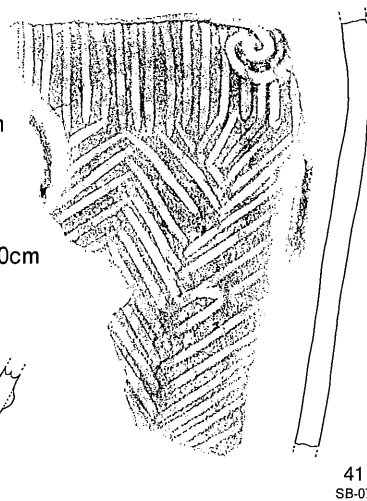
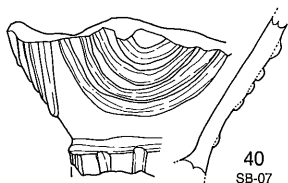
0 10cm

第28图 下原遺跡出土土器 (3)



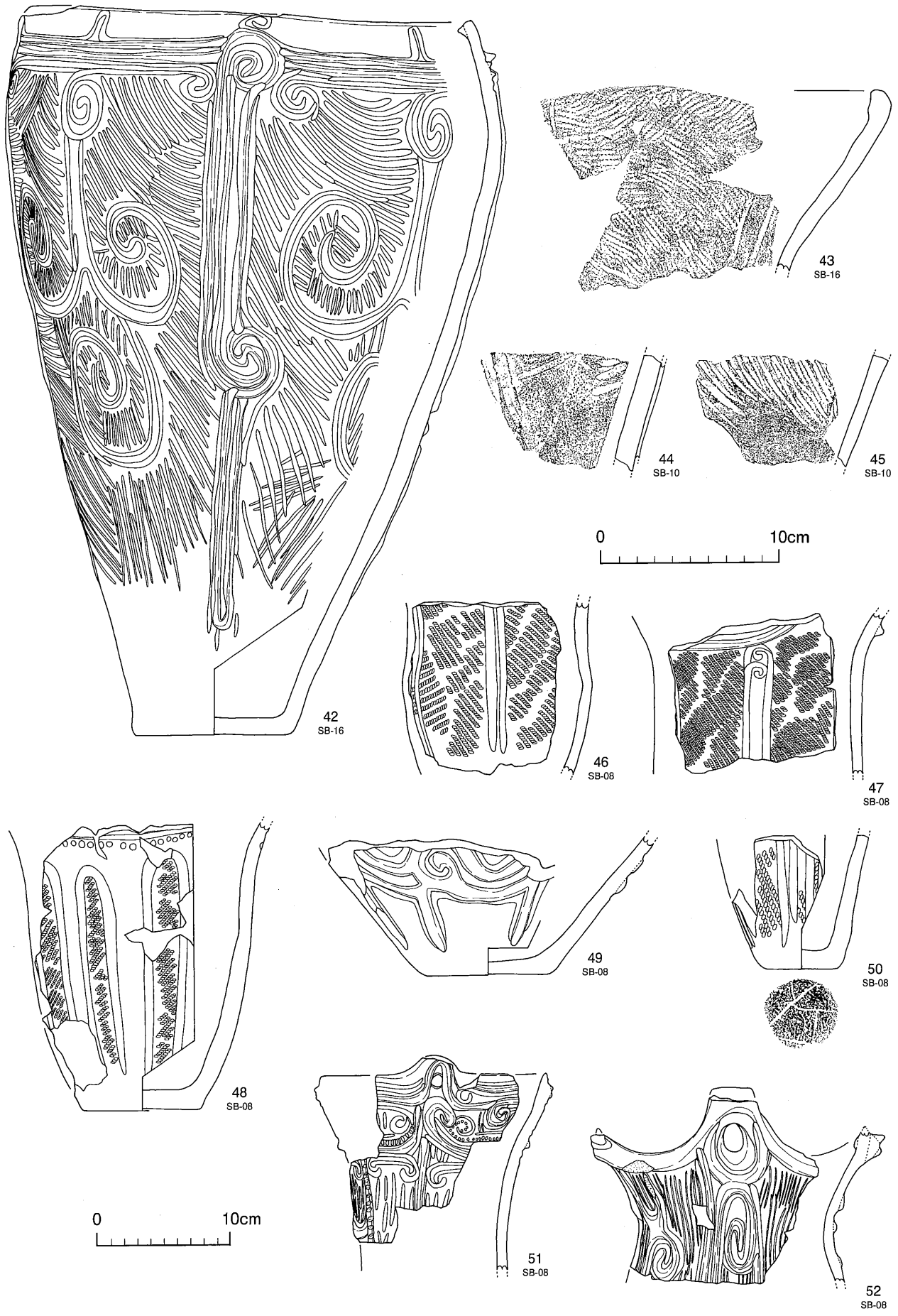
0 (実測図) 10cm

0 (拓影図) 10cm

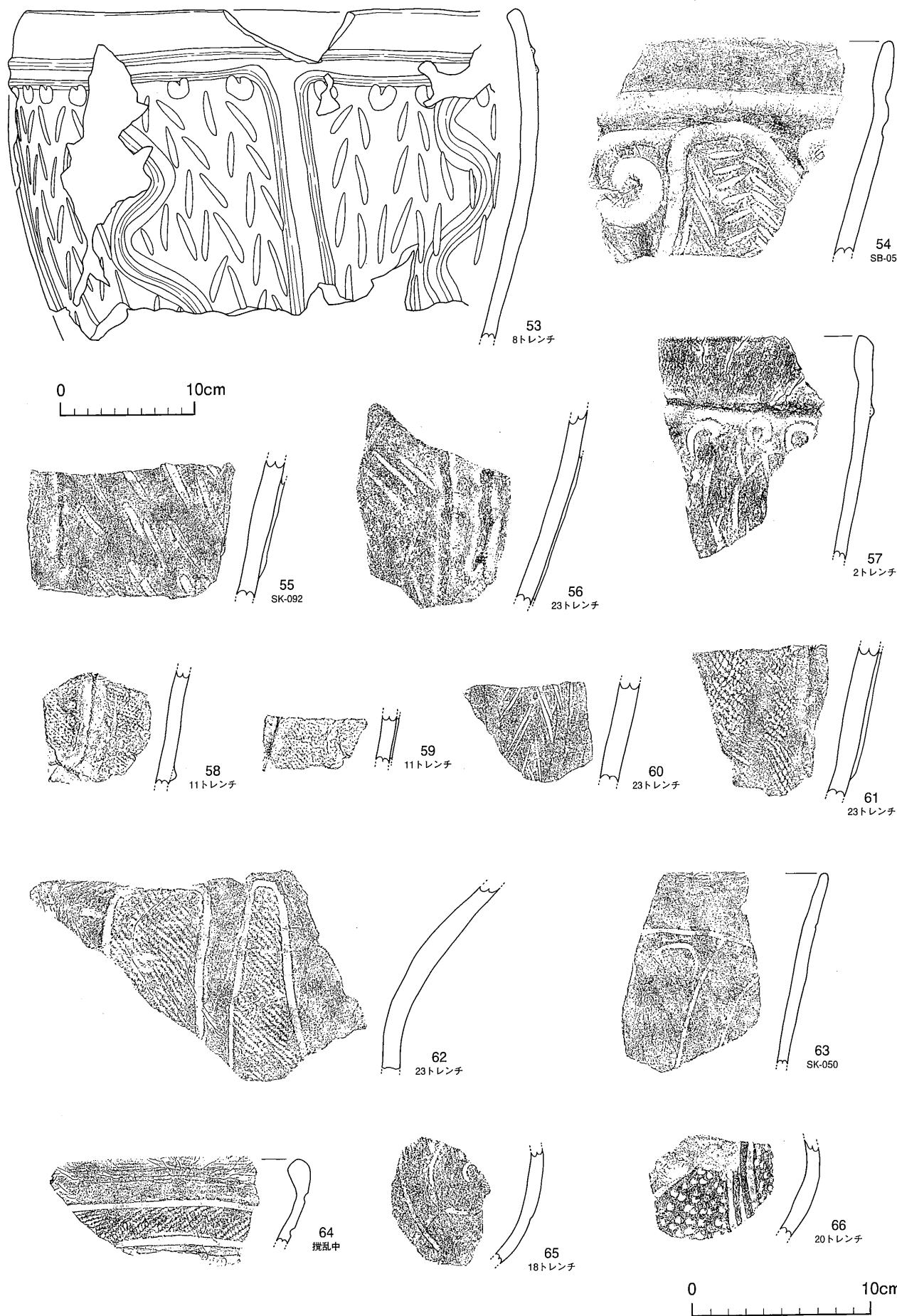


第29図 下原遺跡出土土器 (4)

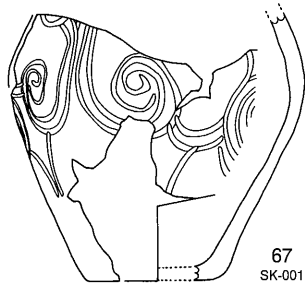




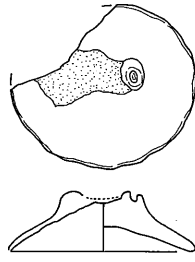
第30図 下原遺跡出土土器 (5)



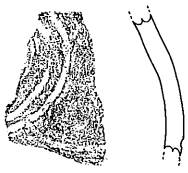
第31図 下原遺跡出土土器 (6)



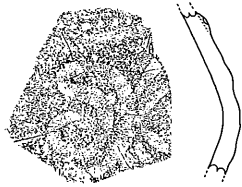
67  
SK-001



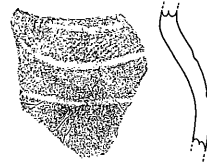
68  
23トレンチ



69  
23トレンチ



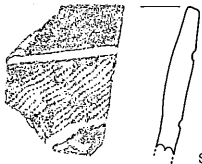
70  
23トレンチ



71  
23トレンチ



72  
SK-108



73  
SK-050



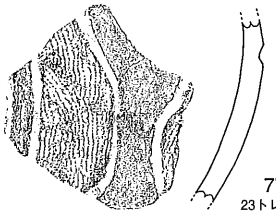
74  
SK-050



75  
20トレンチ



76  
23トレンチ



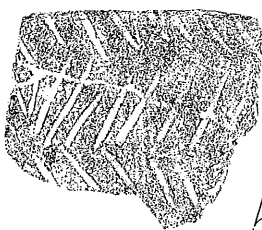
77  
23トレンチ



78  
SK-123



79  
23トレンチ



80  
23トレンチ



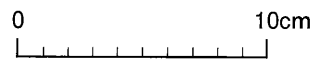
81  
SK-123



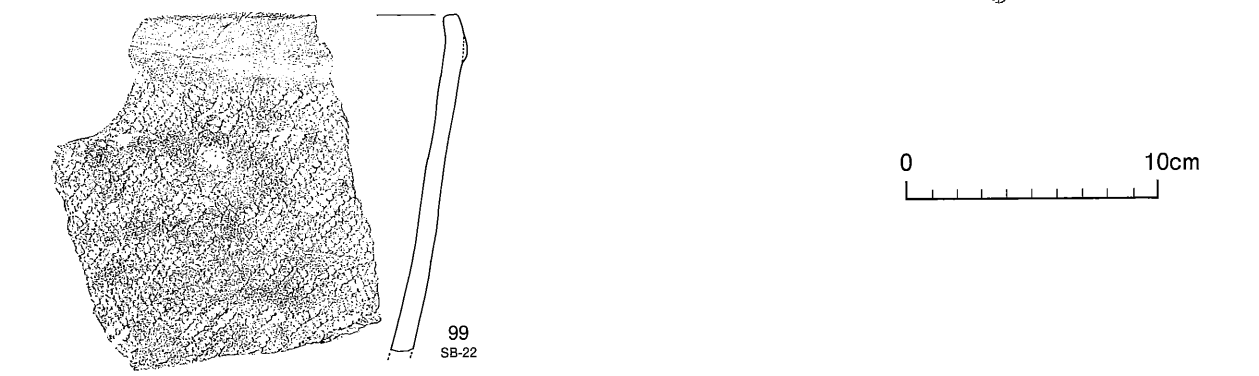
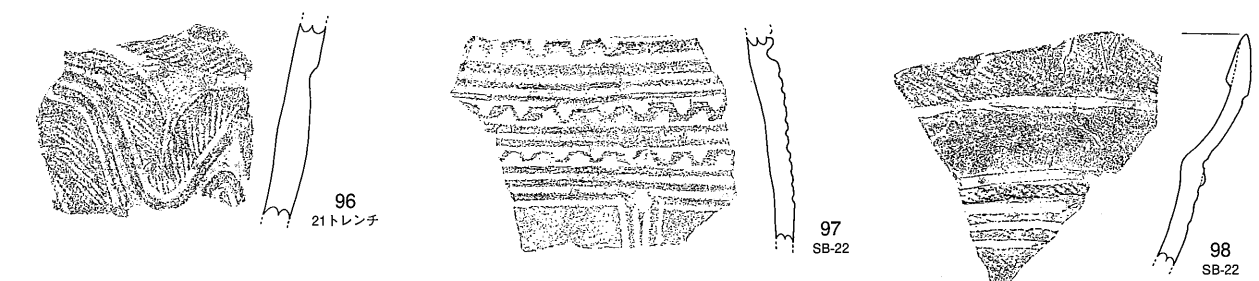
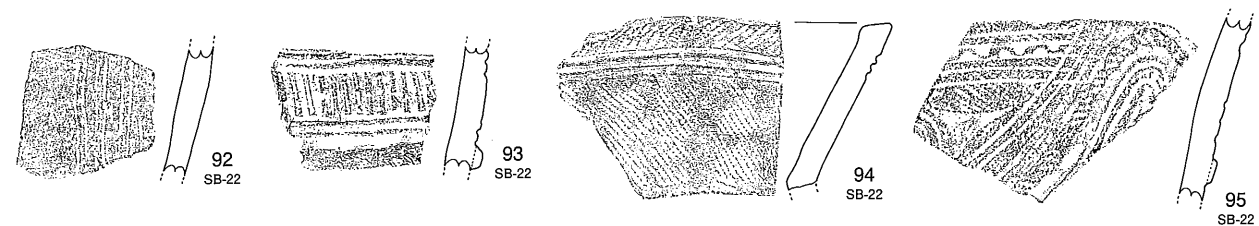
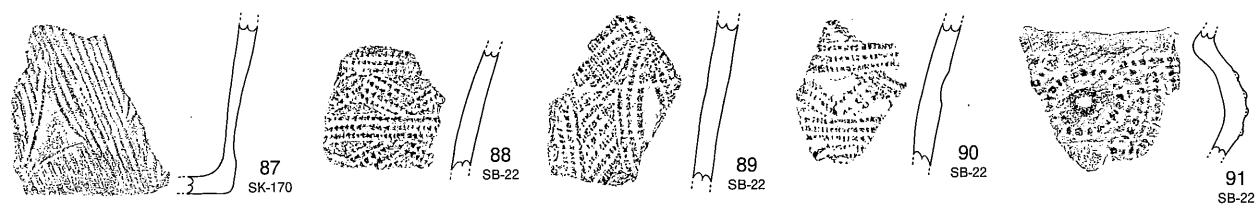
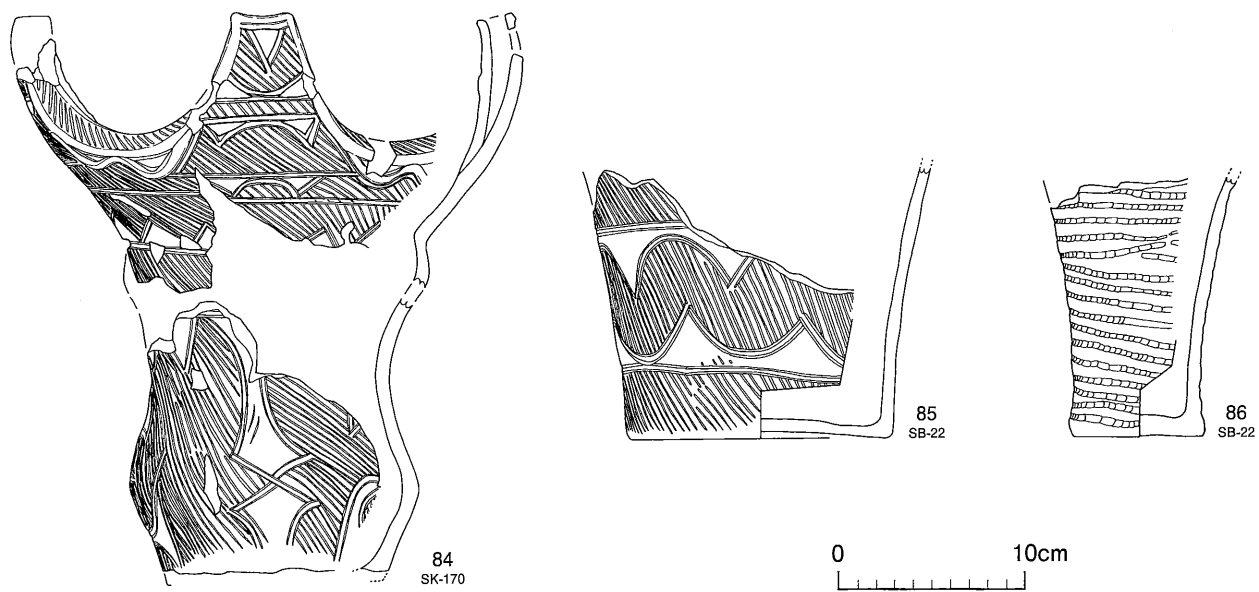
82  
23トレンチ



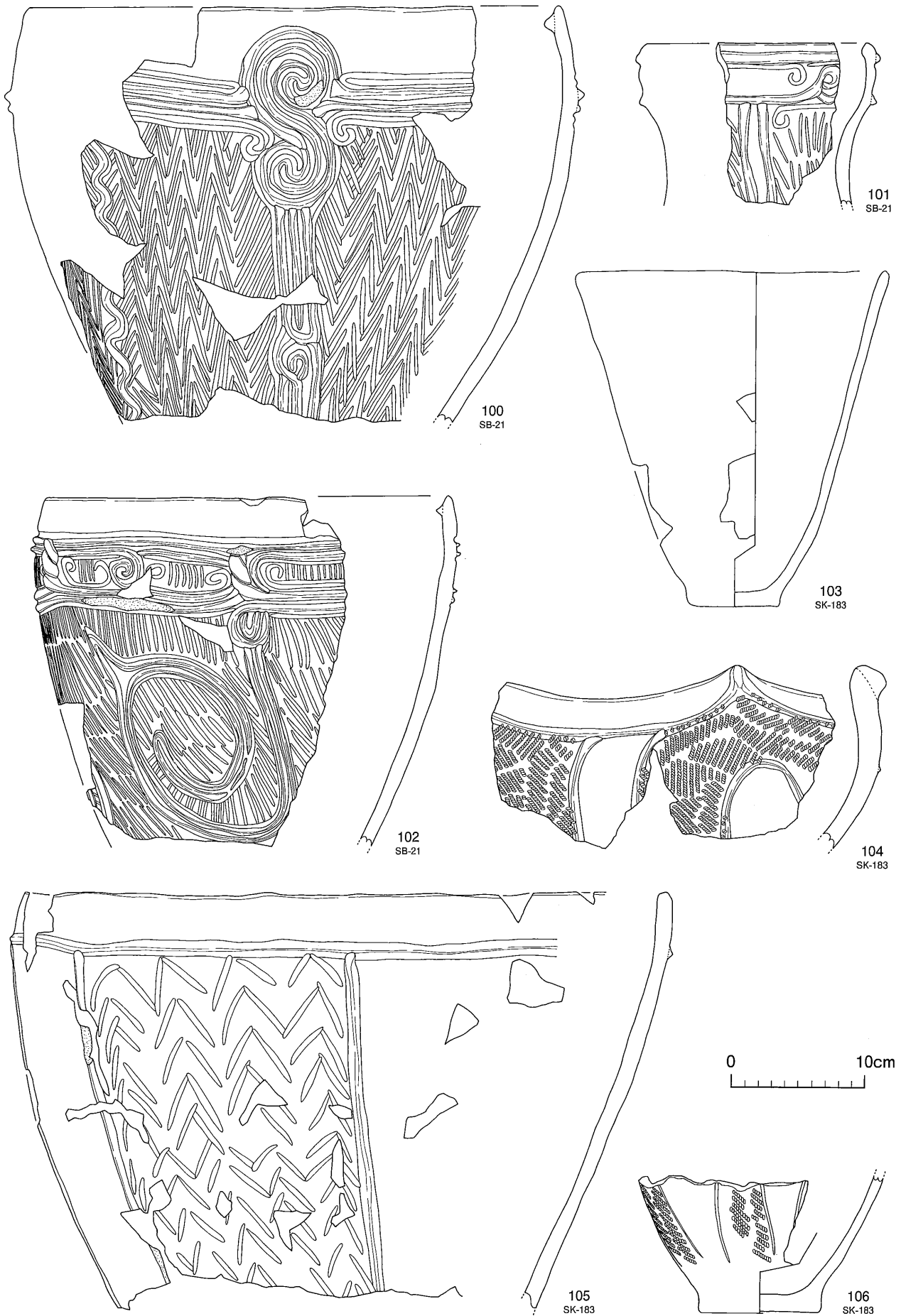
83  
23トレンチ



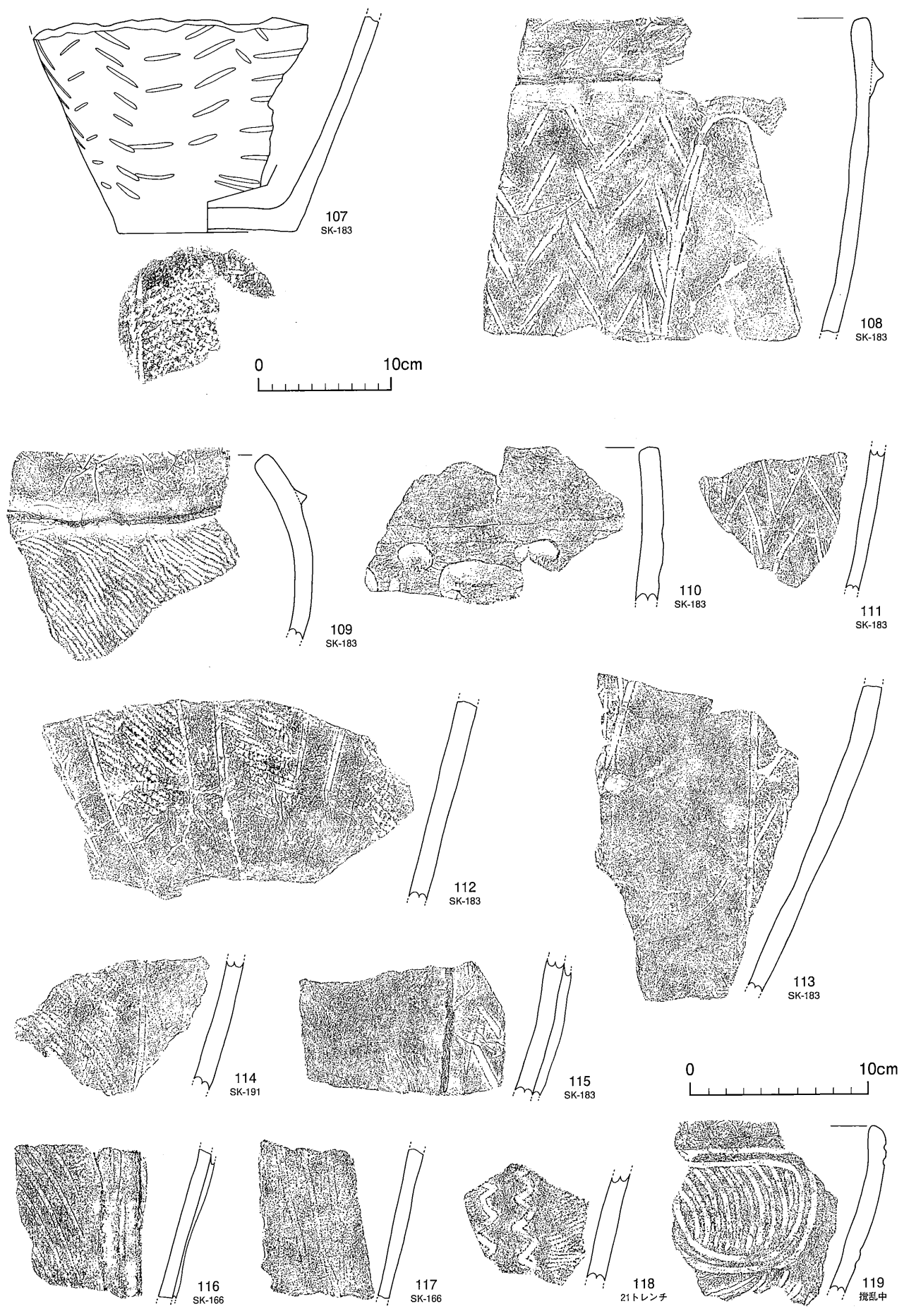
第32図 下原遺跡出土土器 (7)



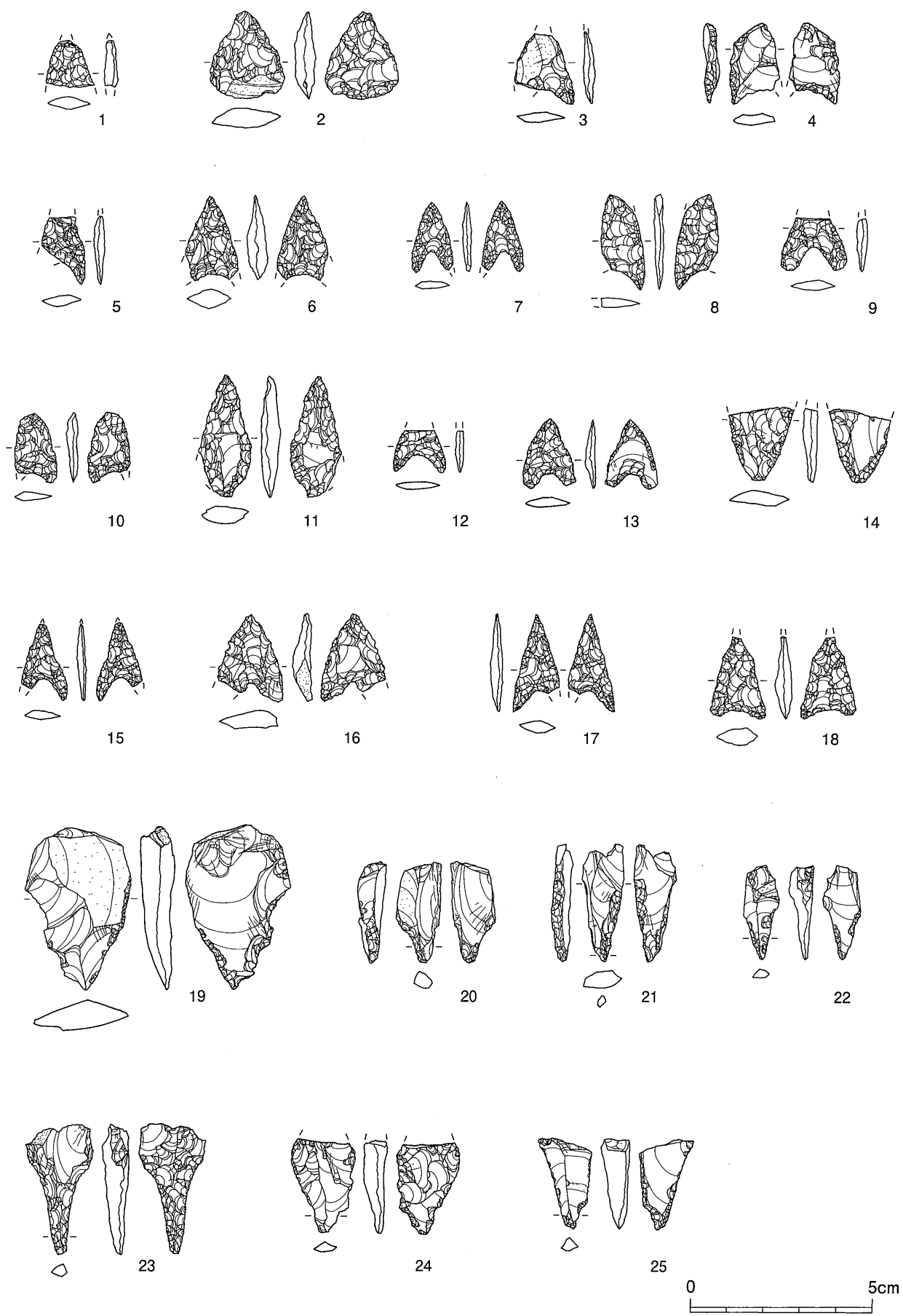
第33図 三夜塚遺跡出土土器 (1)



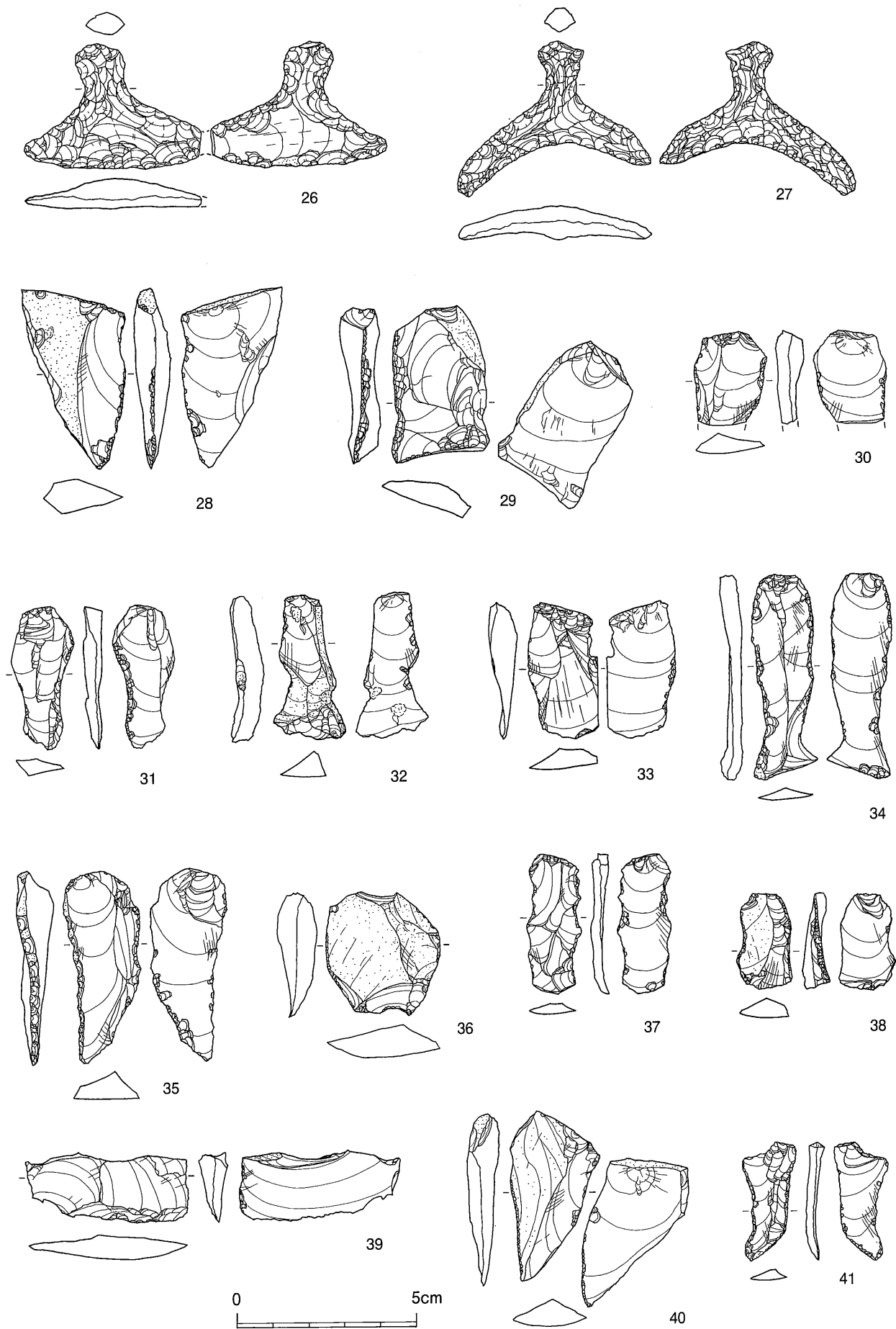
第34図 三夜塚遺跡出土土器（2）



第35図 三夜塚遺跡出土土器 (3)

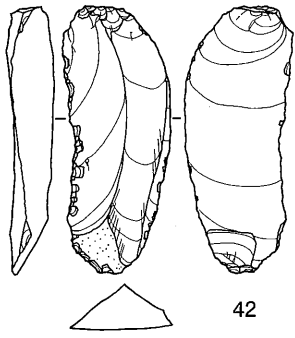


第36圖 下原遺跡出土石器 (1)

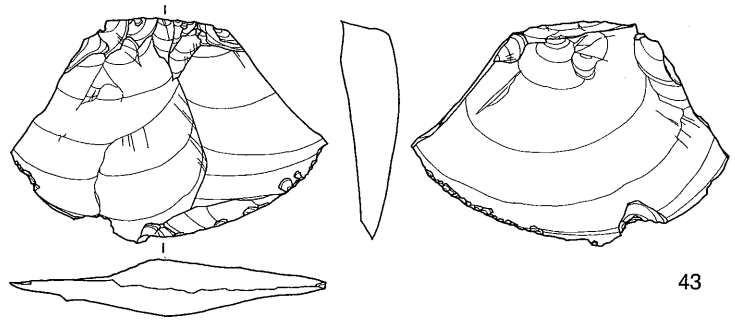


第37图 下原遺跡出土石器(2)

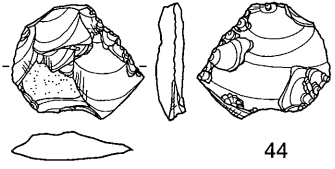




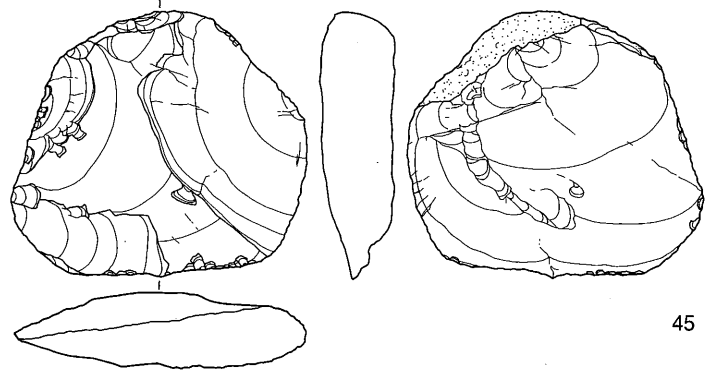
42



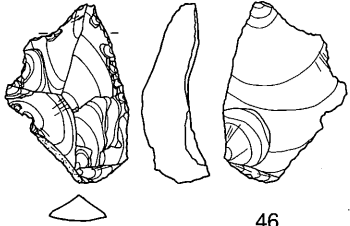
43



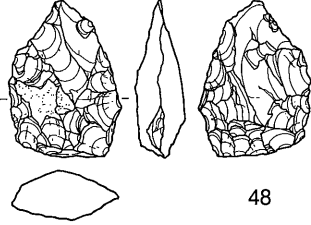
44



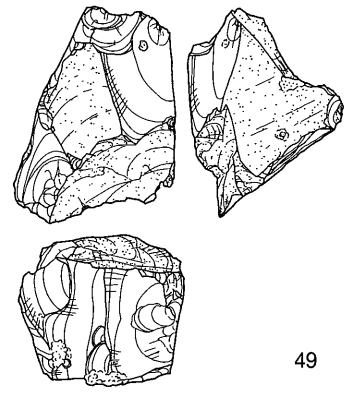
45



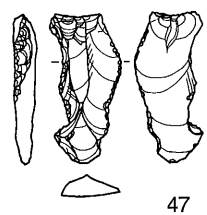
46



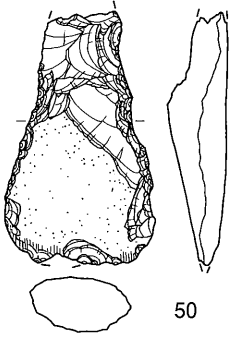
48



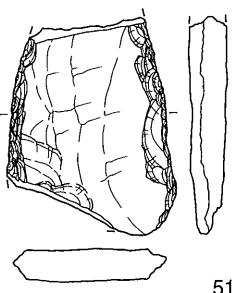
49



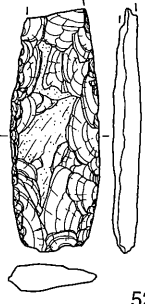
47



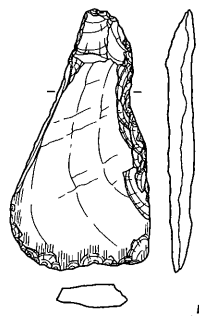
50



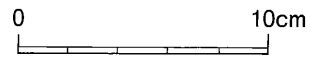
51



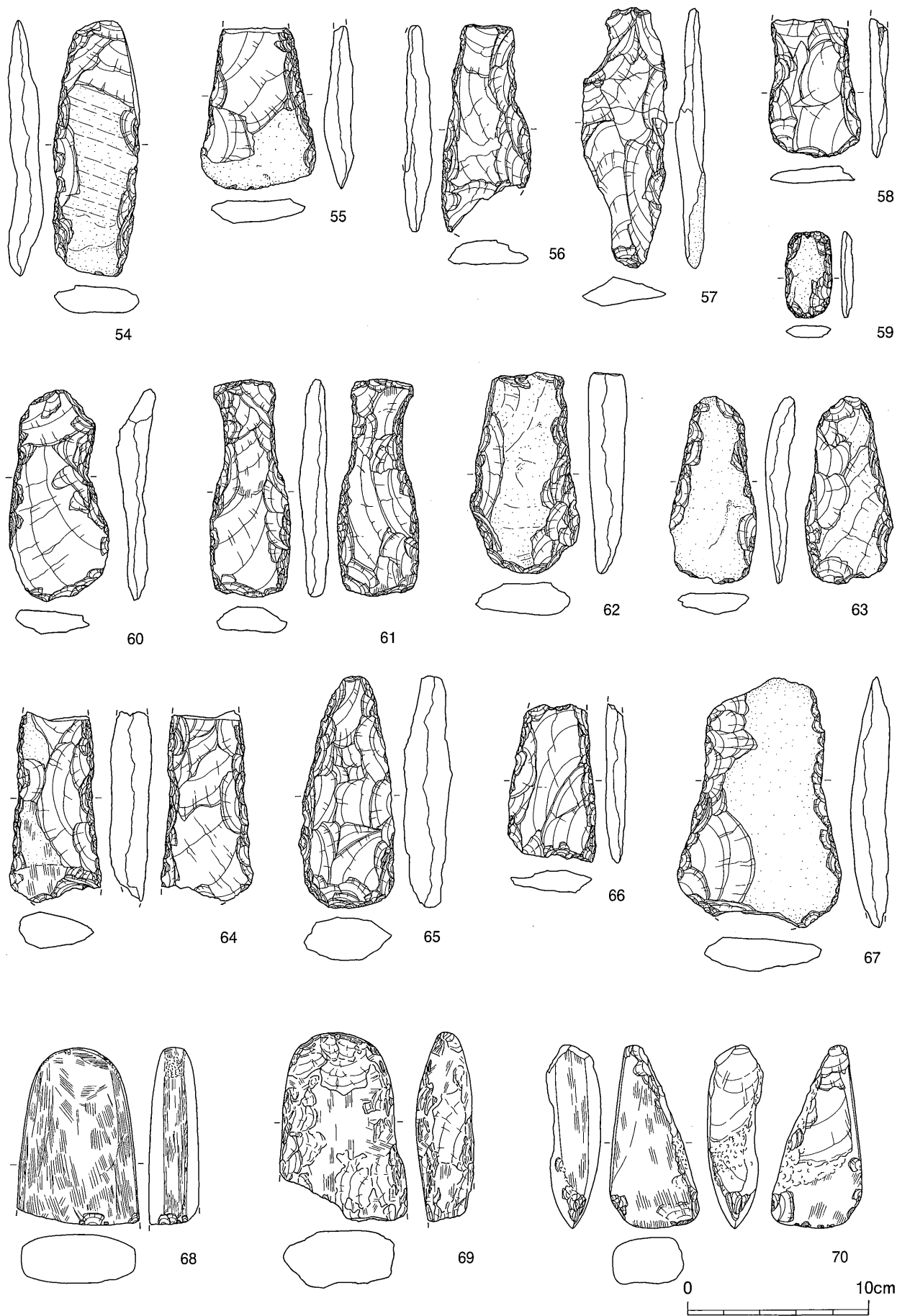
52



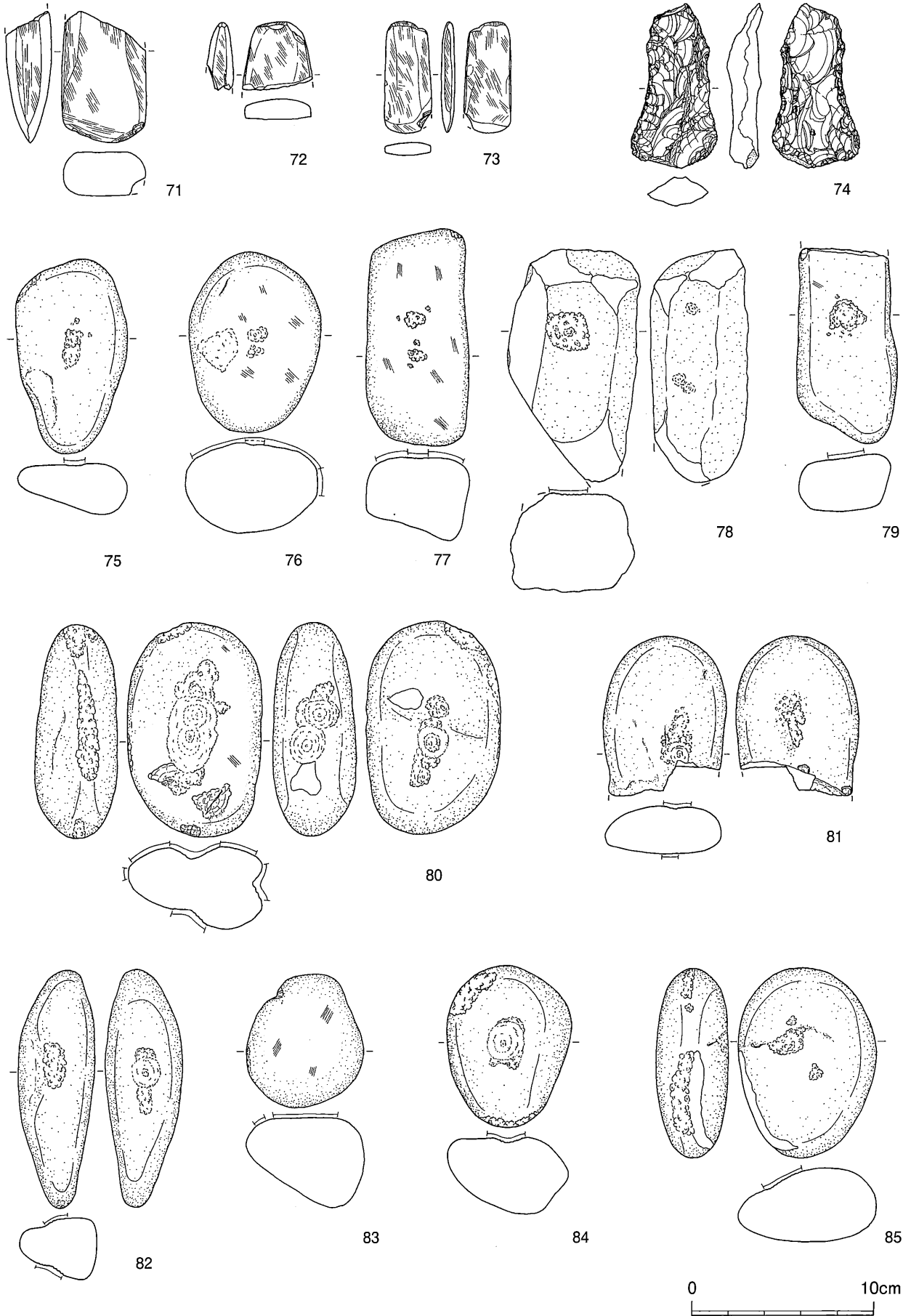
53



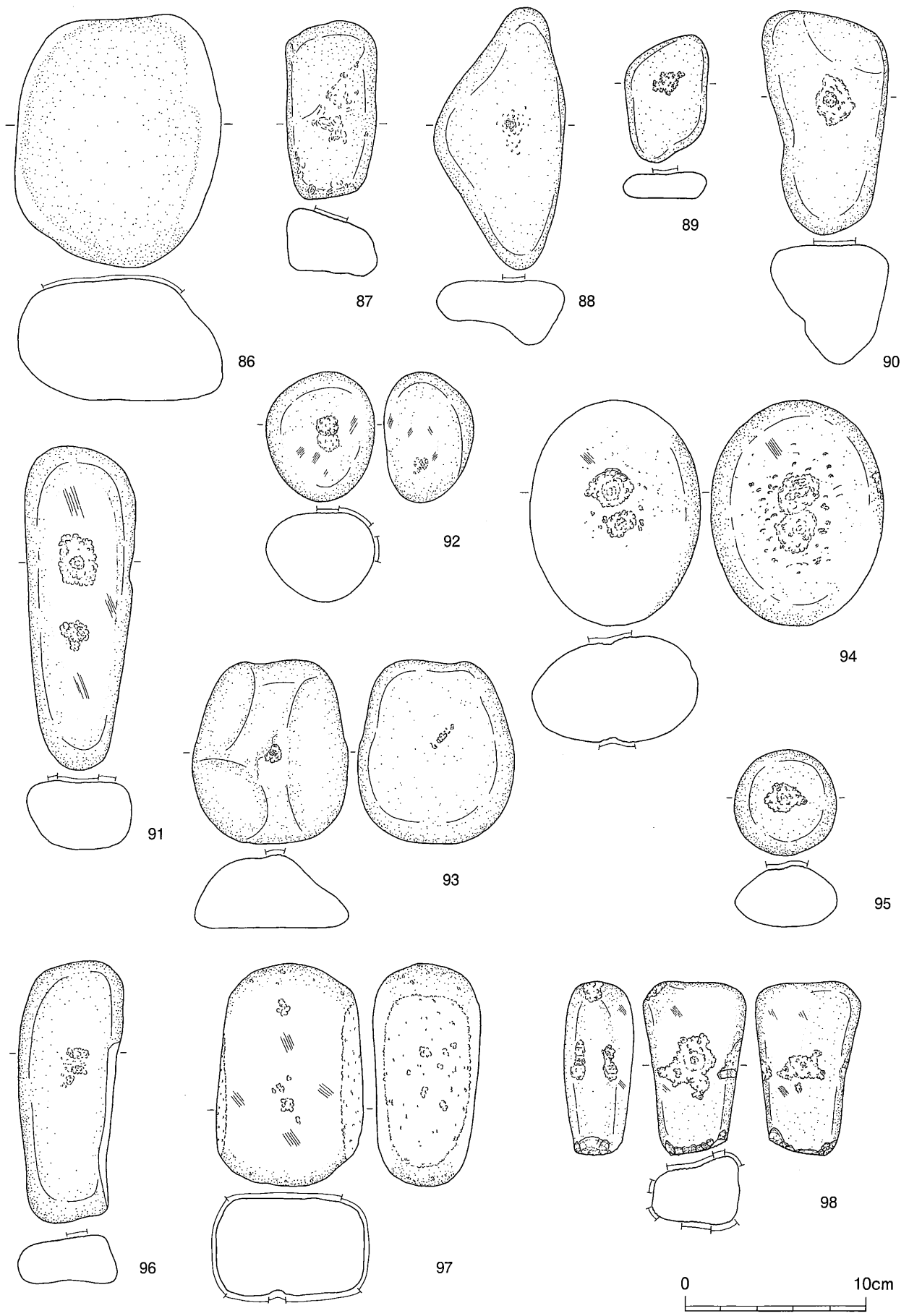
第38图 下原遺跡出土石器 (3)



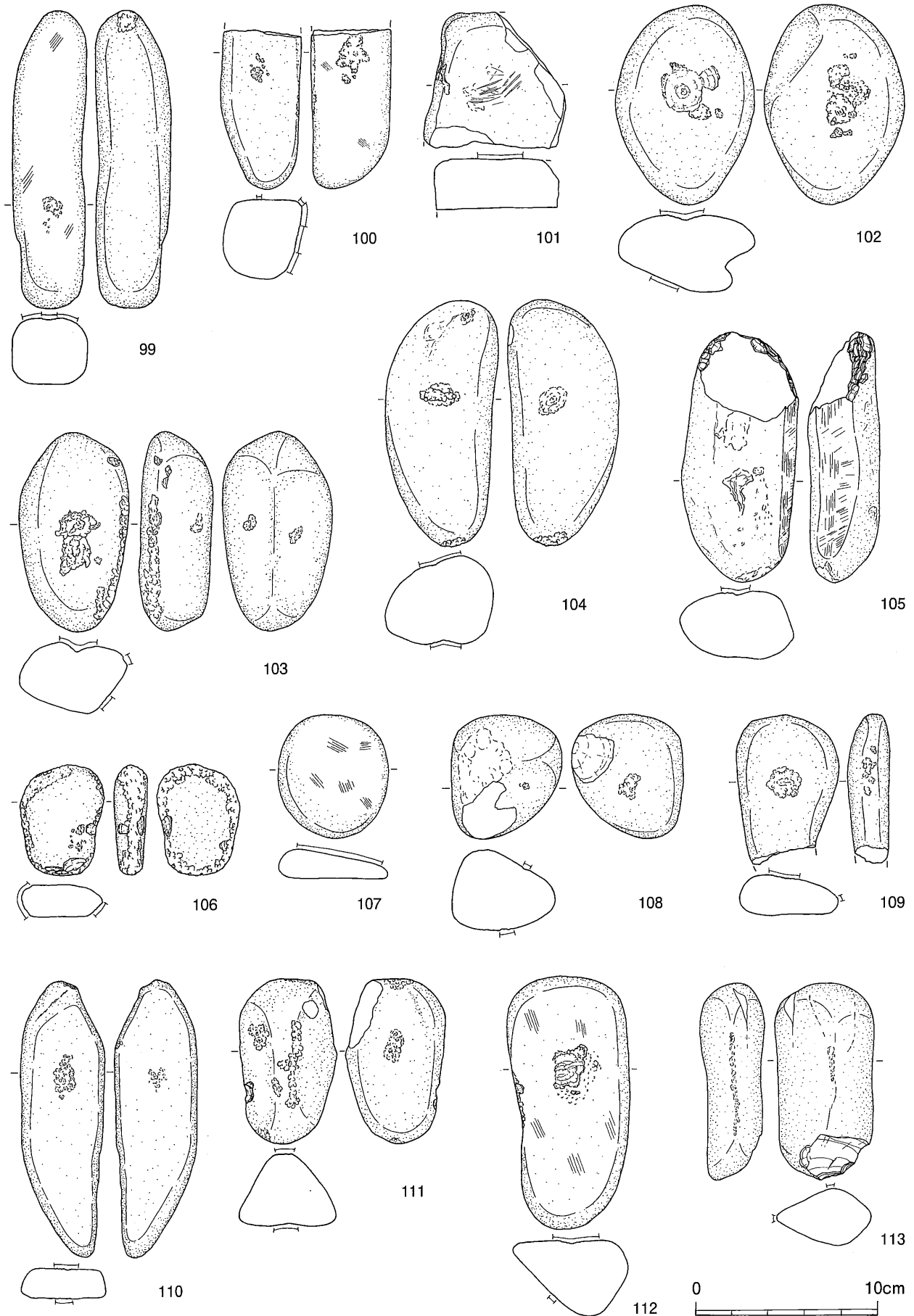
第39图 下原遺跡出土石器 (4)



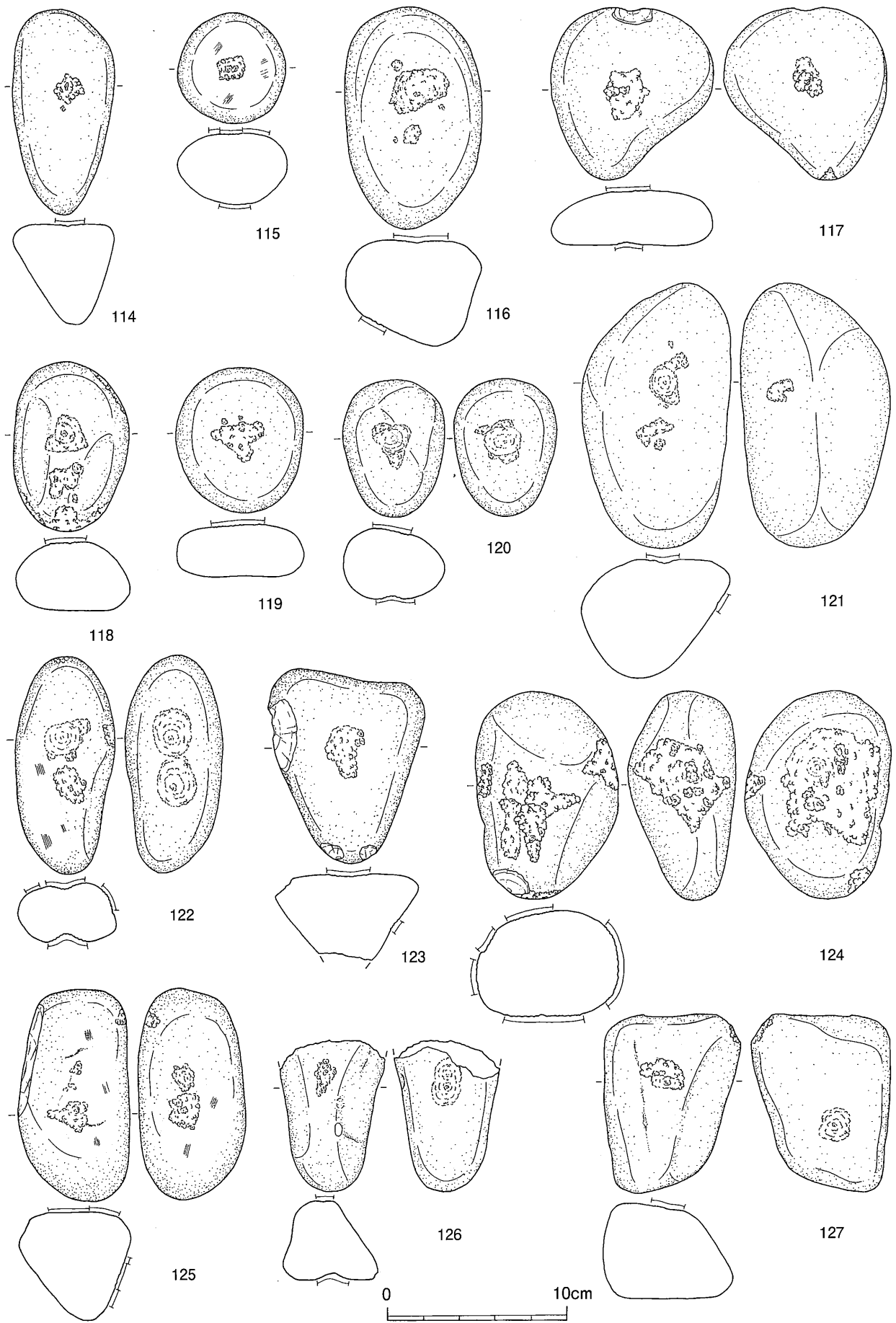
第40図 下原遺跡出土石器 (5)



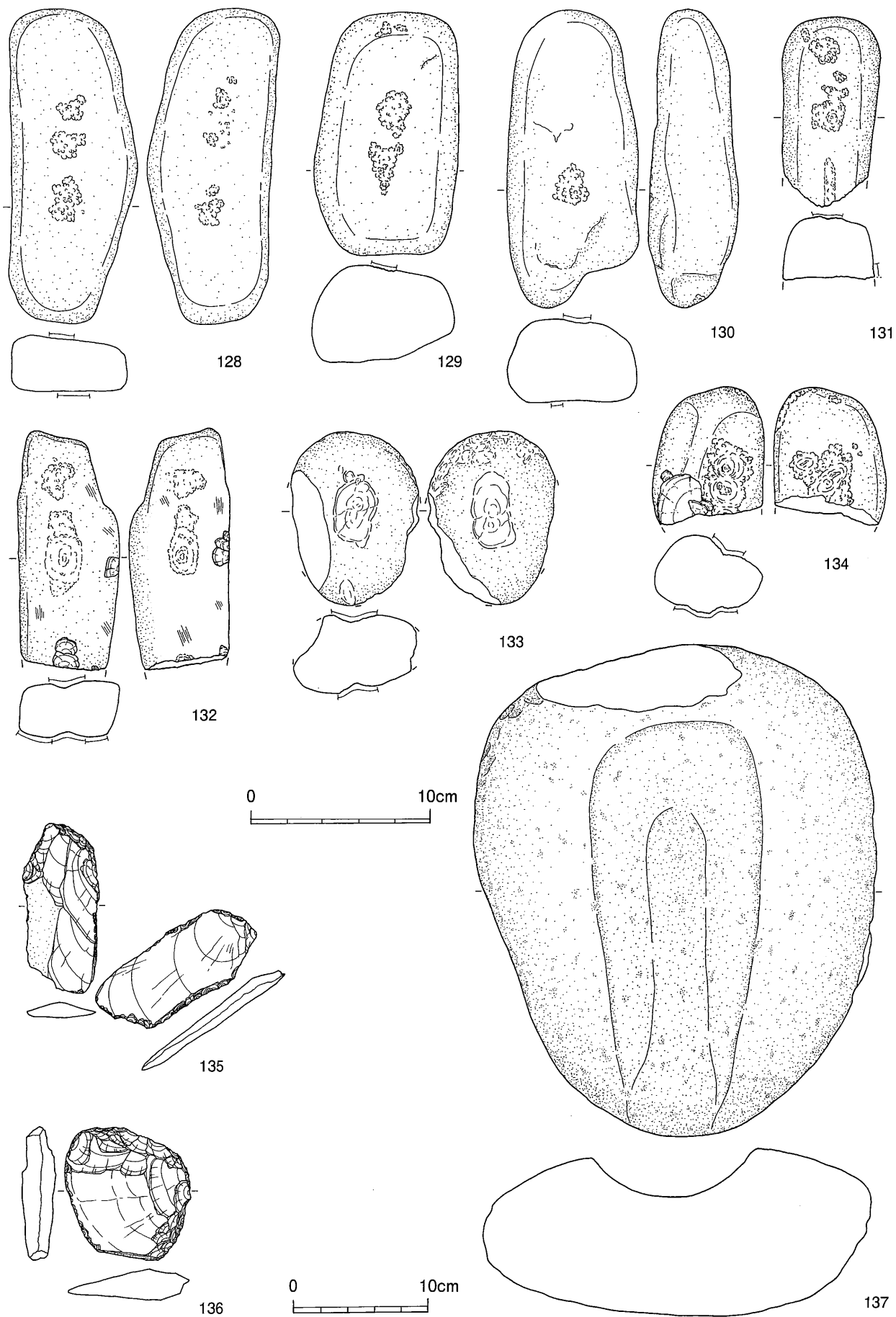
第41図 下原遺跡出土石器 (6)



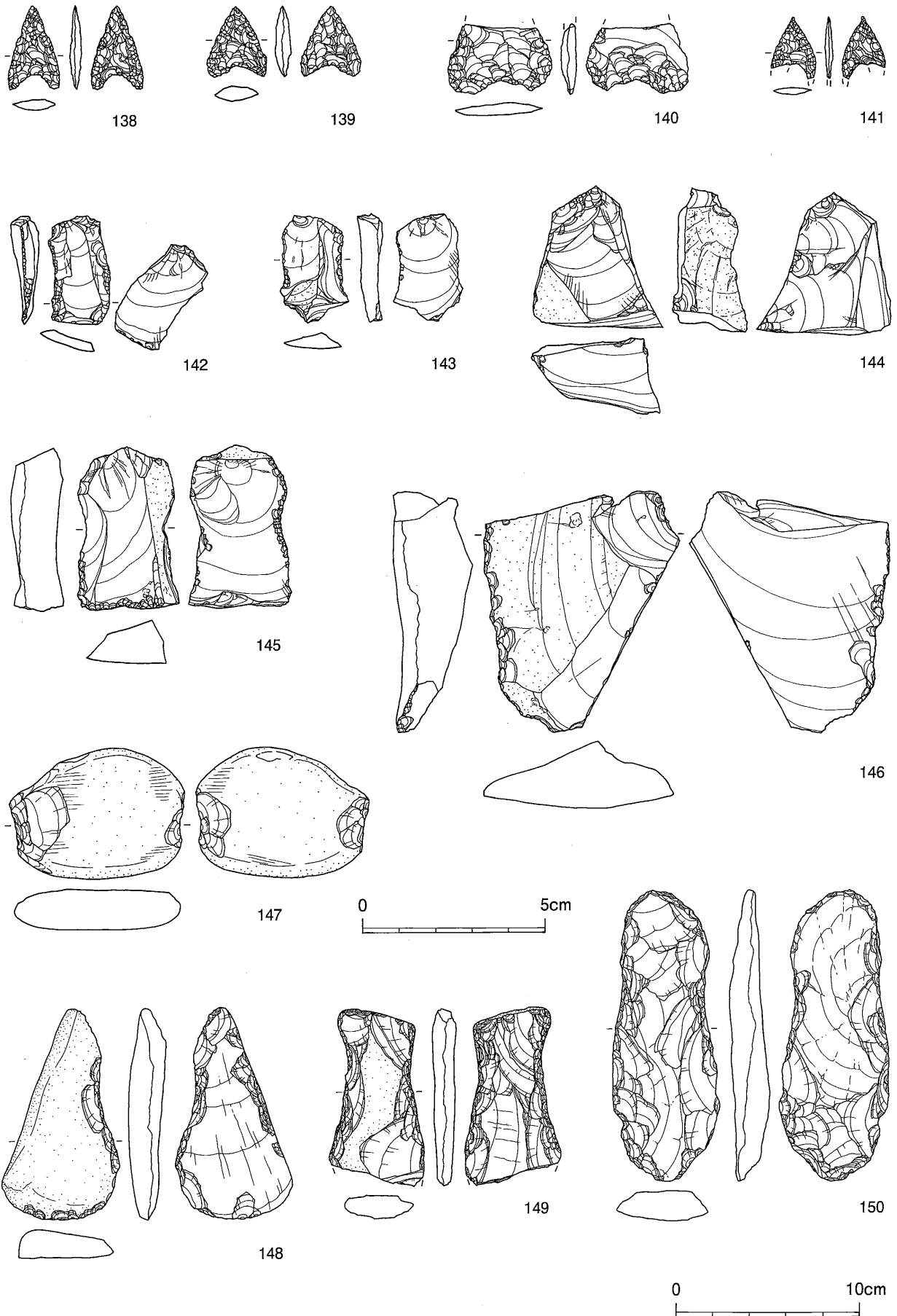
第42図 下原遺跡出土石器 (7)



第43图 下原遺跡出土石器 (8)

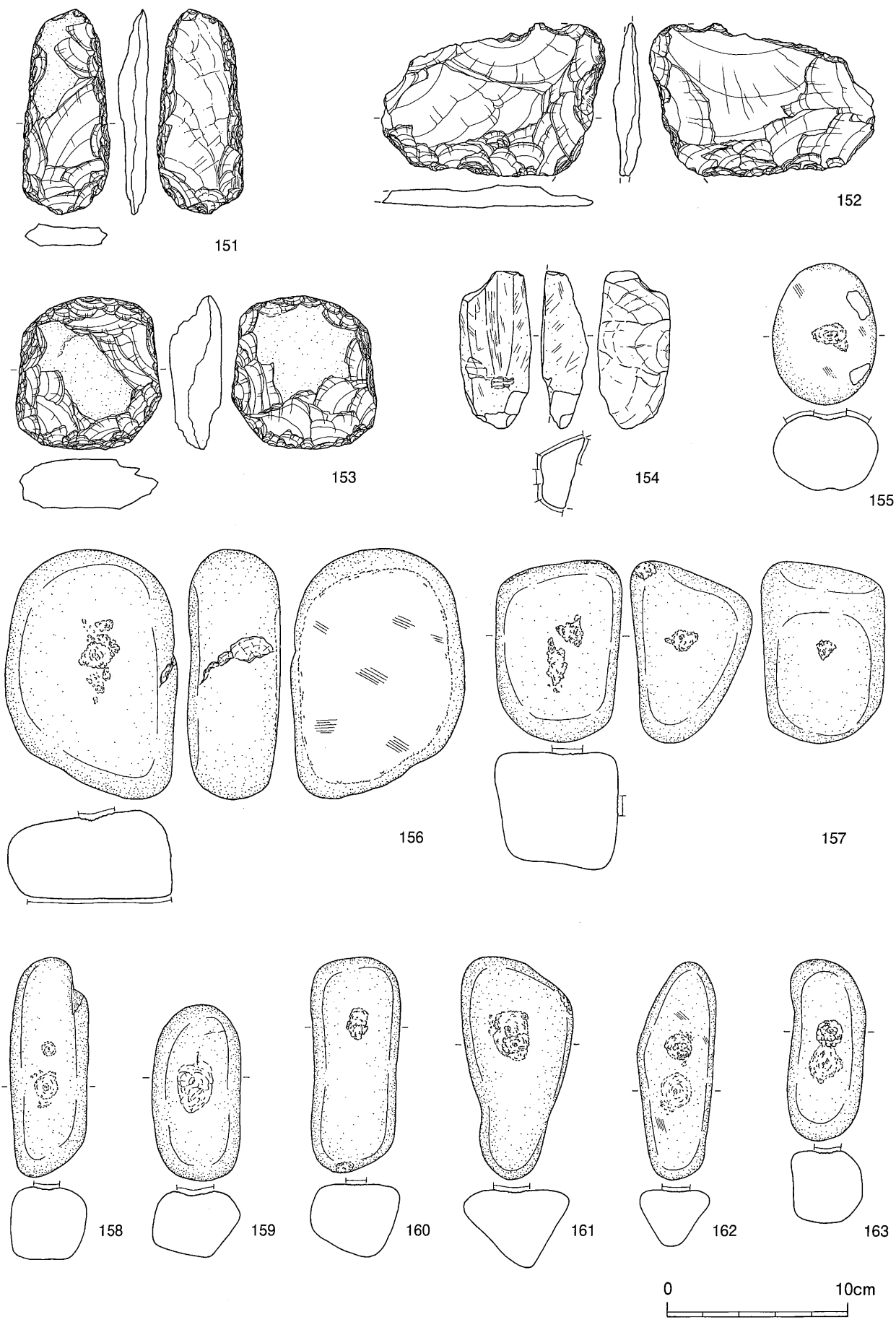


第44图 下原遺跡出土石器 (9)

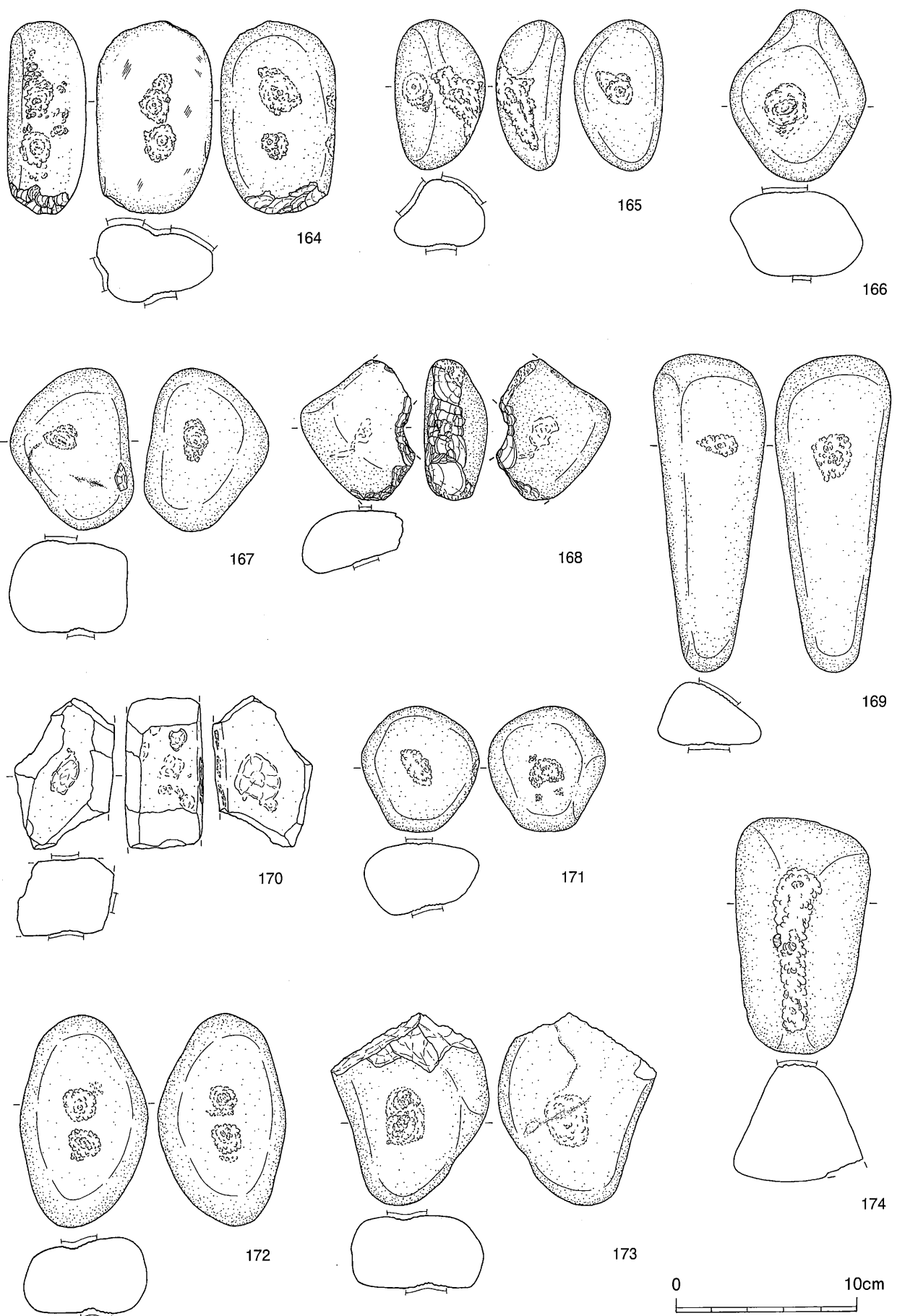


第45图 三夜塚遺跡出土石器 (1)

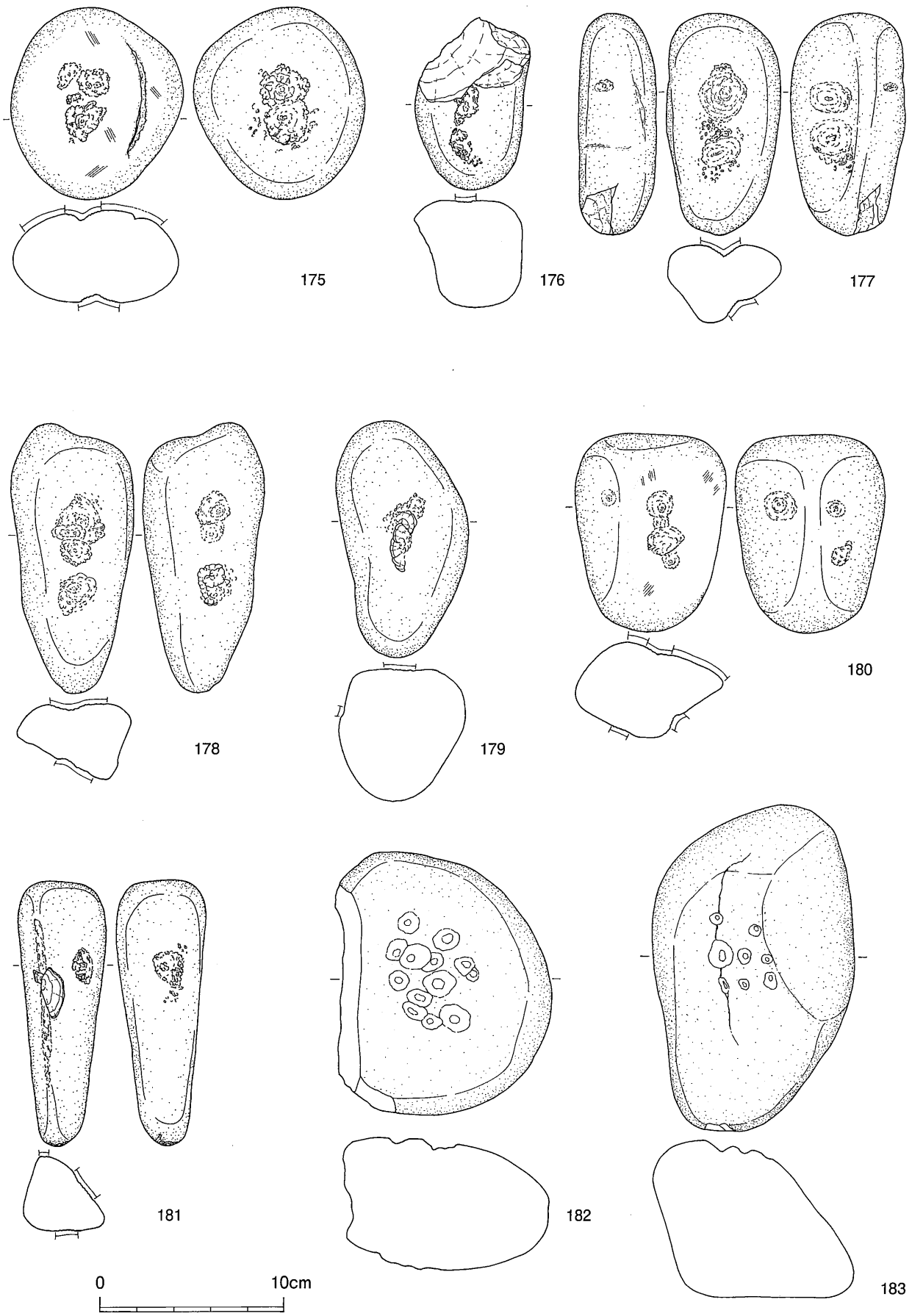




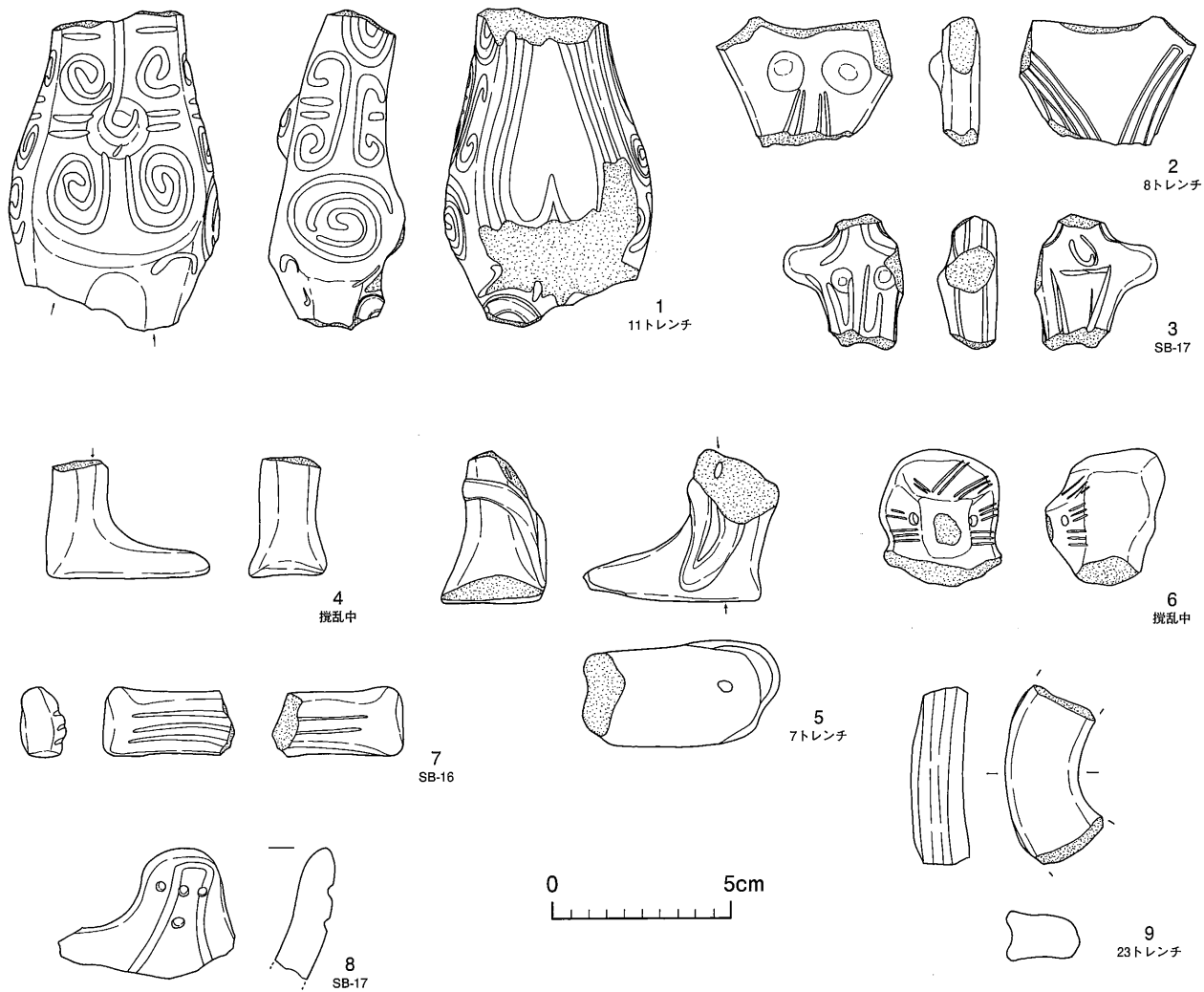
第46图 三夜塚遺跡出土石器 (2)



第47图 三夜塚遺跡出土石器 (3)



第48图 三夜塚遺跡出土石器（4）



第49図 下原遺跡出土土製品

## VI 自然科学分析

ここでは今回の発掘調査で出土した有機質遺物について行った科学分析結果を掲載する。炭化材と炭化種実の種類同定、炭化材と土器付着炭化物の年代測定である。分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。以下同社より提出された分析報告（当方にて一部修正）を掲載する。

### 三夜塚遺跡・下原遺跡出土炭化物の自然科学分析調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

三夜塚遺跡と下原遺跡は、旧唐沢川流路を挟んで両岸に位置する。これまでの発掘調査により、縄文時代中期中葉～後葉の集落を中心に、縄文時代前期末～後期中葉の遺構遺物が検出されている。

今回の分析調査では、三夜塚遺跡SB-21から出土した土器に付着した「おこげ」状の炭化物と、下原遺跡SB-19から出土した炭化材を試料として、遺構・遺物の年代に関する資料を得るために放射性炭素年代測定を実施する。また、両遺跡における木材利用・植物利用を検討するために、出土した炭化材および炭化種実遺体の同定を実施する。

#### (1) 試料

試料は、縄文時代前期末の土器に付着した炭化物1点（試料番号1）、炭化材11点（試料番号2～12）、種実遺体3点（試料番号13～15）の合計15点である。放射性炭素年代測定は、試料番号1・2の2点について実施する。樹種同定は試料番号2～12の11点、種実同定は試料番号13～15の3点について実施する。

#### (2) 分析方法

##### ① 放射性炭素年代測定

土壌や根など、目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸などアルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron

第9表 放射性炭素年代測定結果

番号	遺跡・トレンチ	遺構	層位	試料名	種類	補正年代 (BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 (BP)	Code No.	Measurement No.
1	三夜塚・21	SB-22	S18グリッド最下層覆土	袋No118	土器付着のおこげ	4,670 ± 30	-30.81 ± 0.65	4,770 ± 30	9939-1	IAAA-72440
2	下原・8	SB-19	床面直上焼土層	炭化材①	炭化材	4,070 ± 30	-27.86 ± 0.39	4,120 ± 30	9939-2	IAAA-72441

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ （測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

9SDH-2) を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX-II) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行うため、この値を用いて  $\delta^{13}\text{C}$  を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma; 68%) に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

## ② 樹種同定

木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類を同定する。なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東 (1982) およびWheeler他 (1998) を参考にする。

## ③ 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川 (1994)、中山ほか (2000) 等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、袋に戻して返却する。

## (3) 結果

### ① 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を第10表、暦年較正結果を第12表に示す。補正を行った年代測定結果は、試料番号1が $4,670 \pm 30\text{BP}$ 、試料番号2が $4,070 \pm 30\text{BP}$ を示す。また、測定誤差を $\sigma$ として計算させた暦年較正結果は、試料番号1がcalBC3,516-3,373、試料番号2がcalBC2,833-2,501である。

なお、暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い (<sup>14</sup>Cの半減期 $5730 \pm 40$ 年) を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改

正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。試料番号2は炭化材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。試料番号1は由来が明らかではないが、 $\delta^{13}\text{C}$ の結果からイネ科等の植物由来の可能性があり、試料番号2と同じく北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 $\sigma$ 、

第10表 暦年較正結果

番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)						相対比	Code No.
		$\sigma$		$2\sigma$		$\sigma$			
1	$4,674 \pm 31$	$\sigma$		cal BC 3,516 - cal BC 3,492	cal BC 3,492	cal BP 5,466 - 5,442	0.242	9939-1	
				cal BC 3,469 - cal BC 3,422	cal BC 3,422	cal BP 5,419 - 5,372	0.518		
		$2\sigma$		cal BC 3,418 - cal BC 3,410	cal BC 3,410	cal BP 5,368 - 5,360	0.075		
				cal BC 3,405 - cal BC 3,398	cal BC 3,398	cal BP 5,355 - 5,348	0.053		
		$2\sigma$		cal BC 3,384 - cal BC 3,373	cal BC 3,373	cal BP 5,334 - 5,323	0.111		
				cal BC 3,622 - cal BC 3,607	cal BC 3,607	cal BP 5,572 - 5,557	0.035		
$2\sigma$		cal BC 3,522 - cal BC 3,368	cal BC 3,368	cal BP 5,472 - 5,318	0.965				
		$\sigma$		cal BC 2,833 - cal BC 2,818	cal BC 2,818	cal BP 4,783 - 4,768	0.123	9939-2	
cal BC 2,662 - cal BC 2,649	cal BC 2,649			cal BP 4,612 - 4,599	0.086				
$2\sigma$		cal BC 2,635 - cal BC 2,570	cal BC 2,570	cal BP 4,585 - 4,520	0.696				
		cal BC 2,515 - cal BC 2,501	cal BC 2,501	cal BP 4,465 - 4,451	0.095				
$2\sigma$		cal BC 2,856 - cal BC 2,812	cal BC 2,812	cal BP 4,806 - 4,762	0.142				
		cal BC 2,747 - cal BC 2,725	cal BC 2,725	cal BP 4,697 - 4,675	0.031				
$2\sigma$		cal BC 2,698 - cal BC 2,561	cal BC 2,561	cal BP 4,648 - 4,511	0.689				
		cal BC 2,536 - cal BC 2,492	cal BC 2,492	cal BP 4,486 - 4,442	0.138				

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行い易い様、丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68%、 $2\sigma$ は95%である。
- 5) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

2 $\sigma$ 双方の値を計算する。 $\sigma$ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2 $\sigma$ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、2 $\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲

内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

第11表 樹種同定結果

番号	遺跡・トレンチ	遺構	層位	試料名	時期	樹種
2	下原・8	SB-19	床面直上焼土層	炭化材①	縄文時代中期後葉Ⅱ	クリ
3	下原・8	SB-19	床面直上焼土層	炭化材②	縄文時代中期後葉Ⅱ	クリ
4	下原・7	SK-097		①	縄文時代中期後葉Ⅰ	マツ属複維管束亜属
5	下原・7	SK-097		②	縄文時代中期後葉Ⅰ	クリ
6	下原・7	SK-097		③	縄文時代中期後葉Ⅰ	クリ
7	下原・7	SK-097		④	縄文時代中期後葉Ⅰ	クリ
8	三夜塚・12	SK-191		覆土中炭化材	縄文時代中期後葉Ⅳ	クリ
9	三夜塚・13	SK-170	覆土		縄文時代前期末	マツ属複維管束亜属
10	三夜塚・21	SB-22内P1	覆土	炭化材	縄文時代前期末	クリ
11	下原・8	SB-17内P1	覆土		縄文時代中期後葉Ⅲ	クリ
12	下原・11	SK-050		炭化材①	縄文時代後期初頭	クリ

## ② 樹種同定

同定結果を第12表に示す。炭化材は、針葉樹1種類（マツ属複維管束亜属）と広葉樹1種類（クリ）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成されるが、水平樹脂道とエピセリウム細胞は、全て破損しており、空壁として痕跡が残るのみである。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-10細胞高。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-10細胞高。

## ③ 種実同定

同定結果を第13表に示す。試料番号13は落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属の子葉に、試料番号14・15は落葉広葉樹のオニグルミの核に同定された。何れも炭化しており、破片の状態であった。以下に形態的特徴等を記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならば長さ3-4cm、径2.5-3cm程度の頂部が尖る広卵形で、1本の明瞭な縦の縫合線がある。破片は最大で2.2cm、計1/2個未満 (No.14)。核は硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

・コナラ属コナラ亜属 (*Quercus* subgen. *Quercus*) ブナ科

子葉の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならば径1.3-1.7cm程度の頂部がやや尖る球～偏球体。破片は、縦に割れた1/2個未満で、径1.4cm程度。子葉は硬く緻密で、表面には縦方向の維管束の筋がみられる。

第12表 種実同定結果

試料No.	出土遺跡・地点・遺構等	時期	分類群/部位	状態	個数	備考
13	三夜塚・21T・SK-191フク土上層	縄文時代中期後葉Ⅳ	コナラ属コナラ亜属 子葉	炭化・破片	2	接合し1個
14	三夜塚・13T・SK-170フク土	縄文時代前期末	オニグルミ 核	炭化・破片	1	
15	下原・8T・SB-17内P1フク土	縄文時代中期後葉Ⅲ	オニグルミ 核	炭化・破片	2	接合し1個

現在本遺跡周辺域に分布する球体の大型果実を持つコナラ亜属は、クヌギ節クヌギ、アベマキ、コナラ節カシワ、ナラガシワ、コナラ節内の種間雑種などが挙げられるが、最も普通にみられるのはクヌギ (*Q. acutissima* Carruthers) である。本遺跡から検出された子葉は、クヌギに由来する可能性もあるが、形態のみから種まで同定することは困難であるため、ここではコナラ亜属にとどめた。

#### (4) 考察

##### ① 木材利用

樹種同定を実施した遺構は、両遺跡を通じて、縄文時代前期末（試料番号9、10）、縄文時代中期後葉（試料番号2～8、11）、縄文時代後期初頭（試料番号12）に分けられる。ここでは時期別に利用状況をまとめたい。

縄文時代前期末の炭化材は、土坑（三夜塚遺跡SK-170）の覆土から出土した試料番号9と、竪穴住居址の柱穴内（三夜塚遺跡SB-22内P1）から出土した試料番号10がある。土坑の炭化材は複維管束亜属、柱穴内の炭化材はクリであった。複維管束亜属は、いわゆるニヨウマツ類で、本州ではアカマツまたはクロマツの2種が分布する。いずれも針葉樹としては比較的重硬で、松脂を多く含むために保存性が高い一方で、燃えやすい。土坑内から出土したことから、燃料材などとして利用された可能性がある。一方、クリは、重硬で強度・耐朽性が高い材質を有している。竪穴住居址の柱穴から出土したことから、柱などの建築部材の一部が炭化・残存した可能性がある。

縄文時代中期後葉の試料は、中期後葉Ⅰの土坑から出土した試料番号4～7、中期後葉Ⅱの住居址から出土した試料番号2～3、中期後葉Ⅲの竪穴住居址柱穴から出土した試料番号11、中期後葉Ⅳの土坑から出土した試料番号8がある。中期後葉Ⅰの土坑下原遺跡SK-097から出土した炭化材は、マツ複維管束亜属1点とクリ3点であり、少なくとも2種類の木材が混在していたことが推定される。いずれも縄文時代前期末の試料に確認された樹種であり、同様の樹種が引き続き利用されていたことが推定される。同じく中期後葉Ⅲの住居址下原遺跡SB-17の柱穴内から出土した炭化材はクリであり、前期末と同じく強度・耐朽性に優れたクリ材を建築部材に利用していたことが推定される。中期後葉Ⅱの試料は、竪穴住居址（下原遺跡SB-19）の床面直上焼土層から出土した炭化材であり、垂木などの住居構築材が炭化・残存した可能性がある。このうち、試料番号2を用いた年代測定結果は、 $4,070 \pm 30BP$ であり、谷口（2001）の縄文時代中期末頃の年代に相当する値である。炭化材は、2点ともクリに同定され、下原遺跡SB-17や三夜塚遺跡SB-22と同様の結果が得られた。中期後葉Ⅳの試料は、土坑三夜塚遺跡SK-191から出土した炭化材1点であり、クリが利用されている。縄文時代後期初頭の試料は、土坑下原遺跡SK-050から出土した炭化材1点であり、中期と同様にクリが利用されている。縄文時代前期末～後期初頭に至るまで、クリを主体とした木材利用が推定される。

本遺跡周辺では、縄文時代前期の木材利用に関する資料がほとんど無いが、長野県内では御代田町川原田遺跡の縄文時代前期後半とされる竪穴住居址出土炭化材にクリが確認された例がある（パリノ・サーヴェイ株式会社、1997）。また、縄文時代中期の資料では、旧梓川村荒海渡遺跡で住居址出土炭化材等にクリが多い結果が得られている（森、1978）。また、朝日村熊久保遺跡では、竪穴住居址から出土した炭化材が全てクリに同定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社、2003）。同様の結果は、松本市塩倉池遺跡でも確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社、2005a）。本遺跡からは距離が離れるが、クリが多い結果は、茅野市長峯遺跡、旧臼田町唐松B遺跡、旧更埴市屋代遺跡群、御代田町川原田遺跡でも報告されている（パリノ・サーヴェイ株式会社、1997、2005b；高橋、2000、株式会社古環境研究所、2005）。縄文時代後期の資料では、明科町北村遺跡、茅野市長峯遺跡および同市稗田頭A遺跡でクリが比較的多い結果が報告されている（鈴木・能城、1993；パリノ・サーヴェイ株式会社、1995；株式会社古環境研究所、2005）。これらの結果から、縄



文時代前期～後期にかけては、県内各地でクリ材が多く利用される傾向がみられ、今回の結果とも調和的といえる。

これまでの結果をみると、クリが多く利用される一方、クリと共に生育し、同じく重硬で強度の高い材質を有するコナラ節やクヌギ節の確認例は少ない。こうした点から、クリ材を選択的に利用している可能性がある。この背景には、青森県青森市三内丸山遺跡で指摘されたようなクリ栽培による木材資源の有効活用等も考えられるが、本地域では縄文時代の古植生や植物資源利用に関する資料が少ないため、現段階では議論することはできない。今後さらに資料を蓄積したうえで、改めて検討することがのぞまれる。

## ② 植物利用

三夜塚遺跡の縄文時代前期土坑SK-170（試料番号14）、および下原遺跡の縄文時代中期後葉住居址SB-17内P1（試料番号15）で確認されたオニグルミは、川沿いなどの湿潤な肥沃地を好んで生育する落葉高木である。また、三夜塚遺跡の縄文時代中期後葉IV土坑SK-191（試料番号13）で確認されたコナラ属コナラ亜属は、山野に普通に生育する落葉高木であることから、各時期の試料とも本遺跡周辺域の森林に生育していたものに由来すると思われる。

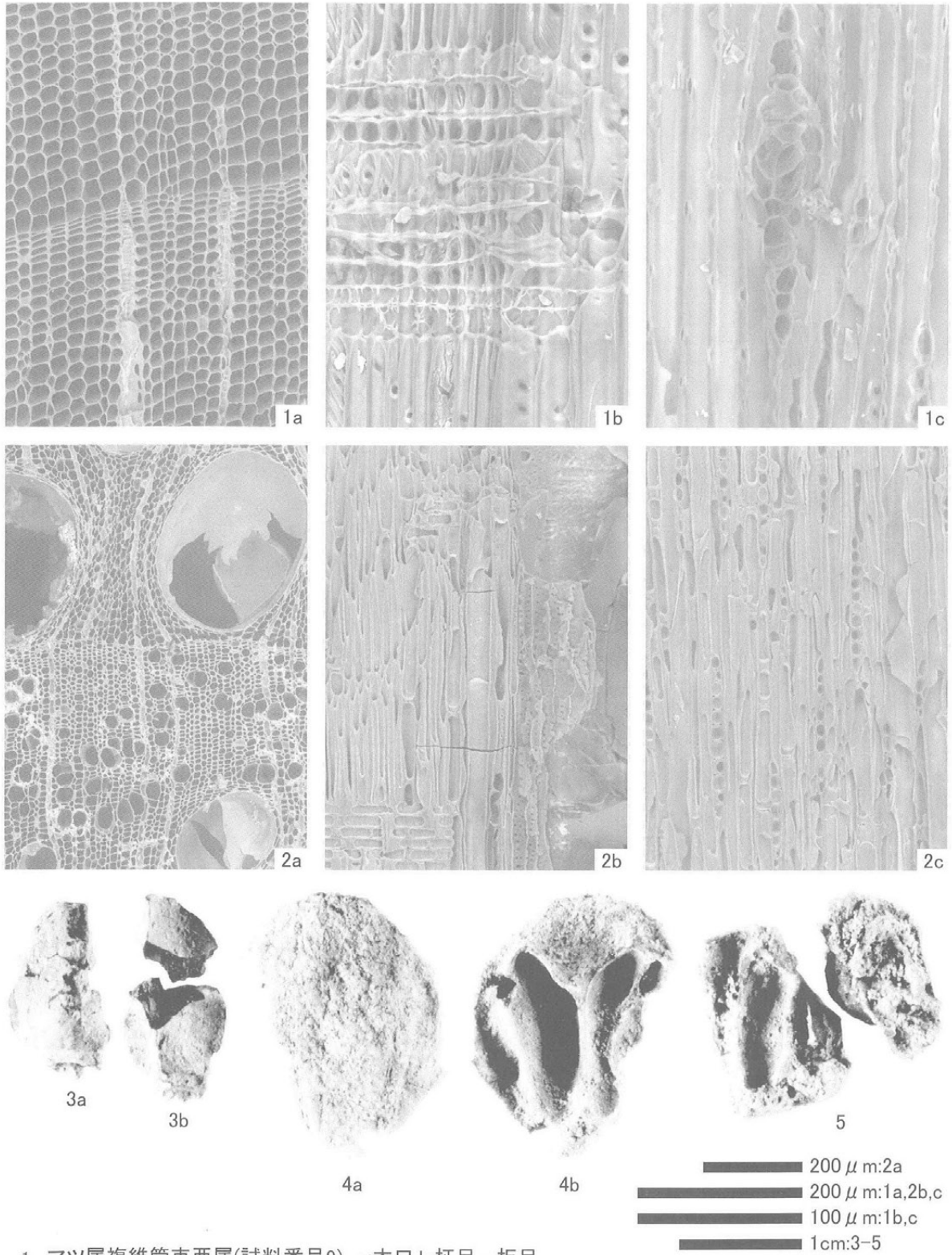
また、オニグルミは核内部の種子が生食可能で、コナラ亜属はアク抜きすれば子葉が食用可能である。これらの堅果は、長期保存可能で収量も多いことから、古くより植物質食糧として利用され、遺跡出土例も多い（渡辺、1975など）。これらの可食種実は、炭化した状態で炭化材と共に遺構内より出土したことから、当該期の本遺跡周辺の森林から住居内に持ち込まれ、植物質食糧として利用されていたものが火を受け残存した、或いは燃料材として炭化材とともに利用されたなど、人為的行為にともなって残された可能性がある。

なお、遺構間にみられる種類や部位の違いは、遺構の利用形態（貯蔵や利用後の残渣の廃棄方法等）を反映している可能性がある。しかしこの点については、今回の分析試料数がごく少量であるため言及は控えた。今後、発掘調査時所見や周辺事例を含めてあらためて検討することがのぞまれる。

## 【引用文献】

- 石川 茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 株式会社古環境研究所, 2005, 出土炭化材の樹種同定・年代測定、および出土炭化物の種実同定。「担い手育成基盤整備事業（芦ヶ沢地区）国道299号線バイパス建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 聖石遺跡・長峯遺跡 - 第1分冊-本文編」, 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書69, 長野県諏訪地方事務所・長野県諏訪建設事務所・長野県茅野市・長野県埋蔵文化財センター, 162-168.
- 森 義直, 1978, 残存動植物について。「長野県南安曇郡梓川村 荒海渡遺跡調査報告書」, 長野県南安曇郡梓川村教育委員会, 199-202.
- 中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 1995, 稗田頭A遺跡住居址出土の植物遺体とその年代。「稗田頭A遺跡 平成6年度県営圃場整備事業槻木地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」, 茅野市教育委員会, 58-60.
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 1997, 炭化材および炭化種実同定。「川原田遺跡」, 長野県御代田町教育委員会, 459-464.
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 2003, 能久保遺跡出土炭化材の年代と樹種。「能久保遺跡第10次発掘調査報告書 - 松本平西山山麓における縄文時代中期の集落址 -」, 朝日村文化財調査報告書第1集, 長野県東筑摩郡朝日村教育委員会, 259-262.
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 2005a, 塩倉池遺跡の自然科学分析。「塩倉池遺跡IV・塚山古墳群」, 松本市文化財調査報告No.178, 松本市教育委員会, 22-23.
- パリオ・サーヴェイ株式会社, 2005b, 樹種同定。「地方道路交付金業務（主）川上佐久線埋蔵文化財発掘調査報告書 - 白田町内 - 唐松B遺跡」, 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書72, 長野県白田建設事務所・長野県埋蔵文化財センター, 65-66.
- 島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 鈴木 三男・能城 修一, 1993, 長野県北村遺跡出土炭化材の樹種。「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11 - 明科町内 - 北村遺跡 本文編」, (財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書14, 日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会・財団法人長野県埋蔵文化財センター, 167-168.
- 高橋 敦, 2000, 炭化材の樹種。「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書24 - 更埴市内その3 - 更埴条里遺跡・屋代遺跡群 - 縄文時代編 - 本文」, 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書51, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター, 249-253.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 渡辺 誠, 1975, 縄文時代の植物食. 雄山閣出版, 187p.

炭化材・種実遺体



1. マツ属複維管束亜属(試料番号9) a:木口,b:柾目,c:板目
2. クリ(試料番号5) a:木口,b:柾目,c:板目
3. コナラ属コナラ亜属 子葉(試料番号13)
4. オニグルミ 核(試料番号14)
5. オニグルミ 核(試料番号15)

## Ⅶ 調査のまとめ

今回の発掘調査は幅が狭かったの一言につきる。幅80cmしかない中に入り作業するのは身動きするにも自由が利かず、毎日夕方になると背中が土で真っ黒であった。それでも両遺跡に1km以上に及ぶ長いトレンチを広範囲に入れたこととなり、遺跡の範囲や内容を把握する良い機会となった。

三夜塚遺跡第21トレンチでは、縄文前期末の12m弱にも及ぶ大型住居址を検出した。この期の遺跡で豪雪地帯を主として調査事例が見られるもので、ロングハウスと呼ばれる長大なものだったらどこまで延びているのだろうかと思いを掻き立てられるが、極々一部しか様子をつかめなかったのは仕方のないところである。また同じ前期末の筒状把手を有すこの地域では珍しい土器が出土した三夜塚遺跡第13トレンチの土坑、同第1トレンチで散見された土器片、昭和55年にグリッド調査された範囲から出土した中期初頭の土器など、前期末から中期初頭の遺物・遺構は、三夜塚遺跡内でもこの範囲にのみまとまる傾向が窺える。

中期前葉、中葉は比較的出土遺物も少なく散発的であるが、後葉になると一気に増える。しかし遺跡として線引きされた全範囲に存在するのではなく、集中するのは、三夜塚遺跡では第3次調査地点となった範囲も含め遺跡として線引きされた北東側、下原遺跡は第2、7～11トレンチを含む遺跡として線引きした東側であり、旧唐沢川流路を挟んで両岸に集落が営まれたと見られる。また後期の遺物・遺構が下原遺跡第23トレンチで見つかった。三夜塚遺跡第2次調査として実施された範囲の東側からも後期の遺物が出土しており、後期の遺物は下原遺跡の西側、三夜塚遺跡の北西側にまとまる傾向が窺える。なお両遺跡として線引きされた範囲とは言えほとんど遺構・遺物が見られない箇所として、三夜塚遺跡の南側、下原遺跡の中央部がある。遺跡名や線引き範囲の見直しが必要な状況となってきているが、これを実施するにはまだまだ追及が足りないので、現段階では大きな見直しはしないでおきたい。

出土遺物については、まず下原遺跡SB-19出土の有孔鏢付土器が特筆される。住居焼失による被熱により脆弱となり、所々に穴があいてしまったがほぼ完形に復元されたもので、下膨れの壺形を呈し胴部にはダイナミックな隆帯による装飾がなされている。器形や胴部の隆帯装飾の付け方等が、岡谷市花上寺遺跡出土品に類似している感もするが独自性の方が強い。ひとつの遺跡から数個しか出土しない特殊な形状をした土器を良く今回の限られた範囲の調査で、また無傷で発見することができたのは幸運と言うしかないが、これを作り上げた縄文人の思いを感じずにはいられない。また下原遺跡SB-09で発見された大きな丸石にも圧倒された。44kgと25kgを測る安山岩の石が住居址の床面に並んで置かれた状況で出土し、他にも丸くはないが安山岩、花崗岩、砂岩の大きな石が同様に置かれた状況で見つかった。またこの住居址は床面上に炭化材や焼土が堆積していた様子から、上屋が焼かれたと見られ、大きな石は住居廃絶時の祭祀行為に伴うものと考えが及ぶ。有孔鏢付土器が出土した住居址も同様に上屋が焼かれたと見られ、並置された可能性がある釣手土器の存在もあり、住居廃絶時の祭祀行為を伺う好例ではないかと思われる。

さて毎回の事ながら限られた時間と人員、そして山と積まれたコンテナに入った多くの資料という状況で、やりたかったことを十分にこなすことができなかった。思いついたことを記しようやく報告書の体裁をなして刊行されたという感も否めないが、諸氏の目に触れることで見つかった遺跡が歴史研究の一助となることを期待したい。最後となりましたが、狭い調査区、猛暑と悪条件の中、現場で作業に従事して頂いた方々、農繁期に作業の支障となる不便を我慢頂いた農家の方々、土器の接合や注記等の慎重を期す細かい整理作業に従事して頂いた方々、松本地方事務所や中信平右岸土地改良区をはじめとする諸機関等、ご協力賜った皆様にお礼申し上げます、結びとします。

# 写真図版



下原遺跡第1トレンチ (東から)



下原遺跡第3トレンチ (東から)



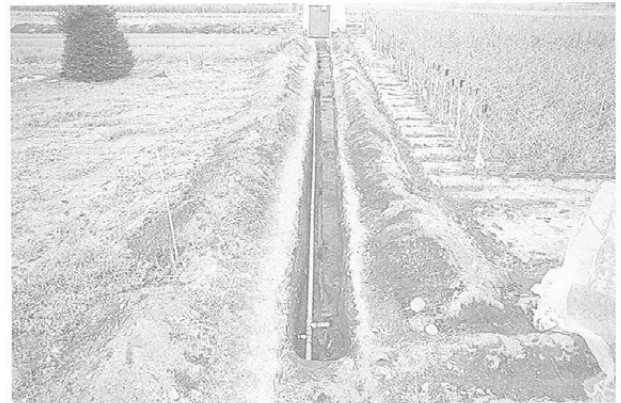
下原遺跡第4トレンチ (東から)



下原遺跡第5トレンチ (西から)



下原遺跡第6トレンチ (西から)



下原遺跡第7トレンチ (西から)



下原遺跡第11トレンチ (西から)

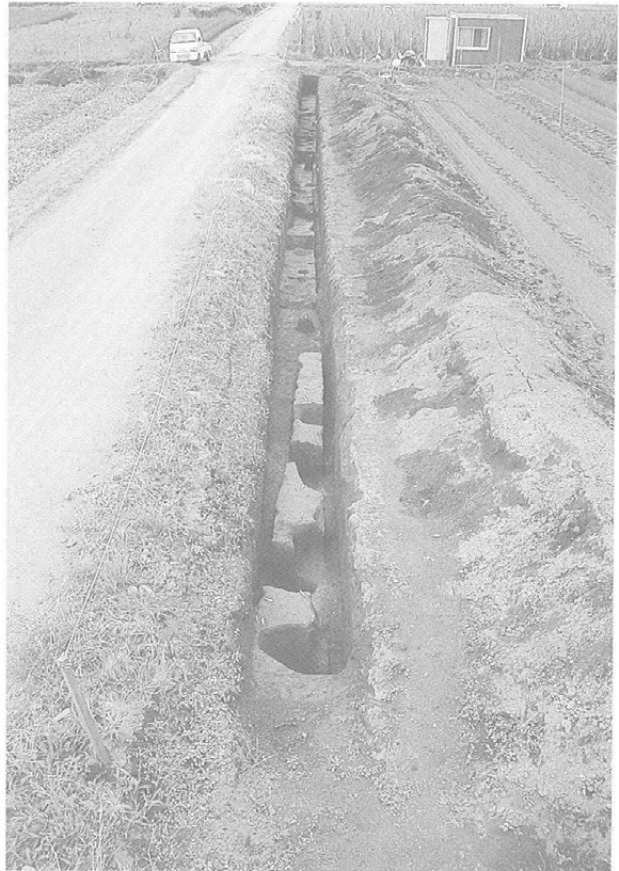


下原遺跡第12トレンチ (東から)

写真図版 2



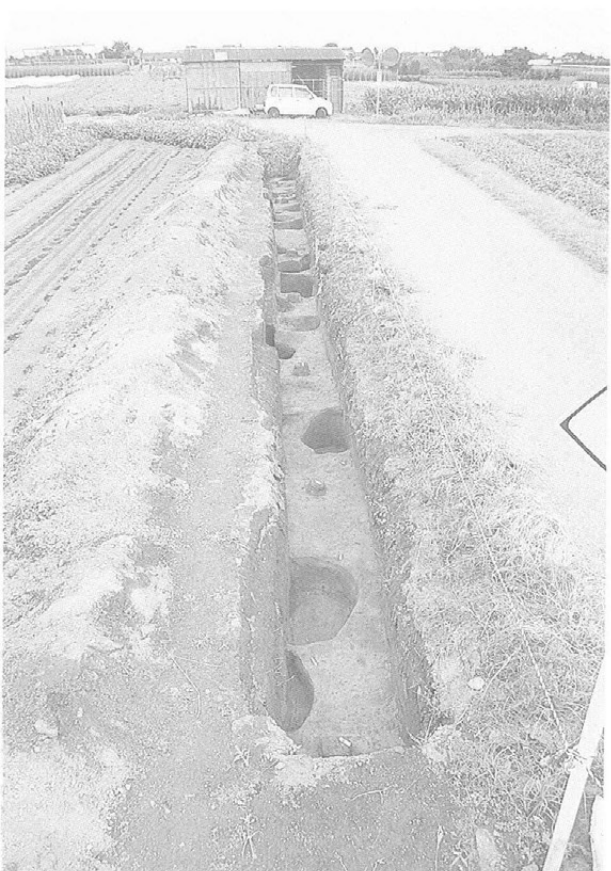
下原遺跡第2トレンチ (東から)



下原遺跡第8トレンチ (北から)



下原遺跡第9トレンチ (南から)



下原遺跡第10トレンチ (南から)



下原遺跡第13トレンチ (東から)



下原遺跡第14トレンチ (東から)



下原遺跡第15トレンチ (西から)



下原遺跡第16トレンチ (南から)



下原遺跡第17トレンチ (南から)



下原遺跡第18トレンチ (南から)



下原遺跡第19トレンチ (南から)

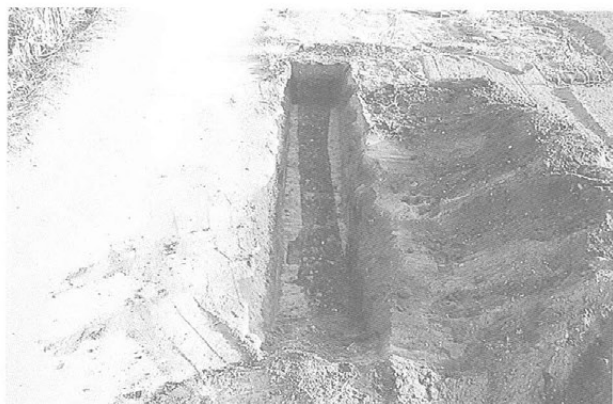


下原遺跡第20トレンチ (東から)

写真図版 4



下原遺跡第21トレンチ (北から)



下原遺跡第22トレンチ (北から)



下原遺跡第23トレンチ (南から)



下原遺跡第24トレンチ (西から)



下原遺跡第25トレンチ (南から)



三夜塚遺跡第1トレンチ (東から)



三夜塚遺跡第2トレンチ (東から)



三夜塚遺跡第3トレンチ (西から)

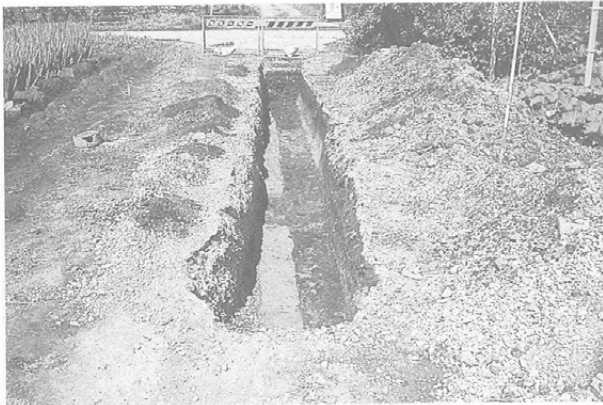




三夜塚遺跡第4トレンチ (東から)



三夜塚遺跡第5トレンチ (東から)



三夜塚遺跡第6トレンチ (東から)



三夜塚遺跡第7トレンチ (西から)



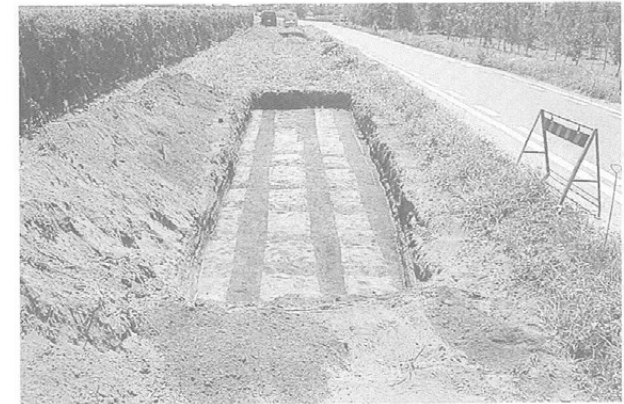
三夜塚遺跡第9トレンチ (東から)



三夜塚遺跡第10トレンチ (東から)



三夜塚遺跡第11トレンチ (北から)



三夜塚遺跡第12トレンチ (北から)

写真図版 6



三夜塚遺跡第13トレンチ (南から)



三夜塚遺跡第14トレンチ (南から)



三夜塚遺跡第15トレンチ (南から)



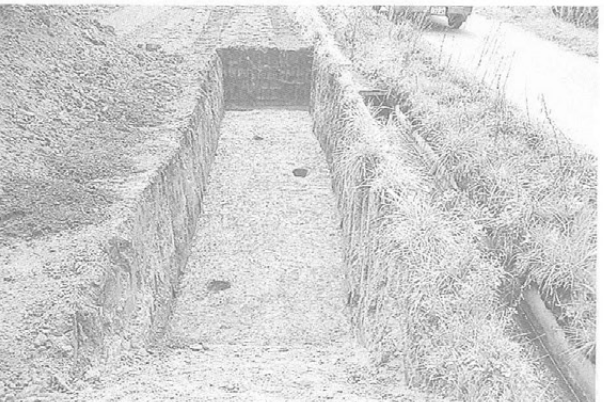
三夜塚遺跡第16トレンチ (北から)



三夜塚遺跡第17トレンチ (北から)



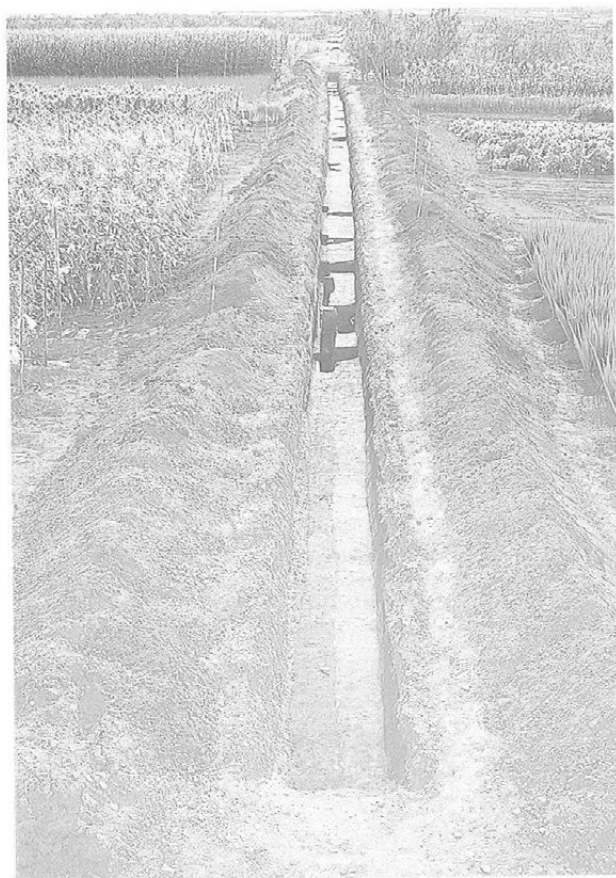
三夜塚遺跡第18トレンチ (南から)



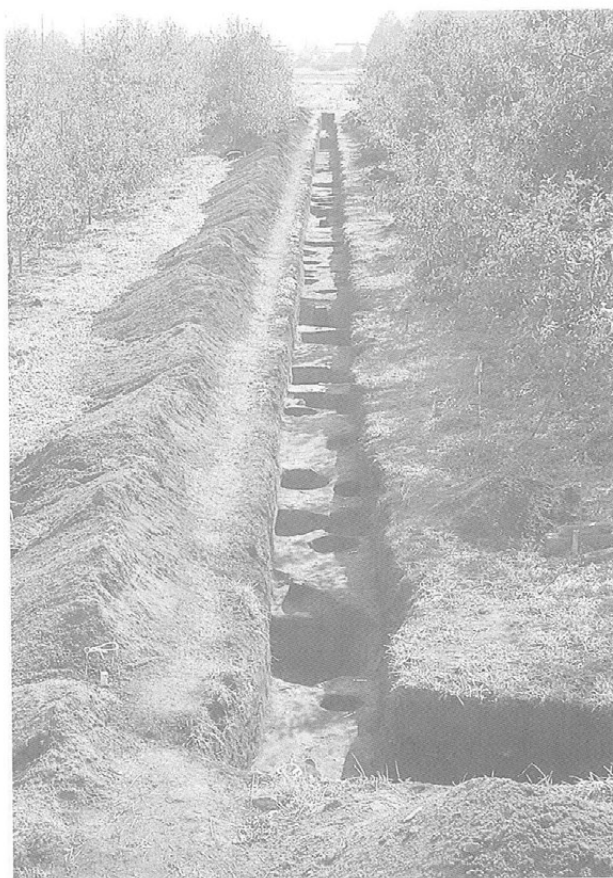
三夜塚遺跡第19トレンチ (北から)



三夜塚遺跡第20トレンチ (北から)



三夜塚遺跡第8トレンチ（東から）



三夜塚遺跡第21トレンチ（北から）



下原遺跡SB-01完掘（北から）



下原遺跡SB-02、SK-012・015完掘（北から）



下原遺跡SB-03・10完掘（北から）



下原遺跡SB-03遺物出土状況

写真図版 8



下原遺跡SB-04完掘（北から）



下原遺跡SB-04遺物出土状況



下原遺跡SB-05完掘（北から）



下原遺跡SB-06完掘（北から）



下原遺跡SB-06遺物出土状況



下原遺跡SB-07完掘（北から）



下原遺跡SB-07遺物出土状況



下原遺跡SB-08・14完掘（東から）



下原遺跡SB-11~13 (北東から)



下原遺跡SB-16完掘 (西から)



下原遺跡SB-17・20・21完掘 (南から)



下原遺跡SB-18完掘 (西から)



下原遺跡SB-19完掘 (西から)



下原遺跡SB-22完掘 (南から)



三夜塚遺跡SB-21完掘 (東から)



三夜塚遺跡SB-21炉址 (南西から)



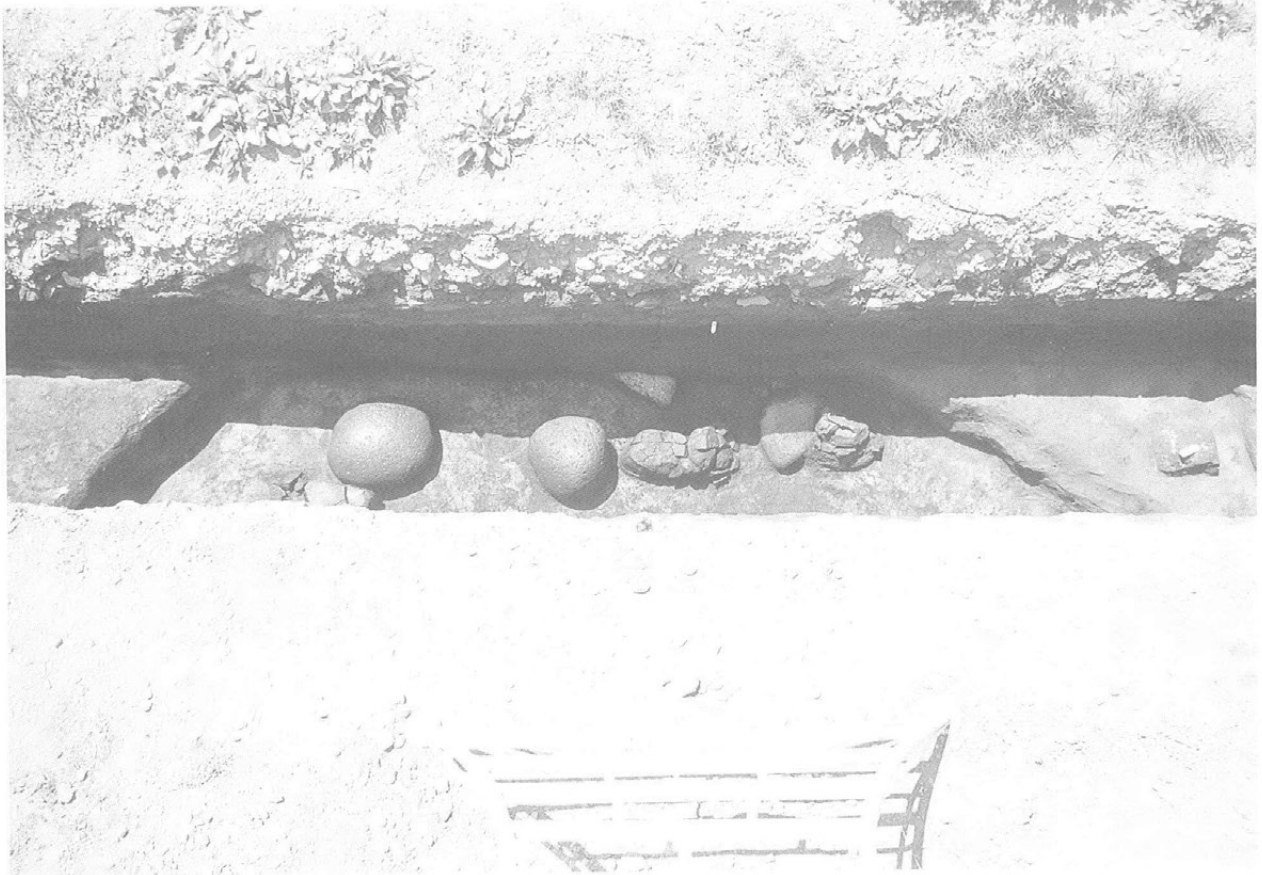
下原遺跡  
SB-09完掘（南東から）



下原遺跡  
SB-03遺物出土状況



下原遺跡  
SB-05炉 礫出土状況

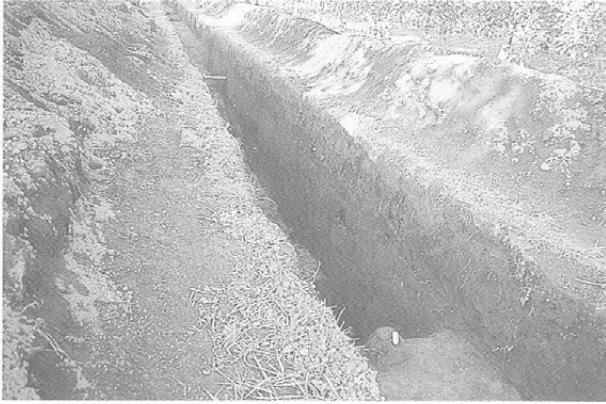


下原遺跡SB-09床面上礫出土状況（北から）



下原遺跡SB-19遺物出土状況（西から）

写真図版12



三夜塚遺跡SB-22セクション (南西から)



三夜塚遺跡SB-22セクション (北西から)



三夜塚遺跡SB-22 地床炉



三夜塚遺跡SB-22内P2遺物出土状況



三夜塚遺跡SB-22遺物出土状況 (南から)



三夜塚遺跡SB-22完掘 (北から)

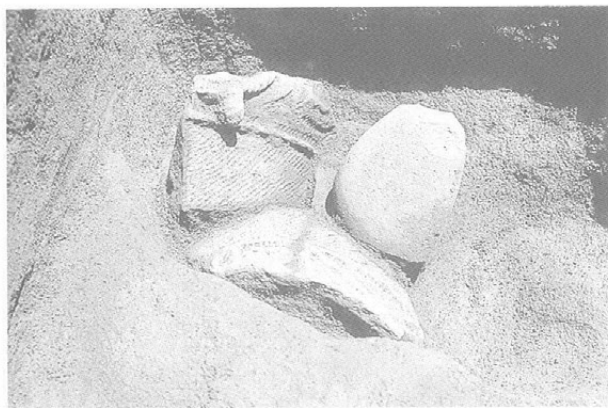




下原遺跡SK-001遺物出土状況



下原遺跡SK-004礫出土状況（東から）



下原遺跡SK-043遺物出土状況



下原遺跡SK-049遺物出土状況（北から）



下原遺跡SK-050（西から）



下原遺跡SK-076（西から）



下原遺跡SK-077礫出土状況（南から）



下原遺跡SK-090（南西から）

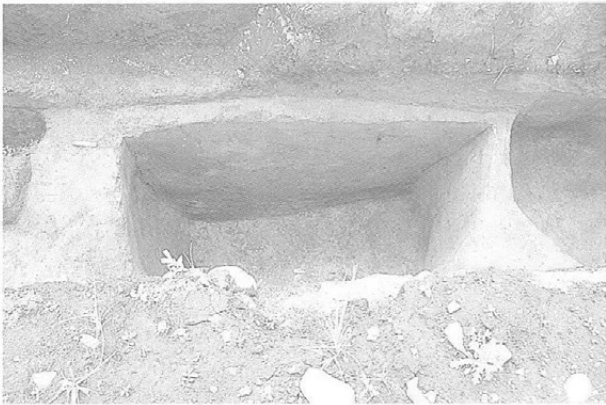
写真図版14



下原遺跡SK-093 (西から)



下原遺跡SK-094 (南西から)



下原遺跡SK-100 (東から)



下原遺跡SK-117 (南西から)



三夜塚遺跡SK-167 (南から)



三夜塚遺跡SK-172 (南から)



三夜塚遺跡SK-174 (北から)



三夜塚遺跡SK-182 (南西から)



三夜塚遺跡SK-170遺物出土状況（南から）



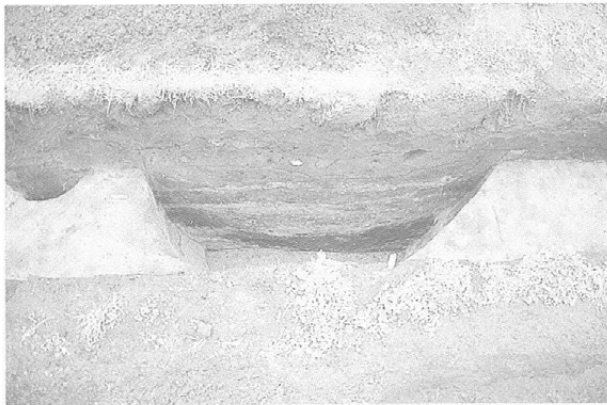
三夜塚遺跡SK-183遺物出土状況（北から）



三夜塚遺跡SK-184・188（北西から）



三夜塚遺跡SK-187遺物出土状況



三夜塚遺跡SK-191（東から）



重機による表土除去作業



掘削作業



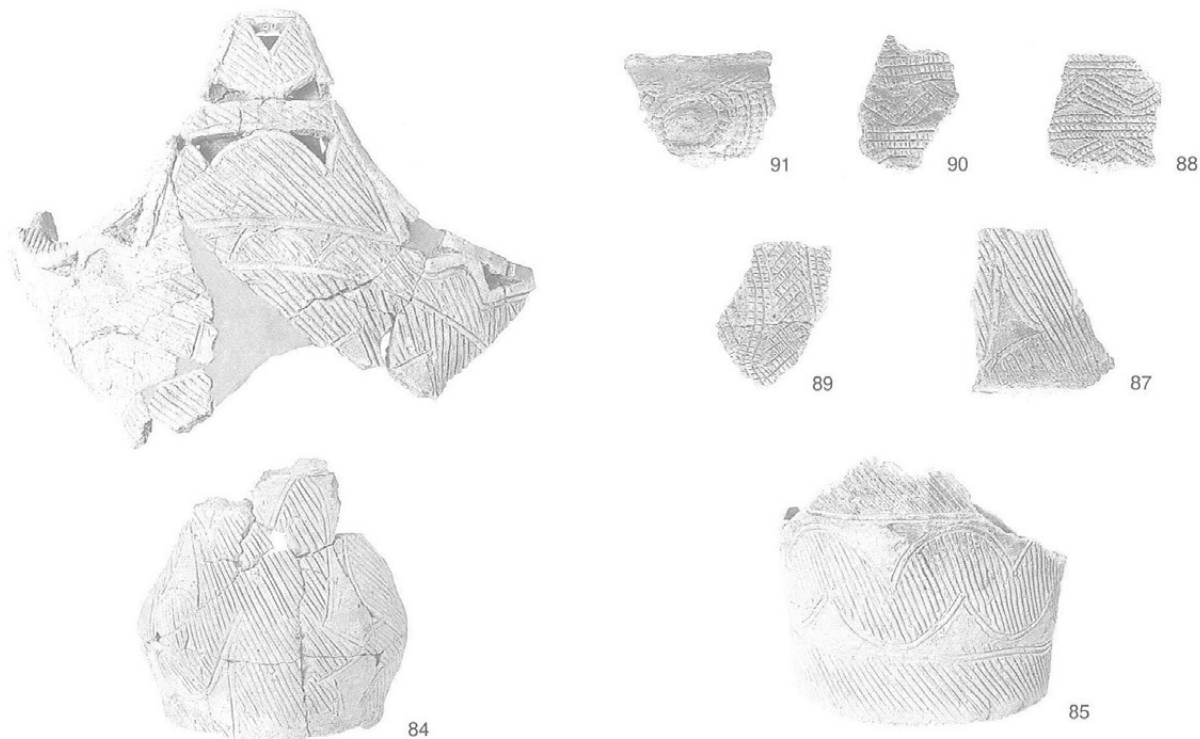
土器検出作業



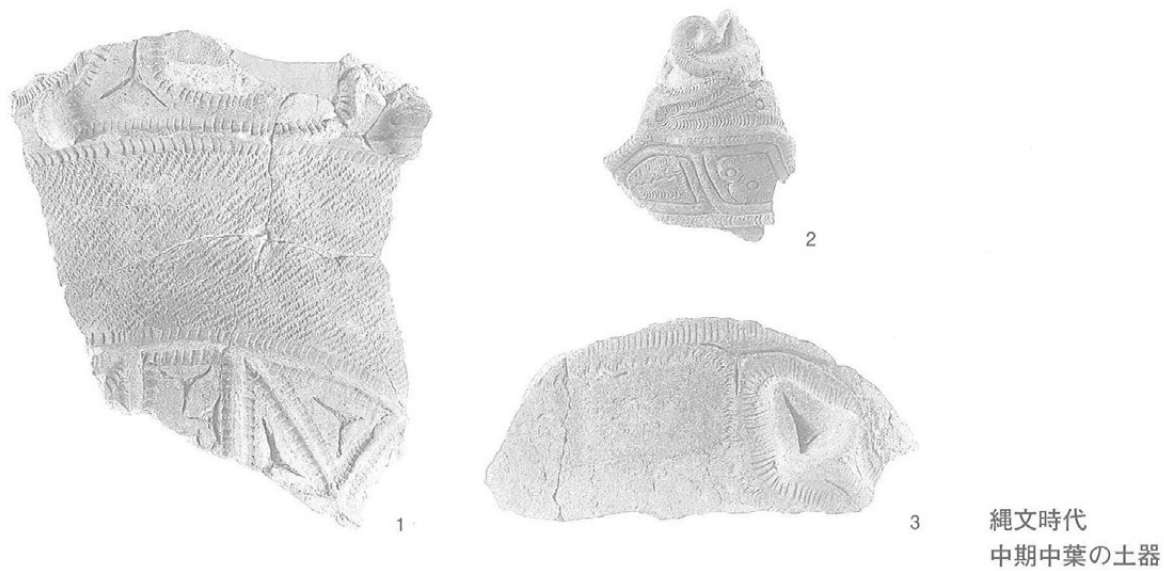
作業風景



作業風景



縄文時代前期末の土器



縄文時代  
中期中葉の土器



縄文時代中期後葉の土器



42



36



102



100



既出品



21



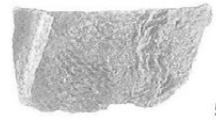
54



34



105



59



58



53



51



52



103



108



33



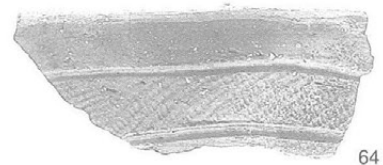
63



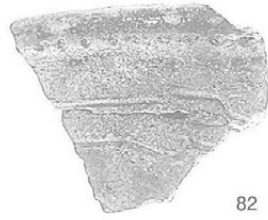
67



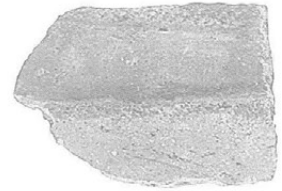
下原23T



64



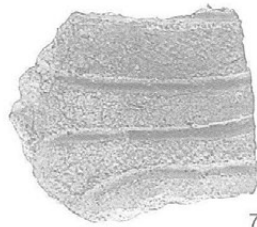
82



83



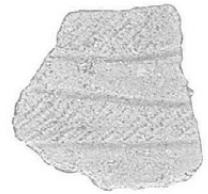
77



72

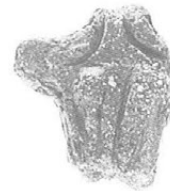


71



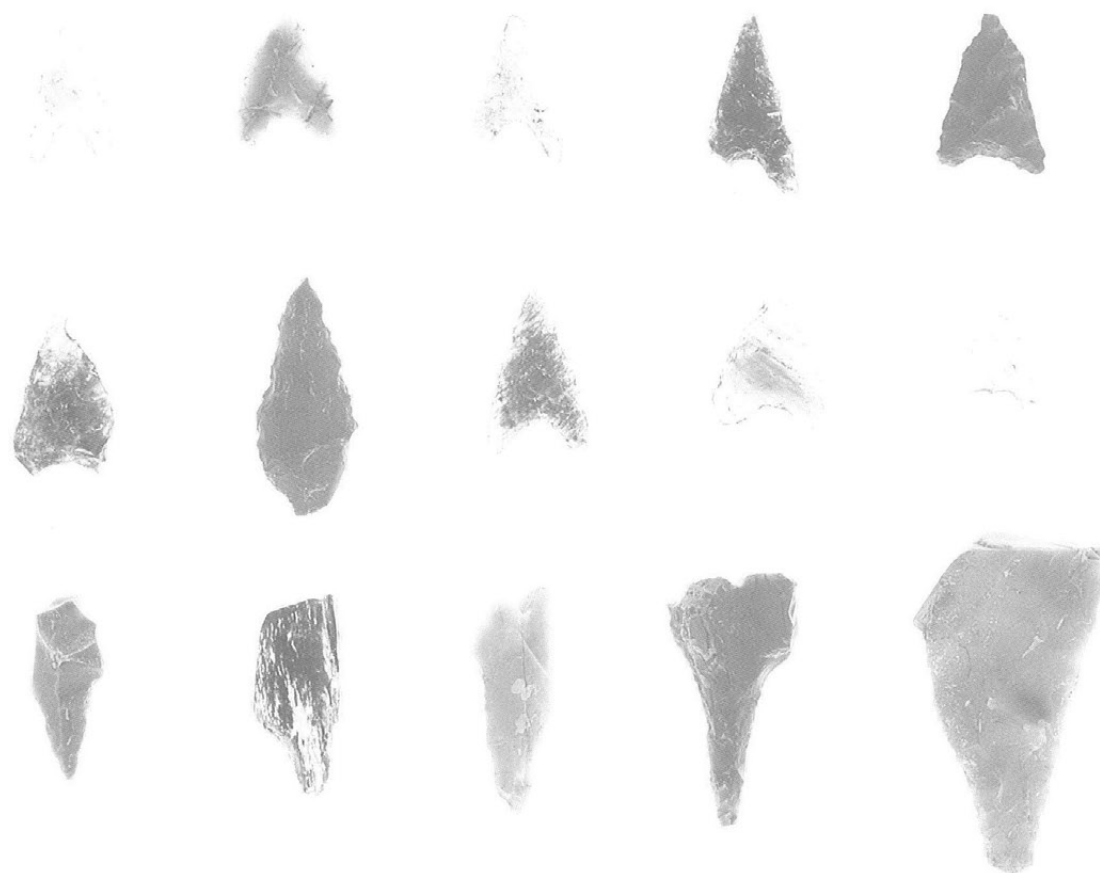
76

縄文時代後期の土器



土 偶

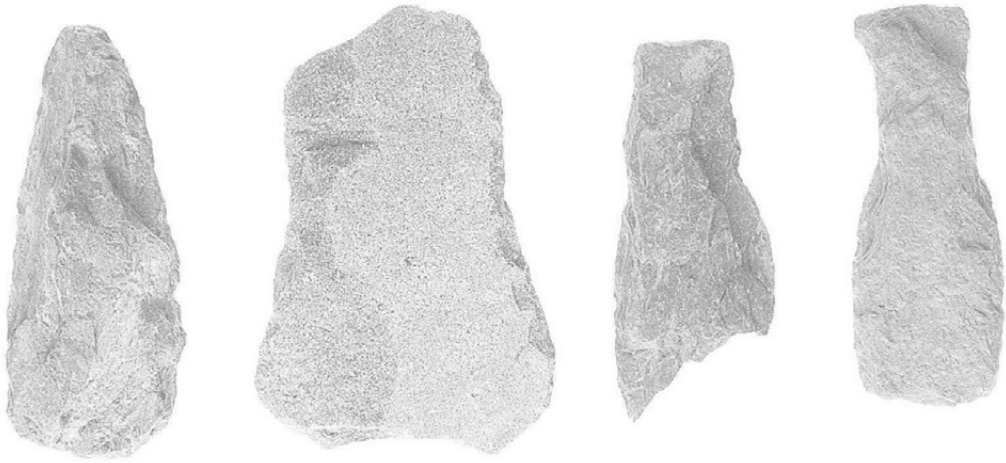
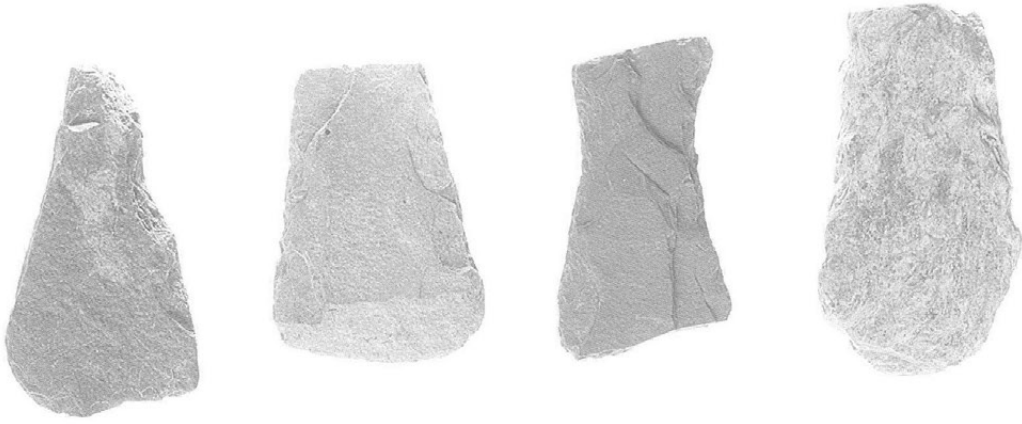




石鏃・石錐



削器



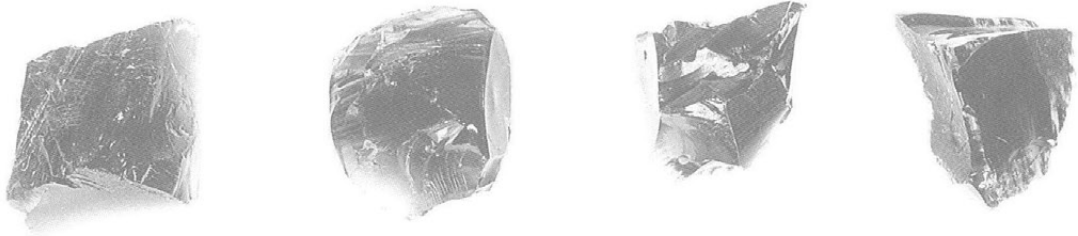
打製石斧



凹石



磨製石斧



黒曜石・チャート 石核



砥石



石錐



磨石類





石 皿



蜂巢石

報告書抄録

ふりがな	しもはらいせき さんやづかいせき4							
書名	下原遺跡 三夜塚遺跡Ⅳ							
副書名	県営畑地帯総合整備事業竹田原地区に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	山形村遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	第15集							
編著者名	山形村教育委員会							
編集機関	山形村教育委員会							
所在地	〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL 0263-98-3155 FAX 0263-98-4256							
発行年月日	2009年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
下原 三夜塚	長野県東筑 摩郡山形村 6407-1他	204501	29 28	36° 11′ 22″	137° 53′ 15″	2007. 5. 14 ～ 2007. 11. 12	1,236㎡	県営畑地帯総合整備事業 竹田原地区に伴う緊急発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
下原	集落址	縄文	竪穴式住居址 22 土坑 123	土器・石器・土製品			縄文時代中期後葉の集落址を調査。 ほぼ完形な有孔鏝付土器等、多くの 遺物が出土。	
三夜塚	集落址	縄文	竪穴式住居址 3 土坑 37	土器・石器			縄文時代前期末の大型竪穴式住居 址を検出する。	

下原遺跡 三夜塚遺跡Ⅳ

—県営畑地帯総合整備事業竹田原地区に伴う緊急発掘調査報告書—

平成21年3月20日 印刷

平成21年3月25日 発行

編集・発行 山形村教育委員会

印刷 カシヨ株式会社

